

まごころで健康を

# 総合検査案内

2024-25



● 索引	2
● ご利用の手引き	12
● 生体色素検査	19
● 蛋白検査	19
● ポルフィリン関連検査	19
● 酵素活性検査	20
● アイソザイム検査	22
● 脂質関連検査	23
● 電解質検査	25
● 含窒素成分検査	26
● アミノ酸検査	26
● 糖代謝検査	28
● 有機酸検査	28
● ビタミン検査	28
● 金属検査	30
● その他	32
● クリアランス検査	33
● 産業医学関連検査	35
● 薬物分析検査	37
● 下垂体機能検査	41
● 甲状腺機能検査	43
● 副甲状腺・骨代謝関連検査	43
● 副腎皮質機能検査	45
● 副腎髄質機能検査	46
● 脾・消化管機能検査	47
● 性腺・胎盤機能検査	48
● その他	52
● 血漿蛋白検査	53
● アレルギー検査	56
● 免疫血液学検査	59
● 自己免疫関連検査	60
● 感染症関連検査	64
● 肝炎ウイルス検査	84
● その他	86
● ウイルス分離・同定	87
● 細胞性免疫検査	88
● 腫瘍関連検査	91
● 血球計数	95
● 形態学的検査	96
● 原虫検査	96
● 凝固・線溶系検査	97
● 染色体検査	101
● 尿検査	102
● 糞便検査	102
● 穿刺液検査	103
● 髄液検査	104
● 精液検査	104
● 鼻汁検査	104
● 一般細菌検査	105
● 培養目的菌	106
● 抗酸菌検査	109
● その他	110
● 病理学的検査	111
● 細胞診検査	117
● 遺伝子検査	119
● 検体の安定性（血清・血漿）	122
● 検査方法の略号	123
● 検体採取方法	124
● 参考文献	126
● 採取容器の種類と採取上の注意点	138

## 索引

## ご利用の手引き

## 生化学的検査

## 薬物分析検査

## 内分泌学的検査

## 免疫血清学的検査

## 腫瘍関連検査

## 血液学的検査

## 一般検査

## 微生物学的検査

## 病理・細胞診検査

## 遺伝子検査

## 資料



索引（五十音順）

ア	頁	点数	保険区分
亜鉛 (Zn)	30	132	D007 37
アスコルビン酸 (ビタミン C)	29	296	D007 60
アスピリン (サリチル酸)	39	特	B001 2 (イ)
アスペルギルス (目的菌)	106	—	
アスペルギルス抗原	66	157	D012 30
アセタゾールアミド	38	特	B001 2 (イ)
アセタゾラミド	38	特	B001 2 (イ)
アセトアミノフェン	39	180	D007 47
アセトン定量	32	—	
アディポネクチン	52	—	
アデノウイルス抗原 (糞便)	70	60	D012 7
アデノウイルス抗体価 (半定量)	70	79	D012 11
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	21	32	D007 11
アトピー鑑別試験	56	194	D015 21
アプリンジン	37	特	B001 2 (イ)
アポリポ蛋白 A I	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アポリポ蛋白 A II	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アポリポ蛋白 B	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アポリポ蛋白 C II	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アポリポ蛋白 C III	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アポリポ蛋白 E	24	頁参照	D007 10 (イ)~(ハ)
アミオダロン	37	特	B001 2 (イ)
アミカシン	39	特	B001 2 (イ)
アミノ酸分析	26	1107	D010 4 (ロ)
アミラーゼ (AMY)	20	11	D007 1
アミラーゼアインザイム	22	48	D007 14
アミラーゼクレアチニンクリアランス	33	—	
アミラーゼクリアランス	33	—	
アルカリホスファターゼ (ALP)	20	11	D007 1
アルドステロン	45	122	D008 15
アルドラーゼ	21	11	D007 1
アルブミン (Alb)	19	11	D007 1
アルブミン定量 (尿)	54	99	D001 9
アルペカシン	39	特	B001 2 (イ)
アルミニウム (Al)	31	109	D007 29
アンギオテンシンI 転換酵素 (ACE)	21	136	D007 39
アンチトロンビン活性 (AT 活性)	97	70	D006 9
アンチプラスミン活性 (プラスミンインヒター)	97	128	D006 16
アンモニア (NH <sub>3</sub> )	26	50	D007 16
イ	頁	点数	保険区分
一般細菌簡易培養	105	60	D018 6
一般細菌嫌気性培養	105	122	D018 注 1
一般細菌塗抹鏡検	105	67	D017 3
一般細菌感受性	105	頁参照	D019 1~3
一般細菌培養・同定	105	頁参照	D018 1~5
インスリン (IRI)	47	100	D008 8
インスリン抗体	47	107	D014 6
インターフェロンγ遊離試験 (T-SPOT.TB)	109	593	D015 30
インフルエンザウイルス抗体価 (半定量)	71	79	D012 11
インフルエンザ菌 (目的菌)	106	—	
ウ	頁	点数	保険区分
ウイルス分離・固定	87	—	
ウェルシュ菌 (目的菌)	106	—	
ウロポルフィリン (血中)	20	—	
ウロポルフィリン (尿)	20	105	D001 10
エ	頁	点数	保険区分
エコーウイルス抗体価 (半定量)	76・77	79	D012 11

エストラジオール (E <sub>2</sub> )	49	167	D008 33
エストロジェンレセプター (病理)	111	720	N002 1
エタノール (エチルアルコール)	32	105	D007 26
エトスクシミド	38	特	B001 2 (イ)
エベロリムス	39	特	B001 2 (イ)
エラスターゼ 1	21・93	120	D009 8
エリスロポエチン (EPO)	52	209	D008 41
エルシニア (目的菌)	106	—	
塩基性フェトプロテイン (BFP)	91	150	D009 17
塩酸ピルシカイニド	37	特	B001 2 (イ)
エンテロウイルス抗体価 (半定量)	74	—	
エンドトキシン定量	66	229	D012 52
エンドトキシン (透析液)	66	—	

オ	頁	点数	保険区分
黄体形成ホルモン (LH)	42	105	D008 12
オウム病抗体 (クラミドフィラ・シッタシ抗体)	82	79	D012 11
オステオカルシン (OC) (BGP)	43	157	D008 26
オリゴクロナルバンド	55	522	D004 11

カ	頁	点数	保険区分
ガードネレラ (目的菌)	106	—	
ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	91	175	D009 24
活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	97	29	D006 7
カテコールアミン 3 分画	46	161	D008 29
カドミウム (Cd)	31	—	
ガバベンチン	37	特	B001 2 (イ)
可溶性インターロイキン-2 レセプター (sIL-2R)	93	438	D009 36
可溶性フィブリンモノマー複合体 (定性)	99	93	D006 11
可溶性メソテリン関連蛋白 (メソテリン)	94	220	D009 30
カリウム (K)	25	11	D007 1
顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液)	50	116	D004 8
カルシウム (Ca)	25	11	D007 1
カルシトニン	45	130	D008 18
カルニチン	29	95 + 95	D007 23
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (目的菌)	106	—	
カルバマゼピン	38	特	B001 2 (イ)
簡易培養 (一般細菌)	105	60	D018 6
肝細胞増殖因子 (HGF)	86	227	D007 54
カンジタ (目的菌)	106	—	
間接クームス試験	59	47	D011 2 (ロ)
関節液検査 (結晶成分)	103	50	D004 2
癌胎児性抗原 (CEA)	91	99	D009 3
癌胎児性フィブネクチン (頸管腔分泌液)	50	204	D015 23
寒冷凝集反応	64	11	D014 1

キ	頁	点数	保険区分
基質拡張型βラクタマーゼ産生菌 (目的菌)	106	—	
凝固因子活性 (F2、F5、F7、F8、F9、F10、F11、F12、F13)	99	223	D006 29
凝固第Ⅷ因子インヒター (F8INH)	99	144	D006 19
凝固第Ⅸ因子インヒター (F9INH)	99	144	D006 19
キャンピロバクター (目的菌)	106	—	
金 (Au)	38	—	

ク	頁	点数	保険区分
グアナナーゼ	21	35	D007 12
クームス試験 (直接・間接)	59	34・47	D011 2 (イ)・(ロ)
クラミジア・トラコマチス核酸同定検査	82・119	188	D023 1
クラミジア・トラコマチス抗体価 (IgG・IgA)	82	200	D012 43
クラミドフィラ・シッタシ抗体 (オウム病クラミジア)	82	79	D012 11
クラミドフィラ・ニューモニエ IgA 抗体	82	75	D012 10

クラミドフィラ・ニューモニエ IgG 抗体	82	70	D012	9
クラミドフィラ・ニューモニエ IgM 抗体	82	152	D012	29
クリオグロブリン定性	55	42	D015	5
グリコアルブミン (GA)	28	55	D007	17
クリプトコッカス (目的菌)	106	—		
クリプトコックス抗体	66	—		
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	66	169	D012	35
グルコース (血糖)	28	11	D007	1
クレアチニン (CRE)	26	11	D007	1
クレアチニンクレアランス (Ccr)	34	—		
クレアチン	26	11	D007	1
クレアチンキナーゼ (CK)	21	11	D007	1
クロール (Cl)	25	11	D007	1
クロザピン	39	特	B001	2 (イ)
クロストリジオイデス ディフィシル毒素	66	80	D012	12
クロナゼパム	38	特	B001	2 (イ)
クロバザム	38	特	B001	2 (イ)
クロム (Cr)	31	—		
クロルプロマジン	38	—		

ケ	頁	点数	保険区分
頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン	50	204	D015 23
血液型 (ABO 式)	59	24	D011 1
血液型 (Rh (D) 式)	59	24	D011 1
血液型 (Rh-Hr 式)	59	148	D011 3
血液型不適合妊娠	59	—	
血液像 (白血球分類) (自動機械法)	96	15	D005 3
結核菌特異的インターフェロン $\gamma$ 産生能 (T-SPOT.TB)	109	593	D015 30
結核菌群核酸同定検査 (MTB)	110・121	410	D023 14
血小板関連 IgG (PA-IgG)	62	190	D011 6
血小板数 (Plt)	95	21	D005 5
血小板第 4 因子 (PF4)	100	173	D006 25
血小板第 4 因子ヘパリン複合体抗体 (HIT 抗体)	62	390	D011 10
血清アミロイド A 蛋白 (SAA)	54	47	D015 6
血清補体価 (CH <sub>50</sub> )	55	38	D015 4
結石分析	32	117	D010 2
血糖 (グルコース)	28	11	D007 1
ケトン体分画	28	59	D007 19
ゲンタマイシン	39	特	B001 2 (イ)
原虫検査	102	67	D017 3

コ	頁	点数	保険区分
抗 $\beta_2$ グリコプロテイン抗体 IgG	63	226	D014 30
抗 $\beta_2$ グリコプロテイン抗体 IgM	63	226	D014 30
抗 AChR 抗体 (抗アセチルコリンレセプター抗体)	62	775	D014 45
抗 ARS 抗体 (抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体)	61	190	D014 23
抗 BP180 抗体	63	270	D014 36
抗 CCP 抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	60	193	D014 24
抗 CL $\cdot\beta_2$ GP I 複合体抗体	63	223	D014 29
抗 DNA 抗体	61	159	D014 17
抗 ds-DNA 抗体 (IgG)	61	159	D014 17
抗 ds-DNA 抗体 (IgM)	61	—	
抗 GAD 抗体 (抗グルタミン酸カルボキシラーゼ抗体)	47	134	D008 19
抗 GBM 抗体 (抗糸球体基底膜抗体)	62	262	D014 34
抗 IA-2 抗体	47	213	D008 43
抗 Jo-1 抗体	61	140	D014 12
抗 MAC 抗体 (抗酸菌抗体定性)	64	116	D012 18
抗 MuSK 抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	62	1000	D014 47
抗 p53 抗体	91	163	D009 22
抗 RNP 抗体	61	144	D014 13
抗 Scl-70 抗体	61	157	D014 16
抗 Sm 抗体	61	147	D014 14
抗 SS-A/Ro 抗体	61	161	D014 18
抗 SS-B/La 抗体	61	157	D014 16
抗 ss-DNA 抗体 (IgG)	61	159	D014 17

抗 Tg 抗体 (抗サイログロブリン抗体)	61	136	D014 10
抗 TPO 抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	61	138	D014 11
抗アクアポリン 4 抗体	62	1000	D014 47
抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体)	62	775	D014 45
抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体 (抗 ARS 抗体)	61	190	D014 23
抗胃壁細胞抗体	62	—	
抗核抗体 (ANA)	60	99	D014 5
抗ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CARF)	60	111	D014 8
抗カルジオリピン IgG 抗体	63	226	D014 30
抗カルジオリピン IgM 抗体	63	226	D014 30
抗カルジオリピン $\beta_2$ グリコプロテイン I 複合体抗体	63	223	D014 29
高感度 PSA	92	121	D009 9
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体)	62	1000	D014 47
抗血小板抗体	62	261	D011 8
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗 TPO 抗体)	61	138	D014 11
抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)	63	252	D014 33
抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)	63	251	D014 32
抗サイログロブリン抗体 (抗 Tg 抗体)	61	136	D014 10
好酸球 (鼻汁)	104	15	D005 3
好酸球数	96	17	D005 4
抗酸菌同定 (質量分析)	109	361	D021
抗酸菌抗体定性 (抗 MAC 抗体)	64	116	D012 18
抗酸菌塗抹鏡検 (蛍光法)	109	50	D017 1
抗酸菌塗抹鏡検 (チールネルゼン染色法)	109	67	D017 3
抗酸菌分離培養検査 (液体培地法)	109	330	D020 1
抗酸菌分離培養検査 (それ以外のもの)	109	209	D020 2
抗酸菌薬剤感受性検査	109	400	D022
抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体)	62	262	D014 34
抗シトルリン化ペプチド抗体 (抗 CCP 抗体)	60	193	D014 24
甲状腺刺激抗体 (TSAb)	43	330	D014 40
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	42	98	D008 6
抗精子不動化抗体	63	—	
抗セントロメア抗体	61	174	D014 20
好中球 bcr/abl (FISH 法)	101	頁参照	D006-5 1
抗デスモグレイン 1 抗体	63	300	D014 39
抗デスモグレイン 3 抗体	63	270	D014 36
抗平滑筋抗体	62	—	
抗ミトコンドリア M2 抗体	62	189	D014 22
抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	62	181	D014 21
抗ミューラー管ホルモン (AMH)	49	597	D008 52
抗利尿ホルモン (ADH)	42	224	D008 47
コクサッキーウイルス抗体価 (半定量)	74・75	79	D012 11
骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	43	157	D008 26
コハク酸シベンソリン	37	特	B001 2 (イ)
コプロボルフィリン (血液)	19	210	D007 52
コプロボルフィリン (尿)	19	131	D001 14
コリンエステラーゼ (ChE)	20	11	D007 1
コレチゾール	45	121	D008 14
コレステロール分画	23	57	D007 18

サ	頁	点数	保険区分
細菌塗抹鏡検	105	67	D017 3
細菌培養同定検査	105	頁参照	D018 1～5
細菌培養 (嫌気性)	105	122	D018 注 1
細菌薬剤感受性検査	105	頁参照	D019 1～3
サイクリック AMP	52	165	D008 32
サイトケラチン 19 フラグメント (シフラ)	91	154	D009 18
サイトメガロウイルス (CMV) 抗体価	69	200	D012 44
サイトメガロウイルス (CMV) 抗体価 (半定量)	69	79	D012 11
細胞診検査 (その他)	117	190	N004 2
細胞診検査 (婦人科)	117	150	N004 1
細胞診検査 (婦人科 LBC)	117	150 + 45	N004 1
サイロキシニン (T <sub>4</sub> )	43	105	D008 11
サイロキシニン結合グロブリン (TBG)	43	130	D008 18
サイログロブリン (Tg)	43	128	D008 16
サリチル酸 (アスピリン)	39	特	B001 2 (イ)
サルモネラ菌 (目的菌)	106	—	

索引（五十音順）

三塩化酢酸（トリクロル酢酸）	35	—
----------------	----	---

シ	頁	点数	保険区分
シアゼパム	38	特	B001 2 (イ)
シアリル Le <sup>x</sup> -i 抗原 (SLX)	91	140	D009 13
シアリル Tn 抗原 (STN)	92	146	D009 16
シアル化糖鎖抗原 (KL-6)	32	108	D007 28
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	50	116	D004 8
シクロスポリン	39	特	B001 2 (イ)
ジゴキシシン	37	特	B001 2 (イ)
シスタチン C	54	112	D007 30
ジソピラミド	37	特	B001 2 (イ)
シフラ（サイトケラチン 19 フラグメント）	91	154	D009 18
脂肪酸 4 分画	24	393	D010 7
腫瘍壊死因子 - α (TNF- α)	86	—	
心筋トロポニン T (TnT)	53	109	D007 29
神経特異エノラーゼ (NSE)	91	142	D009 14
心室筋ミオシン軽鎖 I	53	184	D007 48
浸透圧（尿）	25	16	D001 3
浸透圧（血清）	25	15	D005 3
ス	頁	点数	保険区分

脾 PLA <sub>2</sub> （脾ホスホリパーゼ A <sub>2</sub> ）	21	204	D007 51
脾アミラーゼ（P 型アミラーゼ）	22	48	D007 14
脾グルカゴン	47	150	D008 23
髄液一般検査	104	62	D004 4
髄液クロール	104	11	D007 1
髄液蛋白定量	104	11	D007 1
髄液糖定量	104	11	D007 1
水銀（Hg）	30	—	
脾島細胞質抗体（ICA）	47	—	
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）抗体価	78	200	D012 44
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）抗体価（半定量）	78	79	D012 11
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原（上皮細胞）	78	227	D012 51
ステリペントール	38	特	B001 2 (イ)
スチレン代謝物	35	—	

セ	頁	点数	保険区分
精液一般検査	104	70	D004 5
成長ホルモン（GH）	41	105	D008 12
赤痢菌（目的菌）	106	—	
赤血球数（RBC）	95	21	D005 5
セルロプラスミン（Cp）	55	90	D015 9
セロトニン（5-HT）	46	—	
穿刺液一般検査	103	—	
穿刺液蛋白定量	103	11	D007 1
穿刺液糖定量	103	11	D007 1
染色体検査（先天異常）（G バンド・C バンド・Q バンド）	101	頁参照	D006-5 3
染色体検査（血液疾患）（G バンド・Q バンド）	101	頁参照	D006-5 3
前立腺特異抗原（PSA）	92	121	D009 9

ソ	頁	点数	保険区分
総コレステロール（TCH）	23	17	D007 3
総三塩化物	35	—	
総胆汁酸	24	47	D007 13
総蛋白（TP）	19	11	D007 1
総鉄結合能（TIBC）（比色法）	30	11	D007 1
総ビリルビン（T-Bil）	19	11	D007 1
総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比（BTR）	26	283	D010 5
ソニサミド	38	特	B001 2 (イ)
ソマトメジン -C（IGF- I）	41	212	D008 42

タ	頁	点数	保険区分
第Ⅱ因子活性（F2）	99	223	D006 29
第Ⅴ因子活性（F5）	99	223	D006 29
第Ⅶ因子活性（F7）	99	223	D006 29
第Ⅷ因子活性（F8）	99	223	D006 29
第Ⅷ因子様抗原（VWF 定量）	99	147	D006 20
第Ⅸ因子活性（F9）	99	223	D006 29
第Ⅹ因子活性（F10）	99	223	D006 29
第Ⅺ因子活性（F11）	99	223	D006 29
第Ⅻ因子活性（F12）	99	223	D006 29
第Ⅻ因子定量（F13）	99	223	D006 29
第Ⅷ因子インヒビター（F8 INH）	99	144	D006 19
第Ⅸ因子インヒビター（F9 INH）	99	144	D006 19
大腸菌 O-157（目的菌）	106	—	
大腸菌血清型（目的菌）	106	175	D012 37
タクロリムス	39	特	B001 2 (イ)
多剤耐性アシネトバクター（目的菌）	106	—	
多剤耐性緑膿菌（目的菌）	106	—	
炭酸リチウム	39	特	B001 2 (イ)
単純ヘルペスウイルス特異抗原	78	180	D012 39
単純ヘルペスウイルス（HSV）抗体価	78	200	D012 44
単純ヘルペスウイルス（HSV）抗体価（半定量）	78	79	D012 11
蛋白分画	19	18	D007 4

チ	頁	点数	保険区分
チアミン（ビタミン B <sub>1</sub> ）	28	239	D007 56
中性脂肪（TG）	23	11	D007 1
虫卵検出（集卵法）（糞便）	102	15	D003 1
虫卵検出（塗抹法）（糞便）	102	20	D003 2
直接クームス試験	59	34	D011 2 (イ)
直接ビリルビン（D-Bil）	19	11	D007 1

ツ	頁	点数	保険区分
ツツガムシ抗体（カーブ・カトー・ギリアム）	65	各 203	D012 45

テ	頁	点数	保険区分
低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	44	154	D008 24
テコブラニン	39	特	B001 2 (イ)
デオキシピリジノリン（DPD）	44・93	191	D008 39
テオフィリン	37	特	B001 2 (イ)
テストステロン	49	119	D008 13
鉄（Fe）	30	11	D007 1
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）	45	164	D008 31

ト	頁	点数	保険区分
銅（Cu）	30	23	D007 5
トキソプラズマ抗体 IgG	64	93	D012 14
トキソプラズマ抗体 IgM	64	95	D012 15
特異的 IgE	56	各 110	D015 13
特異的 IgG 鳥	56	873	D012 65
特殊染色（病理）	111	—	
トコフェロール	29	—	
トピラマート	37	特	B001 2 (イ)
トブラマイシン	39	特	B001 2 (イ)
トランスサイレチン（プレアルブミン）	54	101	D015 12
トランスフェリン（Tf）	53	60	D015 7
トリクロル酢酸（三塩化酢酸）	35	—	
トリコモナス（目的菌）	106	—	
トリブシン	21	189	D007 49

トリメタジオン	38	特	B001	2 (イ)
トリヨードサイロニン (T <sub>3</sub> )	43	99	D008	7
トロニン・アンチトロニン複合体 (TAT)	98	171	D006	24
トロノモジュリン	98	204	D006	27

ナ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ナトリウム (Na)	25	11	D007	1
鉛 (Pb)	30	—		

ニ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ニッケル (Ni)	31	—		
ニトラゼバム	37	特	B001	2 (イ)
日本脳炎ウイルス抗体価 (半定量)	72	79	D012	11
乳酸	28	47	D007	13
乳酸脱水素酵素 (LD)	20	11	D007	1
ニューモシスチス・イロベチ核酸同定	80	—		
尿 HCG 定性	48	55	D008	1
尿一般定性	102	26	D000	
尿酸 (UA)	26	11	D007	1
尿酸クリアランス	34	—		
尿浸透圧	25	16	D001	3
尿素呼吸試験 (ユービット)	67	70	D023-2	2
尿素窒素 (UN)	26	11	D007	1
尿蛋白定量	102	7	D001	1
尿アルブミン定量	54	99	D001	9
尿中コプロボロフィリン	19	131	D001	14
尿中トランスフェリン	54	98	D001	8
尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	54	210	D001	19
尿中Ⅳ型コラーゲン	54	184	D001	15
尿中 FDP	97	72	D001	7
尿沈渣 (鏡検法)	102	27	D002	
尿沈渣染色加算	102	9	D002	注 3
尿糖定量 (尿中グルコース)	102	9	D001	2
尿中免疫電気泳動 (尿中 BJP 同定)	55	201	D015	22

ノ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ノロウイルス RNA (SRSV-RNA)	120	—		
ノロウイルス抗原	72	150	D012	28

ハ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

肺炎球菌 (目的菌)	106	—		
肺サーファクタントプロテイン A (SP-A)	32	130	D007	35
肺サーファクタントプロテイン D (SP-D)	32	136	D007	39
梅毒 FTA-ABS (定性・半定量)	68	134	D012	23
梅毒 RPR (定性)	68	15	D012	1
梅毒 RPR (半定量)	68	34	D012	5
梅毒 TPHA (定性)	68	32	D012	4
梅毒 TPHA (半定量)	68	53	D012	6
白黴菌 (目的菌)	106	—		
破傷風抗体	66	—		
バソプレシン (ADH) (抗利尿ホルモン)	42	224	D008	47
白血球数 (WBC)	95	21	D005	5
白血球分類	96	15	D005	3
パニリルマンデル酸 (VMA)	46	90	D008	4
馬尿酸	35	—		
ハプトグロビン	55	129	D015	14
パラインフルエンザウイルス抗体価 (半定量)	71	79	D012	11
バルプロ酸ナトリウム	38	特	B001	2 (イ)
ハロペリドール	39	特	B001	2 (イ)
バンコマイシン	39	特	B001	2 (イ)

ヒ	頁	点数	保険区分	
ヒアルロン酸	28	179	D007	46
非結核性抗酸菌 MIC	109	400	D022	
鼻汁好酸球	104	15	D005	3
ビタミン A	28	—		
ビタミン B <sub>1</sub> (チアミン)	28	239	D007	56
ビタミン B <sub>12</sub>	29	136	D007	39
ビタミン B <sub>2</sub> (リボフラビン)	28	235	D007	55
ビタミン B <sub>6</sub>	29	—		
ビタミン C (アスコルビン酸)	29	296	D007	60
ビタミン D (1,25- (OH) <sub>2</sub> ビタミン D)	29	388	D007	63
ビタミン D (25-OH ビタミン D)	29・44	117	D007	31
ビタミン E	29	—		
ビタミン K 分画	29	—		
非定型抗酸菌核酸同定 (MAC)	110・121	421	D023	16
非特異的 IgE	56	100	D015	11
ヒトインターフェロンγ (IFN- γ)	86	—		
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG 定量)	48	130	D008	18
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	53	131	D007	36
ヒト心房性 Na 利尿ペプチド (hANP)	52	221	D008	46
ヒト精巢上体蛋白 4 (HE4)	91	200	D009	29
ヒト脳性 Na 利尿ペプチド (BNP)	52	130	D008	18
ヒトパルボウイルス B19 核酸同定	120	—		
ヒトパルボウイルス B19 抗体価 IgG	73	—		
ヒトパルボウイルス B19 抗体価 IgM	73	200	D012	44
ビブリオ (目的菌)	106	—		
百日咳菌 (目的菌)	106	—		
百日咳菌核酸検出	65・121	360	D023	13
百日咳菌抗体	65	257	D012	54
百日咳菌抗体 IgA	65	80	D012	12
百日咳菌抗体 IgM	65	80	D012	12
病理組織標本作製 (1 臓器につき)	111	860	N000	
ビルシカイニド	37	特	B001	2 (イ)
ビルビン酸	28	47	D007	13
ビルメノール	37	特	B001	2 (イ)

フ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

フィブリノゲン	97	23	D006	4
フィブリンモノマー複合体定性	99	93	D006	11
風疹ウイルス抗体価	73	200	D012	44
風疹ウイルス抗体価 (半定量)	73	79	D012	11
フェニトイン	38	特	B001	2 (イ)
フェノバルビタール	37	特	B001	2 (イ)
フェリチン	53	102	D007	25
フォン・ウィルブラント因子活性 (リストセチンコファクター)	99	126	D006	14
フォン・ウィルブラント因子定量 (第Ⅲ因子様抗原)	99	147	D006	20
不規則抗体	59	159	D011	4
副甲状腺ホルモン intact	45	161	D008	29
副甲状腺ホルモン whole	45	161	D008	29
副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP-intact)	45	186	D008	38
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	42	184	D008	37
ブドウ球菌 (目的菌)	106	—		
不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)	30	11	D007	1
プラスミノゲン活性	97	100	D006	12
プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	98	150	D006	21
プラスミンインヒビター (アンチプラスミン活性)	97	128	D006	16
フリー PSA/ トータル PSA 比 (PSA-F/T 比)	92	150	D009	17
ブリムドン	38	特	B001	2 (イ)
ブレアルブミン (トランスサイレチン)	54	101	D015	12
フレカイニド	37	特	B001	2 (イ)
プレグナンジオール	49	213	D008	43
プレグナントリオール	49	232	D008	48
プレセプシン	66	301	D007	61
プロカインアミド	37	特	B001	2 (イ)
プロカルシトニン (PCT)	66	276	D007	59



索引（五十音順）

プロゲステロン	49	143	D008	22
プロコラーゲン-Ⅱ-ペプチド(P-Ⅱ-P)	53	136	D007	39
プロジェステロンレセプター(病理)	111	690	N002	2
プロテインC活性	98	227	D006	31
プロテインC抗原量	98	226	D006	30
プロテインS活性	98	163	D006	23
プロテインS抗原量	98	154	D006	22
プロトボルフィリン(赤血球)	19	272	D007	58
プロトボルフィリン(遊離型)	19	272	D007	58
プロトロンビン時間(PT)	97	18	D006	2
プロパフェノン	37	特	B001	2 (イ)
プロプラノロール	37	—		
プロムペリドール	39	特	B001	2 (イ)
プロラクチン(PRL)	42	98	D008	6

ヘ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ペニシリン耐性肺炎球菌(目的菌)	106	—		
ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	47	—		
ペブリジル	37	特	B001	2 (イ)
ヘマトクリット値(Ht)	95	21	D005	5
ヘモグロビン量	95	21	D005	5
ヘモグロビンA1c(HbA1c)	28	49	D005	9
ペランパネル	38	特	B001	2 (イ)
ヘリコバクター同定	110	200	D018	2
ヘリコバクター・ピロリ抗原(便中)	67	142	D012	25
ヘリコバクター・ピロリ抗体(血中)	67	80	D012	12
ペロトキシン検出	110	184	D023-2	3
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定量	102	56	D003	8
便中ヘモグロビン定性	102	37	D003	5
便中ヘモグロビン定量	102	41	D003	7
便虫卵(集卵法)	102	15	D003	1
便虫卵(塗抹法)	102	20	D003	2
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	91	101	D009	4

ホ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (PLA <sub>2</sub> )	21	204	D007	51
ホモバニリン酸(HVA)	46	69	D008	3
ポリコナゾール	39	特	B001	2 (イ)

マ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

マイコプラズマ(目的菌)	106	—		
マイコプラズマニューモニエ核酸同定	64・121	291	D023	6
マイコプラズマ抗体(マイコプラズマ・ニューモニエ抗体)	64	32	D012	4
マグネシウム(Mg)	25	11	D007	1
麻疹ウイルス抗体価	72	200	D012	44
末梢血好中球bcr/abl(FISH法)	101	頁参照	D006-5	1
末梢血一般検査(WBC・RBC・Hb・Ht・Plt)	95	21	D005	5
マトリックスメタロプロティナーゼ-3(MMP-3)	60	116	D014	9
マルチアレレルゲン→特異的IgE定量	56	各110	D015	13
マンガン(Mn)	31	27	D007	8
マンデル酸	35	—		
マラリア原虫	96	40	D005	7

ミ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ミオグロビン	53	131	D007	36
--------	----	-----	------	----

ム	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

無機リン(IP)	25	17	D007	3
ムンプスウイルス抗体価	73	200	D012	44

ムンプスウイルス抗体価(半定量)	73	79	D012	11
------------------	----	----	------	----

メ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

メキシレチン	37	特	B001	2 (イ)
メソテリン(可溶性メソテリン関連蛋白)	94	220	D009	30
メタネフリン2分画	46	220	D008	45
メタノール(メチルアルコール)	32	—		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(目的菌)	106	—		
メチル馬尿酸	35	—		
メトトレキサート	39	特	B001	2 (イ)
免疫グロブリン(IgG・IgA・IgM)	56	各38	D015	4
免疫染色(免疫抗体法)	111	頁参照	N002	1～8
免疫電気泳動(抗ヒト全血清)	55	170	D015	17
免疫電気泳動(特異抗血清)	55	218	D015	24
免疫電気泳動(尿中BJP同定)	55	201	D015	22

モ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

網状赤血球数(レチクロ)	95	12	D005	2
--------------	----	----	------	---

ヤ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

薬剤によるリンパ球刺激試験(D-LST)	89	頁参照	D016	7
----------------------	----	-----	------	---

ユ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

遊離β-HCG	48	129	D008	17
遊離型プロトボルフィリン	19	—		
遊離コレステロール	23	11	D007	1
遊離サイロキシン(FreeT <sub>4</sub> )	43	121	D008	14
遊離テストステロン	49	159	D008	27
遊離トリヨードサイロニン(FreeT <sub>3</sub> )	43	121	D008	14

ヨ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

溶連菌(目的菌)	106	—		
葉酸	29	146	D007	41

ラ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

ラコサミド	38	特	B001	2 (イ)
ラモトリギン	38	特	B001	2 (イ)
卵巣刺激ホルモン(FSH)	42	105	D008	12

リ	頁	点数	保険区分
---	---	----	------

リストセチンコファクター(フォン・ウィルブランド因子活性)	99	126	D006	14
リソチーム	21	—		
リドカイン	37	特	B001	2 (イ)
リパーゼ	20	24	D007	6
リボフラビン(ビタミンB <sub>2</sub> )	28	235	D007	55
リボ蛋白(a)(Lp(a))	24	107	D007	27
リボ蛋白分画(アガロース)	24	49	D007	15
リボ蛋白分画(HPLC法)	24	129	D007	34
リボ蛋白リパーゼ(LPL)	20	219	D007	53
緑膿菌(目的菌)	106	—		
淋菌(目的菌)	106	—		
淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	119	262	D023	5
淋菌核酸同定検査	83・119	198	D023	2
リン脂質(PL)	23	15	D007	2
リンパ球幼若化試験(PHA・ConA)	89	345	D016	7

リンパ球刺激試験 (D-LST) 89 頁参照 D016 7

ル	頁	点数	保険区分
ループスアンチコアグラント	98	265	D014 35
ルフィナミド	38	特	B001 2 (イ)

レ	頁	点数	保険区分
レジオネラ菌 (目的菌)	106	—	
レチノール結合蛋白 (RBP)	54	132	D015 15
レニン活性 (PRA)	52	100	D008 8
レニン濃度 (ARC)	52	102	D008 10
レベチラセタム	38	特	B001 2 (イ)
レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	24	174	D007 44

ロ	頁	点数	保険区分
ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	20	11	D007 1



# 索引 (アルファベット順)

A	頁	点数	保険区分
A 群溶連菌 (目的菌)	106	—	
A/G 比 (アルブミン / グロブリン比)	19	—	
ABO 血液型	59	24	D011 1
ACA (抗セントロメア抗体)	61	174	D014 20
ACE (アンギオテンシン I 転換酵素)	21	136	D007 39
ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	42	184	D008 37
ADA (アデノシンデアミナーゼ)	21	32	D007 11
ADH (抗利尿ホルモン)	42	224	D008 47
AFP ( $\alpha$ -フェトプロテイン)	91	98	D009 2
AFP レクチン分画比	91	185	D009 26
Al (アルミニウム)	31	109	D007 29
Alb (アルブミン)	19	11	D007 1
ALP (アルカリホスファターゼ)	20	11	D007 1
ALP アインザイム	22	48	D007 14
ALP 染色加算	96	37	D005 6 (注)
ALT (GPT)	20	17	D007 3
AMA (抗ミトコンドリア抗体)	62	181	D014 21
AMH (抗ミュラー管ホルモン)	49	597	D008 52
AMY (アミラーゼ)	20	11	D007 1
ANA (抗核抗体)	60	99	D014 5
ANP (ヒト心房性 Na 利尿ペプチド)	55	221	D008 46
APTT (活性化部分トロンボプラスチン時間)	97	29	D006 7
ARC (レニン濃度)	52	102	D008 10
ASO (抗ストレプトリジン O)	64	15	D012 1
AST (GOT)	20	17	D007 3
AT 活性 (アンチトロンビン活性)	97	70	D006 9
ATLA (HTLV- I 抗体) (CLIA 法)	80	159	D012 31
ATLA (HTLV- I 抗体) (ラインプロット法)	80	425	D012 60
Au (金)	38	—	
AVP (ADH) (抗利尿ホルモン)	42	224	D008 47

B	頁	点数	保険区分
BAP (骨型アルカリホスファターゼ)	43	157	D008 26
BCA225	92	158	D009 20
BFP (塩基性フェトプロテイン)	91	150	D009 17
BGP (オステオカルシン)	43	157	D008 26
BLNAR (目的菌)	106	—	
BMG ( $\beta_2$ -マイクログロブリン)	54	98	D015 10
BNP (ヒト脳性 Na 利尿ペプチド)	52	130	D008 18
BTR (総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比)	26	283	D010 5
BUN $\rightarrow$ UN (尿素窒素)	26	11	D007 1
B 群溶連菌 (目的菌)	106	—	
B 細胞サブクラス (表面免疫グロブリン)	89	155	D016 1

C	頁	点数	保険区分
C- ペプチド (CPR)	47	105	D008 12
C <sub>1</sub> インアクチベータ - 活性 (C <sub>1</sub> -INH)	98	253	D015 25
C <sub>3</sub>	55	70	D015 8
C <sub>4</sub>	55	70	D015 8
Ca (カルシウム)	25	11	D007 1
CA125	92	136	D009 11
CA15-3	92	112	D009 6
CA19-9	93	121	D009 9
CA54/61	92	184	D009 25
CA602	92	190	D009 27
CA72-4	92	146	D009 16
CAP シングルアレルゲン $\rightarrow$ 特異的 IgE	56	各 110	D015 13
CAP マルチアレルゲン $\rightarrow$ 特異的 IgE	56	各 110	D015 13
Cd (カドミウム)	31	—	
CEA (癌胎児性抗原)	91	99	D009 3
CH <sub>50</sub> (血清補体価)	55	38	D015 4
ChE (コリンエステラーゼ)	20	11	D007 1

CK (CPK) (クレアチンキナーゼ)	21	11	D007 1
CK-MB (CPK-MB)	22	90	D007 22
CK アインザイム (CPK アインザイム)	22	55	D007 17
CL (クロール)	25	11	D007 1
CMV (サイトメガロウイルス) 抗体価	69	200	D012 44
CMV (サイトメガロウイルス) 抗体価 (半定量)	69	79	D012 11
Cp (セルロプラスミン)	55	90	D015 9
Cr (クロム)	31	—	
CRE (クレアチニン)	26	11	D007 1
CRE (目的菌)	106	—	
CRP 定量	64	16	D015 1
Cu (銅)	30	23	D007 5

D	頁	点数	保険区分
D-Bil (直接ビリルビン)	19	11	D007 1
DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体)	45	164	D008 31
D-LST (薬剤によるリンパ球刺激試験)	89	頁参照	D016 7
DPD (デオキシビリジノリン)	44 · 93	191	D008 39
DUPAN-2	93	115	D009 7
D ダイマー	98	127	D006 15

E	頁	点数	保険区分
E <sub>2</sub> (エストラジオール)	49	167	D008 33
EB ウイルス (EBV) 抗体価	69	200	D012 44
EB ウイルス (EBV) 抗体価 (半定量)	69	79	D012 11
EPO (エリスロポエチン)	52	209	D008 41
ESBLs (目的菌)	106	—	

F	頁	点数	保険区分
FDP 定量 (尿)	97	72	D001 7
FDP 定量	97	80	D006 10
Fe (鉄)	30	11	D007 1
FreeT <sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	43	121	D008 14
FreeT <sub>4</sub> (遊離サイロキシニン)	43	121	D008 14
FSH (卵巣刺激ホルモン)	42	105	D008 12
FTA-ABS (定性・半定量)	68	134	D012 23

G	頁	点数	保険区分
GA (グリコアルブミン)	28	55	D007 17
GH (成長ホルモン)	41	105	D008 12
GOT (AST)	20	17	D007 3
GPT (ALT)	20	17	D007 3

H	頁	点数	保険区分
HA-IgG 抗体	84	146	D013 8
HA-IgM 抗体	84	146	D013 8
h-ANP (ヒト心房性 Na 利尿ペプチド)	52	221	D008 46
Hb (ヘモグロビン量)	95	21	D005 5
HbA1c (ヘモグロビン A1c)	28	49	D005 9
HBc 抗体	84	130	D013 6
HBc-IgM 抗体	84	146	D013 8
HBcrAg (HBV コア関連抗原)	84	252	D013 12
HBe 抗原	84	98	D013 4
HBe 抗体	84	98	D013 4
HBs 抗原	84	88	D013 3
HBs 抗原 (定性)	84	29	D013 1
HBs 抗体	84	88	D013 3
HBs 抗体 (定性・半定量)	84	32	D013 2
HBV 遺伝子型 (HBV ジェノタイプ判定)	84	340	D013 14

HBV-DNA 定量	84・120	256	D023	4
HBV コア関連抗原 (HBcrAg)	84	252	D013	12
HBV ジェノタイプ判定 (HBV 遺伝子型)	84	340	D013	14
HCG 定性	48	55	D008	1
HCG 定量 (ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量)	48	130	D008	18
HCV-RNA 定量 (HCV 核酸定量)	85・120	412	D023	15
HCV 群別 (HCV グルーピング)	85	215	D013	11
HCV コア抗原	85	102	D013	5
HCV 抗体	85	102	D013	5
HCV サブタイプ系統解析	85・120	—		
HDL コレステロール	23	17	D007	3
HE4	91	200	D009	29
HER2/neu タンパク (病理)	111	690	N002	3
HEV-IgA 抗体	85	210	D013	10
H-FABP (心臓由来脂肪酸結合蛋白)	53	131	D007	36
Hg (水銀)	30	—		
HGF (肝細胞増殖因子)	86	227	D007	54
HIT 抗体 (血小板第 4 因子・ヘパリン複合体抗体)	62	390	D011	10
HIV-1 RNA 定量	80・120	520	D023	18
HIV 抗原・抗体	80	109	D012	16
HIV-1/2 抗体確認検査	80	660	D012	63
HLA タイピング A・B	88	—		
HLA タイピング DR	88	—		
HLA-DNA タイピング	88	—		
HPV/B19-DNA (ヒトパルボウイルス B19DNA)	120	—		
HPV-DNA 簡易ジェノタイプ判定	120	347	D023	11
HPV-DNA 同定 (中〜高リスク型)	120	347	D023	10
HPV-DNA 同定 (低リスク型)	120	—		
HPV 型判定	120	2000	D023	25
HPV 簡易ジェノタイプ判定 (9 種判別)	120	347	D023	11
HSV (単純ヘルペスウイルス) 抗体価	78	200	D012	44
HSV (単純ヘルペスウイルス) 抗体価 (半定量)	78	79	D012	11
Ht (ヘマトクリット値)	95	21	D005	5
HTLV- I 抗体 (ATLA) (CLIA 法)	80	159	D012	31
HTLV- I 抗体 (ATLA) (ラインプロット法)	80	425	D012	60
HTLV- I 核酸同定	80・120	450	D023	17
HVA 定量 (ホモバニリン酸)	46	69	D008	3

I	頁	点数	保険区分
ICA-IgG (膵島細胞質抗体)	47	—	
IFN- γ (インターフェロンγ)	86	—	
IgA (免疫グロブリン)	56	38	D015 4
IgA-HEV 抗体	85	210	D013 10
IgE →特異的 IgE	56	各 110	D015 13
IgE →非特異的 IgE	56	100	D015 11
IGF- I (ソマトメジン -C)	41	212	D008 42
IgG (免疫グロブリン)	56	38	D015 4
IgG サブクラス IgG4	56	377	D014 41
IgG 型リウマトイド因子 (IgG-RF)	60	198	D014 26
IgM (免疫グロブリン)	56	38	D015 4
IP (無機リン)	25	17	D007 3
IRI (インスリン)	47	100	D008 10

K	頁	点数	保険区分
K (カリウム)	25	11	D007 1
KL-6	32	108	D007 28

L	頁	点数	保険区分
LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	20	11	D007 1
LD (LDH) (乳酸デヒドロゲナーゼ)	20	11	D007 1
LDL コレステロール (直接法)	23	18	D007 4
LD アイソザイム (LDH アイソザイム)	22	48	D007 14
L-FABP (L 型脂肪酸結合蛋白) (尿)	54	210	D001 19

LH (黄体形成ホルモン)	42	105	D008 12
Lp (a) (リポ蛋白 (a))	24	107	D007 27
LPL (リポ蛋白リパーゼ)	20	219	D007 53
LST (リンパ球刺激試験)	89	頁参照	D016 7
L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) (尿)	54	210	D001 19
L-ドーパ (L-DOPA)	38	—	

M	頁	点数	保険区分
M2BPGi (Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体)	53	194	D007 50
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)	53	194	D007 50
MAC (非定型抗酸菌核酸同定)	110・121	421	D023 16
MAC 抗体 (抗酸菌抗体定性)	64	116	D012 18
MAST36 →特異的 IgE	56	1430	D015 13
Mb (ミオグロビン)	53	131	D007 36
MDRA (目的菌)	106	—	
MDRP (目的菌)	106	—	
Mg (マグネシウム)	25	11	D007 1
MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	60	116	D014 9
Mn (マンガン)	31	27	D007 8
MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	63	251	D014 32
MRSA (目的菌)	106	—	
MTB (結核菌群核酸同定検査)	110・121	410	D023 14

N	頁	点数	保険区分
Na (ナトリウム)	25	11	D007 1
NAG (尿)	21	41	D001 5
NCC-ST-439	93	112	D009 6
NH <sub>3</sub> (アンモニア)	26	50	D007 16
Ni (ニッケル)	31	—	
NK 細胞活性	89	—	
NSE (神経特異エノラーゼ)	91	142	D009 14
NT-proBNP (ヒト脳性 Na 利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント)	52	136	D008 20
NTX (I 型コラーゲン架橋 N- テロペプチド)	44・93	156	D008 25
N- メチルホルムアミド	35	—	

O	頁	点数	保険区分
OC (オステオカルシン) (BGP)	43	157	D008 26

P	頁	点数	保険区分
P1NP (I 型プロコラーゲン -N- プロペプチド)	43	160	D008 28
P- II -P (プロコラーゲン - II - ペプチド)	53	136	D007 39
PA-IgG (血小板関連 IgG)	62	190	D011 6
PAC (アルドステロン)	45	122	D008 15
Pb (鉛)	30	—	
PCT (プロカルシトニン)	66	276	D007 59
PF4 (血小板第 4 因子)	100	173	D006 25
PIC (プラスミン・プラスミンインヒビター複合体)	98	150	D006 21
PIVKA- II 定量	91	131	D009 10
PL (リン脂質)	23	15	D007 2
Plt (血小板数)	95	21	D005 5
PR3-ANCA (抗好中球細胞質プロテイナーゼ 3 抗体)	63	252	D014 33
PRA (レニン活性)	52	100	D008 8
PRL (プロラクチン)	42	98	D008 6
ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	91	175	D009 24
PRSP (目的菌)	106	—	
PSA (前立腺特異抗原)	92	121	D009 9
PSA-ACT	92	121	D009 9
PSA-F/T 比	92	150	D009 17
PT (プロトロンビン時間)	97	18	D006 2
PTH-intact	45	161	D008 29
PTHrP-intact	45	186	D008 38

# 索引 (アルファベット順)

P 型アミラーゼ (膵アミラーゼ) 22 48 D007 14

R	頁	点数	保険区分
RBC (赤血球数)	95	21	D005 5
RBP (レチノール結合蛋白)	54	132	D015 15
RF 定量	60	30	D014 2
Rh (D) 血液型	59	24	D011 1
Rh-Hr 血液型	59	148	D011 3
RLP-C (レムナント様リポ蛋白コレステロール)	24	174	D007 44
RPR (梅毒血清反応) (定性)	68	15	D012 1
RPR (梅毒血清反応) (半定量)	68	34	D012 5
RS ウイルス抗体価 (半定量)	71	79	D012 11

S	頁	点数	保険区分
SAA (血清アミロイド A 蛋白)	54	47	D015 6
SCC 抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	91	101	D009 4
sIL-2R (可溶性インターロイキン-2 レセプター)	93	438	D009 36
Single-color 解析による細胞表面マーカー検査	89	185	D016 2
SLX (シアリル Le <sup>x</sup> -i 抗原)	91	140	D009 13
SMA (抗平滑筋抗体)	62	—	
SPan-1	93	144	D009 14
SP-A (肺サーファクタント蛋白 -A)	32	130	D007 35
SP-D (肺サーファクタント蛋白 -D)	32	136	D007 39
SARS-CoV2 核酸検出	121	700	D023 19
SARS-CoV2 抗原定量	86	560	D012 61
SRSV-RNA (ノロウイルス RNA)	120	—	
STD マイコプラズマ核酸同定	119	—	
STN (シアリル Tn 抗原)	92	146	D009 16

T	頁	点数	保険区分
T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	43	99	D008 7
T <sub>4</sub> (サイロキシン)	43	105	D008 11
TARC	56	179	D015 18
TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	98	171	D006 24
TBG (サイロキシン結合グロブリン)	43	130	D008 18
T-Bil (総ビリルビン)	19	11	D007 1
T・B 細胞百分率	89	193	D016 3
TCH (総コレステロール)	23	17	D007 3
Tf (トランスフェリン)	53	60	D015 7
Tg (サイログロブリン)	43	128	D008 16
TG (中性脂肪)	23	11	D007 1
TIBC (総鉄結合能) (比色法)	30	11	D007 1
TNF- $\alpha$ (腫瘍壊死因子 - $\alpha$ )	86	—	
TnT (高感度心筋トロポニン T)	53	109	D007 29
total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	43	160	D008 28
TP (総蛋白)	19	11	D007 1
TPHA (梅毒トレポネーマ抗体) (定性)	68	32	D012 4
TPHA (梅毒トレポネーマ抗体) (半定量)	68	53	D012 6
TRAb 定量 (TSH レセプター抗体定量)	43	214	D014 27
TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	44・93	156	D008 25
TSAb (TSH 刺激性レセプター抗体)	43	330	D014 40
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	42	98	D008 6
TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb)	43	330	D014 40
TSH レセプター抗体定量 (TRAb 定量)	43	214	D014 27
T-SPOT.TB (結核菌特異的インターフェロナー $\gamma$ 産生能)	109	593	D015 30
Two-color 解析による細胞表面マーカー検査	89	185	D016 2

U	頁	点数	保険区分
UA (尿酸)	26	11	D007 1
ucOC (低カルボキシル化オステオカルシン)	44	154	D008 24
UIBC (不飽和鉄結合能) (比色法)	30	11	D007 1

UN (尿素窒素) 26 11 D007 1

V	頁	点数	保険区分
View アレルギー 39 → 特異的 IgE	56	1430	D015 13
VMA 定量 (バニルマンデル酸)	46	90	D008 4
VZV (水痘・帯状ヘルペスウイルス) 抗体価	78	200	D012 44
VZV (水痘・帯状ヘルペスウイルス) 抗体価 (半定量)	78	79	D012 11

W	頁	点数	保険区分
WBC (白血球数)	95	21	D005 5
whole-PTH	45	161	D008 29

Z	頁	点数	保険区分
Zn (亜鉛)	30	132	D007 37

$\alpha$	頁	点数	保険区分
$\alpha_1$ -アンチトリプシン ( $\alpha_1$ -AT)	55	80	D006 10
$\alpha_1$ -マイクログロブリン ( $\alpha_1$ -MG)	54	129	D015 14
$\alpha_2$ -マクログロブリン ( $\alpha_2$ -MG)	55	138	D006 17
$\alpha$ -フェトプロテイン (AFP)	91	98	D009 2
$\alpha_2$ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	98	150	D006 21

$\beta$	頁	点数	保険区分
$\beta_2$ -マイクログロブリン (BMG)	54	98	D015 10
$\beta$ -D- グルカン (1 → 3)	66	195	D012 42
$\beta$ -HCG (遊離)	48	129	D008 17
$\beta$ -カロチン	29	—	
$\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG)	100	171	D006 24
$\beta$ -溶血性連鎖球菌 (目的菌)	106	—	
$\beta$ ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (目的菌)	106	—	

$\gamma$	頁	点数	保険区分
$\gamma$ -GT ( $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ)	20	11	D007 1
$\gamma$ -Sm ( $\gamma$ -セミノプロテイン)	92	192	D009 28

$\delta$	頁	点数	保険区分
$\delta$ アミノレブリン酸 ( $\delta$ -ALA) (尿)	20	106	D001 11

数字	頁	点数	保険区分
(1 → 3) - $\beta$ -D- グルカン	66	195	D012 42
1,25- (OH) $_2$ ビタミン D	29	388	D007 63
1,5-AG (1,5 アンヒドロ -D- グルシトール)	28	80	D007 21
11-OHCS (11- ハイドロキシコルチコステロイド)	45	60	D008 2
11- ハイドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)	45	60	D008 2
2,5- ヘキサンジオン	35	—	
25-OH ビタミン D	29・44	117	D007 31
5-HIAA (5- ハイドロキシインドール酢酸)	46	95	D008 5
5-HT (セロトニン)	46	—	
5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	46	95	D008 5
I CTP (I型コラーゲン -C- テロペプチド)	93	170	D009 23
I型コラーゲン -C- テロペプチド (I CTP)	93	170	D009 23
I型コラーゲン架橋 N- テロペプチド (NTX)	44・93	156	D008 25
I型プロコラーゲン -N- プロペプチド (P1NP)	43	160	D008 28
IV型コラーゲン (血清)	53	131	D007 36
IV型コラーゲン (尿)	54	184	D001 15
IV型コラーゲン・7S	53	148	D007 42

# ご利用の手引き

## 取引のお申し込み方法

ご利用の際は、最寄りの営業所または地域ラボラトリーまでご連絡いただければ、営業担当  
者がお伺いいたします。  
(営業所の所在地および連絡先は裏表紙に記載しています。)

## 検査のご依頼方法

検査のご提出にあたっては当社所定の検査依頼書および採取容器をご使用ください。  
なお、検査依頼書および採取容器は最寄りの営業所または地域ラボラトリーまでお申し付け  
ください。

### 【検査依頼書のご記入方法】

- ①氏名（患者名）および担当医名はカタカナでご記入ください。
- ②性別は☐にV印を付けてください。
- ③生年月日をご記入ください。
- ④採取日・採取時間をご記入ください。
- ⑤身長・体重をご記入ください。（必要時）
- ⑥検査材料が蓄尿の場合は尿量（一日排泄量）をご記入ください。
- ⑦妊娠の場合、妊娠週数をご記入ください。（必要時）

検査依頼書は複写式です。ボールペンで強めにご記入ください。  
ご希望の検査項目の☐にV印を付けてください。検査依頼書に記載のない検査項目は、「検査項目」  
又は、「ご要望事項」欄にご記入ください。  
ご記入が終われば、検査依頼書の2枚目を控えとして1枚目を御提出ください。なお、この控えは  
検体受領書に代えさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

### 《記入例》

00120000 アルブクリニック 検査依頼書(A) 0103 0000

カルテ No. 12345678 性別 男性 年齢 51 採取日 05/15/00 採取時間 10:00

氏名 アルブ 名 カナ タロウ 生年月日 05/10/00 性別 男性 年齢 51 採取日 05/15/00 採取時間 10:00

検査項目

検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目
生化学検査	フェリチン	前立腺特異抗原 (PSA)	HTLV-1 抗体	ハンノキ
▽ 総ビリルビン	ビタミンB12	エラスターゼI	HIV 抗体	スギ
▽ 直接ビリルビン	尿酸	CA19-9	ヘリコバクター・ピロリ抗体	ヒノキ
▽ 総蛋白 (TP)	血清銅	CA125	梅毒螺旋体抗体	ヤケヒョウヒダニ
▽ アルブミン	(血中) 至鉛	シフラ	シトラコマチス IgA	コナヒョウヒダニ
A/G 比	▽ 血糖	NSE	シトラコマチス IgG	アスベルギルス
▽ AST (GOT)	▽ HbA1c	免疫学検査	HBs 抗原定性	カンジダ
▽ ALT (GPT)	グリコアルブミン	▽ CRP 定量	HBs 抗体定性	ネコ皮膚病
▽ ALP	インスリン	ASO	HCV 抗体	イヌ皮膚病
LD (LDH)		アレルギー反応	HBs 抗原	ハウスダスト1
LAP			HBs 抗体	卵白
			HBs 抗体	ミルク
			HBs 抗体	小麦
			HBs 抗体	大豆
			HBs 抗体	ゼラチン



【検体ラベル】 検体ラベルに貴院名・患者名・年齢・性別・材料名・検体を採取した日付および時刻・検査項目名等を記入してください。

【報告書】 検査のご依頼内容に応じて次のような報告書にてご報告いたします。

- ① 検査報告書（定型報告書）
- ② 一般細菌検査報告書
- ③ 抗酸菌検査報告書
- ④ アレルギー検査報告書
- ⑤ 酵素・リポ蛋白分画報告書
- ⑥ ウイルス肝炎報告書
- ⑦ 病理組織報告書
- ⑧ 細胞診報告書
- ⑨ 骨塩定量検査報告書
- ⑩ その他



## 本書記載項目のご説明

【検査項目の分類】 医学系専門書の分類に準じて分類しています。

【検査コード】 当社の登録用コードです。

【検査項目の名称】 日本臨床検査医学会の臨床検査項目分類コードなどを参考にして決めており、すでに日本語化している外国語はそのままとし、それ以外のは、米・英語読みに従いました。ただし、アミラーゼアイソザイムのようにほぼ日本語化している検査項目については慣例に従い、検査項目名称にいたしました。

【検体量】 検査項目ごとに検査材料および必要量を記載しています。「血清」または「血漿」と記載した検査項目は記載量の約3倍の血液量を目安として採血してください。また、「蓄尿」と記載した検査項目は、冷暗所で24時間蓄尿し、ご提出時によく混和し、尿量を計測して検査依頼書にご記入のうえ必要量をご提出ください。

【保存条件】 検査項目によって、凍結・冷蔵・室温など検査材料の保存条件が異なります。保存条件が正しくないと測定値に影響することがありますのでご注意ください。

凍結：凍結（－20～－5℃）保存が望まれます。      冷蔵：4～14℃で保存してください。  
室温：15～30℃で保存してください。

【採取容器】 検査項目ごとに容器を指定しています。お手元がない場合は営業担当者にお申し付けください。また、資料欄に専用容器の種類と採取上の注意点を載せています。併せてご参照ください。

- 指定容器以外でご出検の場合は、検査結果に影響を与えることが考えられます。
- 感染症検査は、汚染の影響を受けやすい検査法があります。検体採取・検体取り扱いにはご注意ください。



# ご利用の手引き

## 【実施料・判断料】

検体検査料は検体検査実施料と検体検査判断料に区分されております。  
検体検査判断料は各項目ごとに実施料の下に尿・糞便～病理の略号で表記しております。

- 注) 1. 検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数にかかわらず各々月1回に限り算定できる。
2. 上記1.の規定にかかわらず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料(34点)は算定しない。
3. 同一区分の判断料は、入院・外来又は診察料の別にかかわらず月1回の算定とする。

患者から1回に採取した血液を用いて、下記にあげた項目を複数検査行なった場合は、それぞれの点数にかかわらず、検査の項目数に応じて点数が包括されます。

※保険点数の●●●●●●●●●●は各分野ごとの包括になる項目を表します。包括項目と項目数ごとの点数は下記のとおりです。

検体検査判断料		
区1：尿・糞便等検査判断料	34点	尿・糞便
区2：遺伝子関連・染色体検査判断料	100点	遺 伝 子
区3：血液学的検査判断料	125点	血 液
区4：生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点	生 化 Ⅰ
区5：生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点	生 化 Ⅱ
区6：免疫学的検査判断料	144点	免 疫
区7：微生物学的検査判断料	150点	微 生 物

病理診断		
病理判断料	130点	病 理

★保険点数は令和6年6月1日改正によるものです。

## ● ①血液化学検査

項目数	実施料
イ) 5項目以上7項目以下	93
ロ) 8項目又は9項目	99
ハ) 10項目以上	103

総ビリルビン	カルシウム	総鉄結合能(TIBC)(比色法)
直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	マグネシウム	リン脂質
総蛋白	クレアチン	HDLーコレステロール
アルブミン	グルコース	無機リン及びリン酸
尿素窒素	乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)	総コレステロール
クレアチニン	アミラーゼ	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)
尿酸	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
アルカリホスファターゼ (ALP)	クレアチンキナーゼ (CK)	LDLーコレステロール
コリンエステラーゼ (ChE)	アルドラーゼ	蛋白分画
γーグルタミルトランスフェラーゼ (γーGT)	遊離コレステロール	銅 (Cu)
中性脂肪	鉄 (Fe)	リパーゼ
ナトリウム及びクロール	血中ケトン体・糖・クオール検査(試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)	イオン化カルシウム
カリウム	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)	マンガン (Mn)

## ● ②内分泌学的検査

項目数	実施料
イ) 3項目以上5項目以下	410
ロ) 6項目又は7項目	623
ハ) 8項目以上	900

成長ホルモン (GH)	グルカゴン	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)
卵巣刺激ホルモン (FSH)	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	カテコールアミン
Cーペプチド (CPR)	I 型コラーゲン架橋Nーテロペプチド (NTx)	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)
黄体形成ホルモン (LH)	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)	デオキシビリジノリン(DPD)(尿)
テストステロン	オステオカルシン (OC)	17-ケトジェニックスステロイド (17-KGS)
遊離サイロキシン (FT <sub>4</sub> )	骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	エリスロポエチン
遊離トリヨードサイロニン (FT <sub>3</sub> )	遊離テストステロン	ソマトメジンC
コルチゾール	I 型プロコラーゲンNプロペプチド (P I NP)	17-ケトステロイド分画 (17-KGS分画)
アルドステロン	副甲状腺ホルモン (PTH)	17α-ヒドロキシプロゲステロン (17α-OHP)
サイログロブリン	カテコールアミン分画	抗IA-2抗体
ヒト絨毛性ゴナドトロピンーβサブユニット (HCG-β)	インタクトI 型プロコラーゲンNプロペプチド (Intact P I NP)	プレグナンジオール
サイロキシン結合グロブリン (TBG)	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)	メタネフリン
脳性Na利尿ペプチド (BNP)	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量	17-ケトジェニックスステロイド分画 (17-KGS分画)
カルシトニン	サイクリックAMP (cAMP)	メタネフリン・ノルメタネフリン分画
ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量	エストラジオール (E <sub>2</sub> )	心房性Na利尿ペプチド (ANP)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量	I 型コラーゲン架橋 C テロペプチドβ異性体(β-CTX)(尿)	抗利尿ホルモン (ADH)
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)	I 型コラーゲン架橋 C テロペプチドβ異性体(β-CTX)	プレグナントリオール
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	エストリオール (E <sub>3</sub> )	ノルメタネフリン
ヒト胎盤性ラクトゲン (HPL)	エストロゲン半定量	インスリン様成長因子結合蛋白3型 (IGFBP-3)
サイロキシン結合能 (TBC)	エストロゲン定量	遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画
プロゲステロン	副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント (C-PTHrP)	

## ③腫瘍マーカー

項目数	実施料		
イ) 2項目	230		
ロ) 3項目	290		
ハ) 4項目以上	385		
α-フェトプロテイン (AFP)	シリアルLe <sup>x</sup> -i抗原 (SLX)	α-フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)	
癌胎児性抗原 (CEA)	神経特異エノラーゼ (NSE)	CA602	
扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	Span-1	組織因子経路インヒビター-2 (TFPI2)	
組織ポリペプチド抗原 (TPA)	CA72-4	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	
NCC-ST-439	シリアルTn抗原 (STN)	ヒト精巢上体蛋白4 (HE4)	
CA15-3	塩基性フェトプロテイン (BFP)	可溶性メソテリン関連ペプチド	
DUPAN-2	遊離型PSA比 (PSA F/T比)	S2,3PSA%	
エラスターゼ1	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	プロステートヘルスインデックス (phi)	
前立腺特異抗原 (PSA)	シリアルLe <sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)	癌胎児性抗原 (CEA) 定性 (乳頭分泌液)	
CA19-9	BCA225	癌胎児性抗原 (CEA) 半定量 (乳頭分泌液)	
PIVKA-II半定量	サイトケラチン8・18 (尿)	HER2蛋白	
PIVKA-II定量	抗p53抗体	アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォーム	
CA125	I型コラーゲン-C-テロペプチド (ICTP)	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	
核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿)	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)		
核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定性 (尿)	CA54/61		

## ④肝炎ウイルス

項目数	実施料		
イ) 3項目	290		
ロ) 4項目	360		
ハ) 5項目以上	425		
HBs抗原	HCVコア抗体	HCV血清群別判定	
HBs抗体	HA-IgM抗体	HBVコア関連抗原 (HBcrAg)	
HBe抗原	HA抗体	デルタ肝炎ウイルス抗体	
HBe抗体	HBc-IgM抗体	HCV特異抗体価	
HCV抗体 定性・定量	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性	HBVジェノタイプ判定	
HCVコア蛋白	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量		
HBc抗体 半定量・定量	HE-IgA抗体定性		

## ⑤自己抗体価

項目数	実施料		
1) 2項目	320		
2) 3項目以上	490		
抗サイログロブリン抗体	C1q結合免疫複合体	抗ARS抗体	
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗Scl-70抗体 定性・半定量・定量	抗MDA5抗体	
抗Jo-1抗体 定性・半定量・定量	抗SS-B/La抗体 定性・半定量・定量	抗TIF1-γ抗体	
抗RNP抗体 定性・半定量・定量	抗SS-A/Ro抗体 定性・半定量・定量	抗Mi-2抗体	
抗Sm抗体 定性・半定量・定量	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体		

## ⑥出血・凝固検査

項目数	実施料		
イ) 3項目又は4項目	530		
ロ) 5項目以上	722		
Dダイマー定性	von Willebrand因子 (VWF) 抗原	トロンボモジュリン	
von Willebrand因子 (VWF) 活性	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)	フィブリンモノマー複合体	
Dダイマー	プロテインS抗原	凝固因子 (Ⅱ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・Ⅼ)	
プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)	プロテインS活性	プロテインC抗原	
Dダイマー半定量	β-トロンボグロブリン (β-TG)	プロテインC活性	
α2-マクログロブリン	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	tPA・PAI-1複合体	
PIVKA-II	血小板第4因子 (PF4)		
凝固因子インヒビター	プロトロンビンフラグメントF1+2		

# ご利用の手引き

【所要日数】 検体をお預かりした翌日を起算日として報告書をお手元にお届けするまでの日数です。土曜日は含みませんが、日・祝祭日は含みません。なお、依頼検査項目の組合せにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。また、再検査に必要な所要日数は含まれておりませんので、検査項目により遅れる場合があります。あらかじめご了承ください。

【基準値】 「正常参考値および判定基準」は本書では「基準値」として表示しています。

【単位記号】

L	liter	EU	ELISA unit
d L	deciliter (=0.1L)	M	mol/L
m L	milliliter (=0.001L)	mmol	millimole (=0.001mol)
fL	femtoliter (=10 <sup>-15</sup> L)	μmol	micromole (=10 <sup>-6</sup> mol)
μL	microliter (=10 <sup>-6</sup> L)	nmol	nanomole (=10 <sup>-9</sup> mol)
g	gram	pmol	picomole (=10 <sup>-12</sup> mol)
mg	milligram (=0.001g)	fmol	femtomole (=10 <sup>-15</sup> mol)
μg	microgram (=10 <sup>-6</sup> g)	mm <sup>3</sup>	cubic millimeter (立方ミリメートル)
ng	nanogram (=10 <sup>-9</sup> g)	μ <sup>3</sup>	cubic micron (立方マイクロ)
pg	picogram (=10 <sup>-12</sup> g)	mOsm	milliosmole
U	unit	mEq	milliequivalent (ミリ当量)
mU	milliunit (=0.001U)	Meg.	Mega equivalents (10 <sup>6</sup> 当量)
μU	microunit (=10 <sup>-6</sup> U)	%	percent
IU	international unit	‰	permill
mIU	milli-international unit (=0.001IU)	U <sub>A</sub>	unit allergen
AU	arbitrary unit	cpm	count per minute
BU	Bethesda unit		

【検査目的および異常値を示す主な疾患】 参考としてご利用ください。ただし、必ずしも保険対象疾患ではありませんのでご注意ください。

検体受領と搬送

検体は検査依頼書とともにお預かりいたします。なお、検査依頼書1枚目の「病医院用控え」を検体受領書に代えさせていただきますので、貴院にて保管していただきますようお願いいたします。

検体受領場所〔 〕  
検体平均搬送時間〔約 時間 分〕

検体の保管

お預かりいたしました検体は、当社規定に基づき一定期間保管し、再検査や追加検査のご要望にお応えしております。また、保管期間を過ぎた検体につきましては、当社で適切に処分させていただきます。検査済み検体の返却を希望される場合は、当社営業担当者にお問い合わせください。なお、（社）日本衛生検査所協会の統一見解に則り、当社では第三者への検体分与は実施いたしません。

測定委託先

●一部の項目につきましては、他施設に外部委託しております。  
委託先は、下記の記号で表示しています。  
M 株式会社LSIメディアエンス  
L 株式会社ビー・エム・エル  
R 株式会社エスアールエル  
※検査報告書におきまして検査実施施設および最終委託先を記号で表示しています。  
最終委託先までの平均搬送時間  
M〔約 時間〕 L〔約 時間〕 R〔約 時間〕

●一部の検査を当社・地域拠点ラボラトリーにて検査実施の上、ご報告しております。  
地域拠点ラボラトリーは以下の通りです。  
長岡ラボラトリー 新潟ラボラトリー 前橋ラボラトリー

検査結果のご報告

●原則として当社の営業担当者が報告書を直接お届けいたします。  
●緊急報告をご希望の際は、検査依頼時にあらかじめご指示をお願いいたします。  
検査結果が次次第、FAXなどでご連絡させていただきます。  
●検査結果が当社の設定する緊急報告を要する範囲（18ページ）に入った場合、電話またはFAXで直接ご連絡させていただきます。

再検査

●当社再検基準に基づいて、再検査を実施します。  
●最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足の為、再検査に応じられないことがあります。

検査結果のお問い合わせ

検査結果や検査内容などに関するお問い合わせ、ご意見、ご指摘などにつきましては、最寄りの営業所または地域ラボラトリーへご連絡ください。  
お問い合わせ対応時間 9：00～18：00（日・祝祭日を除く）

検査料金のお支払方法

請求書をお引き合わせのうえ、請求書に記載した指定の銀行口座へお振り込みください。  
預金口座自動振り替えでのお支払いも可能です。担当営業員にお申し付けください。

衛生検査所の登録

- 【名称】

【登録業務】

【所在地】
- 金沢ラボラトリー
- 微生物学的検査（①・②・③）、血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、  
病理学的検査（①・②・③・④・⑤）、寄生虫学的検査（①）、生化学的検査（①・②）
- 石川県金沢市近岡町309番地
- 【名称】

【登録業務】

【所在地】
- 新潟ラボラトリー
- 血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①）、  
生化学的検査（①・②）
- 新潟市江南区亀田四ツ興野2丁目5番11号
- 【名称】

【登録業務】

【所在地】
- 前橋ラボラトリー
- 血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①・②・③）、  
生化学的検査（①・②）
- 群馬県前橋市天川大島町1483番1

一次分類	二次分類
微生物学的検査	①細菌培養同定検査、②薬剤感受性検査、③病原体遺伝子検査
血清学的検査	①血清学検査、②免疫学検査
血液学的検査	①血球算定検査、②血液像検査、③出血・凝固検査

一次分類	二次分類
病理学的検査	①病理組織検査、②免疫組織化学検査、③細胞検査、 ④分子病理学的検査、⑤体細胞遺伝子検査
寄生虫学的検査	①寄生虫学的検査
生化学的検査	①生化学検査、②尿・糞便等一般検査

- 【名称】

【登録業務】

【所在地】
- 長岡ラボラトリー
- 微生物学的検査（Ⅰ）、免疫学的検査（Ⅰ・Ⅱ）、血液学的検査（Ⅰ・Ⅱ）、  
病理学的検査（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、生化学的検査（Ⅰ・Ⅱ）、尿・糞便等一般検査（Ⅰ）、  
遺伝子関連・染色体検査（Ⅰ）
- 新潟県長岡市石動南町13番12

一次分類	二次分類
微生物学的検査	Ⅰ細菌培養同定検査、Ⅱ薬剤感受性検査
免疫学的検査	Ⅰ免疫血液学検査、Ⅱ免疫血清学検査
血液学的検査	Ⅰ血球算定・血液細胞形態検査、Ⅱ血栓・止血関連検査、Ⅲ細胞性免疫検査
病理学的検査	Ⅰ病理組織検査、Ⅱ免疫組織化学検査、Ⅲ細胞検査、Ⅳ分子病理学的検査

一次分類	二次分類
生化学的検査	Ⅰ生化学検査、Ⅱ免疫化学検査、Ⅲ血中薬物濃度検査
尿・糞便等一般検査	Ⅰ尿・糞便等検査、Ⅱ寄生虫検査
遺伝子関連・染色体検査	Ⅰ病原体核酸検査、Ⅱ体細胞遺伝子検査、 Ⅲ生殖細胞系列遺伝子検査、Ⅳ染色体検査

認定資格

医療関連サービスマーク認定証書



# ご利用の手引き（緊急報告）

## 緊急報告対象項目とその参考基準値

項 目 名	緊急異常値の報告範囲		参考基準値
総ビリルビン (T-Bil)		12.0 mg/dL以上	0.2~1.2 mg/dL
総蛋白	4.0 g/dL以下	10.0 g/dL以上	6.7~8.3 g/dL
ナトリウム (Na)	119 mEq/L以下	160 mEq/L以上	135~147 mEq/L
クロール (Cl)	79 mEq/L以下	120 mEq/L以上	98~108 mEq/L
カリウム (K)	1.5 mEq/L以下	6.5 mEq/L以上	3.5~5.0 mEq/L
カルシウム (Ca)	6.0 mg/dL以下	14.0 mg/dL以上	8.4~10.2 mg/dL
尿素窒素 (UN)		80.0 mg/dL以上	7.9~21.4 mg/dL
AST (GOT)		500 U/L以上	10~40 U/L
ALT (GPT)		500 U/L以上	5~45 U/L
ALP (アルカリフォスファターゼ)		700 U/L以上	38~113 U/L
CK (CPK)		1,000 U/L以上	男: 56~244 U/L 女: 43~165 U/L
LD (乳酸脱水素酵素、LDH)		1,000 U/L以上	120~245 U/L
$\gamma$ -GT		1,000 U/L以上	男: 5~76 U/L 女: 5~30 U/L
アミラーゼ		1,000 U/L以上	37~125 U/L
アンモニア (NH <sub>3</sub> )		200 $\mu$ g/dL以上	20~80 $\mu$ g/dL
血 糖 (グルコース)	40 mg/dL以下	500 mg/dL以上	70~109 mg/dL
ジゴキシン		1.51 ng/mL以上	0.50~1.50 ng/mL
フェニトイン		20.1 $\mu$ g/mL以上	10.0~20.0 $\mu$ g/mL
フェノバルビタール		40.1 $\mu$ g/mL以上	15.0~40.0 $\mu$ g/mL
バルプロ酸ナトリウム		100.1 $\mu$ g/mL以上	50.0~100.0 $\mu$ g/mL
カルバマゼピン		10.1 $\mu$ g/mL以上	4.0~10.0 $\mu$ g/mL
テオフィリン		20.1 $\mu$ g/mL以上	10.0~20.0 $\mu$ g/mL
炭酸リチウム		1.21 mEq/L以上	0.60~1.20 mEq/L
直接クームス	陽性 (Baby)		陰性
プロトロンビン値 (PT)	INR 3.00 以上		
白血球数	$1.0 \times 10^3 / \mu\text{L}$ 以下	$25.0 \times 10^3 / \mu\text{L}$ 以上	$3.8 \sim 9.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$
血液像 (白血球像)	白血病の疑いのあるもの (多数の異型細胞・芽球・判定困難な細胞出現時)		
血小板数	$3.0 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 以下	$100.0 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 以上	$13.1 \sim 36.5 \times 10^4 / \mu\text{L}$
ヘモグロビン量	5.0 g/dL以下		男: 13.7~17.4 g/dL 女: 11.2~14.9 g/dL
細菌塗抹検査	髄液からの検出菌		
細菌培養検査	二類および三類感染症菌の検出 血液からの検出		

- 上記のような緊急異常値が認められた場合は、検査担当者が電話またはFAXで報告させていただきます。
- 上記の検査項目で緊急異常値の範囲であっても、溶血・乳びなどが検査結果に影響を与えていると思われる場合は緊急報告の対象から除外し、報告書にコメントを付けてご報告いたします。

# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
生 体 色 素 検 査	00001	総ビリルビン (T-Bil)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	パナジン酸 酸化法	0.2~1.2 mg/dL		肝胆道疾患 肝細胞性黄疸 閉塞性黄疸 溶血性黄疸 新生児黄疸
	00002	直接ビリルビン (D-Bil)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I			0.0~0.4 mg/dL		
蛋 白 検 査	00005	総蛋白 (TP)	血清0.3	冷蔵	A	* ⑪ 生化 I	1~2	Biuret法	6.7~8.3 g/dL		肝硬変 血液疾患 慢性感染症 ネフローゼ症候群
	00006	アルブミン (Alb)	血清0.3	冷蔵	A	* ⑪ 生化 I	1~2	BCP改良法	3.8~5.3 g/dL		肝硬変 慢性肝炎 ネフローゼ症候群 消化吸収障害
	00007	A/G比	血清0.3	冷蔵	A		1~2	計算法	1.20~2.30		肝障害 ネフローゼ症候群 高グロブリン血症 蛋白異常症
	00009	蛋白分画 アルブミン : Alb $\alpha_1$ グロブリン : $\alpha_1$ $\alpha_2$ グロブリン : $\alpha_2$ $\beta$ グロブリン : $\beta$ $\gamma$ グロブリン : $\gamma$	血清0.3	冷蔵	A	* ⑱ 生化 I	1~2	セルロース アセテート膜 電気泳動法	Alb 60.2~71.4 $\alpha_1$ 1.9~ 3.3 $\alpha_2$ 5.7~ 9.7 $\beta$ 6.9~10.7 $\gamma$ 10.5~20.3 % A/G比 1.60~2.46		急性感染症 慢性肝疾患 膠原病 ネフローゼ症候群 M蛋白血症 多発性骨髄腫
ポ ル フ ィ リ ン 関 連 検 査	02537	プロトポルフィリン	全血0.5	冷蔵 遮光	H4	272 生化 I	5~11	HPLC法	$\mu$ g/dL RBC	M	鉛中毒 先天性ポルフィリン症 肝疾患 白血病
	03349	遊離型 プロトポルフィリン	全血1.4	冷蔵 遮光	H4		4~17	蛍光法	$\mu$ g/dL RBC	L 分布表は36ページ 参照	
	02562	血中 コプロ ポルフィリン	全血1.5	冷蔵 遮光	H4	210 生化 I	6~11	HPLC法	1以下 $\mu$ g/dL RBC	M	
	02563	尿中 定量	尿 3	冷蔵 遮光	D	131 尿・糞便	6~12	HPLC法	170以下 $\mu$ g/g CRE	M	

\* 蛋白分画、総蛋白及びアルブミン（BCP改良法・BCG法）を併せて測定した場合は、主たるものの2つの所定点数を算定する。



# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
ポ ル フ ィ リ ン 関 連 検 査	02606	ウロポルフィリン	全血 1.5	冷蔵 (遮光)	H4		4~10	HPLC法	1 以下 μg/dL RBC		先天性赤血球性ポルフィリン症 骨髄性ポルフィリン症 肝性ポルフィリン症 ポルフィリン尿症 各種貧血
	02536		尿 3	冷蔵 (遮光)	D	105 尿・糞便	6~12		36 以下 μg/g CRE		
	03540	δアミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 1	冷蔵	D	106 尿・糞便	4~6	HPLC法		分布表は36ページ 参照	鉛中毒（急性・慢性） 肝性ポルフィリン症 骨髄性ポルフィリン症
酵 素 活 性 検 査	00014	AST (GOT)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	JSCC標準化対応法	10~40 U/L	溶血により高値 傾向を示す	肝疾患 心筋梗塞 溶血性貧血
	00015	ALT (GPT)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	JSCC標準化対応法	5~45 U/L		肝疾患
	00716	ALP (アルカリフォスファターゼ)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	IFCC 法(比色法)	38~113 U/L		肝胆道疾患 骨疾患 甲状腺機能亢進症
	00717	LD (乳酸脱水素酵素、LDH)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	IFCC 法(比色法)	120~245 U/L	溶血により高値 傾向を示す	急性肝炎 うっ血性心不全 心筋梗塞 悪性腫瘍 白血病 悪性貧血 溶血性貧血
	00018	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	L-ロイシン- P-ニトロ アニリド基質法	30~80 U/L		肝胆道疾患 急性肝炎 肝臓 肝硬変 急性膵炎
	00019	γ-GT (γ-グルタミールトランス ペプチダーゼ、γ-GTP)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	JSCC標準化対応法	男 5~76 女 5~30 U/L		胆汁うっ滞 アルコール性肝障害 急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 肝臓
	00020	コリンエステラーゼ (ChE)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	JSCC標準化対応法	男 235~495 女 199~454 U/L		ネフローゼ症候群 脂肪肝 農薬中毒 甲状腺機能亢進症 慢性肝炎 肝硬変
	00021	アミラーゼ (AMY)	血清 0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1~2	JSCC標準化対応法	37~125 U/L		急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
	00022		尿 5	冷蔵	D	⑪ 生化 I			65~730 U/L		マクロアミラーゼ血症 唾液腺疾患 耳下腺炎
	00023	リパーゼ	血清 0.3	冷蔵	A	⑫ 生化 I	1~2	酵素共役反応法	13~49 U/L		急性膵炎 慢性膵炎増悪期 膵腫瘍
	03334	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血漿 0.4	凍結	H2	* 219 生化 I	4~8	ELISA法	164~284 ng/mL	(注)	家族性LPL欠損症 高TG血症

\* 高トリグリセリド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。また、ヘパリン負荷がおこなわれた場合、投与したヘパリンは薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

(注) 早朝空腹時にヘパリンを体重1当たり30単位を静注し、15分後にH2容器に採血して4℃で遠心分離後、上清（血漿）をA2容器に移し凍結保存してご提出ください。  
EDTA血漿は避けて下さい。基準値につきましては、上記採取条件に基づき設定しております。

# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
酵 素 活 性 検 査	01885	トリプシン	血清0.5	冷蔵	A	189 生化Ⅰ	3～4	ラテックス凝集 比濁法	210～570 ng/mL	L	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
	01835	エラスターゼ1	血清0.5	冷蔵	A	* 120 生化Ⅱ	2～3	LA法	300以下 ng/dL		
	01900	膵PLA <sub>2</sub> (膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> )	血清0.3	凍結	A	204 生化Ⅰ	3～6	RIA 固相法	130～400 ng/dL	M	
	00058	CK(CPK) (クレアチンキナーゼ)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	男 56～244 女 43～165 U/L		進行性筋ジストロフィー症 多発性筋炎 皮膚筋炎 急性心筋梗塞
	03126	アルドラーゼ	血清0.5	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	2～3	UV法	2.7～5.9 IU/L	M 溶血により高値 傾向を示す	筋疾患 脳卒中 急性肝炎 慢性肝炎 再生不良性貧血 心筋梗塞 甲状腺機能低下症
	02622	リゾチーム	血清0.3	冷蔵	A		3～4	比濁法	5.0～10.0 μ g/mL	L	リンパ性白血病 単球性白血病 消化器疾患
	02905	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血清0.4	冷蔵	A	32 生化Ⅰ	3～4	酵素法	8.6～20.5 U/L	M	肝炎（急性・慢性） 悪性腫瘍 白血病 先天性ADA欠損症
	02618	ACE (アンギオテンシンⅠ 転換酵素)	血清0.5	冷蔵	A	136 生化Ⅰ	2～3	比色法 (笠原法)	7.7～29.4 IU/L	M	サルコイドーシス 甲状腺機能亢進症 Caucher病 クローン病 白血病
	02520	グアナーゼ	血清0.5	冷蔵	A	35 生化Ⅰ	3～4	酵素法	0.4～1.1 U/L	L	急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 薬物中毒 自己免疫性肝炎
00079	NAG	尿 1	冷蔵	D	41 尿・糞便	3～4	比色法 (合成基質法)	11.5以下 U/L	pH4.0以下の酸性尿、あるいはpH8.0以上のアルカリ尿では測定値が低下する場合があります。 L	尿細管障害 腎炎 ネフローゼ症候群	

\* 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→急性及び慢性脾炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合

# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
ア イ ソ ザ イ ム 検 査	03123	CKアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	55 生化 I	3～4	アガロースゲル 電気泳動法	BB 0～2 MB 0～3 MM 96～100 %	M	心筋梗塞 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎 心筋炎 甲状腺機能亢進症
	02616	CK-MB	血清0.6	凍結	A	90 生化 I	1～3	CLIA法	7.5以下 ng/mL		急性心筋梗塞 心筋炎 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎
	03118	LDアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化 I	3～4	アガロースゲル 電気泳動法	LD1 20.0～31.0 LD2 28.8～37.0 LD3 21.5～27.6 LD4 6.3～12.4 LD5 5.4～13.2 %	溶血不可 M	LDH1：心筋梗塞 溶血性貧血 悪性貧血 LDH2・3：筋ジストロフィー 白血病 悪性リンパ種 悪性腫瘍 LDH3・4：肺梗塞 肺癌 悪性腫瘍の肺・肝転移 LDH5：急性肝炎 肝癌
	03119	ALPアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化 I	3～4	アガロースゲル 電気泳動法	ALP1： 0.0～ 5.3 ALP2：36.6～69.2 ALP3：25.2～54.2 ALP4： — ALP5： 0.0～18.1 ALP6： — %	M	ALP1：閉塞性黄疸 限局性肝障害 ALP2：慢性腎不全 肝・胆道疾患 ALP3：骨疾患 副甲状腺機能亢進症 骨腫瘍 ALP4：妊娠末期 ALP5：血液型OおよびB型分泌型の食後 肝硬変
	03120	アミラーゼアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化 I	3～5	アガロース膜 電気泳動法	P/S比 0.19～1.79 P型 15.7～64.0 S型 36.0～84.3 %	L	高アミラーゼ血症の鑑別 P型増加：急性膵炎 慢性膵炎増悪期
	03015		尿 1	冷蔵	D	48 生化 I	3～5		P/S比 0.63～4.65 P型 38.7～82.3 S型 17.7～61.3 %	L	S型増加：唾液腺疾患 腎不全 マクロアミラーゼ 産生腫瘍(肺癌など)
	02917	膵アミラーゼ (P 型アミラーゼ)	血清0.5	冷蔵	A	48 生化 I	2～3	阻害抗体法	19～53 U/L	M	急性膵炎 慢性膵炎増悪期

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
脂 質 関 連 検 査	00024	総コレステロール (TCH)	血清0.3	冷蔵	A	①⑦ 生化 I	1~2	酵素法	120~219 mg/dL		脂質異常症 高脂血症 肝硬変症 ネフローゼ症候群
	00025	遊離コレステロール	血清0.5	冷蔵	A	①⑪ 生化 I	2~3	酵素法	25~60 mg/dL		脂質異常症 高脂血症 肝疾患 ネフローゼ症候群
	00032	中性脂肪 (TG)	血清0.3	冷蔵	A	①⑪ 生化 I	1~2	酵素法 (遊離グリセロール消去法)	50~149 mg/dL	下記参照	脂質異常症 動脈硬化症 脂肪肝 膵炎
	00033	リン脂質 (PL)	血清0.5	冷蔵	A	①⑮ 生化 I	2~3	酵素法	150 ~250 mg/dL		胆道閉塞症 高脂血症 ネフローゼ症候群 肝疾患
	00145	LDLコレステロール	血清0.3	冷蔵	A	①⑱ 生化 I	1~2	酵素法 (直接法)	70~139 mg/dL	下記参照	脂質異常症 高コレステロール血症 高脂血症 ネフローゼ症候群
	00028	HDLコレステロール	血清0.3	冷蔵	A	①⑰ 生化 I	1~2	酵素法 (直接法)	男 40~77 女 40~90 mg/dL	下記参照	脂質異常症 高脂血症 肝硬変症
	03135	コレステロール分画	血清0.3	冷蔵	A	57 生化 I	3~5	アガロース膜 電気泳動法	男 HDL-C 17~43 VLDL-C 2~18 LDL-C 51~77 女 HDL-C 22~51 VLDL-C 1~14 LDL-C 45~72 %	凍結不可	脂質異常症 高脂血症 高コレステロール血症

\* HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

## 動脈硬化性疾患予防ガイドライン

### ●脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上 (空腹時採血)*	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上 (随時採血)*	
Non-HDL コレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

\*基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。

空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

\*\*スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の可能性を考慮する。

・LDL-CはFriedewald式 (TC-HDL-C-TG/5) で計算する (ただし空腹時採血の場合のみ)。または直接法で求める。

・TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C (=TC-HDL-C) からLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

・TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。

・HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

### ●リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則		管理区分	脂質管理目標値 (mg/dL)			
			LDL-C	Non HDL-C	TG	HDL-C
一次予防	まず生活習慣の改善を行った後、薬物療法の適用を考慮する	低リスク	< 160	< 190	< 150 (空腹時)*** < 175 (随時)	≥ 40
		中リスク	< 140	< 170		
		高リスク	< 120 < 100*	< 150 < 130*		
二次予防	生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患またはアテローム血栓性脳梗塞 (明らかなアテローム****を伴うその他の脳梗塞を含む) の既往	< 100 < 70**	< 130 < 100**		

\*糖尿病において、末梢動脈疾患 (PAD)、細小血管症 (網膜症、腎症、神経障害) 合併時、または喫煙有りの場合に考慮する。

\*\*「急性冠症候群」、「家族性高コレステロール血症」、「糖尿病」、「冠動脈疾患とアテローム血栓性脳梗塞 (明らかなアテロームを伴うその他の脳梗塞を含む)」の4病態のいずれかを合併する場合に考慮する。

\*\*\*10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。それ以外の条件を「随時」とする。

\*\*\*\*頭蓋内外動脈の50%以上の狭窄、または弓部大動脈粥種 (最大肥厚4mm以上)

参考文献 日本動脈硬化学会 (編) : 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版。日本動脈硬化学会、2022

# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
脂 質 関 連 検 査	03112	リボ蛋白分画 [アガロース]	血清0.3	冷蔵	A	49 生化 I	3~5	アガロース膜 電気泳動法	男 α 27~51 Preβ 8~24 β 35~56 女 α 33~53 Preβ 7~21 β 34~52 %	凍結不可 L	脂質異常症 動脈硬化症 家族性高リボ蛋白血症
	06657	リボ蛋白分画	血清0.5	冷蔵	A	129 生化 I	3~6	HPLC法	下記参照	凍結不可 L	
	01923	リボ蛋白(a) (Lp(a))	血清0.3	冷蔵	A	*1 107 生化 I	1~2	TIA法	30以下 mg/dL		動脈硬化症 虚血性心疾患
	02999	レムナント様リボ蛋白 コレステロール (RLP コレステロール)	血清0.4	冷蔵	A	*1 174 生化 I	2~3	酵素法	7.5以下 mg/dL	凍結不可	脂質異常症 動脈硬化症
	03519	アポリボ蛋白A I	血清0.5	冷蔵	A	1項目 31 2項目 62 3項目 以上 *2 94 生化 I	2~3	TIA法	男 119~155 女 126~165 mg/dL		Ⅱ型高脂血症 (アポリボ蛋白 B) Ⅲ型高脂血症 (アポリボ蛋白 E) 甲状腺機能低下症 (アポリボ蛋白 B,E) 胆汁うっ滞 (アポリボ蛋白 CⅢ) Tangire 病 (アポリボ蛋白 A I 欠損) 無βリボ蛋白血症 (アポリボ蛋白 B 欠乏) 肝胆道疾患 (アポリボ蛋白 A I, AⅡ) 慢性腎不全 (アポリボ蛋白 A I, AⅡ, CⅢ)
	03520	アポリボ蛋白AⅡ							男 25.9~35.7 女 24.6~33.3 mg/dL		
	03521	アポリボ蛋白B							男 73~109 女 66~101 mg/dL		
	03522	アポリボ蛋白CⅡ							男 1.8~4.6 女 1.5~3.8 mg/dL		
	03523	アポリボ蛋白CⅢ							男 5.8~10.0 女 5.4~ 9.0 mg/dL		
	03524	アポリボ蛋白E							男 2.7~4.3 女 2.8~4.6 mg/dL		
	04542	脂肪酸4分画	血清0.5	凍結	A	393 生化Ⅱ	5~7	GC法	DHLA 16.7~ 58.2 AA 112.7~237.9 EPA 9.0~128.5 DHA 46.7~172.7 EPA/AA比 0.06~0.72 μ g/mL	空腹時に採血 して下さい L	動脈硬化症
	00064	総胆汁酸	血清0.5	冷蔵	A	47 生化Ⅰ	2~3	酵素法	(食後4時間以上経過) 14.4以下 μ mol/L	L	慢性肝炎 肝硬変症 胆汁うっ滞 急性肝炎 閉塞性黄疸

\*1 3月に1回を限度として算定できる。

\*2 AⅠ・AⅡ・B・CⅡ・CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。

## リボ蛋白分画/HPLC法 基準値

	分画 (%)	定量値 (mg/dL)
HDL	23.6~49.8	40.6~91.4
LDL	42.2~63.8	67.8~132.6
IDL	2.2~6.1	3.8~12.5
VLDL	2.6~13.9	4.9~22.8
Other	0.8~4.4	1.5~9.1
総コレステロール		150~219

# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
電 解 質 検 査	00038	ナトリウム (Na)	血清0.3	冷蔵	A	*1 ⑪ 生化 I	1~2	電極法	135~147 mEq/L		腎不全 ネフローゼ症候群 内分泌疾患 脱水状態 糖尿病 アジソン病
	00101		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 ⑪ 生化 I			1.60~5.80 g/day		
	00038	クロール (CL)	血清0.3	冷蔵	A	*1 ⑪ 生化 I	1~2	電極法	98~108 mEq/L		腎不全 原発性アルドステロン症 呼吸性アルカローシス 呼吸性アシドーシス 糖尿病
	00103		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 ⑪ 生化 I			2.50~8.90 g/day		
	00040	カリウム (K)	血清0.3 (注)	冷蔵	A	*1 ⑪ 生化 I	1~2	電極法	3.5~5.0 mEq/L	溶血により高値 傾向を示す	腎不全 アジソン病 ネフローゼ症候群 クッシング症候群 アシドーシス 嘔吐・下痢
	00105		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 ⑪ 生化 I			1.00~3.90 g/day		
	00041	カルシウム (Ca)	血清0.3	冷蔵	A	*2 ⑪ 生化 I	1~2	アルセナソⅢ法	8.4~10.2 mg/dL		慢性腎不全 サルコイドーシス 副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 骨軟化症 肺炎
	00107		蓄尿 5	冷蔵	D	*2 ⑪ 生化 I			0.10~0.30 g/day		
	00051	無機リン (IP)	血清0.3	冷蔵	A	*3 ⑪ 生化 I	1~2	酵素法	2.4~4.4 mg/dL	溶血により高値 傾向を示す	慢性腎不全 骨軟化症 副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 アルコール中毒
	00119		蓄尿 5	冷蔵	D	*3 ⑪ 生化 I			0.50~1.00 g/day		
	00050	マグネシウム (Mg)	血清0.3	冷蔵	A	*1 ⑪ 生化 I	1~2	酵素法	1.9~2.5 mg/dL		急性腎不全 慢性腎不全 副甲状腺機能異常症 吸収不良症候群
	00117		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 ⑪ 生化 I			0.02~0.13 g/day		
	02662	浸透圧	血清1.0	冷蔵	A	15 血液	3~4	氷点降下法	275~290 mOsm/kg・H <sub>2</sub> O		糖尿病 熱性疾患 尿崩症 腎機能不全
	02663		尿 1	冷蔵	D	16 尿・糞便			50~1300 mOsm/kg・H <sub>2</sub> O		

\*1 ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

\*2 カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。

\*3 無機リン及びリン酸については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

(注) 血液凝固後できるだけ速やかに血清分離してください。血清分離不可能な場合は室温にて保存してください。

全血での冷蔵保存及び血清分離までの時間が長い場合、高値傾向を示します。



# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
含 窒 素 成 分 検 査	00042	尿素窒素 (UN)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	ウレアーゼ GLDH法 (アンモニア消去法)	7.9～21.4 mg/dL		腎機能障害 腎不全 尿毒症 消化管出血
	00109		蓄尿 5	冷蔵	D	⑪ 生化Ⅰ			6.5～13.0 g/day		
	00044	クレアチニン (CRE)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	酵素法	男 0.61～1.04 女 0.47～0.79 mg/dL		腎不全 尿毒症 うつ血性心不全 ショック 大出血
	00111		蓄尿 5	冷蔵	D	⑪ 生化Ⅰ			0.5～1.5 g/day		
	00045	尿酸 (UA)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	ウリカーゼ POD法	男 3.8～7.0 女 2.6～7.0 mg/dL		痛風 白血病 慢性腎不全 腎炎
	00113		蓄尿 5	冷蔵	D	⑪ 生化Ⅰ			0.4～1.2 g/day		
	00046	クレアチン	血清0.5	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	3～4	酵素法	0.2～1.0 mg/dL		神経・筋疾患 甲状腺機能亢進症 熱傷
	00063	アンモニア (NH <sub>3</sub> )	除蛋白 上清液 3.5	凍結	G	50 生化Ⅰ	1～2	奥田・藤井変法	20～80 μg/dL	除蛋白試液4.0mL に血液1.0mLを混 合し、ただちに遠 心分離して上清を W容器に移してご 提出ください。	肝硬変 肝性脳症 劇症肝炎 尿毒症
	02953	総分岐鎖アミノ酸/ チロシンモル比 (BTR)	血清0.5	凍結	A	283 生化Ⅱ	3～4	酵素法	BTR 4.41～10.05 BCAA 344～713 チロシン 51～98 μmol/L		慢性肝炎 肝硬変 肝性脳症
	ア ミ ノ 酸 検 査	02899	アミノ酸分析11種	血漿0.5	凍結	H2	1,107 生化Ⅱ	4～5	LC-MS/MS法	次ページ参照	
02560		アミノ酸分析	血漿0.5	凍結	H2	5～6					
04454			尿 0.5 早朝2番尿	凍結	D		1,107 生化Ⅱ	トルエン、塩酸な どの防腐剤は加え ないで下さい。			

## アミノ酸分析基準値

成 分 名	略 号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)
1 タウリン	Tau	34.5～80.6	23.3～2349
2 ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下
3 アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下
4 ハイドロキシプロリン	Hyp	19.7以下	20.2以下
5 トレオニン	Thr	89.2～241.6	28.7～788.8
6 セリン	Ser	78.4～200.1	56.4～1062
7 アスパラギン	Asn	37.7～78.5	20.6～361.8
8 グルタミン酸	Glu	13.3～86.7	33.6以下
9 グルタミン	Gln	503.4～851.4	57.8～1439
10 サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下
11 α-アミノアジピン酸	α-AAA	5.0以下	117.2以下
12 プロリン	Pro	89.8～304.7	42.0以下
13 グリシン	Gly	136.8～397.7	277.7～4443
14 アラニン	Ala	253.6～601.9	38.4～956.7
15 シトルリン	Cit	18.2～50.1	34.4以下
16 α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2～40.1	33.7以下
17 バリン	Val	162.9～351.4	5.1～94.4
18 シスチン	Cys Cys	34.9～77.7	221.8以下
19 メチオニン	Met	18.1～43.5	25.1以下
20 シスタチオン	Cystio	5.0以下	58.4以下
21 イソロイシン	Ile	44.9～120.3	30.9以下
22 ロイシン	Leu	84.4～200.2	77.5以下
23 チロシン	Tyr	46.7～103.6	10.0～263.6
24 β-アラニン	β-Ala	8.0以下	84.6以下
25 フェニルアラニン	Phe	49.0～90.8	7.9～135.5
26 β-アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7以下	7.8～3013
27 ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
28 γ-アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
29 モノエタノールアミン	MEA	6.7～12.2	73.6～1076
30 ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
31 オルニチン	Orn	50.8～137.4	76.1以下
32 1-メチルヒスチジン	1-Me-His	26.5以下	23.2～1990
33 ヒスチジン	His	68.0～116.6	86.1～2375
34 リジン	Lys	138.6～294.2	20.2～1500
35 3-メチルヒスチジン	3-Me-His	7.2以下	26.2～755.8
36 トリプトファン	Trp	46.7～92.0	8.4～186.7
37 アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
38 カルノシン	Carno	5.0以下	51.9以下
39 アルギニン	Arg	44.1～115.2	77.4以下
40 アロイソロイシン	allo-Ile	5.0以下	5.0以下
41 グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0以下	32.8以下
42 ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
43 S-スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
44 キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
45 アルギニノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
フィッシャー比*1		2.36～4.69*2	—

◆アミノ酸分析11種は、網掛け(□□)項目およびフィッシャー比

$$\text{フィッシャー比} = \frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$$

\*2 単位なし

ND 不検出

# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
糖 代 謝 検 査	00071	血糖 (グルコース)	全血1.0	冷蔵	C	⑪ 生化I	1~2	ヘキソキナーゼ UV法	70~109 mg/dL		糖尿病 甲状腺機能亢進症 急性膵炎 腫瘍 インスリノーマ
	00076	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	全血1.0	冷蔵	C	*1 49 血液	1~2	酵素法	4.6~6.2 %		糖尿病 (約1~2カ月前の血糖 値を反映)
	03831	1,5- アンヒドロ - D- グルシトール (1,5-AG)	血清0.5	冷蔵	A	*1 80 生化I	3~4	比色法	14.0以上 μg/mL		糖尿病 (血糖コントロール指標) 糖尿病性腎性
	02693	グリコアルブミン (GA)	血清0.5	冷蔵	A	*1 55 生化I	2~3	酵素法	12.3~16.5 %		糖尿病 (約1~2週間前の血糖 値を反映)
有 機 酸 検 査	01878	ヒアルロン酸	血清0.5	冷蔵	A	*2 179 生化I	3~4	LA法	50.0以下 ng/mL		慢性肝炎 肝硬変 慢性関節リウマチ
	02566	乳酸	除蛋白 上清液 0.5	凍結	I 1	47 生化I	3~4	酵素法	(空腹安静時) 3.7~16.3 mg/dL	血液1mLを容器に 採取し、充分攪拌 したのち3000rpm 5分間遠心分離し て上清を提出用容 器(W)に移して ご提出ください。	筋疲労の指標 筋糖原病 糖尿病 肝疾患
	02567	ピルビン酸	除蛋白 上清液 0.5	凍結	I 1	47 生化I	3~4	酵素法	(空腹安静時) 0.30~0.90 mg/dL		循環不全 ショック 肝硬変 糖尿病
	02541	ケトン体分画	血清0.3 (静脈血)	凍結	A	*3 59 生化I	3~4	酵素法	総ケトン体 26~122 アセト酢酸 13~69 3-ハイドロキシ酪酸 76以下 μmol/L	早期空腹時採血  総ケトン体にアセト ンは含まれません	ケトアシドーシス 糖尿病
ビ タ ミ ン 検 査	03117	ビタミンA	血清0.3	冷蔵 遮光	A		5~11	HPLC法	27.2~102.7 μg/dL		ビタミンA欠乏症 ビタミンA過剰症 肝疾患 夜盲症
	02572	ビタミンB <sub>1</sub> (チアミン)	全血1.1	凍結 遮光	F9	239 生化I	7~9	HPLC法	21.3~81.9 ng/mL		ビタミンB <sub>1</sub> 欠乏症 脚気
	02573	ビタミンB <sub>2</sub> (リボフラビン)	全血1.1	凍結 遮光	F9	235 生化I	4~7	HPLC法	4.1~8.8 μg/dL		ビタミンB <sub>2</sub> 欠乏症 口角炎 舌炎

\*1 ヘモグロビンA1c (HbA1c)、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5AG) のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c (HbA1c) を月1回に限り別に算定できる。

\*2 慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

\*3 ケトン体及びケトン体分画の検査を併せて実施した場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
ビ タ ミ ン 検 査	02578	ビタミンB <sub>6</sub>	血清1.0	冷蔵 (遮光)	A		4～10	HPLC法	男 PAM 0.6以下 PAL 6.0～40.0 PIN 3.0以下 女 PAM 0.6以下 PAL 4.0～19.0 PIN 3.0以下 ng/mL	L	ビタミンB <sub>6</sub> 欠乏症 吸収不良症候群	
	01883	ビタミンB <sub>12</sub>	血清0.6	冷蔵	A	136 生化I	2～3	CLIA法	233～914 pg/mL		悪性貧血 萎縮性胃炎	
	03098	ビタミンC (アスコルビン酸)	(血清中) 除蛋白上清液 0.5	凍結 (遮光)	L7	296 生化I	4～6	HPLC法	(血清中) 5.5～16.8 μg/mL	正確に血清0.5mLを 専用容器(L-7)に加え、 混和後、遠心分離し、 その上清をポリスピツ ツ(W)にてご提出くだ さい。	R	ビタミンC欠乏症 壊血病
	03102	1,25-(OH) <sub>2</sub> ビタミンD	血清1.0	凍結	A	*1 388 生化I	4～7	RIA 二抗体法	20～60 pg/mL	L	ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症 副甲状腺機能障害 慢性腎不全	
	03459	25-OH ビタミンD	血清0.5	冷蔵	A	*2 117 生化I	2～3	ECLIA法	ng/mL	判定の目安については 「ビタミンD不足・ 欠乏の判定指針」を ご参照ください。		骨粗鬆症 ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症
	03116	ビタミンE (トコフェロール)	血清0.5	凍結 (遮光)	A		4～10	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	M	ビタミンE欠乏症 脂質異常症 高脂血症	
	01884	葉酸	血清0.5	冷蔵	A	146 生化I	2～3	CLIA法	3.6～12.9 ng/mL	溶血により高値 傾向を示す		巨赤芽球性貧血 溶血性貧血
	03080	カルニチン	血清0.5	冷蔵	A	*3 95 + 95 生化I	3～4	酵素 サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	L	カルニチン欠乏症 慢性腎不全	
	03205	β-カロチン	血清0.6	凍結 (遮光)	A		6～12	HPLC法	男 6.6～ 47.6 女 20.4～105.2 μg/dL	R	柑皮症 甲状腺機能異常 肝疾患	
	02911	ビタミンK分画	血漿2.0	凍結 (遮光)	E4		4～10	HPLC法	K <sub>1</sub> 0.15～1.25 K <sub>2</sub> 0.10以下 ng/mL	R	出血傾向 消化器疾患 胆道閉塞 肝疾患	

- \*1 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。
- \*2 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。また、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。
- \*3 総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。なお、本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。また、静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

## ●ビタミンD不足・欠乏の判定指針（25-OHビタミンD濃度による）

ビタミンD充足状態：30.0ng/mL以上  
 ビタミンD不足：20.0ng/mL以上30.0ng/mL未満  
 ビタミンD欠乏：20.0ng/mL未満

# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
金 属 検 査	00047	鉄 (Fe)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化 I	1～2	Nitroso-PSAP法	男 60～160 女 50～140 μ g/dL		鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 肝障害 感染症 赤血球増多症 ヘモクロマトーシス
	00048	TIBC (総鉄結合能)	血清0.3	冷蔵	A	⑪* 生化 I	1～2	計算法 (Nitroso-PSAP法)	男 260～420 女 290～440 μ g/dL	Fe, UIBC値より 算出	鉄欠乏性貧血 悪性腫瘍 急性肝炎 肝硬変 感染症 ネフローゼ症候群
	00049	UIBC (不飽和鉄結合能)	血清0.3	冷蔵	A	⑪* 生化 I	1～2	Nitroso-PSAP法	191～269 μ g/dL		
	00053	銅 (Cu)	血清0.4	冷蔵	A	②③ 生化 I	2～3	比色法	70～132 μ g/dL	M	閉塞性黄疸 胆汁性肝硬変 Wilson病 悪性貧血
	00054		尿 5	冷蔵	D3	②③ 生化 I	4～7	原子吸光法	濃度 18以下 μ g/L 1日量 13以下 μ g/day		
	03502	鉛 (Pb)	全血0.5	冷蔵	H2		4～8	原子吸光法	μ g/dL	分布表は36ページ 参照 L	鉛中毒
	02630	亜鉛 (Zn)	血清0.5	冷蔵	A3	<sup>132</sup> 生化 I	2～3	比色法	80～130 μ g/dL		甲状腺機能亢進症 溶血性貧血 赤血球増多症 多発性神経炎 亜鉛欠乏症
	02631		尿 5	冷蔵	D3	<sup>132</sup> 生化 I	4～7	原子吸光法	64～947 μ g/L	M	
	04029	水銀 (Hg)	全血0.5	冷蔵	H2		6～11	原子吸光法	5以下 μ g/dL	M	水銀中毒（水俣病）
	04788		尿 1	冷蔵	D3				25以下 μ g/L		

\* 総鉄結合能(TIBC)(比色法)、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)又は総鉄結合能(TIBC)(比色法)の所定点数を算定する。

# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
金 属 検 査	03595	カドミウム (Cd)	全血0.5	冷蔵	H2		5~8	ICP-MS法	0.5以下 μ g/dL		カドミウム中毒 イタイイタイ病
	04165		尿 1	冷蔵	D3		5~11		3.8以下 μ g/L		
	02972	マンガン (Mn)	全血0.7	冷蔵	H2	27* 生化 I	4~17	原子吸光法	0.8 ~2.5 μ g/dL		マンガン欠乏症 マンガン中毒 高カロリー静脈栄養法 胆汁排泄能低下
	03943		尿 1	冷蔵	D	27* 生化 I			2以下 μ g/L		
	02901	クロム (Cr)	全血0.5	冷蔵	H2		7~13	原子吸光法	μ g/dL		クロム中毒 クロム欠乏症 腎不全
	02902		尿 1	冷蔵	D3				μ g/L		
	04295	ニッケル (Ni)	血清0.5	冷蔵	A3		7~12	原子吸光法	0.6以下 μ g/dL	M	ニッケル中毒 心筋梗塞
	02970	アルミニウム (Al)	血清0.5	冷蔵	A3	109 生化 I	5~6	原子吸光法	0.9以下 μ g/dL	M	腎不全 閉塞性黄疸 アルミニウム脳症の予防

\* 1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。



# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
そ の 他	03292	KL-6	血清0.4	冷蔵	A	* 108 生化I	2～3	ラテックス凝集 免疫比濁法	500未満 U/mL		間質性肺炎 特発性間質性肺炎 (IIP) 膠原病性間質性肺炎 (CDIP) 過敏性肺炎
	03337	肺サーファクタント プロテイン D (SP-D)	血清0.5	冷蔵	A	* 136 生化I	3～4	CLEIA法	110 未満 ng/mL	L	
	04086	肺サーファクタント プロテイン A (SP-A)	血清0.6	冷蔵	A	* 130 生化I	3～4	CLEIA法	43.8未満 ng/mL	L	
	02792	エタノール (エチルアルコール)	全血1.0	凍結	H2	105 生化I	7～8	GC法	0.1未満 mg/mL	M	アルコール依存症 アルコール中毒 エタノール注入療法 のモニター
	04459		尿 2	凍結	D		5～6	GC法	0.1未満 mg/mL	M	
	03531	メタノール (メチルアルコール)	尿 2	凍結	D		5～7	GC法	3未満 mg/L	M	メチルアルコール中毒 酢酸メチル中毒
	02801	アセトン定量	血清0.4	凍結	A2		5～7	GC法	5 未満 μ g/mL	M	糖尿病 甲状腺機能亢進症
	02664	結石分析	結石5mg (注)	室温	D	117 生化II	3～5	赤外線吸収 スペクトル法		成分比率にて報告 %	L 尿路結石 胆石

\* KL-6、肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) 及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D) のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(注) サンプルは乾燥させ、血液などが付着している場合は蒸留水で洗浄し、乾燥させてからご提出ください。

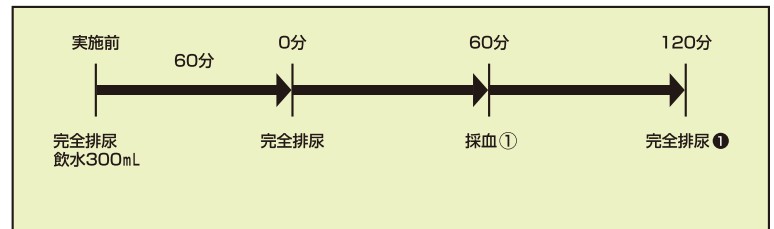
分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
クリアランス検査	00083	アミラーゼ クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1~2	酵素法		実施方法は 下記参照	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌 マクロアミラーゼ血症
	00082	アミラーゼ クレアチニン クリアランス	血清0.5 尿 5	冷蔵	A・D		1~2	酵素法	1.4~4.0 %		

\* 検査に伴って行った注射、検体採取及び検体測定及びエックス線透視の費用は、すべて所定点数に含まれるものとする。注射とは、注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は別途算定する。

## クリアランス検査実施方法

### ◆ アミラーゼクリアランス アミラーゼクレアチニンクリアランス ◆

- 1.早朝空腹時に完全排尿後、水300mLを飲料。
  - 2.飲水60分後に、完全排尿。（時間測定開始）
  - 3.測定開始60分後、採血3mL実施。…①
  - 4.測定開始120分後、完全排尿して尿量を記録し、一部を出検。…①
- 提出）身長・体重を明記した容器①と  
全尿量を明記した容器①



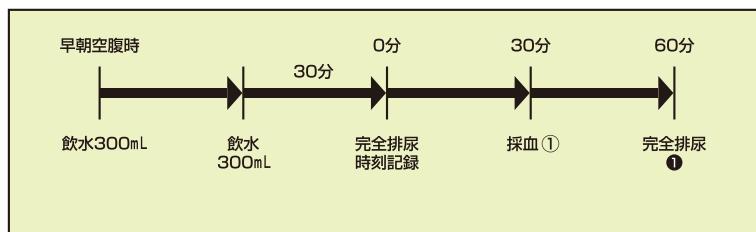
# 生 化 学 的 検 査

分類	検 査 コード	検 査 項 目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
クリアランス検査	00092	尿酸クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1~2	ウリカーゼ POD法	mL/min	実施方法は 下記参照	糸球体腎炎 腎硬化症 尿路閉塞 ループス腎炎
	00080	クレアチニン クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1~2	酵素法	82.0~183.0 mL/min	実施方法は 下記参照	
	00167	クレアチニン クリアランス (24時間法)	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D				95.2~308.3 L/day	実施方法は 下記参照	

## クリアランス検査実施方法

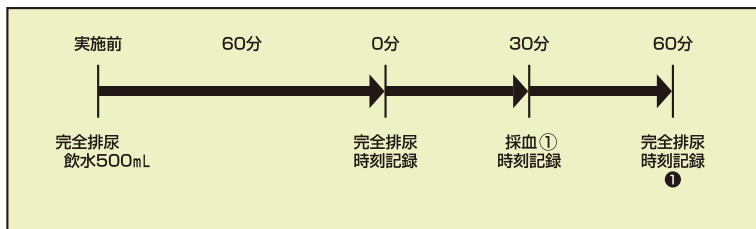
### ◆ 尿酸クリアランス ◆

1. 早朝空腹時、水300mLを飲む。
  2. 検査直前に水300mLを飲む。
  3. 飲水30分後に完全排尿し、排尿完了時刻を正確に記録。  
(時間測定開始)
  4. 測定開始30分後、採血3mL実施。…①
  5. 測定開始60分後、完全排尿して正確に尿量を記録し、  
そのうちの5mLを出検。…①
- 注意) 検査当日は絶食。  
提出) 身長・体重を明記した容器①と、全尿量を明記した容器①。



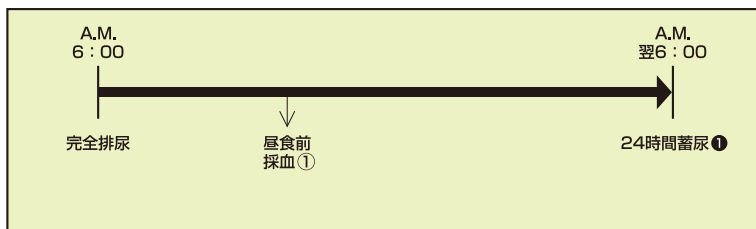
### ◆ クレアチニンクリアランス ◆

1. 完全排尿後、水500mLを飲む。
  2. 飲水60分後に完全排尿し、この時間を正確に記録。  
(時間測定開始)
  3. 測定開始30分後、採血3mL実施…①
  4. 測定開始60分後、完全排尿して正確に尿量及び終了  
時刻を記録し、一部を出検。…①
- 提出) 身長・体重・採血時間を明記した容器①と、  
全尿量・採尿時間を明記した容器①。



### ◆ クレアチニンクリアランス (24時間法) ◆

1. 朝6時に完全排尿し、以後の尿を翌朝6時まで蓄尿。  
尿量測定後、一部を出検。…①
  2. 昼食前に採血3mL実施。…①
- 提出) 身長・体重を明記した容器①と、  
全尿量を明記した容器①



# 生 化 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
産業 医学 関連 検査	03536	馬尿酸	尿 1	冷蔵	D		4~5	HPLC法	g/L	分布表及び検体 採取方法は 次頁参照	トルエン中毒
	03537	メチル馬尿酸	尿 1	冷蔵	D		4~5	HPLC法	g/L		キシレン中毒
	06618	スチレン代謝物	尿 1	冷蔵	D		5~8	LC-MS法	g/L		スチレン中毒
	04766	マンデル酸 [エチルベンゼン]	尿 1	冷蔵	D		5~8	LC-MS法	g/L		エチルベンゼン取扱
	03535	2,5-ヘキサンジオン	尿 3	冷蔵	D		5~8	GC/MS法	mg/L		ノルマルヘキサン中毒
	03538	N-メチルホルムアミド	尿 3	冷蔵	D		5~8	GC法	mg/L		N-Nジメチルホルムアミド中毒
		トリクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		トリクロルエチレン中毒 1,1,1-トリクロルエタン中毒 テトラクロルエチレン中毒
	03533	トリクロル酢酸 (三塩化酢酸) 1,1,1-トリクロルエタン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		
		テトラクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		
		トリクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		
	03532	総三塩化物 1,1,1-トリクロルエタン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		
		テトラクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4~7	GC法	mg/L		

# 生 化 学 的 検 査

## 産業医学（鉛・有機溶剤）関連検査

産業医学関連検査は鉛作業、有機溶剤作業を対象として、体内に鉛や有機溶剤がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされます。また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

鉛・有機溶剤関連検査結果分布表

使用物質	検査項目名	単位	分 布			
			1	2		3
			以下	超	以下	超
鉛	血中鉛	μg/dL	20	20	40	40
	赤血球遊離プロトポルフィリン	μg/dL RBC	100	100	250	250
	尿中δ-アミノレブリン酸	mg/L	5	5	10	10
トルエン	馬尿酸 *	g/L	1.0	1.0	2.5	2.5
キシレン	メチル馬尿酸 *		0.5	0.5	1.5	1.5
スチレン	マンデル酸 *		0.3	0.3	1.0	1.0
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン *	mg/L	2.0	2.0	5.0	5.0
N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド *		10.0	10.0	40.0	40.0
テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸 **		3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物 **		3.0	3.0	10.0	10.0
1,1,1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸 **		3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物 **		10.0	10.0	40.0	40.0
トリクロルエチレン	トリクロル酢酸 **		30.0	30.0	100.0	100.0
	総三塩化物 **		100.0	100.0	300.0	300.0

### 採取方法

- \* 連続した作業日の最初の日以外の作業終了後に採尿してください。ただし、作業終了2時間前に一度排尿し、2時間後の採尿時まで排尿しないでください。
- \*\* 週末の作業終了後に採尿してください。作業終了2時間前に一度排尿し、2時間後の採尿時まで排尿しないでください。

### 注意事項

- 1) 尿量の影響  
尿の排泄量が極端に多いかまたは少ない場合は、適切な水分の摂取をご指導ください。
- 2) 飲酒の影響  
採尿の前日から採取を終えるまで飲酒は控えてください。
- 3) 食品の影響  
尿中馬尿酸量はいちご・すももなど果実の摂取や安息香酸を含有する清涼飲料水などの摂取によって変動しますので、摂取状況の確認が必要です。もし、摂取していた場合は、別の日に実施してください。
- 4) 混合溶剤の影響  
塩素系溶剤の尿中代謝物は同一ですので、これらの有機溶剤を2種類以上使用されている場合、その種類と作業環境空气中濃度を考慮して結果を評価してください。

# 薬物分析検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値 (有効治療濃度)	備考(商品名)
薬 物 分 析 検 査	00151	ジゴキシシン	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	CLIA法	0.50~1.50 ng/mL	ジゴキシシン ジゴシン
	00155	テオフィリン	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	EIA法	10.0~20.0 μg/mL	テオドール テオロング
	02863	プロカインアミド	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	HEIA法	4.0~8.0 μg/mL	アミサリン M
	02860	アプリンジン	血清0.2	冷蔵	A	特	4~6	LC-MS/MS法	0.25~1.25 μg/mL	アスベノン L
	03508	ジソピラミド	血清0.5	冷蔵	A	特	2~3	EIA法	2.0~5.0 μg/mL	リスモダン L
	02851	リドカイン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	EMIT法	1.5~5.0 μg/mL	キシロカイン リドカイン M
	02701	塩酸ピルシカイニド	血清0.3	凍結	A	特	4~6	LC-MS/MS法	0.20~0.90 μg/mL	サンリズム L
	03069	プロパフェノン	血清0.3	凍結	A2	特	4~7	LC-MS/MS法	 ng/mL	プロノン L
	02590	メキシレチン	血清0.3	凍結	A	特	4~6	LC-MS/MS法	0.50~2.00 μg/mL	メキシチール L
	03051	フレカイニド	血清0.3	凍結	A	特	4~6	LC-MS/MS法	200.0~1000.0 ng/mL	タンボコール L
	03060	コハク酸シベンソリン	血清0.3	凍結	A	特	4~6	LC-MS/MS法	70.0~250.0 ng/mL	シベノール L
	03360	ビルメノール	血漿0.2	凍結	H2	特	4~10	LC-MS/MS法	 μg/mL	ビメノール L
	04110	アミオダロン	血漿0.3	凍結	H2	特	4~6	LC-MS/MS法	 ng/mL	アンカロン L
	02669	プロプラノロール	血清0.3	冷蔵	A		5~11	HPLC法	50.0~100.0 ng/mL	インデラル M
	04721	ベプリジル	血漿0.3	冷蔵	F3	特	4~5	LC-MS/MS法	250~800 ng/mL	ベプリコール M
	00163	フェノバルビタール	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	EIA法	15.0~40.0 μg/mL	フェノバル ワコビタール ルビアル
	02868	ニトラゼパム	血清0.3	凍結	A	特	4~5	LC-MS/MS法	20.0~100.0 ng/mL	ベンザリン ネルボン L
	04463	ガバペンチン	血漿0.3	凍結	H2	特	4~7	LC-MS/MS法	 μg/mL	ガバペン L
	04555	トピラマート	血清0.3	凍結	A2	特	4~5	LC-MS/MS法	Trough 5.00~20.00 μg/mL	トピナ L

特 特定薬剤治療管理料 (40ページ参照)



# 薬物分析検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施科 判断料	所要 日数	検査方法	基準値 (有効治療濃度)	備考(商品名)
薬 物 分 析 検 査	02855	プリミドン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	EMIT法	5~12 μg/mL	プリミドン M
	02793	ジアゼパム	血清0.2	凍結	A	特	4~7	LC-MS/MS法	600~1,000 ng/mL	セルシン ダイアップ ホリゾン L
	00157	フェニトイン	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	EIA法	10.0~20.0 μg/mL	アレビアチン ヒダントール
	00159	カルバマゼピン	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	EIA法	4.0~10.0 μg/mL	テグレート
	03505	ゾニサミド	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	LA法	Trough 10~30 μg/mL	エクセグラン トレリーフ M
	03503	エトスクシミド	血清0.4	冷蔵	A	特	3~4	EIA法	40.0~100.0 μg/mL	エビレオプチマル ザロンチン M
	04851	アセタゾラミド (アセタゾールアミド)	血清0.3	冷蔵	A2	特	6~12	HPLC法	μg/mL	ダイアモックス L
	00161	バルプロ酸ナトリウム	血清0.5	冷蔵	A	特	1~3	EIA法	50.0~100.0 μg/mL	デバケン セレニカR
	03506	トリメタジオン	血清0.5	凍結	A	特	5~11	LC-MS/MS法	300~500 μg/mL	ミノアレ M
	03507	クロナゼパム	血清0.3	凍結	A	特	4~5	LC-MS/MS法	20.0~70.0 ng/mL	ランドセン リボトリール L
	04043	クロバザム	血清0.2	凍結	A	特	4~7	LC-MS/MS法	Trough クロバザム 30~300 デスメチルクロバザム 300~3000 ng/mL	マイスタン L
		スチリペントール	血清0.3	冷蔵	A2	特	4~6	LC-MS/MS法	μg/mL	ディアコミット M
	04792	ルフィナミド	血清0.3	冷蔵	A2	特	4~6	LC-MS/MS法	μg/mL	イノベロン M
	04566	レベチラセタム	血清0.3	凍結	A2	特	4~5	LC-MS/MS法	Trough 12.00~46.00 μg/mL	イーケブラ L
	04592	ラモトリギン	血清0.3	冷蔵	A2	特	4~5	LC-MS/MS法	Trough 2.5~15.0 μg/mL	ラミクタール M
	03854	ペランパネル	血清0.3	凍結	A2	特	4~7	LC-MS/MS法	ng/mL	フィコンバ L
	03975	ラコサミド	血漿0.3	凍結	F3	特	4~7	LC-MS/MS法	μg/mL	ビムパット L
	03591	クロルプロマジン	血清1.0	凍結	A		5~7	LC-MS/MS法	30~350 ng/mL	コントミン M
	03510	金 (Au)	血清0.2	冷蔵	A2		4~10	原子吸光分光光度法	μg/dL	シオゾール L
	03194	L-ドーパ (L-DOPA)	血漿2.0	凍結	F1		4~6	LC-MS/MS法	ng/mL	ドバストン ドパゾール ※血清は検査不可 M

特 特定薬剤治療管理料 (40ページ参照)

# 薬物分析検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値 (有効治療濃度)	備考(商品名)
薬 物 分 析 検 査	02700	ゲンタマイシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	EMIT法	peak 15~20 Trough 1未満 μ g/mL	ゲンタシン M
	02859	アミカシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	KIMS法	peak 50~60 Trough 4未満 μ g/mL	M
	05039	トブラマイシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	HEIA法	peak 15~20 Trough 1未満 μ g/mL	トブラシン M
	02762	アルベカシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	LA法	peak 15~20 Trough 1~2未満 μ g/mL	ハベカシン M
	03517	バンコマイシン	血清0.5	冷蔵	A2	特	2~3	EIA法	Trough 10.0~15.0 μ g/mL	バンコマイシン L
	04018	テイコブラニン	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	LA法	Trough 15~30 μ g/mL	タゴシッド M
	04468	ポリコナゾール	血漿0.2	凍結	H2	特	5~7	LC-MS/MS法	Trough 1.00~2.00以上 (Trough 4.00~5.00以上の場合 に肝障害に注意する) μ g/mL	ブイフェンド L
	02505	シクロスポリン	全血0.5	凍結	F7	特	3~4	CLIA法	ng/mL	サンディミュン ネオール 他の検査項目との重複依頼は不可 L
	04137	タクロリムス	全血1.0	冷蔵	F5	特	3~4	ECLIA法	5~20 ng/mL	プログラフ グラセプター 他の検査項目との重複依頼 M
	02612	メトトレキサート	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	EIA法	中毒域(大量投与時) 24時間後 10以上 48時間後 1以上 72時間後 0.1以上 μ mol/L	メソトレキサート リウマトレックス M
	03504	サリチル酸 (アスピリン)	血清0.3	冷蔵	A	特	3~4	酵素法	150~300 (抗リウマチ薬として) μ g/mL	アスピリン M
	03544	ハロペリドール	血清0.4	冷蔵	A	特	3~4	EIA法	3~17 ng/mL	セレネース ハロマンズ M
	02642	プロムペリドール	血清0.4	冷蔵	A	特	3~4	EIA法	15以下 ng/mL	M
	06419	クロザピン	血清0.3	凍結	A2	特	4~7	LC-MS/MS法	ng/mL	クロザリル L

\* 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

特 特定薬剤治療管理料(40ページ参照)

薬物分析検査

特定薬剤治療管理料1

薬 剤 名	検 査 項 目			対 象 疾 患 等	初回月*1	2～3ヶ月	4ヶ月以降
ジギタリス製剤	ジゴキシン			心疾患	470 + 280	470	235
				重症うっ血性心不全 (急速飽和*3を行った場合)	740（急速飽和完了日、1回に限る）		
テオフィリン製剤	テオフィリン			気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫、未熟児無呼吸発作	470 + 280	470	235
不整脈用剤	プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド キニジン アブリンジン	リドカイン ビルジカイニド塩酸塩 プロパフェノン メキシレチン フレカイニド	シベンソリンコハク酸塩 ビルメノール アミオダロン ソタロール塩酸塩 ベプリジル塩酸塩	不整脈 【継続的に投与】	470 + 280	470	235
抗てんかん剤	フェノバルビタール ブリミドン フェニトイン カルバマゼピン エトサクシמיד スチリペントール ペランパネル	バルプロ酸ナトリウム トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ルフィナミド ラコサミド	ゾニサミド アセタゾールアミド クロバザム ガバペンチン トピラマート レベチラセタム ラモトリギン	てんかん*4	470 + 280	470	
				てんかん重積状態 (全身性けいれん発作重積状態)	740（重積状態の消失日、1回に限る）		
	カルバマゼピン	バルプロ酸ナトリウム		躁うつ病または躁病	470 + 280	470	
	バルプロ酸ナトリウム			片頭痛		470	235
アミノ配糖体抗生物質	ゲンタマイシン、アミカシン、トブラマイシン、アルベカシン			(入院患者に数日間以上投与)	470 + 280	470	235
	テイコブラニン				470 + 530	470	235
グリコペプチド系抗生物質	バンコマイシン				470 + 530	470	235
トリアゾール系抗真菌剤	ポリコナゾール			重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植(造血幹細胞移植の患者にあっては深在性真菌症の予防を目的とするものに限る) (入院患者に数日間以上投与)	470 + 280	470	235
免疫抑制剤	シクロスポリン タクロリムス水和物	エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル*5		臓器移植後 (拒否反応の抑制)	470 + 2,740*2		470
	シクロスポリン			ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る）、再生不良性貧血、赤芽球病、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存の治療で十分な効果が得られない患者に限る）、ネフローゼ症候群若しくは川崎病の急性期	470 + 280	470	
	タクロリムス水和物			全身型重症筋無力症 関節リウマチ、ループス腎炎 潰瘍性大腸炎、間質性肺炎 (多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る)			
サリチル酸系製剤	サリチル酸（アスピリン）			若年性関節リウマチ リウマチ熱、慢性関節リウマチ 【継続的に投与】	470 + 280	470	235
メトトレキサート	メトトレキサート			悪性腫瘍	470 + 280	470	235
ハロペリドール製剤 プロムペリドール製剤	ハロペリドール プロムペリドール			統合失調症	470 + 280	470	235
治療抵抗性統合失調症治療薬	クロザピン			統合失調症	470 + 280	470	235
リチウム製剤	炭酸リチウム			躁うつ病	470 + 280	470	235
イマチニブ	イマチニブ			当該薬剤の適応疾患	470 + 280	470	235
抗悪性腫瘍剤	エベロリムス*6			結節性硬化症	470 + 280	470	235
	スニチニブ			腎細胞癌	470 + 280		
シロリムス製剤	シロリムス			リンパ脈管筋腫症	470 + 280	470	235

\*1 免疫抑制剤を投与している臓器移植後の患者、及びバンコマイシンを投与している入院中の患者以外の患者に対して、特定薬剤治療管理料に係る薬剤の投与を行った場合は、1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。なお、初回月加算は、投与中の薬剤の安定した血中至適濃度を得るため頻回の測定が行われる初回月に限り算定できるものであり、薬剤を変更した場合においては算定できない。

\*2 臓器移植後の患者に対して、免疫抑制剤の投与を行った場合は、臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り、2,740点を所定点数に加算する。

\*3 急速飽和とは、重症うっ血性心不全の患者に対して2日間程度のうちに数回にわたりジギタリス製剤を投与し、治療効果が得られる濃度にまで到達させることをいう。

\*4 てんかん患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。

\*5 ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、6月に1回に限り250点を所定点数に加算する。

\*6 エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
下垂体機能検査	01856	成長ホルモン (GH)	血清0.5	冷蔵	A	105 生化Ⅱ	2~4	ECLIA法	成人 男 2.47以下 女 0.13~9.88 ng/mL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記 L	末端肥大症・巨人症 異所性GH産生腫瘍 下垂体機能低下症 下垂体性小人症
	01898	ソマトメジンC (IGF-Ⅰ)	血清0.4	凍結	A	212 生化Ⅱ	3~4	ECLIA法	下記参照	M	末端肥大症・巨人症 下垂体機能低下症 下垂体性小人症 思春期遅発症

\* インスリン様成長因子結合蛋白3型 (IGFBP-3) をソマトメジンCと併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

## ソマトメジンC基準値

### 男 性

年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	11~149	26	119~329	52	86~242
1	14~148	27	116~322	53	85~240
2	18~154	28	114~315	54	84~239
3	24~164	29	111~309	55	84~238
4	32~176	30	109~303	56	83~237
5	44~193	31	107~297	57	82~236
6	55~215	32	105~292	58	81~235
7	63~247	33	103~287	59	80~233
8	72~292	34	102~283	60	79~232
9	84~350	35	100~279	61	77~230
10	99~423	36	99~275	62	76~228
11	113~499	37	97~272	63	75~226
12	125~557	38	96~269	64	73~224
13	133~579	39	95~266	65	72~221
14	138~570	40	94~263	66	70~219
15	141~552	41	94~261	67	68~216
16	142~543	42	93~259	68	66~213
17	142~540	43	92~257	69	65~209
18	142~526	44	92~255	70	63~206
19	143~501	45	91~253	71	61~202
20	142~470	46	90~250	72	58~198
21	139~436	47	90~250	73	56~194
22	135~405	48	89~248	74	54~190
23	131~379	49	88~246	75	52~185
24	128~356	50	87~245	76	50~181
25	125~337	51	87~243	77	48~177

(単位：ng/mL)

### 女 性

年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	15~154	26	146~336	52	78~213
1	23~186	27	141~328	53	77~212
2	32~213	28	137~320	54	76~211
3	40~227	29	133~312	55	75~210
4	48~238	30	129~304	56	74~208
5	56~252	31	126~297	57	73~207
6	69~287	32	122~290	58	72~205
7	89~357	33	119~283	59	71~203
8	111~438	34	115~277	60	70~201
9	133~517	35	112~271	61	69~198
10	155~588	36	109~265	62	68~196
11	175~638	37	106~260	63	66~194
12	188~654	38	103~254	64	65~191
13	193~643	39	100~250	65	64~188
14	193~625	40	98~245	66	62~186
15	192~614	41	95~240	67	61~183
16	192~611	42	93~236	68	60~180
17	191~599	43	90~233	69	59~177
18	188~574	44	88~229	70	57~175
19	182~539	45	87~226	71	56~172
20	175~499	46	85~224	72	55~170
21	168~459	47	83~221	73	54~167
22	161~425	48	82~219	74	53~165
23	155~397	49	81~218	75	52~163
24	151~375	50	80~216	76	50~160
25	147~358	51	79~215	77	49~158

(単位：ng/mL)

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
下垂体機能検査	01858	黄体形成ホルモン (LH)	血清0.3	冷蔵	A	105 生化Ⅱ	1～2	CLIA 法	下記参照	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	性腺機能障害 卵巣性無月経 多嚢胞卵巣症候群 下垂体機能低下症 更年期障害
	01860	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血清0.5	冷蔵	A	105 生化Ⅱ	1～2	CLIA 法	下記参照		
	01804	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血清0.5	冷蔵	A	98 生化Ⅱ	1～2	CLIA 法	0.340～3.880 μIU/mL		
	01864	プロラクチン (PRL)	血清0.3	冷蔵	A	98 生化Ⅱ	1～2	CLIA 法	下記参照		下垂体機能低下症 下垂体腫瘍 プロラクチン産生腫瘍 視床下部疾患
	01862	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血漿0.3	凍結	F1	184 生化Ⅱ	2～3	ECLIA法	7.2～63.3 (早朝安静時) pg/mL		アジソン病 クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍
	02670	抗利尿ホルモン (ADH) (AVP) (バゾプレシン)	血漿1.2	凍結	F1	224 生化Ⅱ	6～8	RIA 二抗体法	自由飲水 2.8以下 水制限 4.0以下 pg/mL	溶血の影響あり M	バゾプレッシン分泌低下症 (中枢性尿崩症)

## 黄体形成ホルモン(LH) 基準値

男 性 (mIU/mL)	女 性 (mIU/mL)
0.1～8.7	卵胞期： 1.2 ～ 13.3 排卵期： 1.3 ～ 55.7 黄体期： 0.5 ～ 16.5 閉経期： 13.3 ～ 61.6

## 卵胞刺激ホルモン(FSH) 基準値

男 性 (mIU/mL)	女 性 (mIU/mL)
0.1～13.8	卵胞期： 2.2 ～ 11.5 排卵期： 2.1 ～ 18.6 黄体期： 1.1 ～ 10.6 閉経期： 10.5 ～ 142.8

## プロラクチン(PRL) 基準値

男 性 (ng/mL)	女 性 (ng/mL)
3.7 ～ 16.3	卵胞期： 4.6 ～ 26.8 排卵期： 6.0 ～ 40.9 黄体期： 1.2 ～ 33.6 閉経期： 0.6 ～ 18.5

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
甲状腺機能検査	01802	T <sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)	血清0.3	冷蔵	A	99 生化Ⅱ	1~3	CLIA法	76~177 ng/dL		甲状腺機能異常 バセドウ病 橋本病
	01803	T <sub>4</sub> (サイロキシン)	血清0.3	冷蔵	A	105 生化Ⅱ	1~3	CLIA法	4.83~11.21 μg/dL		
	01806	Free T <sub>3</sub> (遊離トリヨード サイロニン)	血清0.3	冷蔵	A	121 生化Ⅱ	1~2	CLIA法	2.13~4.07 pg/mL		
	01807	Free T <sub>4</sub> (遊離サイロキシン)	血清0.3	冷蔵	A	121 生化Ⅱ	1~2	CLIA法	0.95~1.74 ng/dL		
	01808	TBG (サイロキシン 結合グロブリン)	血清0.3	凍結	A	130 生化Ⅱ	3~6	CLEIA法	14.0~31.0 μg/mL	M	甲状腺機能異常
	01809	サイログロブリン (Tg)	血清0.3	冷蔵	A	128 生化Ⅱ	1~3	ECLIA法	33.70以下 ng/mL		甲状腺炎 甲状腺腺腫 バセドウ病
	04116	TSH レセプター 抗体定量 (TRAb 定量)	血清0.6	冷蔵	A	*1 214 免疫	4~6	RRA法 (チューブ固相法)	1.0未満 IU/L	リコンビナント・ ヒトTSHレセプター を使用 (第2世代)	バセドウ病 甲状腺機能亢進症
	04699	TSH レセプター 抗体定量 (TRAb 定量)	血清0.5	冷蔵	A		1~3	ECLIA法	2.0未満 (未治療バセドウ病診断の 至適カットオフ値として) IU/L	抗TRAbモノクロー ナル抗体 (M22) を使用 (第3世代)	
	03096	TSH 刺激性 レセプター抗体 (TSAb, 甲状腺刺激抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*1 330 免疫	4~5	バイオアッセイ法	110未満 %	溶血により低値 傾向を示す	
副甲状腺・骨代謝関連検査	01924	オステオカルシン (BGP) (OC)	血清0.3	凍結	A	*2 *3 157 生化Ⅱ	3~6	FEIA法	8.3~32.7 ng/mL	M	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺腺腫
	03339	骨型アルカリ ホスファターゼ (BAP)	血清0.5	凍結	A	*4 157 生化Ⅱ	2~4	CLEIA法	男 3.7~20.9 女 閉経前 2.9~14.5 閉経後 3.8~22.6 μg/L	L	癌の骨転移 代謝性骨疾患 腎性骨異常栄養症 副甲状腺機能亢進症
	04898	total P1NP (I型プロコラーゲン-N- プロペプチド)	血清0.4	冷蔵	A	*4 160 生化Ⅱ	2~3	ECLIA法	男(30~83才) 18.1~74.1 女(閉経前30~44才) 16.8~70.1 (閉経後45~79才) 26.4~98.2 ng/mL	溶血により低値 傾向を示す	骨粗鬆症

\*1 抗TSHレセプター抗体 (TRAb) 及び甲状腺刺激抗体 (TSAb) を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

\*2 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺 (上皮小体) 腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。

\*3 TRACP-5b、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)、オステオカルシン (OC) 又はデオキシピリジノリン (DPD) (尿) を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

\*4 骨型アルカリホスファターゼ (BAP)、I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP)、インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (IntactPINP) 及びALPアイソザイム (PAG電気泳動法) のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
副甲状腺・骨代謝関連検査	04443	低カルボキシル化 オステオカルシン (ucOC)	血清0.3	凍結	A	*1 (154) 生化I	4~7	ECLIA法	4.50未満 ng/mL	溶血により低値 傾向を示す L	骨粗鬆症 ビタミンK <sub>2</sub> 剤の治療選択 及び経過観察
	05476	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTX)	尿 2 (注)	冷蔵	D	*2 *3 (156) 生化I *4 (腫管)	3~5	CLEIA法	下記参照	薬剤治療の指標は 下記参照 L	副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症
	04020	デオキシピリジノリン (DPD)	尿 2 (注)	冷蔵	D	*2 *3 (191) 生化I *4 (腫管)	4~6	EIA法	クレアチニン換算値 男 2.1~5.4 女 2.8~7.6 nmol/mmol・CRE	薬剤治療の指標は 下記参照 L	悪性腫瘍骨の転移 代謝性骨疾患
	04488	TRACP-5b	血清0.3	凍結	A	*2 *5 (156) 生化I *4 (腫管)	3~5	EIA法	男 170~590 女 YAM* 120~420 mU/dL	L	骨粗鬆症 代謝性骨疾患 骨転移 (肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)
	03459	25-OH ビタミンD	血清0.5	冷蔵	A	*6 117 生化I	2~3	ECLIA法	ng/mL	判定の目安については 「ビタミンD不足・ 欠乏の判定指針」(下記) をご参照ください。	骨粗鬆症 ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性軟骨化症

- (腫管)印：悪性腫瘍特異物質治療管理料
- \*1 骨粗鬆症におけるビタミンK<sub>2</sub>剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。
  - \*2 TRACP-5b、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTX)、オステオカルシン (OC) 又はデオキシピリジノリン (DPD) (尿) を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
  - \*3 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。
  - \*4 肺癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
  - \*5 代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
  - \*6 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。また、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性軟骨化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

(注) 早朝の第2尿を提出  
※YAM (Young Adult Mean：若年者成人平均値)：健常閉経前女性（30～44才）で確立された平均 ±1.96SD の範囲の値。

NTX-尿 基準値

	単位：nM BCE/mM・Cre
男（40～59才）	13.0～66.2
女（閉経前30～44才）	9.3～54.3
女（閉経後45～79才）	14.3～89.0

NTX-尿の判定基準

	単位：nM BCE/mM・Cre
副甲状腺摘出術の適応	200以上
悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標	100以上
骨吸収亢進の指標	55以上

骨粗鬆症薬剤治療の指標

	尿中NTx	尿中デオキシピリジノリン
骨折高リスクの指標	54.3超	7.6超
骨量減少高リスクの指標	35.3以上	5.9以上
単 位	nmol BCE/mmol・CRE	nmol/mmol・CRE

- ビタミンD不足・欠乏の判定指針（25-OHビタミンD濃度による）  
ビタミンD充足状態：30.0ng/mL以上  
ビタミンD不足：20.0ng/mL以上30.0ng/mL未満  
ビタミンD欠乏：20.0ng/mL未満

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
副 甲 状 腺 関 連 検 査	01811	カルシトニン	血清0.5	凍結	A	130 生化Ⅱ	3~4	ECLIA法	男 5.15以下 女 3.91以下 pg/mL	L	甲状腺髄様癌 カルシウム代謝異常
	01849	PTH-Intact	血清0.5	凍結	A	161 生化Ⅱ	1~3	ECLIA法	10~65 pg/mL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	副甲状腺機能異常 カルシウム代謝異常 骨代謝異常
	04273	Whole-PTH	血漿0.4	凍結	F1		3~4	ECLIA法	14.9~56.9 pg/mL	M	
	03214	PTHrP-intact (副甲状腺ホルモン関連蛋白)	血漿0.5	凍結	F2	186* 生化Ⅱ	6~8	IRMA法 (ビーズ固相法)	1.1未満 pmol/L	M	高カルシウム血症 (特に悪性腫瘍に伴うもの)
副 腎 皮 質 機 能 検 査	02715	11-OHCS (11-ヒドロキシコルチコステロイド)	血清2.1	冷蔵	A	60 生化Ⅱ	4~10	蛍光法 (De Moore白井変法)	5.0~21.4 (午前 8~10 時採血) μ g/dL	L	アジソン病 クッシング症候群 副腎皮質異常
	01854	コルチゾール	血清0.5	冷蔵	A	121 生化Ⅱ	2~3	CLIA法	4.5~21.1 (午前8時~10時採血) μ g/dL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	アジソン病 クッシング症候群 副腎皮質腫瘍 副腎皮質機能低下症 先天性副腎過形成
	01914		蓄尿 2	冷蔵	D	121 生化Ⅱ	3~5	CLIA法	5.5~66.7 μ g/day	24時間尿量を記入 蓄尿時は冷蔵所に保管 M	
	02558	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロン) サルフェート	血清0.3	冷蔵	A	164 生化Ⅱ	3~4	CLEIA法	下記参照	M	アジソン病 クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍
	01852	アルドステロン (PAC)	血漿0.5 (注)	凍結	F1	122 生化Ⅱ	3~4	CLEIA法	4.0~82.1 pg/mL	血清も検査可 負荷試験の場合は 負荷時間を明記 M	原発性アルドステロン症 Bartter症候群 腎血管性高血圧症 アジソン病
	01853		蓄尿 2	凍結	D	122 生化Ⅱ	4~6		1.0~19.3 μ g/day	24時間尿量を記入 蓄尿時は冷蔵所に保管 M	

\* 高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。

(注) 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血を推奨します。

## DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)基準値

年 齢 (歳)	男 性 (μg/dL)	女 性 (μg/dL)
20~29	159~538	92~399
30~39	125~475	58~327
40~49	123~422	41~218
50~59	76~386	30~201

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
副 腎 髓 質 機 能 検 査	03185	VMA定量 (バニリルマンデル酸)	血漿 1.5	凍結	F1	90 生化Ⅱ	7~9	HPLC法	3.3~8.6 ng/mL	M	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	03186		酸性蓄尿 1 (注)	冷蔵	D	90 生化Ⅱ	4~5	LC-MS/MS法	1.4~4.9 mg/day	M	
	04080		尿 1	冷蔵	D	90 生化Ⅱ	4~5		成人 1.2~4.9 μg/mg・Cr	M	
	03108	HVA定量 (ホモバニリン酸)	血漿 1.5	凍結	F1	69 生化Ⅱ	7~9	HPLC法	4.4~15.1 ng/mL	M	悪性黒色腫 褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	03188		酸性蓄尿 1 (注)	冷蔵	D	69 生化Ⅱ	4~5	LC-MS/MS法	1.6~5.5 mg/day	M	
	04081		尿 1	冷蔵	D	69 生化Ⅱ	4~5		成人 1.6~5.5 μg/mg・Cr	M	
	02964	カテコールアミン 3分画	血漿 1.1	凍結	F1	161 生化Ⅱ	4~5	HPLC法	A 0.10以下 NA 0.10~0.50 DA 0.03以下 ng/mL	L	褐色細胞腫 神経芽細胞腫 本態性高血圧症 心不全
	02685	アドレナリン : A ノルアドレナリン : NA ドーパミン : DA	酸性蓄尿 1 (注)	冷蔵	D	161 生化Ⅱ	4~5		蓄尿 A 1.1~22.5 NA 29.2~118 DA 100~1000 μg/day	M	
	02873	メタネフリン2分画 メタネフリン : MN ノルメタネフリン : NMN	酸性蓄尿 2 (注)	冷蔵	D	220 生化Ⅱ	5~6	LC-MS/MS法	MN 0.04~0.18 NMN 0.10~0.28 mg/day	L	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	03660	セロトニン (5-HT)	全血 0.6	凍結	F1		4~10	LC-MS/MS法	52.8~200.0 ng/mL	M	カルチノイド症候群 脳性麻痺 ダンピング症候群 躁うつ病 膠原病
	02691	5-HIAA (5-ハイドロキシ) (インドール酢酸)	血漿 1.5	凍結	F1	95 生化Ⅱ	7~9	HPLC法	1.8~6.1 ng/mL	M	カルチノイド症候群 脳性麻痺 ダンピング症候群 パーキンソン病 フェニルケトン尿症 先天性風疹症候群
	02692		酸性蓄尿 1 (注)	冷蔵	D	95 生化Ⅱ	4~5	LC-MS/MS法	0.6~4.1 mg/day	M	

## 尿中 VMA/HVA(クレアチニン補正) : 正常児参考基準値

月 齢	VMA (μg/mg Cr) mean±S.D	HVA (μg/mg Cr) mean±S.D
1~3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11~12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1~12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典：沼田公介 他：小児科診療 12 2921 1990

(注) 6N塩酸20mLを入れ冷所にて24時間蓄尿 (pH3以下) 蓄尿量を記入し、必要量を提出して下さい。  
6N塩酸は貴施設であらかじめご購入下さい。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
膵・消化管機能検査	01901	インスリン (IRI)	血清0.5	冷蔵	A	100 生化Ⅱ	2～3	CLIA法	2.2～12.4 μ U/mL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記 溶血により低値 傾向を示す	糖尿病 インスリンノーマ
	03491	インスリン抗体	血清0.5	冷蔵	A	107 免疫	5～8	RIA法	濃度0.4未満 U/mL		インスリン自己免疫症候群 インスリン治療中糖尿病 1型糖尿病
	01912	C-ペプチド (CPR)	血清0.5	冷蔵	A	*1 105 生化Ⅱ	2～4	ECLIA法	0.8～2.5 ng/mL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	糖尿病 インスリンノーマ インスリン自己免疫症候群
	01916		蓄尿 1	凍結	D		3～4		22.8～155.2 μ g/day	24時間尿量を記入	
	03665	膵グルカゴン	血漿0.5	凍結	F4	150 生化Ⅱ	4～7	EIA法	5.4～55.0 (空腹時) pg/mL	溶血により低値 傾向を示す	グルカゴノーマ
	02861	ICA-IgG (膵島細胞質抗体)	血清1.0	凍結	A		17～24	蛍光抗体法	(－)		1型糖尿病 (IDDM)
	03335	抗GAD抗体	血清0.6	冷蔵	A	*2 134 生化Ⅱ	3～4	EIA法	5.0未満 U/mL		1型糖尿病の診断 自己免疫介在性脳炎・脳症
	04306	抗IA-2抗体	血清0.4	冷蔵	A	*3 213 生化Ⅱ	4～7	EIA法	0.6未満 U/mL		1型糖尿病の診断
	04172	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	血清0.3	冷蔵	A		2～3	LA法	下記参照		萎縮性胃炎 胃癌 消化性潰瘍

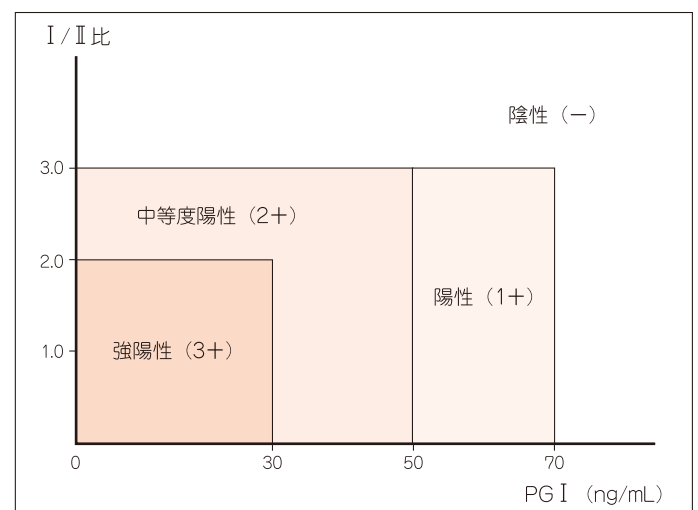
\*1 同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

\*2 すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して、1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。

\*3 すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体) の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体) の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

## ペプシノゲンによる胃粘膜萎縮度の判定基準

判定		測定値	
		PGⅠ (ng/mL)	I/Ⅱ比
強陽性	3+	30以下	かつ 2.0以下
中等度陽性	2+	50以下	かつ 3.0以下
陽性	1+	70以下	かつ 3.0以下
陰性	－	上記条件以外	



# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
性腺・胎盤機能検査	00280	尿HCG定性	尿 5	冷蔵	D	*1 55 生化Ⅱ	2～3	Immuno Chromatography Assay			妊娠判定
	01869	HCG定量 (ヒト絨毛性 ゴナドトロピン定量)	血清0.5	冷蔵	A	*1 130 生化Ⅱ	2～3	ECLIA法	下記参照	妊婦の場合は 妊娠週数を記入	絨毛性腫瘍 子宮外妊娠 胎状奇胎 異所性HCG産生腫瘍 切迫流産
	01870		尿 1	冷蔵	D	*1 130 生化Ⅱ			下記参照		
	01892	遊離β-HCG	血清0.5	冷蔵	A	*1 *2 129 生化Ⅱ	3～4	CLIA法	1.00未満  ng/mL		L

\*1 ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量又はヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

\*2 HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。

## HCG定量（血中）基準値

男性	3未満 mIU/mL
女性 正常性周期 閉経期	4未満 13未満 mIU/mL
妊婦 ～ 6W 7～10W 11～20W 21～40W	～ 87,200 6,700～202,000 13,800～ 68,300 4,700～ 65,300 mIU/mL

## HCG定量（尿中）基準値

男性 非妊婦	20未満 mIU/mL
妊婦 ～ 6W 7～10W 11～20W 21～40W	～ 62,600 1,800～191,000 3,100～125,000 1,400～ 29,400 mIU/mL

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
性 腺 ・ 胎 盤 機 能 検 査	01865	E <sub>2</sub> (エストラジオール)	血清0.5	凍結	A	167 生化Ⅱ	1~2	CLIA法	男 39.8以下 女 卵胞期: 19.5~144.2 排卵期: 63.9~356.7 黄体期: 55.8~214.2 閉経期: 32.2以下 pg/mL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記 妊婦の場合は 妊娠週数を記入	卵巣機能障害 排卵誘発のモニタリング エストロゲン産生腫瘍 副腎皮質過形成
	01872	プロゲステロン	血清0.3	凍結	A	143 生化Ⅱ	1~2	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は 妊娠週数を記入	卵巣機能低下症 無月経症 妊娠中毒 排卵異常 アジソン病
	02726	プレグナンジオール	蓄尿 2 (注)	冷蔵	D	213 生化Ⅱ	6~8	LC-MS/MS法	男 0.12~0.93 女 卵胞期: 0.16~1.28 黄体期: 0.69~4.70 閉経期: 1.00以下 mg/day		卵巣機能低下 胎盤機能不全 M
	04398	プレグナントリオール	蓄尿 2	冷蔵	D	232 生化Ⅱ	6~8	LC-MS/MS法	男 0.25~1.48 女 卵胞期: 0.07~1.24 黄体期: 0.25~1.58 閉経後: 1.00以下 mg/day		副腎皮質過形成 副腎皮質癌 汎下垂機能低下症 M
	04433	AMH (抗ミュラー管ホルモン)	血清0.5	冷蔵	A	597 生化Ⅱ <sup>*</sup>	2~3	CLEIA法	ng/mL		不妊症 多嚢胞性卵巣症候群
	01873	テストステロン	血清0.7	冷蔵	A	119 生化Ⅱ	2~3	CLIA法	男 142.4~923.1 女 10.8~ 56.9 ng/dL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	性腺機能低下症 男性化卵巣腫瘍 副腎皮質過形成 多嚢胞性卵巣症候群 (PCO) 原発性性腺不全 思春期遅延 クッシング症候群
	03074	遊離テストステロン	血清0.3	凍結	A	159 生化Ⅱ	3~6	RIA法 (チューブ固相法)	下記参照		M

(注) 防腐剤を加えずに冷所に蓄尿し、所定量を提出、24時間尿量および性別(性周期)を明記

\* 不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体として測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

## プロゲステロン基準値

	プロゲステロン (ng/mL)
非妊婦	卵胞期: 1.2以下
	排卵期: 0.3~10.4
	黄体期: 1.4~20.6
	閉経期: 0.9以下
妊婦	前期: 11.2~ 90.0
	中期: 25.6~ 89.4
	後期: 48.4~422.5
男性	0.9以下

## 遊離テストステロン 年齢別基準値

年齢(歳)	男性 (pg/mL)	女性 (pg/mL)
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7 (50歳以上)
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	



# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
性腺・胎盤機能検査	03218	頸管腔分泌液中癌胎児性 フィブロネクチン	腔分泌液 (後腔円蓋)	凍結	Q5	*1 204 免疫	3~4	EIA法	判定(一) 濃度50.0未満 ng/mL	採取方法は 下記参照 L	切迫早産 破水
	03161	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	凍結	Q6	*2 116 尿・糞便	3~4	LA法	1.60以下 μg/mL	採取方法は 次頁参照 M	絨毛羊膜炎 切迫早産

\*1 破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腔分泌液）及び腔分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型（IGFBP-1）定性を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

\*2 絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

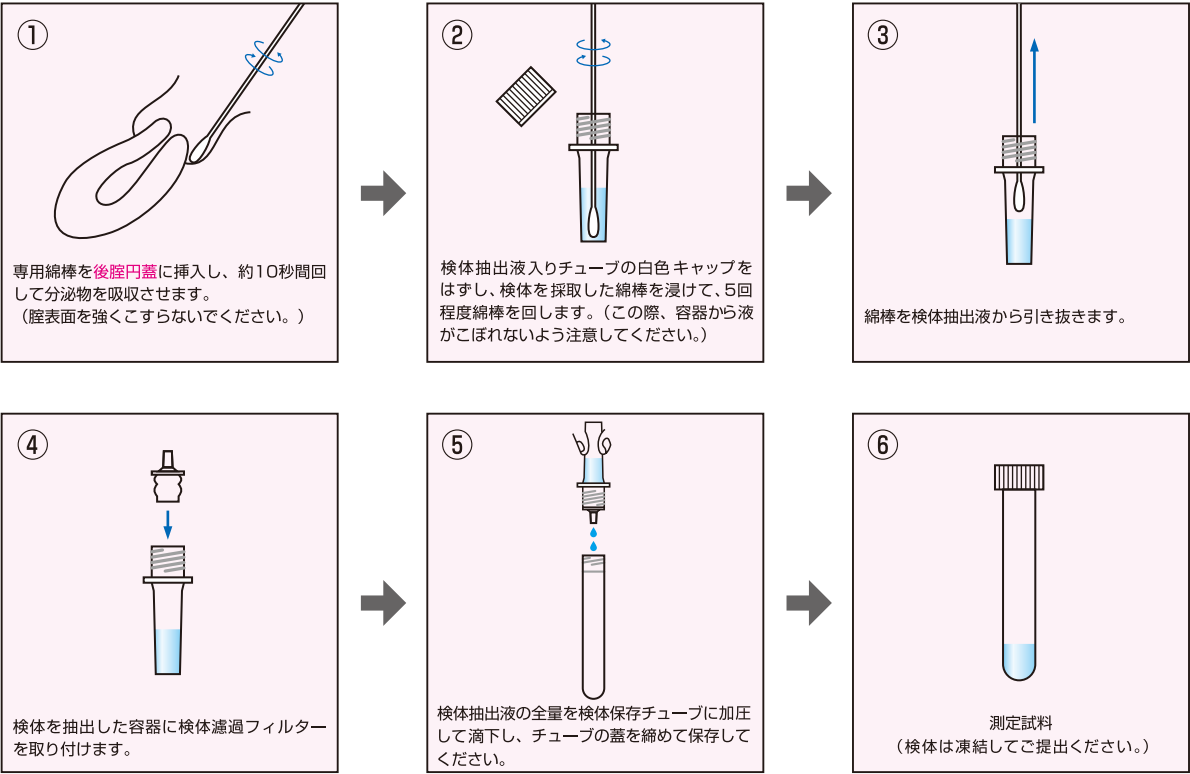
## 検体採取方法

### 検査項目

・頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン

検体採取に関する注意事項

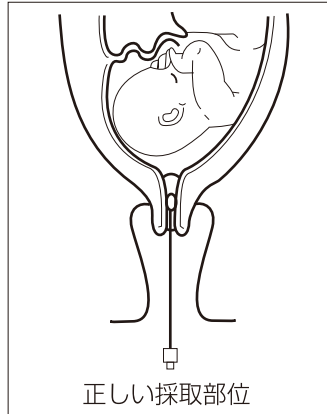
- ・検体は後腔円蓋から採取してください。
- ・腔表面を強くこすらないように注意してください。



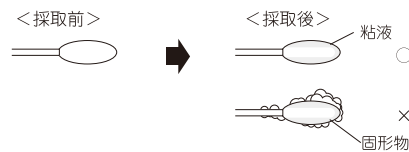
## 検体採取方法

### 検査項目

・子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ



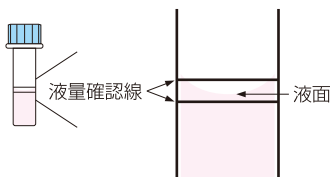
- ①検体採取は腔部洗浄前に行い子宮頸管部より採取します。
- ②検体採取前に子宮腔部の粘液を綿球で拭き取ります。
- ③綿棒を頸管内に挿入しゆっくりと2回転程させます。  
(検体は綿棒全体に浸み込むように採取します。また、綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直してください。)



- ④ゆっくりと綿棒を抜いてください。
- ⑤採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

## 提出方法（抽出方法）

①



抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行って下さい。

②



頸管粘液（滲出液）を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。

③



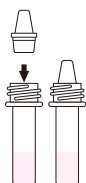
綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。

④



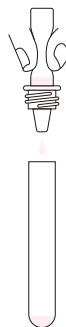
綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。

⑤



フィルターをセットします。

⑥



検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。

⑦



検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存して下さい。

# 内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
その他の	01851	レニン活性 (PRA)	血漿0.6	凍結	F1	*1 100 生化Ⅱ	4～5	EIA法	(臥位) 0.2～2.3 (座位) 0.2～3.9 (立位) 0.2～4.1 ng/mL/hr	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	原発性アルドステロン症 高血圧症 腎不全 Bartter症候群 副腎皮質機能低下症 傍糸球体細胞腫
	01874	レニン濃度 (ARC)	血漿0.5 (注)	凍結	F1	*1 102 生化Ⅱ	3～4	CLEIA法	2.21～39.49 pg/mL		
	01897	エリスロポエチン (EPO)	血清0.7	冷蔵	A	*2 209 生化Ⅱ	2～3	CLEIA法	4.2～23.7 mIU/mL		赤血球増加症 腎性貧血 骨髄異形成症候群
	02730	サイクリックAMP	血漿0.4	凍結	F1	165 生化Ⅱ	5～11	RIA (DCC) 法	6.4～20.8 pmol/mL	M	腎不全 肝硬変 副甲状腺機能異常 甲状腺機能異常 心筋梗塞 躁うつ病
	02729		蓄尿 1	凍結	D	165 生化Ⅱ			3.3～6.1 μmol/day	M	
	01855	h-ANP (ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド)	血漿0.3	凍結	F2	*3 *4 221 生化Ⅱ	2～3	CLEIA法	43.0以下 pg/mL	溶血により低値 傾向を示す	心不全 心筋梗塞 慢性腎不全
	03237	BNP (ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド)	血漿0.5	凍結	F3	*3 *4 *5 130 生化Ⅱ	1～2	CLIA法	18.4以下 pg/mL		心不全 心筋梗塞
	04419	NT-proBNP	血清0.5	冷蔵	A	*3 *4 *5 136 生化Ⅱ	1～3	ECLIA法	125以下 pg/mL		
	04182	アディポネクチン	血清0.5	冷蔵	A2		3～4	LA法	4.0以上 μg/mL	L	動脈硬化性疾患 生活習慣病

注 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血を推奨します。氷結点（0℃）前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

\*1 レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

\*2 エリスロポエチンは、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。

ア 赤血球増加症の鑑別診断

イ 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータベゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断

ウ 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

\*3 心房性Na利尿ペプチド（ANP）、脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

\*4 脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）又は、心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

\*5 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
血 漿 蛋 白 検 査	02649	トランスフェリン (Tf)	血清0.5	冷蔵	A	60 免疫	3~4	ネフェロ メトリー法	190~320 mg/dL		鉄欠乏性貧血 ネフローゼ症候群 ヘモクロマトーシス
	01834	フェリチン	血清0.3	冷蔵	A	102 生化 I	1~2	CLIA法	男 9.0~220.0 女 4.0~ 88.0 ng/mL		再生不良性貧血 鉄過剰症、欠乏症 鉄欠乏性貧血
	01840	P-Ⅲ-P (プロコラーゲンⅢ ペプチド)	血清0.4	冷蔵	A	*1 *2 136 生化 I	4~7	IRMA (チューブ固相法)	0.3~0.8 U/mL	M	急性肝炎 慢性活動性肝炎 肝硬変 アルコール性肝障害
	06638	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清0.5	冷蔵	A	*1 *2 148 生化 I	3~4	CLEIA法	4.4以下 ng/mL	L	
	02667	Ⅳ型コラーゲン	血清0.3	冷蔵	A	*1 *2 131 生化 I	3~4	LA法	150以下 ng/mL	M	
	05116	M2BPGi (Mac-2 結合蛋白糖 鎖修飾異性体)	血清0.5	冷蔵	A	*1 *2 *3 194 生化 I	3~4	CLEIA法	陰性 (一) C.O.I. 1.00未満	判定基準は 下記参照 L	慢性肝炎 肝硬変
	01886	ミオグロビン (Mb)	血清0.5	冷蔵	A	*4 131 生化 I	3~4	CLEIA法	男 17.4~105.7 女 14.3~ 65.8 ng/mL		心筋梗塞 筋ジストロフィー症 クラッシュ症候群 DM/PM
	01880		尿 8	冷蔵	L5		3~4	CLEIA法	2.0未満 ng/mL	L	
	04158	ヒト心臓由来脂肪酸 結合蛋白 (H-FABP)	血清0.3	凍結	A	*4 *5 131 生化 I	3~9	LA法	5.0以下 ng/mL	M	心筋梗塞
	01922	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血清0.4	凍結	A	*6 184 生化 I	3~6	EIA法	2.5以下 ng/mL	M	心筋梗塞 心筋炎
	01925	心筋トロポニン T (TnT)	血清0.7	凍結	A	*7 109 生化 I	3~4	ECLIA法	0.014以下 ng/mL	溶血検体は低値傾向 急性心筋梗塞診断の カットオフ値：0.100 L	心筋梗塞 狭心症

- \*1 Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P) 又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
- \*2 Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体とプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P) Ⅳ型コラーゲン、Ⅳ型コラーゲン・7S、又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*3 慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
- \*4 心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*5 急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。
- \*6 同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
- \*7 心筋トロポニンⅠと心筋トロポニンT (TnT) 定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

## M2BPGi判定基準

判 定		C.O.I.
陰 性	(一)	1.00未満
	(1+)	1.00~2.99
陽 性	(2+)	3.00以上

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
血 漿 蛋 白 検 査	02549	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清0.3	冷蔵	A	132 免疫	3~4	LA法	男 2.7~6.0 女 1.9~4.6 mg/dL	M	甲状腺機能亢進症 ビタミンA欠乏症 肝疾患 腎不全
	02548	プレアルブミン (トランスサイレチン)	血清0.3	冷蔵	A	101 免疫	3~4	TIA法	22.0~40.0 mg/dL	M	栄養不良 慢性肝障害
	03391	尿アルブミン定量	蓄尿 1	冷蔵	D	*1 99 尿・糞便	1~2	TIA法	2.0~20.0 mg/day		糖尿病性腎症 腎炎
	03390	尿アルブミン/cr比	尿 1	冷蔵	D				10.0以下 mg/g・CRE		
	04351	尿中 トランスフェリン	尿 1	冷蔵	D	*1 98 尿・糞便	3~4	LA法	1.0以下 mg/g・CRE	M	糖尿病性腎症
	04052	尿中Ⅳ型コラーゲン	尿 5	冷蔵	L8	*1 184 尿・糞便	4~10	EIA法	30歳代: 4.0以下 40歳以上: 4.9以下 随時尿7.3以下 μg/g・CRE	早朝一番尿を提出 してください。 L	
	04698	L-FABP (尿中L型脂肪酸 結合蛋白)	尿 1	凍結	D	*2 210 尿・糞便	3~4	LA法	8.4以下 μg/g・Cr	M	慢性腎臓病(糸球体腎炎) 薬剤性腎障害 糖尿病性腎症 糖尿病
	01895	α <sub>1</sub> -ミクログロブリン (α <sub>1</sub> -MG)	血清0.5	冷蔵	A	129 免疫	2~3	LA法	9.1~18.4 mg/L	M	尿細管障害 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 肝機能障害
	01832	β <sub>2</sub> -ミクログロブリン (BMG)	血清0.5	冷蔵	A	98 免疫	2~3	LA法	0.9~1.9 mg/L		多発性骨髄腫 腎不全 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 悪性腫瘍
	01833		尿 1	冷蔵	D	98 免疫			200以下 μg/L	pH5.5~7.5を 確認して提出	
	04352	シスタチンC	血清0.3	冷蔵	A	*3 112 生化I	2~3	LA法	男 0.61~1.00 女 0.51~0.82 mg/L		腎機能低下 腎不全 心不全
	03243	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	血清0.5	冷蔵	A	*4 47 免疫	3~4	LA法	3.0以下 μg/mL	M	炎症性疾患 膠原病 悪性腫瘍

- \*1 トランスフェリン(尿)、アルブミン定量(尿)及びⅣ型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
- \*2 原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- \*3 尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ベントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*4 血清アミロイドA蛋白(SAA)をC反応性蛋白(CRP)定性又はC反応性蛋白(CRP)と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	02677	オリゴクローナルバンド	血清0.4 と 髄液0.4	冷蔵	A・D	*1 522 尿・糞便	6～9	等電点電気泳動法	陰性：バンド数0～1 本	M	多発性硬化症
	02547	クリオグロブリン定性	血清0.3	冷蔵	A	42 免疫	5～6	ゲル内拡散法	(－)	採血後、速やかに 血清分離（血清分 離までは37℃保 存）血清分離の際 は、冷却遠心を避 けて下さい M	本態性クリオグロブリン血症 膠原病 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 肝疾患
	02565	$\alpha_1$ -アンチトリプシン ( $\alpha_1$ -AT)	血清0.5	冷蔵	A	80 血液	3～4	ネフェロ メトリー法	94～150 mg/dL	L	感染症 悪性腫瘍 膠原病 心筋梗塞
	02647	$\alpha_2$ -マクログロブリン ( $\alpha_2$ -MG)	血清0.4	冷蔵	A	138 血液	3～6	ネフェロ メトリー法	男 100～200 女 130～250 mg/dL	M	慢性肝疾患 ネフローゼ症候群 DIC
	03592	型判定 無 ハプトグロビン	血清0.5	冷蔵	A	129 免疫	3～4	ネフェロ メトリー法	19～170 mg/dL	L	自己免疫性溶血性貧血 感染症 膠原病 溶血性疾患全般
	02653	型判定 有	血清0.3	冷蔵	A		5～6	TIA法/ 薄層アクリルアミ ドゲル電気泳動法	1-1型 43～180 2-1型 38～179 2-2型 15～116 mg/dL	M	肝疾患 不適合輸血後 DIC
	02648	セルロプラスミン (Cp)	血清0.4	冷蔵	A	90 免疫	3～4	ネフェロ メトリー法	21.0～37.0 mg/dL	M	膠原病 貧血 肝胆道疾患 悪性腫瘍 Wilson病
	02634	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清)	血清0.5	冷蔵	A	*2 170 免疫	5～8	免疫電気泳動法 (IEP法)		特異抗血清の検索 は異常蛋白を中心 に行います 年令、病歴を明記	M蛋白血症の有無・同定 自己免疫性疾患 肝疾患 膠原病 感染症 悪性腫瘍 血清蛋白異常症 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症
	02636	免疫電気泳動 (特異抗血清) (M蛋白の同定)	血清0.3	冷蔵	A	*2 218 免疫	4～6	免疫固定 電気泳動法 (IFE法)	検出せず		
	02635	尿中免疫電気泳動 (尿中 BJP 同定)	尿 5	冷蔵	D	201 免疫	4～6				
	00226	血清補体価 (CH <sub>50</sub> )	血清0.4	凍結	A	38 免疫	3～4	Mayer変法	30～46 CH <sub>50</sub> /mL	M	膠原病 感染症 腎炎 慢性肝炎 炎症性疾患
	03657	C <sub>3</sub>	血清0.3	凍結	A	70 免疫	1～3	TIA法	86～160 mg/dL		SLE 急性糸球体腎炎 C <sub>3</sub> 欠損症
	03658	C <sub>4</sub>	血清0.3	凍結	A	70 免疫	1～3	TIA法	17～45 mg/dL		SLE DIC 慢性増殖性腎炎 肝硬変症 C <sub>4</sub> 欠損症

\*1 IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

\*2 同一検体につき一回に限り算定する。なお免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	00290	IgG	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1～3	TIA法	870～1700 mg/dL		原発性免疫不全症候群 慢性肝疾患 多発性骨髄腫 自己免疫疾患 慢性感染症 IgA腎症（IgA）
	04376	IgGサブクラスIgG4	血清0.4	冷蔵	A	377 免疫	3～4	LA法	11～121.0 mg/dL	M	
	00289	IgA	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1～3	TIA法	110～410 mg/dL		
	00291	IgM	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1～3	TIA法	男 33～190 女 46～260 mg/dL		
アレルギー検査	01951	IgE（非特異的 IgE）	血清0.3	冷蔵	A	100 免疫	1～3	FEIA法	170以下 IU/mL	年齢別参考基準値 下記参照	アトピー性疾患 肝疾患 膠原病 寄生虫感染症
	特異的IgE	CAPシングル アレルゲン	血清各0.3	冷蔵	A	*2 17アレルゲン 110 免疫	2～3	FEIA法	クラス0 0.34以下 UA/mL	アレルゲン一覧表 次頁参照	アレルギー疾患全般 アトピー性疾患 （原因アレルゲンの検索） 気管支喘息 蕁麻疹
		CAPマルチ アレルゲン	血清各0.3	冷蔵	A					アレルゲン一覧表 次頁参照	
		Viewアレル ギー-39	血清0.9	冷蔵	A	*2 1,430 免疫	1～3	FEIA法	クラス0 index：0.27未満	アレルゲン一覧表 次頁参照	
		MAST36	血清0.5	冷蔵	A		4～6	CLEIA法	クラス0 1.39以下 LC	アレルゲン一覧表 次頁参照	
	02195	特異的IgG 鳥	血清0.5	冷蔵	A	*3 873 免疫	3～4	FEIA法	セキセイインコ 8.00未満 ハト 24.00未満 判定（－） mgA/L		過敏性肺炎 （間質性肺炎）
	01876	アトピー鑑別試験	血清0.3	冷蔵	A	194 免疫	2～3	FEIA法	（－）	アレルゲン一覧表 次頁参照	アトピー性疾患 （アトピー （非アトピー）の鑑別）
	04470	TARC	血清0.2	冷蔵	A	*4 179 免疫	2～4	CLEIA法	小児（6～12ヶ月未満）：1367未満 小児（1～2歳未満）：998未満 小児（2歳以上）：743未満 成人：450未満 pg/mL	トロンピン入りの採 血管は測定値に影響を 与える可能性があるため使用し ないでください。	アトピー性皮膚炎の 重症度評価

\*1 免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。  
\*2 特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は1,430点を限度として算定する。  
\*3 診察又は画像診断等により鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として、測定した場合に算定する。なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。  
\*4 TARCは、以下のいずれかの場合に算定できる。  
ア アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。  
イ COVID-19と診断された患者（呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。）の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、一連の治療につき1回を限度として算定できる。

非特異的IgE 年齢別参考基準値		CAPシングルアレルゲン・CAPマルチアレルゲン判定基準			Viewアレルギー-39判定基準			MAST36アレルゲン判定基準		
年齢（歳）	平均値±1SD	クラス	UA/mL	判 定	クラス	index値	判 定	クラス	LC（ルミカウント）	判 定
1未満	1.36～19.32	0	0.34以下	陰 性	0	0.27未満	陰 性	0	0～1.39	陰 性
1～3	5.24～29.99	1	0.35～0.69	疑陽性	1	0.27～0.49	疑陽性	1	1.40～2.77	疑陽性
4～6	5.19～111.94	2	0.70～3.49	陽 性	2	0.50～1.79	陽 性	2	2.78～13.4	陽 性
7～9	13.12～141.91	3	3.50～17.49		3	1.80～7.04		3	13.5～58.0	
10～12	11.09～171.79	4	17.50～49.99		4	7.05～17.34		4	58.1～119	
13～18	24.72～126.77	5	50.00～99.99		5	17.35～29.30		5	120～159	
19以上	27.54～138.34	6	100.00以上		6	29.31以上		6	160以上	



特異的IgE検査構成アレルゲンの種類

CAPマルチアレルゲン

検査コード	分 類	混合アレルゲンの内容
01990	イネ科	ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
01991	雑草	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ（属）、アキノキリンソウ
01992	食物	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、大豆
01993	穀物	小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ
01994	動物上皮	ネコ皮膚、イヌ皮膚、モルモット上皮、ラット、マウス
01995	カビ	ベニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム

Viewアレルギー39アレルゲン

検査コード	アレルゲンの内容	
02222	室内塵	ハウスダスト1
	ダニ	ヤケヒョウヒダニ
	樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ（属）、シラカンバ（属）
	イネ科植物花粉	カモガヤ、オオアワガエリ
	雑草花粉	ブタクサ、ヨモギ
	真菌類（カビ）	アルテルナリア、アスペルギルス、カンジダ、マラセチア（属）
	動物	ネコ（フケ）、イヌ（フケ）
	昆虫	ゴキブリ、ガ
	職業性アレルゲン	ラテックス
	食品	ミルク、卵白、オボムコイド、米、コムギ（実）、ソバ、大豆、ピーナッツ、リンゴ、キウイ、バナナ、ゴマ、牛肉、豚肉、鶏肉、エビ、カニ、サバ、サケ、マグロ

MAST36アレルゲン

検査コード	アレルゲンの内容	
02151	イネ科食物花粉	オオアワガエリ、カモガヤ
	雑草花粉	ブタクサ混合物Ⅰ、ヨモギ
	樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ
	室内塵、ダニ	コナヒョウヒダニ、ハウスダストⅠ
	真菌類（カビ）	カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス
	動物上皮	ネコ皮膚、イヌ皮膚
	食餌系	小麦、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、牛肉、豚肉、鶏肉、卵白、オボムコイド、ソバ、ピーナッツ、ゴマ、キウイ、バナナ、モモ、トマト
	その他	ラテックス

アトピー鑑別試験

検査コード	混合アレルゲンの内容（12種類）
01876	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコ皮膚、イヌ皮膚、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ（属）、スギ、カンジダ、アルテルナリア

アレルギー検査セット

検査コード	セット名	特異抗原名
08331	A01 花粉 春季 ①	スギ、ヒノキ
08332	A02 花粉 春季 ②	スギ、ヒノキ、イネ科、雑草
08333	A03 花粉 春季 ③	スギ、ヒノキ、マツ、シラカンバ、ハンノキ、ハルガヤ、カモガヤ
08334	A04 吸入性スクリーニング	スギ、コナヒョウヒダニ、イネ科マルチ、雑草マルチ、動物上皮マルチ、カビマルチ
08335	A05 室内アレルゲンの疑い	ハウスダスト1、コナヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、カビマルチ
08099	A06 アトピー鑑別パネル	スギ、コナヒョウヒダニ、食物マルチ、穀物マルチ、イネ科マルチ、雑草マルチ、動物上皮マルチ、カビマルチ
08373	A07 アレルギー性皮膚炎	ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ、黄色ブドウ球菌A、黄色ブドウ球菌B、マラセチア属
08374	A08 喘 息	ハウスダスト1、ガ、カンジダ、アスペルギルス、アルテルナリア、ヤケヒョウヒダニ、スギ
08375	A09 小 児	ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、卵白、ミルク、小麦、ソバ、大豆、米
08376	A10 食物アレルギー ①	卵白、大豆、米、小麦、ソバ、ミルク、ゴマ
08377	A11 アレルギー性鼻炎（通年）	スギ、カモガヤ、ブタクサ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ
08379	A12 アレルギー性鼻炎（夏季）	ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ
08380	A13 アレルギー性鼻炎（秋季）	ブタクサ、ヨモギ、オオアワガエリ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ、ガ
08390	A14 花粉（通年）	オオアワガエリ、ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、スギ、ハンノキ、ヒノキ、シラカンバ
08336	A15 食物アレルギー ②	卵白、ミルク、小麦、ソバ、ピーナッツ、エビ、カニ
08521	A21 食物アレルギー13	卵白、オボムコイド、ミルク、小麦、ピーナッツ、ソバ、カニ、エビ、イクラ、大豆、サケ、キウイ、バナナ
08522	A22 成人アトピー13	ヤケヒョウヒダニ、スギ、ネコ皮膚、イヌ皮膚、カンジダ、マラセチア、小麦、ソバ、大豆、ピーナッツ、カニ、エビ、サバ
08523	A23 小児アレルギー13	卵白、オボムコイド、ミルク、小麦、ピーナッツ、イクラ、サケ、キウイ、ヤケヒョウヒダニ、イヌ皮膚、ネコ皮膚、スギ、カビマルチ
08524	A24 鼻炎・結膜炎・喘息13	ヤケヒョウヒダニ、ネコ皮膚、イヌ皮膚、ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、ユスリカ、ゴキブリ、カビマルチ
08525	A25 花粉症・PFAS13	ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、リンゴ、モモ、トマト、キウイ、メロン、スイカ、セロリ
08526	A26 食物アレルギー8	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、ソバ、エビ、キウイ、イクラ
08527	A27 成人アトピー8	ハウスダスト1、動物上皮マルチ、スギ、マラセチア、カンジダ、小麦、エビ、ピーナッツ
08528	A28 小児アレルギー8	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、イクラ、ヤケヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、スギ
08529	A29 鼻炎・結膜炎・喘息8	ヤケヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、雑草マルチ、カビマルチ
08530	A30 花粉症・PFAS8	ハンノキ、スギ、カモガヤ、雑草マルチ、リンゴ、モモ、キウイ、メロン

特異的IgE CAPシングルアレルゲン一覧

吸入性アレルゲン【花 粉】

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.イネ科植物		
01980	g 1	ハルガヤ
01966	g 2	ギョウギシバ
01967	g 3	カモガヤ
02141	g 4	ヒロハウシノケグサ
02085	g 5	ホソムギ
01981	g 6	オオアワガエリ
02000	g 7	アシ
01982	g 8	ナガハグサ
02199	g 9	コスカグサ (属)
02073	g 10	セイパンモロコシ
02019	g 15	小麦 (属)
02083	g 16	オオスズメノテッポウ
02123	g 17	スズメノヒエ (属)
2.雑 草		
01962	w 1	ブタクサ
02030	w 2	ブタクサモドキ
01963	w 3	オオブタクサ
01989	w 5	ニガヨモギ
01964	w 6	ヨモギ
02007	w 7	フランスギク
01965	w 8	タンポポ (属)
02108	w 9	ヘラオオバコ
02135	w 10	シロザ
02028	w 12	アキノキリンソウ
02127	w 18	ヒメスイバ

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
02098	w 20	イラクサ (属)
02057	w 22	カナムグラ
3.樹 木		
02111	t 1	カエデ (属)
02029	t 2	ハンノキ (属)
01983	t 3	シラカンバ (属)
02088	t 5	ブナ (属)
02129	t 6	ビャクシン (属)
02082	t 7	コナラ (属)
02115	t 8	ニレ (属)
02128	t 9	オリーブ
02125	t 10	クルミ (属)
02100	t 12	ヤナギ (属)
02025	t 16	マツ (属)
01970	t 17	スギ
02018	t 19	アカシア (属)
01968	t 24	ヒノキ
02124	t 70	クワ (属)

吸入性アレルゲン【花粉以外】

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.ダニ		
01984	d 1	ヤケヒョウヒダニ
01971	d 2	コナヒョウヒダニ
01998	d 70	アシフトコナダニ
01997	d 71	サヤアシニクダニ
01996	d 72	ケナガコナダニ
2.真菌 (カビ) / 細菌		
02023	m 1	ペニシリウム
01985	m 2	クラドスポリウム
01986	m 3	アスペルギルス
02107	m 4	ムコール
01972	m 5	カンジダ
01973	m 6	アルテルナリア
02021	m 8	ヘルミントスポリウム
02120	m 80	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA
02121	m 81	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB
02136	m205	トリコフィトン
02144	m227	マラセチア (属)
02149	m218	ASP f1 (アスペルギルス由来)
3.動 物		
01957	e 1	ネコ皮膚屑
02069	e 3	ウマ皮膚屑
02070	e 4	ウシ皮膚屑
01961	e 5	イヌ皮膚屑
02035	e 6	モルモット上皮

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
02017	e 70	ガチョウ羽毛
02036	e 77	セキセイインコのふん
02037	e 78	セキセイインコ羽毛
02116	e 80	ヤギ上皮
02020	e 81	羊上皮
01969	e 82	家兎上皮
01959	e 83	豚上皮
02022	e 84	ハムスター上皮
02001	e 85	ニワトリ羽毛
02002	e 86	アヒル羽毛
02012	e 87	ラット
01960	e 88	マウス
4.室内塵		
01954	h 1	ハウスダスト1
01955	h 2	ハウスダスト2
5.職業性		
02126	k 72	オオバコ種子
01928	k 75	イソシアネートTDI
01929	k 76	イソシアネートMDI
01930	k 77	イソシアネートHDI
02097	k 78	エチレンオキシド
02102	k 79	無水フタル酸
02117	k 80	ホルマリン
02078	k 82	ラテックス
02145	k220	Hev b 6.02 (ラテックス由来)

食 物 性 ア レ ル ゲ ン

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.卵		
01974	f 1	卵白
02009	f 75	卵黄
02122	f 233	オボムコイド
2.牛 乳		
01975	f 2	ミルク
02045	f 76	α-ラクトアルブミン
02047	f 77	β-ラクトグロブリン
02103	f 78	カゼイン
02014	f 81	チーズ
01934	f 82	モールドチーズ
3.肉		
01978	f 26	豚肉
02006	f 27	牛肉
02015	f 83	鶏肉
02049	f 88	羊肉
4.魚貝類		
02041	f 3	タラ
01976	f 23	カニ
01977	f 24	エビ
02031	f 37	ムラサキイガイ
02048	f 40	マグロ
01979	f 41	サケ
02033	f 50	サバ
01931	f 58	イカ
01932	f 59	タコ
02034	f 60	アジ
01933	f 61	イワシ
02068	f 80	ロブスター
02132	f207	アサリ
02077	f254	カレイ

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
02133	f290	カキ (貝)
02134	f338	ホタテ
02130	f349	イクラ
02131	f350	タラコ
5.穀 類		
02026	f 4	小麦
02064	f 5	ライ麦
02027	f 6	大麦
02080	f 7	オート麦
02050	f 8	トウモロコシ
02032	f 9	米
01987	f 11	ソバ
02056	f 55	キビ
02055	f 56	アワ
02101	f 79	グルテン
02011	f 90	麦芽
02142	f416	ω-5グリアジン
6.豆類/ナッツ		
02096	f 12	エンドウ
02042	f 13	ピーナッツ
02024	f 14	大豆
02095	f 15	インゲン
02137	f 17	ハシバミ
02086	f 18	ブラジルナッツ
02044	f 20	アーモンド
02043	f 36	ココナッツ
01950	f 93	カカオ
02139	f256	クルミ
02143	f202	カシューナッツ
02146	f353	Gly m 4 (大豆由来)
02190	f423	Ara h2 (ピーナッツ由来)

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
02147	f441	Jug r 1 (クルミ由来)
02148	f443	Ana o 3 (カシューナッツ由来)
7.果 物		
02089	f 33	オレンジ
01927	f 44	イチゴ
02060	f 49	リンゴ
01939	f 84	キウイ
02063	f 87	メロン
02112	f 91	マンゴ
02008	f 92	バナナ
02059	f 94	洋ナシ
01936	f 95	モモ
02113	f 96	アボカド
01941	f209	グレープフルーツ
02140	f329	スイカ
8.野 菜		
02066	f 25	トマト
02076	f 31	ニンジン
02010	f 35	ジャガイモ
01999	f 47	ニンニク
02046	f 48	タマネギ
01937	f 51	タケノコ
01938	f 54	サツマイモ
02109	f 85	セロリ
02110	f 86	パセリ
02138	f 97	ヤマイモ
02099	f214	ハウレンソウ
02084	f225	カボチャ
9.その他		
02039	f 10	ゴマ
02013	f 45	ビール酵母
02071	f 89	マスタード

そ の 他

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.昆 虫		
01935	i 1	ミツバチ
01949	i 3	スズメバチ
01943	i 4	アシナガバチ
02040	i 6	ゴキブリ
02005	i 7	ユスリカ (成虫)
02065	i 8	ガ
02004	i 71	ヤブカ (属)
2.寄生虫		
01988	p 1	カイチュウ
02092	p 4	アニサキス
3.その他		
02118	c 73	ヒトインシュリン
02114	c 74	ゼラチン
01942	o 1	綿

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
免疫血液学検査	00331	血液型ABO式	全血2.0	冷蔵	B	*1 24 免疫	1~2	カラム凝集法			血液型判定 輸血前検査
	00332	血液型Rh(D)式	全血2.0	冷蔵	B	*1 24 免疫	1~2	カラム凝集法			
	02779	血液型Rh-Hr式	全血2.0	冷蔵	B	*2 148 免疫	3~4	カラム凝集法		M	血液型判定
	00287	直接クームス	全血1.0	室温	B	34 免疫	2~3	試験管法	陰性	全血のまま当日中に 出検	新生児溶血性疾患 輸血 自己免疫性溶血性貧血
	00288	間接クームス	血清2.0	冷蔵	A	*3 47 免疫			陰性	採血後、血清分離し 血清を当日中に 出検	
	02783	不規則抗体	血清5.0 と 全血2.0	冷蔵 室温	A・ B	*4 *5 159 免疫	3~4	カラム凝集法 (クームス法) (酵素法)	(一)	(注1) (注2)	血液型不適合妊娠 輸血副作用
	02784	血液型不適合妊娠	全血5.0	冷蔵	A2		3~4	DTT処理法	(一)	(注3)	L 血液型不適合妊娠 胎児性新生児溶血性疾患

- \*1 輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を所定点数に加算する。
- \*2 同一検体による検査の場合は因子の種類及び数にかかわらず所定点数を算定する。
- \*3 輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
- \*4 不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず1月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあっては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。
- \*5 輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮付属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術若しくは異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれかに該当するかを記載する。

(注1) 下記の事項をご連絡ください。

- ①輸血歴の有無および輸血予定時期
- ②年齢（とくに1才未満）
- ③疾病歴を記入

(注2) 下記の事項にご注意ください。

- ①血清と血液をペアで提出
- ②血清については、採血後すみやかに分離
- ③A,B容器ともに単独依頼

(注3) 下記の事項をご連絡ください。

子供及び夫のABO式血液型

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
自己 免疫 関連 検査	00255	RF定量	血清0.3	冷蔵	A	*1 *2 30 免疫	1～2	LA法	0～15 IU/mL		関節リウマチ (他の自己免疫疾患)
	03340	抗ガラクトース 欠損IgG抗体	血清0.6	冷蔵	A	*1 *2 *4 111 免疫	3～5	ECLIA法	6.0未満 AU/mL	L	関節リウマチ
	03124	IgG型リウマトイド因子 (IgG-RF)	血清0.6	冷蔵	A	*1 *4 198 免疫	3～5	EIA法	IgG-RF index 2.0未満 判定(一)	L	関節リウマチ 膠原病の活動性評価
	04065	マトリックスメタロ プロティナーゼ-3 (MMP-3)	血清0.3	冷蔵	A	*1 *4 116 免疫	1～3	LA法	男 36.9～121.0 女 17.3～ 59.7 ng/mL		関節リウマチ (経過観察)
	04258	抗 CCP 抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	血清0.6	冷蔵	A	*3 *4 193 免疫	2～3	CLIA法	4.5 未満 U/mL		関節リウマチ (関節リウマチと確定診断 できない患者の診断補助、 または治療薬の選択時)
	03225	抗核抗体 (ANA)	血清0.4	冷蔵	A	99 免疫	3～4	FA法	40倍未満	M	SLE 強皮症 皮膚筋炎 多発性筋炎 シェーグレン症候群 混合性結合組織病 関節リウマチ

- \*1 リウマトイド因子(RF)定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロティナーゼ-3(MMP-3)、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、及びIgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- \*2 抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量と、リウマトイド因子(RF)定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*3 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又は、前述とは別に関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- \*4 抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロティナーゼ-3(MMP-3)、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
自己 免疫 関 連 検 査	01887	抗DNA抗体	血清0.3	冷蔵	A	159 免疫	3~4	RIA 硫酸塩析法	6以下 IU/mL	M	SLE オーバーラップ症候群 関節リウマチ 混合性結合組織病
	02869	IgG 抗ds-DNA抗体	血清0.4	冷蔵	A	159 免疫	3~4	CLEIA法	12.0以下 IU/mL	M	
	02862	IgM	血清0.3	冷蔵	A		3~9	EIA法	6未満 U/mL	M	
	02870	抗ss-DNA抗体 IgG	血清0.4	冷蔵	A	159 免疫	3~4	CLEIA法	25.0以下 AU/mL	M	
	03066	抗RNP抗体	血清0.4	冷蔵	A	144 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	SLE 混合性結合組織病
	03067	抗Sm抗体	血清0.4	冷蔵	A	147 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	SLE シェーグレン症候群 混合性結合組織病
	03168	抗SS-A/Ro抗体	血清0.4	冷蔵	A	161 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	SLE シェーグレン症候群
	03169	抗SS-B/La抗体	血清0.4	冷蔵	A	157 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	シェーグレン症候群
	04054	抗Jo-1抗体	血清0.4	冷蔵	A	*1 140 免疫	3~5	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	多発性筋炎 皮膚筋炎
	04876	抗ARS抗体 (抗アミノアシル-tRNA合成酵素抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*1 190 免疫	4~10	EIA法	陰性 (-) index 25.0未満	M	
	03588	抗Scl-70抗体	血清0.4	冷蔵	A	157 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	強皮症
	02786	抗セントロメア抗体 (ACA)	血清0.4	冷蔵	A	*2 174 免疫	3~4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	強皮症 原発性胆汁性肝硬変
	02927	抗甲状腺ペルオキシダーゼ 抗体(抗 TPO 抗体)	血清0.5	冷蔵	A	*3 138 免疫	1~3	ECLIA法	16.0未満 IU/mL		橋本病 バセドウ病
	02675	抗サイログロブリン抗体 (抗 Tg 抗体)	血清0.5	冷蔵	A	136 免疫	1~3	ECLIA法	28.0未満 IU/mL		亜急性甲状腺炎 甲状腺腫瘍

\*1 抗ARS抗体と抗Jo-1抗体定性、同半定量又は同定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

\*2 原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。

\*3 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロソーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	04726	HIT 抗体 (血小板第 4 因子 - ヘパリン複合体抗体)	血漿0.5	凍結	E	*1 390 免疫	3～4	LA法	1.0未満 U/mL	M	ヘパリン起因性血小板減少症
	02785	抗血小板抗体	血清0.5	凍結	A	261 免疫	4～6	MPHA法	(－)	M	特発性血小板減少性紫斑病
	02889	血小板関連 IgG (PA IgG)	全血7.0 (注)	冷蔵	F8	*2 190 免疫	3～4	EIA法	30.2以下 ng/10 <sup>7</sup> cells	採血日に出検 受付曜日：月～金 M	特発性血小板減少性紫斑病
	02768	抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	血清0.2	冷蔵	A	181 免疫	3～5	FA法	20倍未満	L	原発性胆汁性肝硬変
	02528	抗ミトコンドリア M2抗体	血清0.3	冷蔵	A	189 免疫	3～4	CLEIA法	index 7.0未満	L	
	02767	抗平滑筋抗体 (SMA)	血清0.3	冷蔵	A		3～4	FA法	20倍未満	M	自己免疫性肝炎 慢性活動性肝炎
	02788	抗胃壁細胞抗体	血清0.2	冷蔵	A		3～5	FA法	10倍未満	L	悪性貧血 萎縮性胃炎
	02968	抗アセチルコリン レセプター抗体 (抗 AChR 抗体)	血清0.3	凍結	A	*3 775 免疫	4～7	RIA法 (抗ヒトIgG法)	陰性 (－) 0.2以下 nmol/L	M	重症筋無力症
	04880	抗筋特異的チロシン キナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体)	血清0.3	凍結	A	*3 1000 免疫	4～10	RIA法	0.02未満 nmol/L	M	
	03038	抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*4 262 免疫	3～4	FEIA法	下記参照	L	抗糸球体基底膜抗体腎炎 グッドパスチャー症候群
	04879	抗アクアポリン4抗体	血清0.3	凍結	A	*5 1000 免疫	4～10	EIA法	3.0未満 U/mL	M	視神経脊髄炎

\*1 ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。一連の検査で、血小板第4因子 - ヘパリン複合体抗体 (IgG抗体)、血小板第4因子 - ヘパリン複合体抗体 (IgG、IgM及びIgA抗体) 及び血小板第4因子 - ヘパリン複合体抗体定性を測定した場合は、主たるものののみ算定する。

\*2 特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。

\*3 重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるものののみ算定する。

\*4 抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。

\*5 視神経脊髄炎の診断 (治療効果判定を除く。) を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(注) 末梢血の血小板数が3万/μL以下の場合は、2本採取し、2倍量の血液をご提出ください。

抗糸球体基底膜抗体 判断基準

判 定	U/mL
陰 性 (－)	7.0未満
疑 陽 性 (±)	7.0以上、10.0以下
陽 性 (＋)	10.0を越える



# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	02734	抗精子不動化抗体	血清0.5	凍結	A		4～9	不動化法	判定：(－) 不動化値：1.40以下 SI <sub>50</sub> 値：1.0未満	L	不妊症
	04399	抗BP180抗体	血清0.3	冷蔵	A	*1 270 免疫	3～5	CLEIA法	9.0未満 U/mL	L	水疱性類天疱瘡
	02718	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)	血清0.3	冷蔵	A	252 免疫	3～4	FEIA法	陰性(－) 2.0未満 IU/mL	L	Wegener肉芽腫症
	02727	抗好中球細胞質抗体 (MPO-ANCA)	血清0.3	冷蔵	A	*2 251 免疫	3～4	FEIA法	陰性(－) 3.5未満 IU/mL	L	急性進行性糸球体腎炎
	03232	抗カルジオリピン IgG抗体	血清0.2	冷蔵	A	*3 *4 226 免疫	3～6	EIA法	12.3以下 U/mL	L	抗リン脂質抗体症候群 SLE 習慣性流産
	02526	抗カルジオリピン IgM抗体	血清0.2	冷蔵	A	226 免疫	3～6	EIA法	20.8以下 U/mL	L	
	05495	抗β <sub>2</sub> グリコプロテインI抗体 IgG	血清0.3	冷蔵	A	*3 *4 226 免疫	3～5	CLEIA法	0.7未満 U/mL	L	
	05496	抗β <sub>2</sub> グリコプロテインI抗体 IgM	血清0.3	冷蔵	A	226 免疫	3～5	CLEIA法	17.5以下 U/mL	L	
	02650	抗カルジオリピン β <sub>2</sub> グリコプロテインI複合体抗体 (抗CL・β <sub>2</sub> GP I複合体抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*3 223 免疫	4～6	EIA法	3.5未満 U/mL	L	
	04284	抗デスモグレイン1抗体	血清0.3	冷蔵	A	*5 *6 300 免疫	3～5	CLEIA法	20.0未満 U/mL	L	落葉状天疱瘡
	04333	抗デスモグレイン3抗体	血清0.3	冷蔵	A	*5 *7 270 免疫	3～5	CLEIA法	20.0未満 U/mL	L	尋常性天疱瘡

- \*1 水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
- \*2 急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
- \*3 抗カルジオリピンβ<sub>2</sub>グリコプロテインI複合体抗体と抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgG抗体又は抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*4 ア 抗カルジオリピンIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。  
イ 抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgG抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。  
ウ 抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。  
エ 抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgG抗体及び抗β<sub>2</sub>グリコプロテインI IgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定する。
- \*5 天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
- \*6 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*7 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

## 抗精子不動化抗体 判定基準

不動化値	判定
1.40以下	(－)
1.41～1.99	判定保留
2.00～20.00	(＋)
20.01以上	強陽性



免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症関連検査	00242	CRP定量	血清0.3	凍結	A	*1 16 免疫	1〜2	LA法	0.30以下 mg/dL		炎症性疾患
	00241	ASO	血清0.3	凍結	A	15 免疫	1〜2	LA法	239以下 IU/mL		溶連菌感染症
	00252	寒冷凝集反応	血清0.3	凍結	A	11 免疫	2〜3	HA法	64倍未満	血清分離が不可能な 場合、20℃以下に冷 やさず全血のまま当日 中に出検	マイコプラズマ肺炎 自己免疫性疾患 自己免疫性溶血性貧血
	00251	マイコプラズマ抗体 (マイコプラズマ・ニューモニエ抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*2 32 免疫	2〜3	PA法	40倍未満		マイコプラズマ感染症 マイコプラズマ肺炎 L
	02794		血清0.3	冷蔵	A		4〜6	CF法	4倍未満		
	04549	マイコプラズマ・ ニューモニエ核酸同定	喀痰1.0 または ぬぐい液	凍結	D2	291 微生物	3〜5	Q Probe法	検出せず		
	02759	IgG トキソプラズマ 抗体 IgM	血清0.3	冷蔵	A	93 免疫	2〜3	CLIA法	下記参照		トキソプラズマ感染症
	02760		血清0.3	冷蔵	A	95 免疫			下記参照		
	04772	抗MAC抗体 (抗酸菌抗体)	血清0.2	冷蔵	A	116 免疫	3〜7	ELISA法	(-)抗体濃度 0.7 未満 U/mL		非定型抗酸菌感染症 M

\*1 血清アミロイドA蛋白（SAA）をC反応性蛋白（CRP）定性又はC反応性蛋白（CRP）と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。  
\*2 マイコプラズマ抗体定性、マイコプラズマ抗体半定量、マイコプラズマ抗原定性（免疫クロマト法）又はマイコプラズマ抗原定性（FA法）を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

トキソプラズマ抗体IgG 判定基準

判定	IU/mL
陰性(-)	1.6未満
判定保留(±)	1.6〜3.0未満
陽性(+)	3.0以上

トキソプラズマ抗体IgM 判定基準

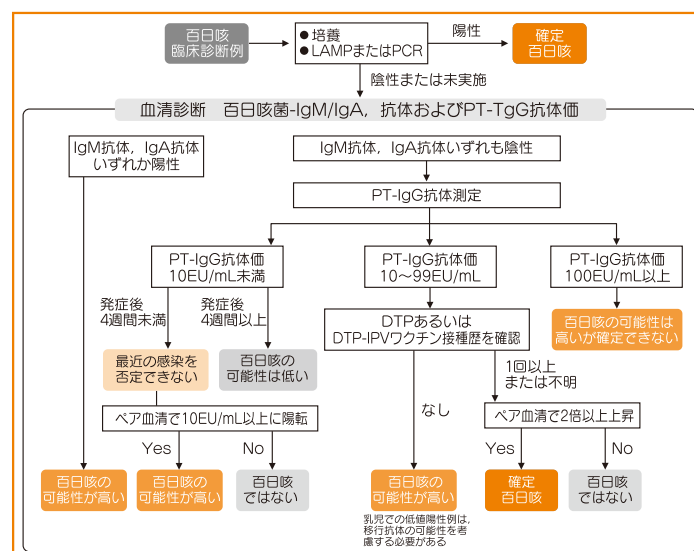
判定	S/CO
陰性(-)	0.83未満
判定保留(±)	0.83〜1.00未満
陽性(+)	1.00以上

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
感 染 症 関 連 検 査	03217	ツツガ虫 抗体	カーブ IgG	血清0.3	凍結	A	6～9	FA法	10倍未満		ツツガ虫病	
	03248		カーブ IgM	血清0.3	凍結	A						*1 203 免疫
	03216		カトー IgG	血清0.3	凍結	A						*1 203 免疫
	03247		カトー IgM	血清0.3	凍結	A						
	03215		ギリアム IgG	血清0.3	凍結	A						*1 203 免疫
	03246		ギリアム IgM	血清0.3	凍結	A						
										M		
	03969	百日咳菌 抗体	IgM	血清0.5	冷蔵	A	80 免疫	3～6	EIA法	(－) 8.5未満 NTU	L	百日咳菌感染症
	03966		IgA	血清0.5	冷蔵	A		3～6	EIA法	(－) 8.5未満 NTU	L	
	04040			血清0.3	冷蔵	A	257 免疫	4～6	EIA法	PT-IgG：10未満 FHA-IgG：10未満 EU/mL	百日咳血清診断の 目安（参考）は 下記参照 M	
	03886	百日咳菌核酸検出	後鼻腔 ぬぐい液	凍結	J5	*2 360 微生物	3～5	LAMP法	(－)	採取後、速やかに 凍結保存 L		

\*1 各株ごとに算定する。

\*2 関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、測定した場合に算定できる。

## 百日咳臨床診断例での確定フローチャート



(咳嗽喀痰の診療ガイドライン2019より)

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感 染 症 関 連 検 査	02561	エンドトキシン定量	全血3.0	冷蔵	P1	*1 229 免疫	3～4	比濁時間分析法	5.0未満 pg/mL	他項目との重複 依頼は避ける 凍結不可	グラム陰性桿菌感染症 敗血症
	04134	エンドトキシン(透析液)	透析液4	冷蔵	P3		3～4	合成基質法 (エンドスペース法)	EU/mL		
	03052	(1→3)-β-D-グルカン	全血2.0	冷蔵	P1	*2 *3 195 免疫	3～4	発色合成基質法	20以下 pg/mL		深在性真菌症 M
	04516	プロカルシトニン (PCT)	血清0.4	凍結	A	*1 *4 276 生化I	3～4	ECLIA法	0.05以下 ng/mL	敗血症鑑別診断の カットオフ値 0.50未満 敗血症重症度判定の カットオフ値 2.00以上 L	重症の全身性細菌感染症 敗血症
	04861	プレセプシン	血漿0.4	凍結	F3	*1 *4 301 生化I	3～4	CLEIA法	pg/mL	敗血症診断の カットオフ値 500pg/mL M	敗血症（細菌性）
	03097	破傷風抗体	血清1.0	凍結	A		17～24	EIA法	0.10以上 IU/mL	他項目との重複依頼は避ける。 ワクチン接種による獲得 抗体を調べる検査で、臨床的 判定には用いることはでき ません。 L	破傷風
	03516	クロストリジオイデス ディフィシル毒素	糞便 拇指頭大	冷蔵	K	80 免疫	3～4	EIA法	(-)		偽膜性大腸炎 L
	02929	アスペルギルス抗原	血清0.7	冷蔵	A	*2 *5 157 免疫	3～5	EIA法	0.5未満 陰性		アスペルギルス感染症 L
	02961	クリプトコックス・ ネオフォルマンس抗原	血清0.8	冷蔵	A	*2 169 免疫	3～4	LA法	(-) 倍		クリプトコックス感染症 夏過敏性肺炎 L
	04320	クリプトコックス抗体	血清1.0	凍結	A		17～19	試験管凝集法	2倍未満		

- \*1 プレセプシン定量とプロカルシトニン（PCT）定量、同半定量又はエンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*2 (1→3)-β-D-グルカン、カンジダ抗原定性、同半定量、同定量、アスペルギルス抗原、D-アラビニトール、クリプトコックス抗原半定量又はクリプトコックス抗原定性と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*3 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。
- \*4 敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。
- \*5 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症 関連 検査	04047	ヘリコバクター・ピロリ 抗体	血清0.3	冷蔵	A	* 80 免疫	2~3	LA法	10未満（－） U/mL		ヘリコバクター・ ピロリ感染症
	00227	尿素呼気試験 (ユービット)	呼気	室温	U	* 70 微生物	2~3	赤外分光法	△2.5未満 ‰	採取方法は 下記参照	
	04229	便中ヘリコバクター・ ピロリ抗原	糞便	冷蔵	K4	* 142 免疫	3~5	EIA法	(－)		

\* 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に則して行うこと。

## 尿素呼気試験（ユービット）

### 採取方法



### 【準備】

呼気採取前\*の呼気採取バッグ2個（1回分）にご施設名と患者氏名を明記し、「服用前」または「服用後」のいずれかに必ずチェックを入れてください。

\*呼気採取後に記入されますと、バッグを破損する可能性がありますので、ご注意願います。  
また、ボールペンなどの鋭利なものではなく、サインペンなどで記入ください。

- ①ユービット錠の服用前に、呼気を採取します。（注）
- ②ユービット錠（1錠）をつぶしたりせず、空腹時に水100mLとともに嚙まずに速やかに（5秒以内に）服用します。
- ③5分間左側臥位の姿勢を保ち、さらに座位で15分待ちます。
- ④ユービット錠服用後20分にもう一度呼気を採取します。

（注）呼気採取方法のポイント

- 1) 呼気採取バッグを口にあて、（鼻から）息を吸って、5~10秒程息を止めてください。
- 2) その後呼気採取バッグにゆっくりと息を入れてください。
- 3) 息止めが苦しい場合は2~3回に分けて入れても大丈夫です。
- 4) 呼気採取バッグには肺の中の息を入れるようにしてください。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症関連検査	00264	RPR法	血清0.3	冷蔵	A	* 15 免疫	1～2	凝集反応	陰性	下記参照	梅毒
	00259	梅毒定性 TPHA法	血清0.3	冷蔵	A	32 免疫		PA法	陰性		
	03221	FTA-ABS法	血清0.2	冷蔵	A	134 免疫	4～5	FA法	陰性	下記参照	
	00275	RPR法	血清0.5	冷蔵	A	* 34 免疫	1～2	凝集反応	1倍未満	下記参照	
	00263	梅毒半定量 TPHA法	血清0.5	冷蔵	A	53 免疫		PA法	80倍未満		
	02557	FTA-ABS法	血清0.2	冷蔵	A	134 免疫	4～5	FA法	陰性(20 倍未満)	下記参照	

\* 梅毒血清反応（STS）定性、梅毒血清反応（STS）半定量及び梅毒血清反応（STS）定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。

梅毒血清反応の使用抗原と検査法

脂質抗原検査(STS)	RPR法
TP抗原検査	TPHA法 FTA-ABS法

検査結果と判定の目安

STS	TPHA法	考えられる病態	確認の方法
－	－	非梅毒 感染初期の梅毒 早期梅毒治療後	一定期間後の再検またはFTA-ABS法 既往歴などの問診
－	＋	早期梅毒治療後 非常に古い梅毒 地帯現象 非特異反応	問診 問診 FTA-ABS法 歯槽膿漏など
＋	－	BFP 感染初期の梅毒	一定期間後の再検やFTA-ABS法 臨床症状・問診と一定期間後の再検やFTA-ABS法
＋	＋	梅毒 梅毒治療後 Pinta,Yaws など	問診 臨床症状

梅毒感染初期が疑われる場合は3～4週間後に再検査する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感 染 症 関 連	02838	抗VCA IgA	血清各0.2 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	*1 79 免疫	3～5	FA法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満		EBウイルス感染症 伝染性単核症 バーキットリンパ腫 上咽頭癌
	02836	抗VCA IgG									
	02837	抗VCA IgM				*2 200 免疫					
	02839	抗EA-DR IgG									
	02840	抗EA-DR IgA				*1 79 免疫					
	02841	抗EBNA									
検 査	02824	CF	血清各0.3	冷蔵	A	*1 79 免疫	4～6	CF法	4倍未満		サイトメガロウイルス 感染症
	02948	サイト メガロ ウイルス (CMV) IgG				*2 200 免疫	3～4	CLIA法	6.0未満(ー) AU/mL		
	02947	IgM				0.85未満(ー) S/CO					

- \*1 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
- \*2 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

## サイトメガロウイルス抗体判定基準

判定	IgG (AU/mL)	IgM (S/CO)
ー	6.0未満	0.85未満
±	ー	0.85~1.00未満
+	6.0以上	1.00以上

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
感 染 症 関 連 検 査	03630	アデノウイルス抗原	糞便 1g	凍結	K	*1 60 免疫	3～9	Immuno Chromatography Assay	(一)	L	急性胃腸炎（とくに小児）	
	02983	CF        アデノ ウイルス	血清0.3 または 髄液0.4				4～6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	M	咽頭結膜熱 上気道炎 肺炎 流行性角結膜炎 胃腸炎 出血性膀胱炎	
	02985		1型NT				血清各0.2 または 髄液各0.5	9～15	NT法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満		L
	02986		2型NT									
	02987		3型NT									
	02988		4型NT									
	02989		5型NT									
	02990		6型NT									
	02991		7型NT									
	02992		8型NT				血清0.3 または 髄液0.4	12～17		血清 8倍未満		
	02993		11型NT				血清各0.2 または 髄液各0.5	9～15		血清 4倍未満 髄液 1倍未満		
	02994		19型NT									
	04171		37型NT				血清0.2 または 髄液0.4	10～16				

\*1 アデノウイルス抗原定性（糞便）とロタウイルス抗原定性（糞便）又は定量（糞便）を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

\*2 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。



# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感 染 症 関 連 検 査	02795	インフルエンザ ウイルス	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4~6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	急性呼吸器感染症 インフルエンザ脳症
	02796		血清0.4 または 髄液0.9					HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	M	
	02797		血清0.3 または 髄液0.5				4~6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	
	02798		血清0.4 または 髄液0.9					HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	M	
	02643	パラ インフル エンザ ウイルス	1型	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4~7	HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	L	上気道炎 気管支炎 肺炎
	02644		血清各0.2 または 髄液各0.4			* 79 免疫					
	02645		3型			* 79 免疫					
	02823	RSウイルス	血清0.3 または 髄液0.4	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4~6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	M	上気道炎 気管支炎 肺炎
	04057		血清0.2 または 髄液0.4				8~14	NT法		L	

\* 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症 関連 検査	03130	麻疹ウイルス	血清各0.4	冷蔵	A	*2 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照		麻疹（はしか）
	03016										
	02805	日本脳炎 ウイルス	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	*1 79 免疫	4～6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	日本脳炎
	04413		血清0.5 または 髄液1.0				7～10	HI法	血清 10倍未満 髄液 10倍未満	M	
	04363	ノロウイルス抗原	糞便1g	凍結	K	*3 150 免疫	2～3	イムノクロマト グラフィー法	（－）		ノロウイルス性胃腸炎 ノロウイルス性下痢症

\*1 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

\*2 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

\*3 ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。

- ア 3歳未満の患者
- イ 65歳以上の患者
- ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者
- エ 臓器移植後の患者
- オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

## 麻疹ウイルス血清 判定基準

判定	IgG (EIA価)	IgM (index)
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
+	4.0以上	1.21以上

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
感 染 症 関 連 検 査	03255	CF	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	*1 79 免疫	4～6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満		流行性耳下腺炎（おたふく風邪） 無菌性髄膜炎 肺炎 精巣炎 卵巣炎	
	03256	HI	血清0.2 または 髄液0.4				4～7	HI法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満			
	02517	IgG	血清各0.4	冷蔵	A	*2 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照			L
	02511	IgM										
	00250	HI	血清0.3	冷蔵	A	*1 79 免疫	2～3	HI法	血清 8倍未満			M
	04321	HI	髄液0.4	冷蔵	D		4～5		髄液 1倍未満			
	02938	IgG	血清各0.4	冷蔵	A	*2 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L		
	02939	IgM										
	02739	IgG	血清各0.4	冷蔵	A	*2 *3 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	伝染性紅斑（リンゴ病）	
	02740	IgM										

- \*1 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
- \*2 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
- \*3 紅斑が出現している15歳以上の成人について、ヒトパルボウイルスB19による感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

## ムンプスウイルス血清・風疹ウイルス血清 判定基準

判定	IgG (EIA価)	IgM (index)
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
+	4.0以上	1.21以上

## ヒトパルボウイルスB19抗体（IgG IgM）判定基準

判定	(index)
－	0.80未満
±	0.80～0.99
+	1.00以上

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
感 染 症 関 連 検 査	02962	エンテロ ウイルス	70型NT	冷蔵	A または D		9～15	NT法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満		急性出血性結膜炎	
	02963		71型NT								手足口病 無菌性髄膜炎	
感 染 症 関 連 検 査	02819	コクサッ キーウイ ルスA群	2型NT	冷蔵		A または D	9～15	NT法	血清 NT 4倍未満 髄液 NT 1倍未満		ギランバレー症候群 肝炎 ヘルパンギーナ 無菌性髄膜炎 手足口病 発疹性疾患	
	02820		3型NT									
	02790		4型NT									
	03228		5型NT									
	03227		6型NT				13～18	CF法	血清 8倍未満			
	02818		7型NT						9～15			血清 CF 4倍未満 NT 4倍未満 髄液 CF 1倍未満 NT 1倍未満
	02810		9型NT						4～6			
	02821		NT				9～15	NT法				
	02822		10型NT									
	02817		16型NT									

\* 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症関連検査	02811	CF 1型	血清各0.3 または 髄液各0.5	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4～6	CF法	血清 CF 4倍未満 NT 4倍未満 髄液 CF 1倍未満 NT 1倍未満		心筋炎 脳炎 ギランバレー症候群 ヘルパンギーナ 無菌性髄膜炎 麻疹 発疹 流行性筋膜炎
	03034	NT					9～15	NT法			
	02812	CF 2型					4～6	CF法			
	03035	NT					9～15	NT法			
	02813	CF 3型					4～6	CF法			
	03036	NT					9～15	NT法			
	02814	CF 4型					4～6	CF法			
	03037	NT					9～15	NT法			
	02815	CF 5型					4～6	CF法			
	03033	NT					9～15	NT法			
	02816	CF 6型					4～6	CF法			
		NT					9～15	NT法			

\* 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名		
感 染 症 関 連 検 査	02828	1型 NT	血清各0.3 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	* 79 免疫	9～15	NT法	血清 HI 8倍未満 NT 4倍未満 髄液 HI 1倍未満 NT 1倍未満	L	無菌性髄膜炎 上気道炎 発疹 脳炎 心筋炎		
	02829	HI					4～6	HI法		M			
	02924	3型 NT					9～15	NT法		L			
	02925	4型 NT											
	02830	6型 NT										L	
	02831	HI					4～6	HI法		M			
	02842	NT					9～15	NT法		L			
	02825	9型 NT										L	
	02832	HI					4～6	HI法		M			
	03020	NT					9～15	NT法		L			
	02833	HI					4～6	HI法		M			
		NT					9～15	NT法		L			
	03094	13型 NT											

\* 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感 染 症 関 連 検 査		14型 NT	血清各0.2 または 髄液各0.2	冷蔵	A または D	* 79 免疫	9~15	NT法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満		無菌性髄膜炎 上気道炎 発疹 脳炎 心筋炎
		16型 NT									
	04605	17型 NT									
	03131	18型 NT									
		エコー ウイルス 19型 NT									
		21型 NT									
		24型 NT									
		25型 NT									
	02835	30型 NT									

\* 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。



免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症関連検査	02716	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹標本	絶凍	Q1	*1 180 免疫	4～6	FA法	1型 陰性 2型 陰性	採取方法は 次頁参照 M	菌肉口内炎 ヘルペス脳炎 ヘルペス角結膜炎 ヘルペス湿疹
	03259	CF					4～6	CF法		M	
	02522	1型NT	血清各0.3 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	*2 79 免疫	11～16	NT法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	1型と2型には 抗原交差性が あります M	
	02523	2型NT									
	03012	IgG	血清0.3 または 髄液0.3		A	*3 200 免疫	4～6	EIA法	下記参照	主病変部位 1型：上半身 2型：下半身（性器） M	
	03013	IgM	血清0.3								
	02661	水痘・帯状 ヘルペスウイルス 抗原	塗抹標本	絶凍	Q3	227 免疫	3～4	FA法	陰性	採取方法は 次頁参照 L	水痘（みずぼうそう） 帯状疱疹
	03260	CF	血清各0.3 または 髄液各0.4	A または D	*2 79 免疫	4～6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	下記参照		
	02509	IgG	血清各0.4	A	*3 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照			
	02510	IgM							L		

\*1 ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。  
\*2 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。  
\*3 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

単純ヘルペスウイルスIgM・IgG 判定基準

判定	IgG (EIA価)		IgM (index)
	血清	髄液	
－	2.0未満	0.20未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.20～0.39	0.80～1.20
＋	4.0以上	0.40以上	1.21以上

水痘・帯状ヘルペスウイルス血清 判定基準

判定	IgG (EIA価)	IgM (index)
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

## 検体採取方法

### 検査項目

- ・単純ヘルペスウイルス特異抗原〔FA法〕
- ・水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔FA法〕

### 採取方法

病巣基底細胞が多数得られるように採取して下さい。  
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液及び膿は、検体として不適当です。

- ①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)
- ②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2)
- ③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
- ④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)

#### ●注意

膿がでている場合には綿棒でまず膿を拭い去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意して下さい。

図1

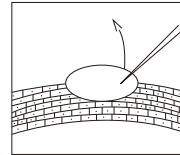


図2

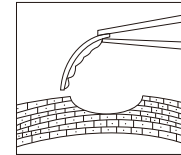
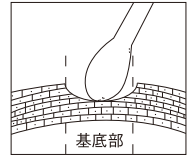


図3

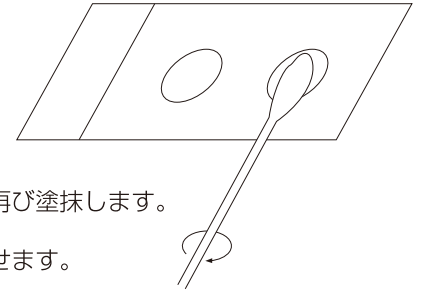


## 操作法

### ■検体の塗抹

- ①綿棒を回転させながらスライドガラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドガラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意して下さい。(図4)
- ②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
- ③そのまま風乾します。
- ④乾燥したスライドガラス上に十分な量（検体にゆきわたる）のアセトンを追加し、蒸発させます。

図4



### ■検体の保存

乾燥後のスライドガラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、施設名、氏名等を記入後、凍結保存して下さい。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症 関連 検査	03162	HTLV-Ⅰ抗体 (ATLA)	血清0.5	冷蔵	A	159 免疫	2～3	CLIA法	S/CO：1.00 未満 判定：(－)		成人T細胞白血病(ATL) ヒトT細胞白血病関連 脊髄症(HAM)
	03042		血清0.6			*1 425 免疫	4～10	ラインプロット法	陰性	他項目との重複 依頼は避ける。 M	
	03997	HTLV-1核酸同定	全血7.0 (注)	冷蔵	F1	*2 450 微生物	6～17	リアルタイム PCR法	検出せず	受付可能日：月～金 休前日不可 他項目との重複 依頼は避ける。M	
	01812	HIV抗原・抗体	血清0.5	冷蔵	A	*3 *4 109 免疫	2～3	CLIA法	(－)	陽性時は別途連絡	後天性免疫不全症候群 (AIDS)
	05502	HIV-1/2抗体確認検査	血清0.6	冷蔵	A5	*5 660 免疫	4～7	イムノクロマト グラフィー法	陰性(－)	他項目との重複 依頼は避ける。	
	04447	HIV-1RNA 定量 (TaqMan PCR 法)	血漿2.1	冷蔵	A9	*6 520 微生物	4～5	リアルタイム RT-PCR法	2.0×10 <sup>1</sup> 未満 コピー/mL 増幅反応シグナル：検出せず	M	
	04272	ニューモシスチス・ イロベチイ核酸同定	呼吸器系材料	凍結	D2		5～8	リアルタイム PCR法	検出せず	M	カリニ肺炎

\*1 HTLV-Ⅰ抗体定性、半定量又はHTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的として、ウエスタンブロット法またはラインプロット法により行った場合に算定する。

\*2 HTLV-1核酸検出は、HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインプロット法）によって判定保留となった妊婦、移植者（生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。）又は臓器等提供者（生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。）を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインプロット法）の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

\*3 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らか者及び診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対して、HIV-1抗体、HIV-1、2抗体定性、同半定量、HIV-1、2抗体定量、HIV-1、2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1、2抗原・抗体同時測定定量を実施した場合は、HIV感染症を疑わせる自覚症状の有無に関わらず所定点数を算定する。ただし、保険医療機関において採血した検体の検査を保健所に委託した場合は、算定しない。

ア 新生児出血症（新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等）等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者

イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者

ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐血があった者

エ 大量に出血するような手術を受けた者（出産時の大量出血も含む）

なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合、既応がある場合又は疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できる。

\*4 輸血（自己血輸血を除く。以下この項において同じ。）を算定した患者又は血漿成分製剤（新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等）の輸注を行った患者に対して、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概ね2カ月後にHIV-1抗体、HIV-1、2抗体定性、同半定量、HIV-1、2抗体定量、HIV-1、2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1、2抗原・抗体同時測定定量の測定が行われた場合は、HIV感染症を疑わせる自覚症状の有無に関わらず、当該輸血又は輸注につき1回に限り、所定点数を算定できる。他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であっても同様とする。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に当該輸血又は輸注が行われた最終日を記載する。

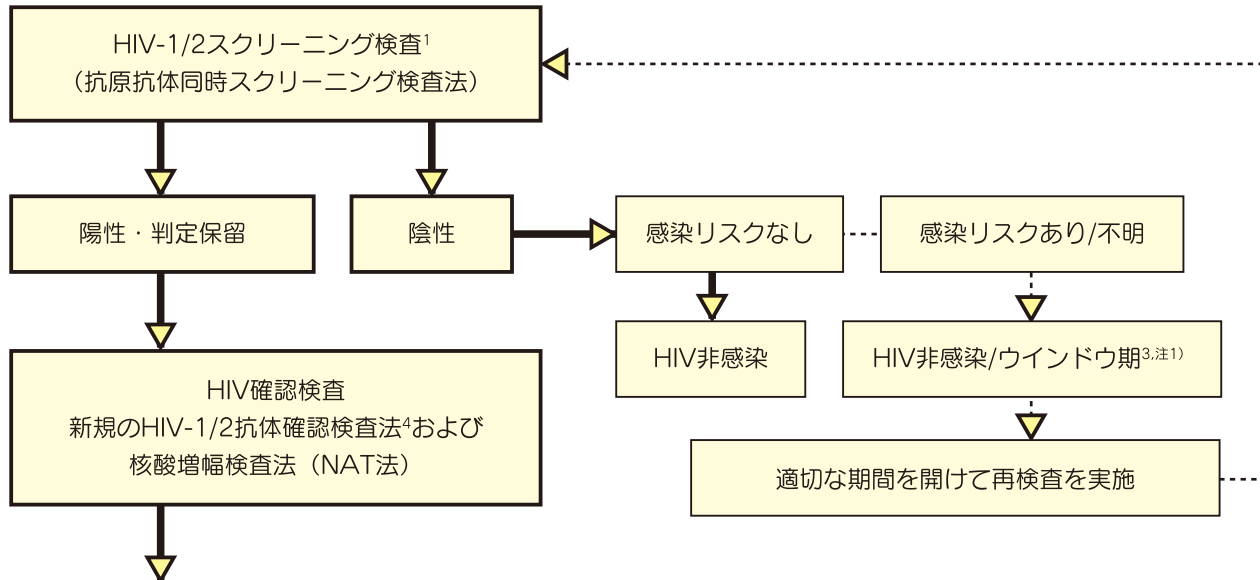
\*5 スクリーニング検査としてのHIV-1、2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1、2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1、2抗体定量又はHIV-1、2抗原・抗体同時測定定量によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として、全血、血清又は血漿を検体とし、イムノクロマト法により測定した場合に算定する。なお、本検査を実施した場合、HIV-1抗体（ウエスタンブロット法）及びHIV-2抗体（ウエスタンブロット法）は、別に算定できない。

\*6 HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1、2抗体定性、同半定量、HIV-1、2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1、2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1、2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。なお、本検査とHIV-1抗体（ウエスタンブロット法）を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。

(注) 採血後、速やかに検体を提出下さい（原則として採血後 24 時間以内の検体を用います）。

## 診療におけるHIV-1/2感染症診断のためのフローチャート

HIV-1/2感染症の診断法 2020年版  
(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法)



①HIV-1/2抗体確認検査法			総合判定(可能性含む)	
			②HIV-1核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	検出 (定量下限値未満含む) 【陽 性】	検出せず 【陰 性】
陽性	陽性	HIV感染者²	HIV-1及びHIV-2重複感染者	HIV-1 感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)⁶,注²・HIV-2 感染者²
	判定保留	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1 感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)⁶,注²
	陰性	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1 感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)⁶,注²
判定保留	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者及びHIV-2重複感染者	HIV-2 感染者²
	判定保留	HIV判定保留	急性HIV-1感染者⁵	HIV-1/2 判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染者⁵	HIV-1 判定保留(HIV-1 抗体偽反応⁷,⁸,注³) <2週間後再検査>
陰性	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者及びHIV-2重複感染者	HIV-2 感染者²
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染者⁵	HIV-2 判定保留(HIV-1 抗体偽反応⁷,⁸,注³) <2週間後再検査>
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染者⁵	HIV 非感染(リスクなし)又は HIV 判定保留 2週間後再検査(リスクあり)

- スクリーニング検査(抗原抗体同時スクリーニング検査)は、感度が高く、特異性が優れている検査試薬を使用する。
  - HIV感染者として扱う。HIV-2 NATは保険収載されていないため、HIV-1とHIV-2の確定診断については、国立感染症研究所または地方衛生研究所等に相談する。
  - 感染リスク(不特定多数との性交渉、海外での輸血、注射器・注射針の共用による薬物注射、医療現場による針刺し事故等)はあるが、スクリーニング検査が陰性の場合は、適切な期間をあけて、再度、スクリーニング検査から検査を行う。明らかな感染のリスクがある場合や急性感染を疑う症状がある場合には、抗原抗体同時検査法によるスクリーニング検査に加えHIV-1 NAT法による検査の追加も考慮する必要がある(ただし、現時点ではスクリーニング検査陰性者に対するHIV-1 NAT検査の保険適用がない)。
  - HIV-1/2抗体確認検査法はHIV-1の検査において、感度99.3%、特異性98.5%と、WB法(感度98.6%、特異性81.5%)よりも優れているが<sup>5)</sup>、偽反応は存在する。
  - 後日、適切な時期にHIV-1/2抗体確認検査法で陽性を確認する。
  - 抗体確認検査法より確定したHIV-1感染者においてHIV-1 NAT法で「陰性」の場合は、治療中の患者または低ウイルス感染の可能性が高い。
  - IC法によるスクリーニング検査が陽性でHIV-1 NAT陰性の10例中2例でHIV-1/2抗体確認検査においてHIV-1判定保留との報告がある<sup>6)</sup>。
  - 2週間後以降の再検査において、スクリーニング検査が陰性であるか、再度HIV-1/2抗体確認検査が陰性/保留であれば、初回のスクリーニング検査は偽陽性であり、「非感染(感染はない)」と判定する。
- 注1 HIVの感染初期には検査で陰性となり、感染していることが検査では分らない時期がある。これを「ウィンドウ期(ピリオド)」と言う。CDCでは第4世代のスクリーニング検査試薬のウィンドウ期は多くの場合、感染暴露後から約13～42日間としている。[https://wwwn.cdc.gov/hivrisk/how\\_know/window\\_period.html](https://wwwn.cdc.gov/hivrisk/how_know/window_period.html)
- 注2 HIV-1治療中の患者では血中HIV-1 RNA量が検出せずを示すことが多い。HIV-1感染者においてもまれに未治療でも血中HIV-1 RNAが検出されないことがある。HIV-1 NAT検査は2020年において3社から発売されている。定量検出感度(95%以上の検出率が得られるRNA濃度)は20～40コピー/mLであり、「検出せず」または「検出されず」となるRNA濃度は各社毎に異なる場合がある。
- 注3 スクリーニング検査陽性には検査法によっては0.47%程度の偽陽性が含まれる可能性がある。感染リスクのない妊婦健診、術前検査等の場合にはスクリーニング検査陽性例の多くが偽陽性反応によるため、結果の説明には注意が必要である。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感 染 症 関 連 検 査	02516	IgG クラミジア トラコマチス 抗体	血清0.4	冷蔵	A	*1 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	クラミジア トラコマチス感染症 (骨盤内感染症 卵管炎 副睾丸炎 新生児乳児肺炎等)
	02515	IgA	血清0.4	冷蔵	A						
	02919	クラミジア トラコマチス 核酸同定検査	初尿 4.5	室温	Q12	*2 *3 188 微生物	2～3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	陰性	(注) 採取方法は 次頁参照	
	00281		ぬぐい液	室温	Q11						
	04760		うがい液4.5	室温	Q12						
	03177	IgG	血清0.4	冷蔵	A	*4 70 免疫	4～7	EIA法	下記参照	L	
03289	IgA	血清0.4	冷蔵	A	*4 75 免疫						
03362	IgM	血清0.4	冷蔵	A	*4 152 免疫	3～6					
02913	オウム病抗体 (クラミドフィラ・シッタシ抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*5 79 免疫	4～6	CF法	4倍未満	M	クラミドフィラ シッタシ感染症 オウム病 間質性肺炎	

\*1 クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

\*2 クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なるもののみ算定する。

\*3 泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

\*4 クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

\*5 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

(注) 遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。（但し、淋菌・クラミジア・トラコマチス検査の同時依頼は可能です。）

クラミジアトラコマチス抗体IgG,IgA 判定基準

判定	index
(－)	0.90未満
(±)	0.90～1.09
(＋)	1.10以上

クラミドフィラニューモニエ抗体IgG,IgA,IgM 判定基準

判定	IgG(EIU 値)	IgA(EIU 値)	IgM(S/CO)
(－)	30 未満	8 未満	0.5 未満
(±)	30～45	8～12	0.5～1.1
(＋)	45 を超える	12 を超える	1.1 を超える



分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
感染症関連検査	03151	淋菌核酸同定検査	初尿 4.5	室温	Q12	*1 *2 198 微生物	2~3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	陰性	(注) 採取方法は 下記参照	淋菌感染症
	00286		ぬぐい液	室温	Q11						
	04761		うがい液4.5	室温	Q12						

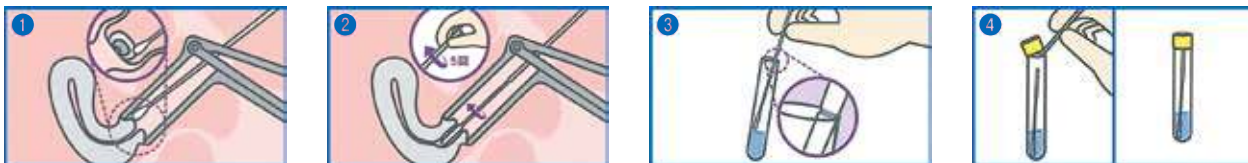
\*1 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。  
 \*2 泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又は、TRC法においては咽頭からの検体も算定できる。  
 (注) 遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。（但し、淋菌・クラミジアトラコマチス検査の同時依頼は可能です。）

## 検体採取方法

### 検査項目

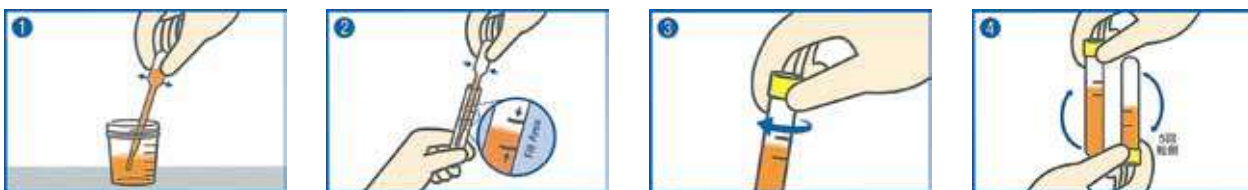
- ・クラミジアトラコマチス核酸検出 [リアルタイムPCR法]
- ・淋菌核酸検出 [リアルタイムPCR法]

### ●子宮頸管検体の採取方法



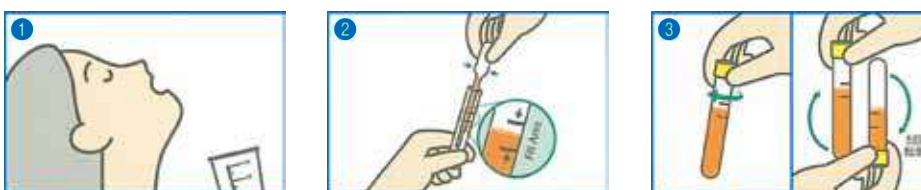
- 子宮頸部の粘液除去** スwab検体採取セット付属の1本目のSwabで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。  
**【注意】** 粘液を拭ったSwabは廃棄します。
- 子宮頸管検体の採取** 付属されている2本目のSwabを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回Swabを回します。（まわし過ぎないでください。）  
 Swabを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。
- 子宮頸管検体の保存** コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したSwabの先端の綿球がコバスPCRメディアの溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。
- コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、Swabの柄に付けられた線で折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。  
**【注意】** 手に残った折られた柄は廃棄してください。Swabの柄を折る際は絶対に**はさみを使用しないでください。**

### ●尿検体の採取方法



- 尿検体の採取** 滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿をコバスPCRメディアに移します。  
**【注意】** 初尿は採取後2~30℃で24時間以内にPCRメディアに移してください。
- コバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
- 尿検体の保存** コバスPCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。
- コバスPCRメディアを5回転倒混和させてください。

### ●うがい液検体の採取方法



- うがいの仕方** 生理食塩水（日局方など）をコップに15~20mL入れてください。生理食塩水15~20mLを口に含み、顔を上に向けて10~20秒間、勢いよく「ガラガラ」とうがいを行います。  
**【注意】** 口に含んで吐き出した液うがい用容器に残した液を合わせてうがい液とします。
- 検体輸送液への懸濁** うがい液全量をうがい用容器に回収し、スポイトでコバスPCRメディア（尿・うがい用）に必要量添加します。  
**【注意】** うがい液はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体容器の保管** PCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。PCRメディアを5回転倒混和させてください。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
肝 炎 ウ イ ル ス 検 査	01825	HA-IgG抗体	血清0.6	冷蔵	A	*1 146 免疫	3~4	CLIA法	次頁参照	L	A型肝炎
	01826	HA-IgM抗体	血清0.6	冷蔵	A		3~4	CLIA法	次頁参照	L	
	00246	HBs抗原	血清0.3	冷蔵	A	29 免疫	1~2	イムノクロマト グラフィー法	陰性	B型肝炎ウイルス (HBV) 感染の診断は、本検査に よる検査結果のみで行わ ず、HBc抗体測定等、他 の検査結果及び臨床経 過を考慮して総合的にご 判断ください。	B型肝炎
	02202		血清0.5	冷蔵	A	*2 88 免疫	1~2	CLIA法	0.05未満 陰性 IU/mL		
	00247	HBs抗体	血清0.3	冷蔵	A	32 免疫	1~2	イムノクロマト グラフィー法	陰性		
	03651		血清0.2	冷蔵	A	32 免疫	3~5	PHA法	8倍未満	L	
	02205		血清0.5	冷蔵	A	*2 88 免疫	1~2	CLIA法	10.0未満 陰性 mIU/mL	10.0mIU/mLはHBV ワクチンの追加接種 基準としてのカット オフ値	
	01822	HBc抗体	血清0.4	冷蔵	A	*2 *3 130 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	01824	HBc-IgM 抗体	血清0.5	冷蔵	A	*2 *3 146 免疫	2~4	CLIA法	次頁参照	L	
	01819	HBe 抗原	血清0.3	冷蔵	A	98 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	01821	HBe 抗体	血清0.4	冷蔵	A	98 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	04438	高感度 HBcrAg 定量 (高感度 HBV コア関連抗原)	血清0.5	冷蔵	A	*4 252 免疫	3~4	CLEIA法	2.1未満 LogU/mL	L	
	04471	HBV-DNA定量	血清2.0	凍結	A8	*5 256 微生物	2~6	リアルタイムPCR法 (TaqMan PCR法)	1.0未満 Log IU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。	
	04591	HBV 遺伝子型 (HBV ジェノタイプ判定)	血清0.5	冷蔵	A	*6 340 免疫	3~9	EIA法		報告形式：A、B、C、Dまたは 「検出されず」 HBs 抗原量が少なく、型判定 が不可能な場合に「検出され ず」とご報告いたします。 L	

- \*1 HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
- \*2 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前にHBs抗原、HBs抗体及びHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
- \*3 HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
- \*4 HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原 (HBcrAg) を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- \*5 B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
- \*6 B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合、患者1人につき1回に限り算定できる。



# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
肝炎ウイルス検査	00201	HCV 抗体	血清0.4	冷蔵	A	102 免疫	1~2	CLIA法	S/CO : 1.00未満 判定 : 陰性		C型肝炎
	04118	HCV コア抗原	血清0.5	冷蔵	A	102 免疫	3~4	CLIA法	3.0未満 fmol/L	M	
	03234	HCV 群別 (HCV グルーピング)	血清0.6	冷蔵	A	*1 215 免疫	3~4	CLEIA法	下記参照	L	
	04448	HCV-RNA 定量	血清2.1	凍結	A5	*2 412 微生物	2~5	リアルタイム RT-PCR法 (TagMan PCR法)	1.2未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル: 検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。	
	02922	HCVサブタイプ系統解析	血清0.5	凍結	A5		6~11	RT-PCR法/ ダイレクトシーケンス法	型別判定 1a,1b,1c,1d,2a,2b, 2c,3a,3b,4,5a,6a, (12型)	他項目との重複 依頼は避ける。 M	E型肝炎
	04684	IgA-HEV抗体	血清0.3	凍結	A	210 免疫	4~10	EIA法	陰性	M	

\*1 C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

\*2 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。なお、治療経過の観察の場合において、HCV核酸検出及びHCV核酸定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

## 肝炎ウイルス抗原・抗体関連検査 判定基準一覧表

検査項目	単位	陰性	判定保留	陽性
HA-IgG抗体	S/CO	1.00未満	—	1.00以上
HA-IgM抗体	S/CO	0.80未満	0.80~1.20	1.21以上
HBc抗体	S/CO	1.00未満	—	1.00以上
HBc-IgM抗体	S/CO	1.00未満	—	1.00以上
HBe抗原	S/CO	1.00未満	—	1.00以上
HBe抗体	inhibition	50.0%未満	—	50.0%以上

## HCV群別（HCVグルーピング）判定基準

判定基準	報告
一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合	GROUP 1 または GROUP 2
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します。	
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上とならない場合で、どちらのグループか判定できない場合。	判定保留
どちらのグループの抗体も陰性の場合。	判定不能 (不検出)

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
その他	05503	SARS-CoV-2 抗原 定量	鼻咽頭 または 鼻腔 ぬぐい液	冷蔵	D-5	*1 560 免疫	1~2	ECLIA法	COI : 1.0未満 判定 : 陰性		新型コロナウイルス 感染症
	02608	肝細胞増殖因子 (HGF)	血清0.2	冷蔵	A	*2 227 生化I	3~6	EIA法	0.39以下 ng/mL	L	劇症肝炎
	03378	ヒトインターフェロン $\gamma$ (IFN- $\gamma$ )	血漿0.3	凍結	F1		4~18	EIA法	20.6以下 pg/mL	血清も可 M	インターフェロン治療 のモニタリング
	03377	腫瘍壊死因子- $\alpha$ (TNF- $\alpha$ )	血清0.3	凍結	A2		事前 にご確 認下 さい	EIA法	pg/mL	他項目との重複 依頼は避ける L	炎症性大腸疾患 SLE 関節リウマチ 川崎病

\*1 ア SARS-CoV-2抗原定量はCOVID-19が疑われる患者に対して、COVID-19の診断を目的として実施した場合に1回に限り算定する。ただし、本検査の結果が陰性であったものの、COVID-19以外の診断がつかない場合は、さらに1回に限り算定できる。この場合において、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

イ 本検査を実施した場合、SARS-CoV-2抗原定性、SARS-CoV-2・インフルエンザウイルス抗原同時検出定性、SARS-CoV-2・RSウイルス抗原同時検出定性及びSARS-CoV-2・インフルエンザウイルス・RSウイルス抗原同時検出定性については、別に算定できない。

\*2 肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	備考
ウイルス分離・同定	03007	ウイルス分離	下記参照	下記参照	P2		月一回 (不定期)	HeLa（ヒト子宮頸癌細胞）、Hep-2（ヒト咽頭癌細胞）、HEL（ヒト胎児肺細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、RD18S（ヒト横紋筋腫細胞）、B95a（マーマセトリンバ球由来細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、LLC-MK2（アカゲザル腎細胞）	水泡液の採取に際しては、予め滅菌生理食塩水にて皮膚を洗浄して下さい（アルコール消毒は不可） M
	02834	ウイルス同定	下記参照	下記参照	P2			蛍光抗体法、中和試験などで行います。アデノウイルス、エンテロウイルスについては、中和試験もしくはPCR法にて同定します。	

## 分離可能ウイルス及び主要検体

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

分離可能ウイルス	主要検体	保存条件	同定可能な型
サイトメガロ（CMV）	咽頭ぬぐい液、尿	冷蔵 凍結不可 ※1	
水痘・帯状ヘルペス	水泡		
単純ヘルペス	咽頭ぬぐい液、水泡、陰部ぬぐい液	凍結 -70℃以下 ※2	1、2型
アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便、尿、結膜ぬぐい液		1、2、3、4、5、6、7、8、11、19、37型
インフルエンザ	咽頭ぬぐい液		A/H1、A/H3、B型
パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、喀痰		1、2、3、4型
ムンプス	髄液、咽頭ぬぐい液		
コクサッキーA群	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便、結膜ぬぐい液		7、9、16、24型
コクサッキーB群	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		1、2、3、4、5、6型
エコー	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		1、3、4、5、6、7、9、11、12、13、14、16、17、18、19、22、24、25、30型
エンテロ	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		71型
麻疹 ※3	咽頭ぬぐい液		

## 採取方法

検体は、発症後速やかに（一般的に4日以内）無菌的に採取・保存して下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意ください。

### ①各種ぬぐい液および水泡：

滅菌済みのプラスチック製綿棒にて採取、ウイルス保存液入りバイアルびんに綿棒を入れてよく攪拌後、綿棒を容器上部で折り、密栓して下さい。

木製綿棒の使用は避けて下さい。

木製綿棒を使用した場合は、綿棒を抜いて密栓して下さい。

### ②糞便： 小指頭大の半分（0.5g）をウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

### ③髄液： 1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

### ④喀痰・尿： 1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

ウイルス保存液（ゲンタマイシン加0.5%BSA含有ブイヨン）入りバイアルびんは、当社にて準備致しますので、担当者にお申し付け下さい（容器番号P2）。

ウイルス分離検査・同定検査は、同時にご依頼して下さい。

ウイルスが分離された場合のみ、同定検査を実施致します。

ウイルス「分離」および「同定」は、個別に検査料金を申し受けます。

（ウイルス分離検査が陰性の場合は、同定検査の検査料金はかかりません。）

※1：サイトメガロ、水痘・帯状ヘルペスは、凍結により活性が低下するため、冷蔵で保存して下さい。他のウイルスと同時に依頼される場合は、2本に分けて（1本冷蔵、1本凍結）提出して下さい。

※2：凍結は-70℃とし、-20℃では保存しないで下さい。

※3：麻疹ウイルスの分離をご依頼される場合は、事前にご連絡下さい。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
細胞性免疫検査	04347	HLA タイピング	A・B	全血2.0	冷蔵	F1	4～6	PCR-γ SSO法	下記参照	(注) 続柄・臨床診断名 ・投与薬剤名・輸 血歴・移植歴は必 ず明記HLA検査以 外の項目との重複 依頼不可	臓器移植 HLA型適合血小板輸血 強直性脊椎炎	
	04348		DR	全血2.0	冷蔵	F1						
	06713	HLA-DNA タイピング	A	全血2.0	冷蔵	F1	6～9	PCR-SBT法	DNAタイピングの 種類はお問合せ下 さい			
	04404		B	全血2.0	冷蔵	F1						
			C	全血2.0	冷蔵	F1						
	04781		DRB1	全血2.0	冷蔵	F1	5～11	PCR-SSP法				
			DQA1	全血3.0	冷蔵	F1						
	05171		DQB1	全血2.0	冷蔵	F1	6～9	PCR-SBT法				
	06740		DPB1	全血2.0	冷蔵	F1						
												M

(注) HLA型判定、遺伝子型判定検査の留意点

1) 「HLA型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互のcross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。

①真空採血管を使用し、採血して下さい。

②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。

③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。

④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理して下さい。

2) 複数項目を同時にご依頼の場合、HLA型判定、AB LocusおよびDR LocusはEDTA加血液2mL、HLA遺伝子型判定群では3項目までは同2mL、4項目以上は同4mLで検査可能です。ただし、DQA1は単独でEDTA加血液3mLが必要となります。

3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/ $\mu$ L以下の場合、所定量の2倍の血液をご提出下さい。

4) 血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。

HLAタイピングの種類

HLA-タイピング

HLA-A, B

HLA-DR

A			B						DR		
A1	A25 (10)	A34 (10)	B7	B22	B44 (12)	B53	B62 (15)	B75 (15)	DR1	DR9	DR17 (3)
A2	A26 (10)	A36	B8	B27	B45 (12)	B54 (22)	B63 (15)	B76 (15)	DR2	DR10	DR18 (3)
A3	A28	A43	B12	B35	B46	B55 (22)	B64 (14)	B77 (15)	DR3	DR11 (5)	
A9	A29 (19)	A66 (10)	B13	B37	B47	B56 (22)	B65 (14)	B78	DR4	DR12 (5)	
A10	A30 (19)	A68 (28)	B14	B38 (16)	B48	B57 (17)	B67	B81	DR5	DR13 (6)	
A11	A31 (19)	A69 (28)	B15	B39 (16)	B49 (21)	B58 (17)	B70		DR6	DR14 (6)	
A23 (9)	A32 (19)	A74 (19)	B16	B40	B50 (21)	B59	B71 (70)		DR7	DR15 (2)	
A24 (9)	A33 (19)	A80	B18	B41	B51 (5)	B60 (40)	B72 (70)		DR8	DR16 (2)	
			B21	B42	B52 (5)	B61 (40)	B73				

# 免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名	
NK細胞活性	04436	NK細胞活性	全血6.0	室温	M3		4～5	<sup>51</sup> Cr遊離法	下記参照 %	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可 白血球数が3,000/μL以下の 場合は、倍量必要 M	免疫機能の評価	
リンパ球幼若化試験	02791	薬剤による リンパ球刺激試験 (D-LST)	全血10 (注)	室温	H3	*1 1薬剤 345 2薬剤 425 3薬剤以上 515 免疫	8～10	<sup>3</sup> H-サイミジン 取込能測定法	S.I. + ≥ 1.8 ± 1.6～1.7	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は 受付不可、開封厳禁 L		
	02942	PHA リンパ球	全血各5.0	室温	M3	*1 345 免疫	7～8	<sup>3</sup> H-サイミジン 取込能測定法	PHA+ 41000～79900 Control 180～660 cpm	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は 受付不可 白血球数が 3,000/μL以下の 場合は、倍量必要 M	免疫不全症 膠原病 自己免疫疾患	
	02943	Con-A 幼若化試験				*1 345 免疫			Con-A+ 34400～62300 Control 180～660 cpm			
リンパ球	02944	T・B細胞百分率	全血3.0	室温	B	193 免疫	3～4	フローサイト メトリー法	T細胞 72～90 B細胞 7～30 %	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は 受付不可 M	免疫不全症 悪性腫瘍 自己免疫性疾患 白血病	
		Single-color解析 による細胞表面 マーカー検査	全血3.0	室温	B	*2 185 免疫	3～4		次頁参照			
		Two-color解析 による細胞表面 マーカー検査	全血3.0	室温	B	*2 185 免疫	3～4	Two-color フローサイト メトリー法				
サブセット	04138	IgG	全血3.0	室温	B	155 免疫	3～4	フローサイト メトリー法	3～12 % 44～271 /μL	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は 受付不可 M	急性・慢性リンパ性白血病 無(低)免疫グロブリン血症	
	04139	IgA							3～9 % 35～205 /μL			
	04140	B細胞 サブクラス							IgM			2～7 % 24～138 /μL
	04141	(表面免疫 グロブリン)							IgD			1～6 % 1～145 /μL
	02501	K							1～13 % 4～279 /μL			
	02502	L							1～10 % 8～204 /μL			

\*1 Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

\*2 T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

(注) 1薬剤増すごとに血液5mL必要。血液と同時に依頼薬剤も提出(1回投与量記入)(坐薬、皮内反応注射薬は検査不可)

## NK細胞活性 健常者対照表

[E/T比 50 : 1]

	男性 (%)	女性 (%)
$\bar{X}$	59.79	50.09
S.D.	15.65	13.36
$\bar{X} \pm 1S.D.$	44.1~75.4	36.7~63.4

[年齢別・性別対照表E/T比 50 : 1]

年齢		男性 (%)	女性 (%)	男女 (%)
20~29歳	$\bar{X}$	58.71	52.62	55.53
	S.D.	15.50	12.68	14.28
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	43.2~74.2	39.9~65.3	41.2~69.8
30~39歳	$\bar{X}$	58.97	44.05	52.39
	S.D.	16.11	11.91	16.07
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	42.8~75.0	32.1~55.9	36.3~68.4
40~49歳	$\bar{X}$	60.54	51.40	56.73
	S.D.	13.65	17.24	15.66
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	46.8~74.1	34.1~68.6	41.0~72.3
50~59歳	$\bar{X}$	62.38	50.97	55.72
	S.D.	20.15	11.16	16.19
	$\bar{X} \pm 1S.D.$	42.2~82.5	39.8~62.1	39.5~71.9

免疫血清学的検査

Single-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

検査コード	CDナンバー	抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)	検査コード	CDナンバー	抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)		
T細胞	02882	CD1a	胸腺細胞	1以下	NK細胞	03320	CD56	NK細胞、T細胞サブセット（N-CAM、NKH1）	4～35
	02878	CD2	T細胞、NK細胞、LFA-2（E-ロゼットレセプター）	72～90		03321	CD57	NK細胞サブセット、T細胞サブセット（HNK1）	4～30
	02877	CD3	成熟T細胞（TCRα・β・γ・δに結合）	56～86	接着分子	02885	CD11b	単球、NK細胞、顆粒球、マクロファージ（MAC-1α、インテグリンαM、CR3）	11～41
	02879	CD4	helper/inducerT細胞（HIV-レセプター）	29～55			CD11c	単球、顆粒球、マクロファージ（p150、インテグリンαX、CR4）	2～22
	04500	CD5	T細胞、B細胞サブセット	56～84	その他		CD25	活性化T細胞、B細胞、活性化マクロファージ（Tac抗原、IL-2Rα）	8以下
	02888	CD7	T細胞、NK細胞、未成熟骨髓細胞サブセット	58～86			CD30	活性化T/B細胞、Reed-Sternberg/Hodgkin細胞、伝染性単核症の異型リンパ球、未分化大細胞性リンパ腫細胞、成人T細胞白血病細胞、正常リンパ組織の大型リンパ芽球	3以下
	02880	CD8	suppressor/cytotoxicT細胞、NK細胞サブセット	19～41			CD41	血小板、巨核球（GPⅡbⅢa）	5以下
	03059	CD38	前駆細胞、形質細胞、活性化T細胞、B細胞、胸腺細胞	26～63			CD42b	血小板、巨核球（GPⅠbα）	2以下
		TCRγ/δ	T細胞	11以下		02883	CD71	活性化細胞（T9抗原、トランスフェリンレセプター）	6以下
B細胞	02884	CD10	commonALL、pre-B細胞、胸腺細胞サブセット、顆粒球	1以下		02881	抗HLA-DR	B細胞、単球、活性化T細胞（HLAクラスⅡ-DR抗原）	11～36
	02933	CD19	pre-B細胞を含むB細胞	6～23		抗HLA-DQ	B細胞サブセット（HLAクラスⅡ-DQ抗原）	7～20	
	02959	CD20	B細胞、濾胞内樹状細胞	7～30		抗グリコホリンA	赤芽球、赤血球	7以下	
	04501	CD21	成熟B細胞（CR2、EBVレセプター）	2～19					
	04502	CD22	B細胞全般（BL-CAM）	3～20					
	05479	CD23	〈A型〉成熟B細胞全般〈B型〉活性化B細胞、好酸球、単球/マクロファージ、血小板（FcεレセプターⅡ）	9以下					
骨髓球系	05480	CD24	B細胞、顆粒球	5～24					
	02932	CD13	単球、顆粒球、骨髓細胞	4以下					
		CD14	単球、樹状細胞、マクロファージ	2以下					
		CD15	顆粒球、ホジキン病	4以下					
	03319	CD16	NK細胞、顆粒球、マクロファージ、単球（FcγレセプターⅡA/ⅡB）	3～33					
	02982	CD33	単球、骨髓細胞	2以下					
	03000	CD34	造血前駆細胞	2以下					
	CD35	顆粒球、単球/マクロファージ、赤血球、B細胞、一部のNK細胞（CR1）	6～24						

02886	CD4/CD8比	0.6～2.4
-------	----------	---------

CD：Cluster of differentiation

（曜日指定）：細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から金曜日までです。

\* T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

Two-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

検査コード	モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)	検査コード	モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)
03092	CD3X抗HLA-DR	CD3+抗HLA-DR+	11以下		CD4XCD45RA	CD4+CD45RA+	5〜21
		CD3+抗HLA-DR-	55〜84			CD4+CD45RA-	16〜49
		CD3-抗HLA-DR+	1〜16			CD4-CD45RA+	20〜47
		CD3-抗HLA-DR-	2〜29			CD4-CD45RA-	2〜34
	CD4X抗HLA-DR	CD4+抗HLA-DR+	4以下	02934	CD4XCD45RO	CD4+CD45RO+	16〜33
		CD4+抗HLA-DR-	28〜56			CD4+CD45RO-	2〜24
		CD4-抗HLA-DR+	4〜19			CD4-CD45RO+	10〜36
		CD4-抗HLA-DR-	25〜60			CD4-CD45RO-	32〜51
	CD8X抗HLA-DR	CD8+抗HLA-DR+	7以下	02935	CD5XCD20	CD5+CD20+	10以下
		CD8+抗HLA-DR-	16〜39			CD5+CD20-	47〜85
		CD8-抗HLA-DR+	4〜19			CD5-CD20+	16以下
		CD8-抗HLA-DR-	46〜67			CD5-CD20-	4〜34
	CD3XCD56	CD3+CD56+	11以下		CD8XCD11b	brightCD8+CD11b+	9以下
		CD3+CD56-	48〜81			brightCD8+CD11b-	6〜25
		CD3-CD56+	7〜17			brightCD8-dullCD8+CD11b+	40以下
		CD3-CD56-	11〜27			CD8-CD11b-	34〜73
04181	CD4XCD8	CD4+CD8+	1以下	03302	CD57XCD16	CD57+CD16+	19以下
		CD4+CD8-	28〜57			CD57+CD16-	22以下
		CD4-CD8+	9〜38			CD57-CD16+	7以下
		CD4-CD8-	15〜45			CD57-CD16-	55〜95
	CD4XCD29	CD4+CD29+	12〜36		抗TCRγ/δXCD3	抗TCRγ/δ+CD3+	8以下
		CD4+CD29-	7〜29			抗TCRγ/δ+CD3-	0
		CD4-CD29+	16〜50			抗TCRγ/δ-CD3+	50〜81
		CD4-CD29-	7〜38			抗TCRγ/δ-CD3-	13〜44

（曜日指定）：細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から金曜日までです。



# 腫瘍関連検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
腫	00581	CEA (癌胎児性抗原)	血清0.3	冷蔵	A	*1 99 生化Ⅱ 腫管	1~2	CLIA法	5.0以下 ng/mL		悪性腫瘍 転移性肝癌
	03088	BFP (塩基性 フェトプロテイン)	血清0.3	冷蔵	A2	150 生化Ⅱ 腫管	4~7	EIA法	75未満 ng/mL	溶血不可 M	原発性肝癌 卵巣癌 脾癌 胆道癌
	04446	抗p53抗体	血清0.5	冷蔵	A	*2 163 生化Ⅱ 腫管	3~4	CLEIA法	1.30以下 U/mL	L	乳癌・大腸癌 食道癌 悪性腫瘍
瘍	01829	α-フェトプロテイン (AFP)	血清0.3	冷蔵	A	*3 98 生化Ⅱ 腫管	1~2	CLIA法	10.0以下 ng/mL		肝細胞癌 肝硬変 慢性肝炎
	03587	AFPレクチン分画比	血清0.4	冷蔵	A	185 生化Ⅱ 腫管	4~5	LBA(LBA-EATA)法	L3 10.0未満 %	M	肝細胞癌
	03072	PIVKAⅡ	血清0.3	冷蔵	A	*3 131 生化Ⅱ 腫管	2~3	CLIA法	40未満 mAU/mL		肝細胞癌 肝硬変 慢性肝炎
連	01839	神経特異エノラーゼ (NSE)	血清0.3	冷蔵	A	*4 142 生化Ⅱ 腫管	2~3	ECLIA法	16.3以下 ng/mL	溶血により高値 傾向を示す	肺癌（小細胞癌） 神経芽細胞腫
	01841	SCC 抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	血清0.3	冷蔵	A	101 生化Ⅱ 腫管	2~3	CLIA法	1.5以下 ng/mL	唾液・フケ・皮膚 などの混入により 高値傾向を示す (頻回穿刺に注意)	肺癌（扁平上皮癌） 子宮頸癌 食道癌
	02695	サイトクラチン 19フラグメント (シフラ)	血清0.3	冷蔵	A	*5 154 生化Ⅱ 腫管	2~3	ECLIA法	3.5以下 ng/mL		肺癌（扁平上皮癌・腺癌） 肺炎
検	02696	ProGRP (ガストリン放出 ペプチド前駆体)	血漿0.3	冷蔵	F1	*4 175 生化Ⅱ 腫管	3~4	CLIA法	81.0未満 pg/mL	M	肺癌（小細胞癌）
	02079	シアリル Le <sup>x</sup> -i 抗原 (SLX)	血清0.4	冷蔵	A	140 生化Ⅱ 腫管	4~6	RIA 固相法 (IRMA)	38.0以下 U/mL	溶血不可 L	肺癌（腺癌） 脾癌 卵巣癌
	03964	HE4 (ヒト精巣上体蛋白 4)	血清0.3	冷蔵	A	200 生化Ⅱ 腫管	4~6	CLIA法	閉経前女性 70.0以下 閉経後女性 140.0以下 pmol/L	日本人卵巣癌患者における 病態の経過観察としての カットオフ値：70.0pmol/L 以下(閉経前、閉経後) M	卵巣癌

●(腫管)印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

- \*1 癌胎児性抗原(CEA)とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原(CEA)を行った場合
- \*2 食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。
- \*3 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α-フェトプロテイン(AFP)、PIVKAⅡ半定量又は定量を行った場合(月1回に限る。)
- \*4 ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- \*5 悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。



# 腫瘍関連検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
腫瘍 関 連 検 査	01920	前立腺特異抗原 (PSA)	血清0.3	冷蔵	A		1~2	CLIA法	4.0以下 ng/mL	(注)	前立腺癌 前立腺肥大症
	03332	PSA-ACT	血清0.5	冷蔵	A		3~4	CLIA法	3.4以下 ng/mL	(注)	
	06141	高感度PSA	血清0.3	冷蔵	A		2~3	CLEIA法	4.000以下 ng/mL	(注)	
	04013	フリーPSA/ トータルPSA比	血清0.7	冷蔵	A		2~4	CLIA法	26.1以上 %	(注)	
	01845	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	血清0.4	凍結	A		3~4	CLEIA法	4.00以下 ng/mL	(注)	M
	01837	CA125	血清0.3	冷蔵	A		1~2	CLIA法	35以下 U/mL		卵巣癌 子宮癌 子宮内膜症 膀胱癌
	02087	CA72-4	血清0.3	冷蔵	A		3~4	ECLIA法	8.0以下 U/mL		卵巣癌 大腸癌 胃癌 乳癌 膀胱癌
	03501	シアリル Tn 抗原 (STN)	血清0.3	凍結	A		4~9	RIA法 (ビーズ固相法)	45.0以下 U/mL		卵巣癌 子宮頸癌 胃癌 大腸癌 膀胱癌
	03100	CA54/61	血清0.6	冷蔵	A		3~5	EIA法	12.0以下 U/mL		卵巣癌
	03101	CA602	血清0.6	冷蔵	A		3~5	EIA法	63.0以下 U/mL		卵巣癌 子宮内膜症
腫瘍 関 連 検 査	01843	CA15-3	血清0.4	冷蔵	A		2~3	CLIA法	31.3以下 U/mL		乳癌
	02506	BCA225	血清0.6	冷蔵	A		3~4	CLEIA法	160.0未満 U/mL		乳癌

●  印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

\*1 診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するにあたっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

\*2 診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

\*3 CA125及びCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125、又は、CA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。）

\*4 シアリルLe<sup>x</sup>抗原（CSLEX）とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(注) 前立腺触診、内視鏡カテテルなどの尿道刺激後24時間以内は一過性の上昇を示す。

# 腫瘍関連検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	01844	DUPAN-2	血清0.3	冷蔵	A	*1 115 生化Ⅱ 腫管	4~6	EIA法	150以下 U/mL	L	肺癌 胆道癌
	01835	エラスターゼ1	血清0.5	冷蔵	A	*2 120 生化Ⅱ 腫管	2~3	LA法	300以下 ng/dL		肺癌 急性・慢性肺炎
	01836	CA19-9	血清0.3	冷蔵	A	121 生化Ⅱ 腫管	1~2	CLIA法	37以下 U/mL		肺癌 胆道癌 大腸癌
	01848	SPan-1	血清0.3	冷蔵	A	144 生化Ⅱ 腫管	3~5	ビーズ 固相法 (IRMA)	30以下 U/mL	M	肺癌 胆道癌
	03079	NCC-ST-439	血清0.6	冷蔵	A	112 生化Ⅱ 腫管	3~4	EIA法	男女 (49歳以下) 4.5未満 (50歳以上) 7.0未満 4.5未満 U/mL	L	肺癌 胆道癌 乳癌
	02683	可溶性 IL-2 受容体 (可溶性インター ロイキン-2レセプター)	血清0.4	冷蔵	A	*3 438 生化Ⅱ 腫管	3~4	CLEIA法	121~613 U/mL	M	成人T細胞白血病 (ATL) 非ホジキンリンパ腫
	03153	I型コラーゲン Cテロペプチド (ICTP)	血清0.5	冷蔵	A	170 生化Ⅱ *4 腫管	3~5	RIA 二抗体法	5.5未満 (骨転移判定の cut off 値) ng/mL	M	悪性腫瘍に伴う骨転移
	05476	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTX)	尿 (注) 2	冷蔵	D	*5 156 生化Ⅱ *4 腫管	3~5	CLEIA法	下記参照	L	原発性副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症 悪性腫瘍の骨転移
	04020	デオキシピリジノリン (DPD)	尿 (注) 2	冷蔵	D	*5 191 生化Ⅱ *4 腫管	4~6	EIA法	(参考基準値) 男女 2.1~5.4 2.8~7.6 nmol/mmol-CRE	L	
	04488	TRACP-5b	血清0.3	凍結	A	*6 156 生化Ⅱ *4 腫管	3~5	EIA法	男女 YAM 170~590 120~420 mU/dL	L	代謝性骨疾患及び骨転移 (乳癌、肺癌、前立腺癌 に限る) の診断補助並び に経過観察

● (腫管) 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

- \*1 癌胎児性抗原 (CEA) と DUPAN-2 を併せて測定した場合は主たるものののみ算定する。
- \*2 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 急性及び慢性肺炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合
- \*3 非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料により算定する。
- \*4 乳癌、肺癌、又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
- \*5 (P44、\*2・\*3参照)
- \*6 (P44、\*2・\*5参照)
- (注) 早朝の第2尿を提出

## I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)(尿)判定基準

骨吸収亢進の指標	55 以上
悪性腫瘍 (乳癌、肺癌、前立腺癌) の骨転移の指標	100 以上
副甲状腺摘出手術の適応	200 以上

(単位：nmol BCE/mmol・CRE)

腫瘍関連検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
	04917	メソテリン (可溶性メソテリン 関連蛋白)	血清0.3	凍結	A	<div>220</div> <div>生化II</div> <div>腫管</div> <div>*</div>	4~10	CLEIA法	1.5未満 nmol/L	M	中皮腫

●

腫管

印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

\* 悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。また、悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(イ) 石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者

(ロ) 体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者

(ハ) 画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者

なお、悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

腫瘍マーカーの臨床的有用性

<div>●特に有用なもの</div> <div>○有用なもの</div>	肺	食道	胃	肝	胆・胆道	膵	大腸	乳	卵巣	子宮	膀胱	前立腺	甲状腺	神経芽細胞腫
CEA（癌胎児性抗原）	○	○	○ <sup>*9</sup>	● <sup>*1</sup>	○	○	○	○	○	○	○		○	
TPA（組織ポリペプチド抗原）	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
塩基性フェトプロテイン（BFP）	○			○	○	○			○	○	○	○		
尿中核マトリックスプロテイン22（NMP22）											●			
SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原）	● <sup>*3</sup>	● <sup>*3</sup>								● <sup>*3</sup>				
神経特異エノラーゼ（NSE）	● <sup>*4</sup>						○						○	○
シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原（SLX）	● <sup>*6</sup>		○			○			○					
サイトクラチン19フラグメント（シフラ）	● <sup>*5</sup>													
Pro GRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	● <sup>*4</sup>													
α-フェトプロテイン（AFP）				● <sup>*2</sup>										
AFプレクチン分画比				●										
PIVKA II				●										
DUPAN-2				○	○	●								
エラスターゼ1						●								
CA19-9			○		○	●	○							
SPan-1				○	○	●								
NCC-ST-439	○		○	○	○	●	○	●						
CA15-3								●						
BCA225	○					○		●	○	○				
CA125									● <sup>*8</sup>	○				
CA602									●	○				
CA72-4			○ <sup>*10</sup>			○	○	○	● <sup>*7</sup>					
CA54/61									●					
シアリルTn抗原（STN）			○		○	○	○		●	○				
抗p53抗体		●					●	●						
PAP（前立腺酸性ホスファターゼ）												●		
前立腺特異抗原（PSA）												●		
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）												●		

\*1転移性    \*2原発性    \*3扁平上皮    \*4小細胞    \*5非小細胞    \*6腺    \*7ムチン性    \*8漿液性    \*9分化型    \*10未分化型

# 血液学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
血 球 計 数	08127	白血球数 (WBC)	全血 2.0	冷蔵	B	* 21 血液	1~2	DC検出法	3.8~9.6 × 10 <sup>3</sup> /μL	採血日に出検 凍結不可	白血病 炎症 感染症
		赤血球数 (RBC)						シースフロー DC検出法	男 431~565 女 378~497 × 10 <sup>4</sup> /μL		貧血 赤血球増多症
		ヘモグロビン量 (Hb)						SLSヘモグロビン法	男 13.7 ~17.4 女 11.2 ~14.9 g/dL		
		ヘマトクリット値 (Ht)						赤血球パルス波 高値検出法	男 40.2~51.5 女 33.6~44.6 %		
		MCV						計算法	男 82.9~101.2 女 79.0~ 99.2 fL		
		MCH							男 28.1~34.5 女 26.2~33.6 pg		
		MCHC							男 31.8~36.4 女 31.1~36.2 %		
		血小板数 (Plt)						電気抵抗検出法および 光学的検出法	13.1~36.5 × 10 <sup>4</sup> /μL		出血傾向 本態性血小板血症 慢性骨髄性白血病 急性白血病
	00304	網状赤血球数	全血 2.0	冷蔵	B	12 血液	1~2	フローサイトメトリ法	4~19 ‰		貧血 白血病

\* 末梢血液一般検査は、赤血球数、白血球数、血色素測定 (Hb)、ヘマトクリット (Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。

# 血液学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
形態学的検査	00305	血液像 (白血球分類)	全血 2.0	冷蔵	B	*1 15 血液	1~2	自動機械法 (フローサイト メトリー法および RF/DC インピーダンス 方式)	好中球 44.9~74.4 好酸球 0.0~ 9.9 好塩基球 0.0~ 2.9 リンパ球 19.8~59.9 単球 0.1~12.4 %	採血日に出検 凍結不可	白血病 感染症
	00319	好酸球数	全血 2.0	冷蔵	B	*1 17 血液	1~2		70~450 個/μL		アレルギー疾患 寄生虫症 ホジキンリンパ腫
	02896	ALP染色	血液未固定 塗抹標本 3枚	室温	T	*2	5~7	鏡検法 (アゾ色素法)	NAP-score 170~367	採血日に出検 受付曜日：月~金 抗凝固剤を使用せ ず新鮮血にて標本 作製、風乾して 提出 L	慢性骨髄性白血病 急性リンパ性白血病 類白血病
原虫検査	00333	マラリア原虫	全血 2.0 未固定標本 1~2枚	冷蔵 室温	B T	40 血液	3~4	鏡検法	(一)	塗抹標本の場合は、 薄層と濃塗抹標本 を提出 M	マラリア

\*1 同一検体について、好酸球数及び末梢血液像（自動機械法）又は末梢血液像（鏡検法）を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。  
\*2 末梢血液像（鏡検法）と特殊染色を併せて行った場合は特殊染色加算として特殊染色ごとにそれぞれ37点を所定点数に加算する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	00322	プロトロンビン時間 (PT)	血漿0.3	凍結	E	18 血液	1~2	Quick一段法	秒 10.0~13.0(秒) % 70~140(%)	抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比 (INR)*もご報告いたします。	外因系凝固因子欠乏症 DIC 肝障害 ビタミンK欠乏症 ワーファリン療法時のモニター
	00326	APTT (活性化部分トロンボ プラスチン時間)	血漿0.3	凍結	E	29 血液	1~2	エラジン酸 活性化法	25.5~37.0 秒		内因系凝固因子欠乏症 ビタミンK欠乏症 肝障害 ヘパリン治療
	00321	フィブリノゲン	血漿0.3	凍結	E	23 血液	1~2	トロンビン 時間法	200~400 mg/dL		DIC 血栓症 感染症 悪性腫瘍 妊娠中毒症
	02871	FDP定量	血漿0.3	凍結	E	80 血液	2~3	LA法	5 以下 μg/mL		DIC 血栓症 凝固亢進状態
	02923	FDP定量 (尿)	尿 1.0	冷蔵	E3	72 尿・糞便	3~5	LA法	0.1以下 μg/mL	蓄尿不可 L	DIC 糸球体腎炎 妊娠中毒
	03014	プラスミノゲン活性	血漿0.3	凍結	E	100 血液	3~4	合成基質法	80~130 %	L	血栓症 出血傾向 肝実質障害 DIC
	02624	アンチプラスミン活性 (プラスミンインヒビター)	血漿0.3	凍結	E	128 血液	3~4	合成基質法	80~130 %	L	DIC 線溶亢進 肝硬変 肝臓 先天性 α <sub>2</sub> PI 欠損症 線溶療法時のモニタリング
	02665	アンチトロンビン活性 (AT 活性)	血漿0.4	凍結	E	70 血液	2~3	合成基質法	80~130 %	L	肝硬変 心筋梗塞 DIC 静脈血栓症 先天性アンチトロンビン Ⅲ欠乏症

# INR(International Normalized Ratio, 国際標準比)

PTの測定値は各試薬の感受性や機種間差による施設間差が大きいため、共通のものさしで比較できるようにしたWHOが推奨している表現方法です。

(INRの算出法)  $INR = PR^{ISI}$

ISI: International Sensitivity Index, 国際感受性指数  
PR:  $\frac{\text{患者血漿の凝固時間 (秒)}}{\text{正常標準血漿の凝固時間 (秒)}}$

# 血液学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	02534	Dダイマー	血漿0.3	凍結	E	127 血液	1～2	LA法	1.00以下 μg/mL		血栓症 DIC 凝固療法のモニター 体内凝固亢進状態
	03002	TAT (トロンビン・アンチトロンビン 複合体)	血漿0.5	凍結	E	*1 171 血液	3～4	CLEIA法	3.0未満 ng/mL	M	静脈血栓症 DIC 閉塞性動脈硬化症 脳梗塞 体内凝固亢進状態
	03003	PIC (α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター プラスミン複合体)	血漿0.3	凍結	E	150 血液	3～4	LPIA法	0.8未満 μg/mL	M	DIC 凝固亢進状態 肝硬変 線溶療法時のモニタリング
	02605	抗原量	血漿0.3	凍結	E	226 血液	3～4	LA法	70～150 %		先天性プロテインC欠乏症 DIC 肝硬変 血栓症
	02546	プロテインC 活性	血漿0.3	凍結	E	227 血液	3～4	合成基質法	70～140 %	L	
	02736	抗原量	血漿0.2	凍結	E	154 血液	4～6	EIA法	70～140 %	M	血栓症 DIC 先天性プロテインS欠乏症 肝疾患 ビタミンK吸収障害
	02545	プロテインS 遊離型 抗原量	血漿0.3	凍結	E	154 血液	3～4	LA法	60.0～150.0 %	L	
	03324	活性	血漿0.4	凍結	E	163 血液	3～6	凝固時間法	64～149 %	M	
	02504	C1 インアクチベーター活性 (C1-INH)	血漿0.5	凍結	E	253 免疫	3～9	発色性 合成基質法	70～130 %	M	C1-INH欠損症 血管神経性浮腫
	02668	トロンボモジュリン	血清0.3	凍結	A	*2 204 血液	3～6	CLEIA法	12.1～24.9 U/mL	M	DIC 膠原病 MOF
	02671	ループスアンチ コアグラント	血漿0.5	凍結	E	*3 265 免疫	3～5	希釈ラッセル蛇毒 試験法	1.2NR 以下 (NR:Normalized Ratio)	L	SLE 習慣性流産 抗リン脂質抗体症候群

\*1 トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)、プロトロンビンフラグメントF1+2及びフィブリンモノマー複合体のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

\*2 膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

\*3 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。



# 血液学の検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準 値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	03021	第Ⅱ因子活性 (F2)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	PT法	74～146 %	M	先天性 プロトロンビン欠乏症 新生児出血症 肝障害
	03022	第Ⅴ因子活性 (F5)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	PT法	70～152 %	M	先天性第Ⅴ因子欠乏症 肝障害 静脈血栓症
	03023	第Ⅶ因子活性 (F7)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	PT法	63～143 %	M	先天性第Ⅶ因子欠乏症 肝障害 DIC 静脈血栓症
	03024	第Ⅷ因子活性 (F8)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	APTT法	62～145 %	M	血友病A DIC von Willebrand病 妊娠
	03025	第Ⅸ因子活性 (F9)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	APTT法	74～149 %	M	血友病B DIC ビタミンK欠乏症 肝障害
	03026	第Ⅹ因子活性 (F10)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	PT法	71～128 %	M	先天性第Ⅹ因子欠乏症 ビタミンK欠乏症 肝障害 妊娠後期
	03027	第Ⅺ因子活性 (F11)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	APTT法	73～136 %	M	第Ⅺ因子欠乏症 DIC 肝硬変
	03028	第Ⅻ因子活性 (F12)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3～6	APTT法	46～156 %	M	第Ⅻ因子欠乏症 DIC 肝硬変 ネフローゼ症候群
	03029	第Ⅻ因子(定量) (F13)	血漿0.4	凍結	E	223 血液	3～6	LA法	70以上 %	M	先天性第Ⅻ因子欠乏症 DIC 重症肝疾患 白血病
	03030	第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	血漿0.5	凍結	E	144 血液	3～6	Bethesda法	検出せず BU/mL	M	血友病A
	03031	第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	血漿0.5	凍結	E	144 血液	3～6	Bethesda法	検出せず BU/mL	M	血友病B
	03032	フォン・ウィルブランド因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	血漿0.5	凍結	E	147 血液	3～6	LA法	50～150 %	M	von Willebrand病 出血傾向 血友病A鑑別
	02682	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	血漿0.4	凍結	E	126 血液	3～6	固定血小板 凝集法	50～150 %	M	
	03001	可溶性フィブリンモノマー複合体 (定性)	血漿0.3	凍結	E	93 血液	3～4	LA法	濃度 7.0未満 判定 (－) μg/mL	L	DIC 静脈血栓症 肺動脈血栓塞栓症

# 血液学的検査

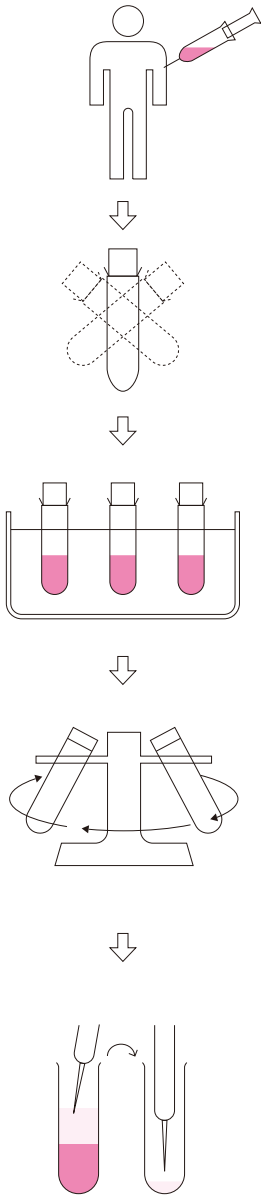
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	02898	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血漿0.5	凍結	F6	171 血液	4~10	EIA法	60以下 ng/mL	採取方法・提出 条件は下記参照  M	DIC 血栓症 凝固亢進 血小板減少症 深部静脈血栓症
	02897	血小板第4因子 (PF4)	血漿0.5	凍結	F6	173 血液	4~10	EIA法	20以下 ng/mL		

## 検体採取方法

### 検査項目

- ・β-トロンボグロブリン (β-TG)
- ・血小板第4因子 (PF4)

### 採血方法



- ① できるだけ20ゲージ（19～23ゲージでも可）の針を用いたポリエチレン注射器で初めの血液2mLを捨て、次の血液2.7mLを採取する。  
〔採血にあたって、専用容器F6を使用  
しての直接採血は絶対にしないでく  
ださい。〕
- ② 予め専用容器F6を冷却しておく。  
次に専用容器のフタを開け血液2.7mLを  
静かにうつし、ゆっくり2～3回反転混合  
してください。
- ③ 専用容器をすみやかに砕氷と水の入った  
ラックに入れてください。
- ④ 砕氷水に少なくとも15分間放置後、採取  
血液を2,500Gで20分間、2～8℃で  
遠心分離してください。（下表は2,500G  
におけるローターの回転半径と回転数と  
の関係を示します。）
- ⑤ 上清の表面よりやや下の部分をマイクロ  
ピペットで0.5mL検体容器（プラスチッ  
ク製）へ採取してください。  
血餅に近い部分からの採取は絶対に避け  
てください。（血漿の全量採取は避けてく  
ださい。）  
検体は必ず凍結保存してください。（1カ  
月安定）

（注意事項）

真空採血管、カテーテルおよび他の方法は  
使用しないでください。  
また、止血帯も使用しないでください。  
10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管  
壁を損傷しないようにスムーズに採取して  
ください。

（注意事項）

指定の専用容器以外は使用しないでくださ  
い。  
専用容器は振とうさせないでください。

（注意事項）

砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面  
が下になるようにしてください。  
角氷は使用しないでください。

以上の操作を2分以内に行う

（注意事項）

1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してく  
ださい。

換算表

半径 (cm)	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30
回転数 (rpm)	4,700	4,300	4,000	3,700	3,500	3,300	3,200	3,100	2,900	2,800	2,700

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
先天異常染色体	02892	G-バンド	血液各3.0	冷蔵	H2	* 2,477 (+397) 遺伝子	14~19	分染法		受付可能日：月～金 休日の前日は受付 不可  M	ダウン症候群 ターナー症候群 クラインフェルター症候群 キャットクライ症候群 13トリソミー 18トリソミー 習慣性流産 不妊症
		C-バンド					15~22				
	03175	Q-バンド									
血液疾患染色体	02894	G-バンド	骨髓液各0.5 または 全血各3.0	冷蔵	M1 または H2	* 2,477 (+397) 遺伝子	14~19	分染法		受付可能日：月～金 休日の前日は受付 不可  M	白血病
	02895	Q-バンド					15~22				
	04519	末梢血好中球 bcr/abl	全血 3.0	冷蔵	H2	2,477 遺伝子	6~8	FISH法			[t(9;22)転座解析]

\* 分染法を行った場合は、分染法加算として397点を所定点数に加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

## 染色体検査の留意事項

- 採血・採取  
血液、骨髓液は各々の専用容器を用いて無菌的に採取し、速やかに転倒混和（4～5回）してください。ただし、検体中に微小な凝固物が生じている場合には正しい分裂像が得られず検査できなくなることがありますので、その際には再度ご提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- 検体保存温度・時間  
a) 血液：ヘパリン加検体で24時間以内、冷室温（4～20℃）保存  
b) 骨髓液：専用保存液入り検体で24時間以内、冷蔵（4℃）保存  
注1. 24時間以上経過した検体は検査できません。  
注2. 骨髓液を採取される場合には専用容器をお届けいたしますので、あらかじめご連絡ください。
- 血液疾患染色体検査の留意事項  
a) ステロイド剤、アルキル化剤および代謝拮抗薬剤など投与中の患者では、分裂像が得られず検査できない場合があります。  
b) 末梢血でご依頼の際、血液中に幼若細胞（blast）の出現がみられない場合は検査できません。  
c) 寛解期患者では染色体分裂像が得られず検査できない場合があります。
- その他の留意事項  
a) 専用容器以外で採取された検体は検査できません。  
b) 無菌的に扱われていない検体は検査できません。  
c) 検査依頼時には専用検査依頼書にできるだけ詳しく記入してください。

# 一般検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
尿 検 査	08900	尿一般定性	尿 10	冷蔵	D	*1 26 尿・糞便	1～2	試験紙法	(一)		腎機能障害
		蛋白							(一)		腎機能障害 糖尿病
		糖							(土)		総胆管閉塞 肝障害
		ウロビリノーゲン							(一)		糖尿病性ケトアシドーシス
		ケトン体							(一)		膀胱癌 腎炎 尿路結石
		潜血							4.8～7.5		糖尿病 尿路感染症
		pH							(一)		肝障害 胆道疾患
		ビリルビン							(一)		尿崩症 糖尿病
		比重						屈折計法	1.006～1.022		
	00412	尿蛋白定量	尿 5	冷蔵	D	7 尿・糞便	1～2	ピロガロール レッド法	mg/dL	24時間蓄尿の場合 は尿量を記入	腎機能障害 腎炎
	00073	尿糖定量	尿 5	冷蔵	D	9 尿・糞便	1～2	ヘキシナーゼ UV法	mg/dL		糖尿病 腎性糖尿
糞 便 検 査	00430	尿沈渣	尿 10	冷蔵	D	*2 *3 *4 *5 *6 27+9 尿・糞便	1～2	染色鏡検法 および フローサイト メトリー法		新鮮尿を提出	腎機能障害 尿路感染症
	00445	(集卵)	糞便 小指頭大	冷蔵	K	15 尿・糞便	1～2	集卵法	(一)		寄生虫症
	00444	便虫卵 (塗抹)	糞便 小指頭大	冷蔵	K	20 尿・糞便		塗抹法			
	00440	定性	糞便	冷蔵	K2	37 尿・糞便	2～3	LA法	陰性		大腸癌 直腸癌 大腸ポリープ
	04184	便中 ヘモグロビン 定量	糞便	冷蔵	K2	41 尿・糞便	2～3		ng/mL		
	04009	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン定量	糞便	冷蔵	K3	56 尿・糞便	3～5	金コロイド法	ヘモグロビン 100未満 トランスフェリン 50未満 ng/mL	R	
	00446	原虫検査	糞便 小指頭大	冷蔵	K	67 微生物	1～2	塗抹鏡検法	(一)		赤痢アメーバ症 ランブル鞭毛虫症

- \*1 当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。
- \*2 同一検体について当該検査と排泄物、分泌物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
- \*3 尿沈渣（鏡検法）の所定点数は、赤血球、白血球、上皮細胞、各種円柱、類円柱、粘液系、リポイド、寄生虫等の無染色標本検査の全ての費用を含む。尿沈渣（鏡検法）は、尿中一般物質定性半定量検査若しくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められて実施した場合に算定すること。尿沈渣（鏡検法）は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に速やかに報告されるような場合は、所定点数により算定する。尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣（鏡検法）を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。
- \*4 尿沈渣（フローサイトメトリー法）は尿中一般物質定性半定量検査若しくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められ、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱及び細菌を同時に測定した場合に算定する。
- \*5 尿沈渣（鏡検法）と尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて実施して場合は、主たるものののみ算定する。
- \*6 染色標本による検査を行った場合は、染色標本加算として9点を所定点数に加算する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
穿刺液 検査	00471	細胞数	穿刺液 5	冷蔵	D		1~2	鏡検法	$\times 10^3/\text{mm}^3$	胸水、腹水、関節液 (心膜液)を提出	ネフローゼ症候群 肝硬変 悪性腫瘍 心不全 結核 炎症性疾患 関節炎 関節リウマチ 痛風
	00469	細胞分類						Giemsa 染色法	%		
	00465	リバルタ 反応						リバルタ 反応法			
	00464	比重						屈折計法			
	00467	穿刺液蛋白定量	穿刺液 0.5	冷蔵	D	⑪ 生化 I	1~2	屈折計法	g/dL		
	00468	穿刺液糖定量	穿刺液 0.5	冷蔵	D	⑪ 生化 I	1~2	ヘキシキナーゼ UV法	mg/dL		
	02538	関節液検査 (結晶成分)	関節液 1	冷蔵	D	50 尿・糞便*	2~3	顕鏡検法 kingの方法	尿酸ナトリウム結晶(-) ピロリン酸カルシウム結晶(-)		痛風 偽痛風

\* 関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき1回に限り算定する。なお、当該検査と排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

# 一般検査

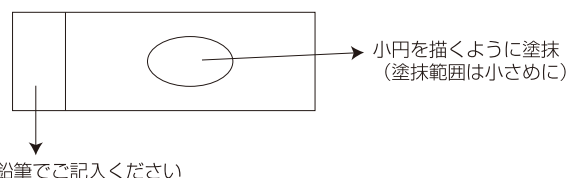
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
髄液検査	00460	細胞数	髄液 3	冷蔵	D	62 尿・糞便	1~2	鏡検法	0~5 /3		ウイルス性髄膜炎 日本脳炎 結核性髄膜炎 脳腫瘍 流行性髄膜炎
	00461	細胞分類						鏡検法			
	00453	比重						屈折計法	1.005~1.007		
	00454	ノンネアペルト						ノンネアペルト 反応法	(-)		
	00455	パンディー						パンディ反応法	(-)		
	00456	トリプトファン						里見変法	(-)		
髄液検査	00457	髄液蛋白定量	髄液0.5	冷蔵	D	11 生化I	1~2	ピロガロール レッド法	10~40 mg/dL		髄膜炎 脳脊髄梅毒
	00459	髄液糖定量	髄液0.5	冷蔵	D	11 生化I	1~2	ヘキシナーゼ UV法	50~75 mg/dL		細菌性髄膜炎 日本脳炎
	00458	髄液クロール	髄液0.5	冷蔵	D	11 生化I	1~2	電極法	120~130 mEq/L		髄膜炎 尿毒症 慢性腎炎
精液検査	00473	精子数	精液	室温	D	70 尿・糞便	1~2	Thoma法	50以上 × 10 <sup>6</sup> /mL	コンドームでの 提出は検査不可	精子減少症 無精子症 不妊症
		奇形率						鏡検法	15以下 %		
		pH						試験紙法	7.0~8.0		
鼻汁検査	00320	鼻汁好酸球	標本	室温	T	15 血液	1~4	ライト染色 鏡検法	(-)	採取方法は 下記参照	アレルギー性鼻炎

## 鼻汁好酸球検査の検体採取方法について

採取方法 鼻汁量が多い場合 : セロファン紙、ハترون紙、葉包紙など水分を吸収しにくい紙、あるいは食品用ラップフィルムのようなものに鼻をかませ、鼻汁の数ヶ所から綿棒あるいはピンセットの尖でスライドガラスに採ってください。

鼻汁量が少ない場合 : 鼻腔より綿棒で直接採取し、スライドガラスへ採ってください。(粘膜を擦過しないように注意してください。)

標本作製方法 スライドガラスへ細胞が潰れないように、軽く薄く小円を描くように塗抹してください。塗抹後、速やかに扇風機やドライヤー(冷風)などで乾燥させてください。(自然乾燥の場合は、十分乾燥させ標本ケースに入れてください。)



分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	備考
一般細菌検査	21076	塗抹鏡検	各種材料 (便・血液除く)	冷蔵	各種容器	*1 67 微生物	1～2	グラム染色法など	<div>緊急</div> <p>二類および三類感染症菌が 検出された場合は直ちに報告</p> <p>(注) 糞便：糞便材料については赤痢菌、 サルモネラ菌、ビブリオの検索を 実施します。他の腸管病原菌につ いては目的菌をご指示願います。</p>
	21070	(1) 口腔、気道・ 呼吸器系材料	喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J9 J6 など	*2 180 微生物	3～6	Bergey's Manual などに基づく同定法	
		(2) 消化器系材料 (注)	胃液 胆汁 糞便 吐物  など	冷蔵	J9 J2 K D など	*2 200 微生物	3～6		
		(3) 血液または 穿刺液	血液 髄液 穿刺液 など	室温 または 冷蔵	J8 D など	*2 225 微生物	3～10		
		(4) 泌尿・ 生殖器系材料	尿 婦人科分泌物 尿道分泌物 など	冷蔵	D J9 など	*2 190 微生物	3～6		
		(5) その他の材料	膿 皮膚 耳漏 眼脂 など	冷蔵	D J9 など	*2 180 微生物	3～6		
	21075	(6) 簡易培養	各種材料	冷蔵	各種容器	*2 60 微生物	3～4		
	21105	嫌気性培養	膿・血液 など 各種材料	冷蔵	J9 J3 など	*2 122 加算 微生物	3～10		
		1菌種	分離菌			*3 185 微生物	3～6	ディスク法又は 微量液体希釈法	判定基準
		*4 2菌種		*3 240 微生物	<div>S：感受性 (Susceptible)</div> <div>I：中 間 (Intermediate)</div> <div>R：耐 性 (Resistant)</div>				
	3菌種 以上	*3 310 微生物							

\*1 尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の渗出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。なお、染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。ただし、当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみを所定点数を算定する。

\*2 細菌培養同定検査

- ① 抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とする。なお、同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても(1)から(5)までの項により算定するが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類に関わらず(6)の簡易培養により算定する。また、検体ごとに(1)から(5)までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、(6)の簡易培養は算定できない。
- ② 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気性培養の加算は2回算定できる。なお、各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。穿刺液とは、胸水、腹水、髄液及び関節液をいい、「その他の部位からの検体」とは、(1)から(4)までに掲げる部位に含まれない全ての部位からの検体をいい、例えば、皮下からの検体をいう。

③ 簡易培養は、Dip-Slide 法、簡易培地等を用いて簡単な培養を行うものである。なお、ウロトレース、ウリグロックスペーパー等の尿中細菌検査用試験紙による検査は、尿中一般物質定性半定量検査に含まれるものであり、別に算定できない。

④ 同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として 122 点を所定点数に加算する。ただし、嫌気性培養のみを行った場合は、(1)から(6)の所定点数のみ算定し、加算は算定できない。

\*3 結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

\*4 薬剤耐性菌検出は、基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生、メタロβ-ラクタマーゼ産生、AmpC 産生等の薬剤耐性因子の有無の確認を行った場合に、薬剤耐性菌検出 50 点を算定する。



# 微生物学的検査

分類	検査コード	検査項目	保存条件	容器	所要日数	備考	
培養目的菌	呼吸器	21231	肺炎球菌	冷蔵	J6 J9 D など	3～6	
		21216	インフルエンザ菌				
		21211	溶連菌（β溶血性連鎖球菌）				
		21212	A群溶連菌				
		21253	百日咳菌		8～13		
		21250	レジオネラ			8～14	
		21245	マイコプラズマ				
	創傷	21215	ブドウ球菌	冷蔵	J9 D など	3～5	黄色ブドウ球菌を含む
		21204	緑膿菌				
	腸管・食中毒	21209	エルシニア	冷蔵	J9 J2 K など	3～6	
		21207	ビブリオ				コレラ菌を含む
		21208	赤痢菌				
		21220	サルモネラ				チフス菌・パラチフスA菌を含む
		21241	ウェルシュ菌（嫌気性菌）		J9 J3 など	3～7	
		21218	キャンピロバクター				
		21239	大腸菌 O157		J9 J2 K など	3～6	
		21214	大腸菌血清型*				
	泌尿器・生殖器	21203	淋菌	室温	J9 D など	3～8	
		21217	B群溶連菌	冷蔵			
		21206	トリコモナス	室温			
		21256	ガードネレラ	冷蔵			
	耐性菌	21210	MRSA （メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	冷蔵	J9 J6 D など	3～6	薬剤感受性試験を実施させていただきます
		21258	PRSP （ペニシリン耐性肺炎球菌）				
		21260	MDRP （多剤耐性緑膿菌）				
		21283	MDRA （多剤耐性アシネトバクター）				
		21263	ESBLs （基質拡張型βラクタマーゼ産生菌）				
		21282	CRE （カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）				
		21262	BLNAR(βラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌)				
	真菌	21219	アスペルギルス	冷蔵	J9 D など	3～7	
		21202	カンジダ				
		21234	クリプトコッカス			6～8	
		21201	白癬菌				

## 微生物検査の検体採取および保存・輸送方法

臨床微生物検査において正しい検査結果を得るためには、「材料採取」「保存と輸送」「検査」のいずれもが適正に行わなければなりません。検査材料として病原体が存在する部分が採取できていなければその検出は不可能となり、また、材料の保存・輸送が不適切であれば菌の増殖あるいは死滅を招きます。これらの場合は、検査の目的を達し得ないばかりでなく、誤った解釈を招くことにもなりかねません。

以下に、臨床微生物検査における材料採取とその保存・輸送方法を中心に、その注意点などをまとめましたので、ご参照ください。

1. 採取時期
  - ・発病初期に採取してください。
  - ・化学療法開始前に採取してください。
  - ・化学療法中の患者では、24～48時間以上投薬を中止して採取してください。
  - ・中止できない場合は、血中濃度が最も低い時期（次回投与の直前）に行ってください。
  - ・信頼性を高めるためにも、複数回採取してください。
2. 採取法
  - ・検体量はできるだけ多く採取してください。
  - ・無菌的に採取してください。
  - ・常在細菌の混入を最小限にとどめるようご注意ください。  
（常在細菌の混入がおりやすい材料：喀痰、咽頭粘液、皮膚など）
  - ・消毒液の混入を避けてください。
  - ・乾燥すると多くの微生物は死滅するため、材料の乾燥を防いでください。
  - ・適切な採取容器（輸送容器）に採取してください。
  - ・採取後は液漏れなどを起こさないよう、容器の蓋を固く閉めてください（シールしてください）。
  - ・バイオハザードを引き起こさないようご注意ください。
3. 保存・輸送
  - ・保存および輸送は、基本的には冷蔵にて行ってください。
4. 提出
  - ・ご提出に当たっては、投薬の有無、下痢の有無、海外渡航歴、推定起炎菌などの患者情報を併せて付記されることが望まれます。
  - ・検体ラベルには、患者名など必要事項を適切に記入してください。また、検体の品質を裏付ける上で、採取部位、材料名、採取日の記載は必須です。

## 検査材料別輸送容器

検査材料	必要量	eスワブ レギュラー (J9)	eスワブ ミニチップ (J9)	嫌気 ポーター (J3)	血液 ボトル (J8)	喀 痰 容 器 (J6)	滅菌 スピッツ (D)
喀痰 吸引痰	1 mL 以上			●		●	
咽頭粘液	充 分 量	●	●	●			
糞便	充 分 量	●		●			
尿	3 mL 以上			●			●
尿道分泌物 腔分泌物	充 分 量	●	●	●			
胸水 腹水 関節液	4 ～ 8 mL			●	●		●
髄液	2 ～ 3 mL			●	●		●
動脈血 静脈血	好気・嫌気各0.1～5mL				●		
耳漏 眼脂	充 分 量		●				
皮膚 爪 毛	充 分 量						●
膿（開放性、非開放性）	充 分 量	●	●	●			●
好 気 性 菌		●	●	●	●	●	●
嫌 気 性 菌		●	●	●	●		
真 菌		●	●	●	●	●	●
検体採取後の保存条件		冷 蔵	冷 蔵	冷 蔵	室 温	冷 蔵	冷 蔵
注意事項・その他					塗抹鏡検不可		

微生物学的検査

薬剤感受性検査

微量液体希釈法（MIC法）でご依頼いただいた場合に、実施する薬剤

系 統	測定薬剤		ブ ド ウ 球 菌	腸 球 菌	肺 炎 球 菌	連 鎖 球 菌	腸 内 細 菌	緑 膿 菌	ア シ ネ ト バ ク タ ー	セ パ シ ア	マル ト フィ リア	そ の 他 非 発 酵	エ ロ モ ナ ス	ビ ブ リ オ	ヘ モ フィ ルス	コ リ ネ バ ク テ リ ウム	プ ラ ン ハ メ ラ	ア エ ロ コ ッ カ ス	嫌 気 性 菌	淋 菌	髄 膜 炎 菌	キャン ピ ロ バ ク ター
①	PCG	ペニシリンG	●	●	●	●										●		●	●	●		
	ABPC	アンピシリン	●*	●		●	●*							●	●				●		●	
	PIPC	ピペラシリン					●	●	●			●		●					●			
	MPIP	オキサシリン	●																			
②	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン	●				●						●	●	●				●			
	CVA/AMPC	クラバン酸／アモキシシリン	●		●		●						●	●	●		●		●			
	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン					●	●				●	●	●					●			
	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォベラゾン					●	●	●													
③	TAZ/CTLZ	タゾバクタム／セフトロザン					●	●														
	CEZ	セファゾリン	●				●*															
	CCL	セファクロル					●*								●							
	CTM	セフォチアム			●		●*								●							
	CMZ	セフメタゾール	●*				●*												●			
	FMOX	フロモキシセフ					●															
	CTX	セフォタキシム			●	●	●		●			●	●	●	●	●	●	●		●	●	
	CTR	セフトリアキソン	●*		●	●	●		●			●	●		●	●	●	●	●	●		
	CAZ	セフトアジジム					●	●	●	●	●	●	●	●								
	CDTR	セフトレニピボキシル			●		●								●							
	CPDX	セフポドキシム					●															
	CFPN	セフカペンピボキシル					●															
	LMOX	ラタモキシセフ					●*															
	CZOP	セフォゾبران			●	●	●	●	●	●	●	●										
	CFPM	セフェピム	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●				●		
④	IPM	イミペネム	●	●*			●*	●	●			●							●			
	MEPM	メロペネム	●	●*	●	●	●	●	●	●		●			●	●		●	●		●	
	DRPM	ドリペネム					●	●	●*													
	GM	ゲンタマイシン	●				●*	●	●			●	●	●								
⑤	TOB	トブラマイシン					●*	●	●			●										
	AMK	アミカシン					●*	●	●			●	●	●								
	ABK	アルベカシン	●*																			
	GM-Syn	ゲンタマイシンシナジースクリーン		●																		
⑥	EM	エリスロマイシン	●	●	●	●										●	●					●
	CAM	クラリスロマイシン													●		●					●
	AZM	アジスロマイシン			●	●											●				●	●
⑦	CLDM	クリンダマイシン	●		●	●										●	●		●			
⑧	MINO	ミノサイクリン	●	●		●	●		●	●	●	●			●						●	
	TGC	チゲサイクリン					●*						●	●								
⑨	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●				●
	CPFX	シプロフロキサシン					●*	●	●			●	●		●							●
	MFLX	モキシフロキサシン																	●			
⑩	AZT	アズトレオナム					●	●				●	●									
	VCM	バンコマイシン	●	●	●	●										●		●				
⑪	TEIC	テイクプラニン	●	●																		
	CL	コリスチン					●*	●	●*													
その他	ST	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	CP	クロラムフェニコール			●	●									●							
	FOM	ホスホマイシン	●				●	●														●
	RFP	リファンピシン	●	●	●																	
	LZD	リネゾリド	●	●																		
	MUP	ムピロシン	●*																			
	DAP	ダプトマイシン	●*	●*																		

①ペニシリン系 ②βラクタマーゼ阻害薬 ③セフェム系 ④カルバペネム系  
⑤アミノグリコシド系 ⑥マクロライド系 ⑦リンコマイシン系  
⑧テトラサイクリン系 ⑨キノロン系 ⑩モノバクタム系 ⑪グリコペプチド系

\* 一部菌種により、報告出来ない場合があります。  
尿検体では測定されません。  
嫌気性菌・淋菌・髄膜炎菌・キャンピロバクターはディスク法で実施します。

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	備考
抗酸菌検査	21001	塗抹鏡検	喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J9 J6 D	*1 67 微生物	1～2	チールネルゼン染色法	
	20995		喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J9 J6 D	50 微生物	1～2	蛍光法	
	21004	分離培養	喀痰など	冷蔵	J9 115 ページ参照	*2 *3 209 微生物	28～56	小川培地法	
	20999		喀痰など	冷蔵		*2 *3 300 微生物	12～42	酸素感受性蛍光センサー法 (MGIT培地使用)	陽性になり次第報告 陰性は6週まで培養
		薬剤感受性検査	分離菌 あるいは菌株	室温		*4 400 微生物	28～56	マイクロタイター法	菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します L
	26520	非結核性抗酸菌 MIC	分離菌 あるいは菌株	室温			14～56	微量液体希釈法	非結核性抗酸菌のみ実施 菌名に応じて報告薬剤が変わります 菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します L
	23449	抗酸菌同定（質量分析）	分離菌 あるいは菌株	室温		*5 361 微生物	2～5	質量分析法 (MALDI-TOF MS)	菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します
	04741	T-SPOT.TB (インターフェロンγ遊離試験)	全血9.0 (注)	室温	H1	*6 593 免疫	4～5	ELISPOT法	採取当日にご提出下さい まとまった数の出検は事前連絡必要

- \*1 尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の分泌物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。なお、染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。ただし、当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。症状等から同一起因菌によると判断される場合であっても、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみを所定点数を算定する。
- \*2 検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
- \*3 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
- \*4 直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。
- \*5 検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定する。
- \*6 診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。
- (注) 採血後、規定時間内（54時間以内）に検査を実施する必要があります。必ず指定容器を用いて、規定量（9mL）をご提出ください。検査に十分な細胞（末梢血単核球）数が得られない場合は、検査不能となる場合があります。

## 臨床材料と必要検体量及び採取容器

検査材料	喀痰	気管支洗浄液	胸水	髄液	胃液	尿	腹水	関節液	血液	膿	糞便
必要量	1～3mL	1～3mL	5～10mL	1～2mL	1～3mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	2～3mL	小指頭大
容器	J6・D	D	D	D	D	D	D	D	F1	J9・D	K
分離培養	小川培養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MGIT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×検査不可
遺伝子検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○※	○	○

※ヘパリン添加不可

# 微生物学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
抗 酸 菌 検 査	23543	結核菌群核酸同定検査 (MTB)	次頁参照	冷蔵	次頁 参照	*1 410 微生物	2~4	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	結核菌群 (一)	(注)	結核
	23542	非定型抗酸菌核酸同定 (MAC)		冷蔵		*2 *3 421 微生物	2~4	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	M.アビウム (一) M.イントラセルラー (一)	(注)	非定型抗酸菌感染症

\*1 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。  
\*2 抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。  
\*3 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。  
(注) 遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。

## 抗酸菌遺伝子検査の留意点

L

- ①血液混入検体、組織など材料によっては阻害物質により結果が偽陰性になる場合があります。
- ②組織は生材料にてご提出ください。（ホルマリン固定組織、パラフィン固定組織不可）
- ③胸水、腹水、髄液、関節液、血液、骨髓液の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、EDTAを用いて採取してください。  
ヘパリン-Naは使用しないでください。
- ④検体は、冷蔵保存してください。
- ⑤検査結果において“陽性”は結核菌あるいはMACの存在を示唆しますが、“陰性”の場合、必ずしも結核菌あるいはMACの存在を否定するものではありません。  
塗抹、培養など他の検査との併用により総合的に診断いただきますようお願い致します。

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	備考
そ の 他	00209	ペロトキシン検出	分離菌 あるいは菌株	冷蔵		*4 184 微生物	2~5	RPLA法	
	04393	ヘリコバクター同定	胃粘膜組織 十二指腸組織	冷蔵	J7	200 微生物	7~8	微好気培養	

\*4 細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。ただし、大腸菌ペロトキシン定性のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	点数	所要日数	検査方法	備考
病理学的検査	10001	1臓器	各種組織	室温	S	*1 860	※ 5～14	ヘマトキシリン・エオジン染色	○病理組織検査専用の依頼書を添えて提出 ○専用容器（S）を使用しない場合は、組織材料が充分に入る広口の容器に組織の10倍量を目安とした10%中性緩衝ホルマリン液を入れて提出 ◎提出方法の詳細は次頁を参照  ※所要日数は一応の目安です。 脱灰、脱脂、再固定等の必要が生じた際は、さらに日数を要する場合があります。 ◎特殊染色、免疫染色は113～116ページを参照 （未記載染色につきましてはホームページまたは直接お問い合わせください。）
		2臓器				*1 1,720			
		3臓器以上				*1 2,580			
		特殊染色	各種組織 または 未染色標本 または パラフィンブロック	室温	S または T		※ 5～14	各種特殊染色	
	免疫染色 （免疫抗体法）	*2 *3 400				酵素抗体法			
	10010	エストロゲンレセプター		室温		*4 720	8～12	酵素抗体法	○原則として10%中性緩衝ホルマリン固定材料及びブロックで受託。 スライドの場合はコーティングスライドを使用。  ◎病理検査による確定診断後の治療方針選択時に使用。 検査依頼時には病理報告書（コピー）を添付してください。  ◎提出方法の詳細は次頁を参照
	10011	プロゲステロンレセプター		室温		*4 690			
	10012	HER2/neuタンパク		室温		*5 690			

- \*1 次に掲げるものは、各区分ごとに1臓器として算定する：〔ア．気管支及び肺臓、イ．食道、ウ．胃及び十二指腸、エ．小腸、オ．盲腸、カ．上行結腸、横行結腸及び下行結腸、キ．S状結腸、ク．直腸、ケ．子宮体部及び子宮頸部〕。また、1臓器又は、1部位から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても、1臓器又は、1部位の標本作製として算定する。
- 悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製し、又は連続切片標本作製した場合であっても、所定点数のみ算定する。ヘリコバクター・ピロリ感染診断を目的に行う場合の保険診療上の取扱いについては、「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。なお、3臓器以上の標本作製を行った場合は、3臓器を限度として算定する。リンパ節については、所属リンパ節ごとに1臓器として数えるが、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数える。
- \*2 病理組織標本作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。なお、免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製、病理組織標本作製又は電子顕微鏡病理組織標本作製のうち、いずれを算定した場合であっても、他の2つの項目を合わせて算定することができる。
- \*3 確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。
- 〔確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者〕とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
- 肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載すること。なお、次に掲げるいずれかの項目を既に算定している場合には、当該加算はできない。
- ア 悪性腫瘍組織検査の悪性腫瘍遺伝子検査の「イ」処理が容易なもの(の医薬品の適応判定の補助等に用いるもの(肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。))及びMETex14遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。))に限る。)
- イ 悪性腫瘍組織検査の悪性腫瘍遺伝子検査の「ロ」処理が複雑なもの(肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシング)、METex14遺伝子検査(次世代シーケンシング)及びRET融合遺伝子検査に限る。)
- ウ 肺癌関連遺伝子多項目同時検査
- エ ALK融合遺伝子標本作製
- \*4 エストロゲンレセプターの免疫染色とプロゲステロンレセプターの免疫染色を同一月に実施した場合は、いずれかの主たる病理組織標本作製の所定点数に180点を加算する。
- \*5 半定量法又はEIA法(酵素免疫測定法)による病理標本作製を行った場合に限り算定する。
- HER2タンパクは、化学療法歴のある手術不能又は再発乳癌患者に対して、過去に乳癌に係る本標本作製を実施した場合であって、抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判定するための補助に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いて、HER2低発現の確認により当該抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として、本標本作製を再度行う場合に限り、別に1回に限り算定できる(乳癌に係る初回の本標本作製を令和6年3月31日以降に実施した場合には、令和8年5月31日までの間に限る。)。なお、再度免疫染色が必要である医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



# 病理学的検査

## 病理組織検査の提出方法

### 1 専用依頼書の記入方法

- カルテNo、患者名、生年月日、性別をご記入ください。
- 提出医名をご記入ください。
- 採取日をご記入ください。
- ご提出される検体個数および容器数をご記入ください。
- 臨床診断名、臨床経過、治療、臨床検査諸事項をご記入ください。  
(婦人科材料の場合は月経周期や妊娠・授乳の有無をご記入ください。)
- 採取部位(採取材料名・採取臓器名)をチェックまたはご記入ください。
- 採取部位の略図や切り出し部位の指示をご記入ください。
- 前回の標本番号および診断名がわかればご記入ください。

### 2 検査材料の提出方法

- ① 1 容器に 1 臓器を入れてご提出ください。
- ② 容器ラベルに病・医院名、患者名、性別、年齢、臓器名、検査材料数  
(検査材料が複数の場合)を必ず記入してください。
- ③ 容器が複数の場合は容器ラベルの容器番号、臓器名、検査材料数が  
検査依頼書と整合していることをよく確認してからご提出ください。

### 3 注意事項

- ① 検体と依頼書は同時に提出してください。
- ② 乾燥した組織や、結石・虫体などは病理診断の対象となりませんので、  
ご注意ください。
- ③ 妊娠12週を超える胎児及びそれに相当する大きさの胎児は、標本  
作製いたしませんので、ご注意ください。
- ④ 固定不良の組織は、病理診断に大きな影響を及ぼすばかりでなく、  
酵素抗体法による免疫染色においても、染色結果の判定にも重大な  
誤診を招くことがありますのでご注意ください。

## 病理組織固定法

原則として10%中性緩衝ホルマリン固定組織でご提出ください。

### 【10%中性緩衝ホルマリン固定組織】

- ① 1 容器に 1 臓器を入れてご提出ください。
- ② 検査材料中に絹糸・ガーゼ・金属片などがある場合はあらかじめ除去  
してください。
- ③ 摘出した組織を自己融解、乾燥から防ぐために直ちに10%中性緩衝ホル  
マリン液入り容器に入れて固定してください。
- ④ 固定液は組織の10倍量程度の10%中性緩衝ホルマリン液を使用し  
てください。
- ⑤ 胃生検などの微小組織片をご提出される場合は、濾紙の上に10秒程度  
のせたのちに、そのまま10%中性緩衝ホルマリン液入り容器に入れて  
ください。また、複数の微小組織片をご提出される場合は、濾紙に番  
号などを記入して同一容器に入れるか、採取部位または番号ごとに異  
なる容器に入れてください。
- ⑥ 消化管・胆のうなどの材料は、切り開いて薄板に粘膜面を上にして  
虫ピンで止めてから10%中性緩衝ホルマリン液に入れて固定してくだ  
さい。
- ⑦ 肺は切り出した気管支断端から10%中性緩衝ホルマリン液を注入し、  
できるだけ肺胞をふくらませ、空気を追い出してから10%中性緩衝ホル  
マリン液に入れて固定してください。
- ⑧ 子宮・乳房・腎などの大きい臓器は固定が不十分になることが多いの  
で、あらかじめ割面を入れてから10%中性緩衝ホルマリン液で固定し  
てください。

## HER2/neuタンパク免疫染色の提出方法

### 1 固定法

10%中性緩衝ホルマリン固定液で固定してください。固定液に浸漬する時間は6～72時間以内が望ましいです。  
(固定時間が長い場合や短い場合、染色結果に影響する場合があります。)  
3日以上固定した症例に関しては、染色結果への影響が考えられます。また、アルコール系の固定液や他の固定液で  
はHER2タンパク過剰発現の検出および判定には適しません。

### 2 材料

適用には10%中性緩衝ホルマリン固定材料およびそのパラフィン包埋された組織ブロックのみで、凍結組織及び細胞  
診標本は使用できません。原則として10%中性緩衝ホルマリン固定材料及びブロックでの受託となりますがスライド  
にて提出される場合には切片の厚さ4μmで薄切し、コーティングスライドにて提出していただけるようお願い致します。



## 特殊染色一覧表

染色名	目的	染色対象
ヘマトキシリン・エオジン (H・E) 染色	一般染色	
ワンギーソン染色	結合組織	膠原線維、弾性線維など
エラスチカ・ワンギーソン(EVG)染色		
レゾルシン・フクシン染色		弾性線維
オルセイン染色		
アザン染色		膠原線維、細網線維、腎糸球体、尿細管基底膜など
マッソン・トリクローム染色		
鍍銀染色		細網線維（好銀線維）など
リントングステン酸 ヘマトキシリン (PTAH) 染色	線維素、神経膠細胞、横紋筋	線維素、神経膠細胞、横紋筋の横紋
オイル赤O染色	脂肪	脂肪滴（中性脂肪、コレステリン、脂肪酸）
PAS染色	多糖類	グリコーゲン、粘液、アメーバ、真菌など
PAS シアスターゼ消化試験		グリコーゲンの証明
アルシアン青染色		酸性粘液多糖類（中胚葉性組織由来の粘液）
PAS・アルシアン青二重染色		グリコーゲン、酸性粘液多糖類
ムチカルミン染色		上皮性粘液など
トルイジン青染色		粘液、軟骨基質など
コンゴ赤染色	アミロイド	アミロイド
ダイロン染色		
メチル緑・ピロニン染色	核酸、核小体	DNA、RNA 主に形質細胞の染色
グリメリウス（好銀性）染色	内分泌細胞の鑑別	消化管・下垂体好銀細胞、カルチノイド、内分泌腫瘍など
フォンタナ・マッソン染色		消化管好銀細胞、カルチノイド、メラニンなど
コッサ法	組織内無機物	カルシウム
ベルリン青染色		鉄
グラム染色	病原体	一般細菌
メチレン青染色		
抗酸菌（チールネルゼン）染色		抗酸菌
グロコット染色		真菌
オルセイン染色		HBs抗原
クリューバ・バレラ染色		髄鞘、ニッスル小体
ニッスル染色		ニッスル小体
過ヨウ素酸メセナミン銀 (PAM) 染色	腎	腎糸球体基底膜、細網線維など
ギムザ染色	血液細胞	血液細胞、ヘリコバクターピロリ
N AS-D クロロアセテートエステラーゼ染色		骨髓球系

# 病理学的検査

## 免疫染色一覧

検査項目	抗原分布	臨床的意義
上皮系マーカー		
Cytokeratin 5/6	CK5 (58kDa) は重層上皮、移行上皮、混合腺、中皮細胞、CK6 (56kDa) は増殖期の扁平上皮細胞に発現	低分化型扁平上皮癌と腺癌、上皮型中皮腫と肺腺癌の鑑別
Cytokeratin 7	腺細胞を含む多様な上皮細胞と反応、重層扁平上皮、肝細胞、大腸上皮は陰性	扁平上皮癌、肝細胞癌、腎癌、前立腺癌、大腸癌などで陰性、CK7/CK20 の染色特性による腫瘍細胞の鑑別
Cytokeratin 20	腸管上皮、消化管小窩上皮、幽門腺に存在する内分泌細胞、尿管上皮、皮膚のメルケル細胞と反応	結腸・直腸癌では高発現（胃癌では低い）、膵癌・胆道系癌・粘液性卵巣腫瘍・移行上皮癌・皮膚メルケル細胞腫で発現
Cytokeratin AE1+AE3	AE1 は酸性サイトケラチン、AE3 は塩基性サイトケラチンを認識	汎上皮性マーカー
Cytokeratin CAM5.2	低分子量サイトケラチン、主として CK8 を認識、扁平上皮以外の上皮細胞	上皮性腫瘍の同定、扁平上皮癌は陰性
Cytokeratin HMW (34 β E12)	CK1/5/10/14 を認識、扁平上皮、腺上皮などと反応	前立腺・乳腺における良悪性の判定
CDX2	十二指腸から直腸にわたる腸上皮の核に発現	カルチノイドを含む消化管原発腫瘍およびその転移巣の同定（卵巣癌・膀胱癌・膵癌にも陽性例あり）
E-Cadherin	カルシウムに制御された上皮細胞の細胞接着や極性の維持、腺管の分化、重層化など正常な組織構築に関与	腫瘍では発現抑制が認められ、癌の進行度・浸潤・転移能との相関あり、また、乳腺における乳管癌と小葉癌の鑑別
Epithelial Membrane Antigen (EMA)	上皮膜抗原 (EMA)、癌、中皮腫、滑膜および類上皮肉腫の大部分と反応	上皮性腫瘍の鑑別
Hepatocyte	認識される抗原ははっきりしていないが、正常ヒト肝細胞に存在し、多くの肝細胞癌に発現	肝細胞および肝細胞癌の同定、胆管、肝実質細胞以外は陰性
Napsin-A	Ⅱ型肺泡上皮細胞、肺泡マクロファージ、終末および呼吸細気管支の上皮、形質細胞、正常腎の尿細管上皮細胞に発現	肺原発腺癌の 90% に陽性
間葉系マーカー		
α -Smooth Muscle Actin (α -SMA)	平滑筋線維に存在する Alpha-Smooth Muscle Actin と特異的に反応	平滑筋線維由来の腫瘍の検索
Calretinin	正常および反応性中皮、皮膚のエクリン腺、精巣のセルトリ細胞、卵巣間質細胞、副腎皮質細胞で発現	中皮腫の同定補助、中皮腫と腺癌の鑑別
D2-40 (Lymphatic Endothelial Marker)	リンパ管内皮細胞	血管内皮細胞のマーカーとの組み合わせにより、悪性腫瘍におけるリンパ管侵襲と血管侵襲との鑑別、中皮腫のマーカーとしても用いられる
Desmin	筋細胞内の中間径フィラメント蛋白 Desmin (53kDa) のロッド (18kDa) と反応	横紋筋細胞（骨格筋および心筋）と平滑筋細胞に反応する筋原性マーカー
S-100 Protein	ヒト S100 α および β に強く反応、脳内グリア細胞、上衣細胞を認識、末梢神経系シュワン細胞陽性	ヒト中枢・末梢神経系腫瘍の鑑別、および悪性黒色腫の鑑別
Vimentin	中間径フィラメントの 1 つ	線維芽細胞、血管内皮細胞、平滑筋細胞などの間葉細胞およびリンパ球に発現
組織マーカー：神経・神経内分泌系		
Chromogranin A (CGA)	内分泌細胞や神経細胞に広く存在する分泌顆粒（クロム親和性顆粒）に認められるタンパク	神経内分泌腫瘍の一般的なマーカー
Glial Fibrillary Acidic Protein (GFAP)	中間径フィラメント蛋白で、星状膠細胞や上衣細胞といったグリア細胞に発現	星状膠細胞腫、上衣細胞腫に発現
Synaptophysin	神経筋接合部、脳、脊髄、網膜のニューロンにある前シナプス小胞および副腎髄質にある同様の小胞で産生される膜内在性糖蛋白	神経ないし神経内分泌腫瘍に特異性の高いマーカー
血液・リンパ球系（CD 以外）		
bcl-2	bcl-2 遺伝子産物と反応、bcl-2 遺伝子産物はミトコンドリア内に存在しアポトーシスの抑制に関与	反応性のリンパ濾胞と濾胞性リンパ腫の鑑別
bcl-6	706 アミノ酸ジシクフィンガータンパク質をコードする転写調節遺伝子で、リンパ濾胞の胚中心細胞陽性	濾胞性リンパ腫、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫、パーキットリンパ腫、結節性リンパ球優位型ホジキン病の Reed-Sternberg 細胞に陽性
Glycophorin A	赤芽球、赤血球	赤芽球系の検出
IgA (α Heavy Chains)	ヒト免疫グロブリン A (IgA) の H 鎖と特異的に反応	正常および腫瘍性形質細胞の IgA を検出
IgG (γ Heavy Chains)	免疫グロブリン G (IgG) サブクラスのヒト IgG の H 鎖と特異的に反応	形質細胞、IgG を含むリンパ系細胞、B 細胞由来に分類される腫瘍の同定

検査項目	抗原分布	臨床的意義
IgG4 (γ Heavy Chains)	ヒト免疫グロブリン G4 (IgG4) の H 鎖と特異的に反応	IgG4 関連疾患では IgG4 陽性形質細胞の多数の浸潤がみられ、各臓器炎・各腫瘍と IgG4 関連疾患との区別に有用
IgM (μ Heavy Chains)	ヒト免疫グロブリン M (IgM) の H 鎖と特異的に反応	正常および腫瘍性形質細胞の IgM を検出
Kappa Light Chains (κ)	免疫グロブリンの L 鎖は κ 鎖と λ 鎖に分類、L 鎖 κ と特異的に反応	λ との組み合わせによるクローナリティの解析はリンパ腫の指標となる
Lambda Light Chains (λ)	免疫グロブリンの L 鎖は κ 鎖と λ 鎖に分類、L 鎖 λ と特異的に反応	κ の項を参照
MUM1 Protein	MUM1 (Multiple Myeloma Oncogene 1) 遺伝子は多発性骨髄腫に関与する遺伝子として同定、MUM1 タンパクは胚中心細胞から形質芽細胞の段階で発現	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に強く発現
Myeloperoxidase (MPO)	好中球、単球、骨髄顆粒球の前駆細胞と反応	顆粒球系マーカー
PAX5	ヒト B リンパ球に存在するエピトープに反応	B リンパ球系統の正常および腫瘍性細胞の同定を補助
Plasma Cell (VS38c)	形質細胞の細胞内にある分子量 64kDa の抗原を認識	骨髄腫、形質細胞性腫瘍の鑑別
ホルモン関連物質		
Androgen Receptor (AR)	前立腺などの核	アンドロゲン受容体陽性の同定
Chorionic Gonadotropin (hCG)	ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット (HCG-β) と反応、正常ヒト胎盤の合体栄養細胞中にみられる	絨毛癌、胎児性癌
Estrogen Receptor (ER)	エストロゲン受容体	乳癌患者の予後の予測およびホルモン療法適応の判断基準
Progesterone Receptor (PgR)	プロゲステロン受容体	乳癌患者の予後の予測およびホルモン療法適応の判断基準
Thyroid Transcription Factor-1 (TTF-1)	甲状腺、肺および脳に特異的に発現している転写因子で、肺胞上皮や甲状腺濾胞上皮の核に反応	肺腺癌、肺小細胞癌、甲状腺濾胞上皮由来の腫瘍に反応、中皮腫では陰性であるため肺腺癌との鑑別に有用
細胞周期、腫瘍マーカー		
α -Fetoprotein (AFP)	ヒト α -フェトプロテイン (AFP) と特異的に反応、AFP はヒトの胎児の卵黄嚢、胎児肝および腸管の細胞で生成される糖タンパク質	生殖腺や生殖腺外の胚細胞腫組織、および肝細胞癌の組織、AFP 産生胃癌などで陽性
AMACR (P504S)	胆汁酸合成や分岐鎖脂肪酸のβ酸化に関与するAMACR (α -methylacyl-CoA racemase) を認識	前立腺癌や高度 PIN には高率に発現、基底細胞染色用マーカーとの組み合わせにより前立腺癌の鑑別に有用
CA19-9	シアリル化したルイス A (Lewis <sup>a</sup> ) 5 単糖で、乳腺、腎臓、唾液腺、汗腺の導管、肺の気管支上皮、大腸の管腔上皮、前立腺の導管上皮に反応	胃・大腸癌および膵癌の診断とフォローアップ
Carcinoembryonic Antigen (CEA)	ヒト大腸、肺、乳房、胃、膵臓などの悪性腫瘍組織中の 180kDa の癌胎児性抗原 (CEA) と反応	中皮腫と腺癌の鑑別
Cyclin D1	ヒトサイクリン D1 (PRAD-1 または bcl-1) に反応、細胞周期に関する核内タンパク	マンツル細胞リンパ腫、乳癌を含むヒトの悪性腫瘍においてサイクリン D1 が過剰発現
Gross Cystic Disease Fluid Protein-15 (BRST-2)	分子量 15kDa の単量体蛋白質で、乳腺嚢胞液、アポクリン上皮、涙腺などに発現	アポクリン上皮、乳癌(乳管上皮)の特異的マーカー
HER2/neu	HER2 遺伝子はチロシンキナーゼ活性を持つ受容体の膜貫通型タンパクをコード、細胞増殖・分化に関与	乳癌・胃癌における HER2 タンパク (c-erbB-2 または HER2/neu タンパク) の過剰発現の検出は、ハーセプチン投与の適応の判断基準
Ki-67 (MIB-1)	細胞周期の G1、S、G2、M 期全般にわたって発現する核タンパク	腫瘍の増殖能の評価、濾胞性リンパ腫と反応性濾胞の鑑別、パーキットリンパ腫とびまん性大細胞型リンパ腫との鑑別
p16	サイクリン依存性キナーゼインヒビターの 1 つで細胞周期の中心的な役割を果たす癌抑制遺伝子 (p16) 蛋白	p16 タンパク過剰発現は、ハイリスク型 HPV の継続的な感染により引き起こされる発癌性形質転換に関係、子宮頸部病変の鑑別に有用
p40	ヒト p63 遺伝子産物には TAp63 と p40 の 2 つのアイソフォームが存在し、そのうち p40 と特異的に反応	扁平上皮癌の代表的なマーカーである p63 よりも特異性が高い
p53 (DO7)	癌抑制遺伝子 p53 の遺伝子産物、野生型と変異型のヒト p53 protein を認識	良悪性の判断の補助、正常細胞では陰性
p63	前立腺基底細胞、乳管筋上皮細胞、重層扁平上皮や尿路上皮等多くの上皮細胞の基底細胞の核に反応	基底細胞・筋上皮のマーカー
Prostate Specific Antigen (PSA)	前立腺腺管	転移した前立腺癌の原発巣の検索
Uroplakin III	尿路上皮系を形成する移行上皮のアンプレラ細胞の形成に関与し、尿路上皮の分化に対する特異的マーカー	正常では細胞表面に強い陽性反応
Wilms' Tumor 1 (WT-1)	Wilms' Tumor 1 Protein (WT1) は癌抑制遺伝子として作用する転写因子であり、WT1 遺伝子の欠失または点突然変異が腫瘍の発生に関与	Wilms' 腫瘍、悪性中皮腫他、多くの腫瘍に反応

# 病理学的検査

検査項目	抗原分布	臨床的意義
病原体		
Cytomegalovirus (CMV)	2つのクローン CCH2 と DDG9 を混合	感染初期 / 早期の Cytomegalovirus の検索
Epstein-Barr Virus (EBV)	Latent membrane protein (LMP-1) は EBV の BNLF1 遺伝子がコードする蛋白質、4 種類のモノクローナル抗体 (clone CS1、CS2、CS3、CS4) のカクテル	膜蛋白質 LMP-1 に反応、EBV に感染した細胞の一部に陽性
白血球分化抗原		
CD1a	樹状細胞と胸腺皮質細胞に発現	ランゲルハンス細胞と指状突起細胞の同定、胸腺腫の診断
CD3	正常および腫瘍性の T 細胞に発現	T 細胞を認識する汎 T 細胞マーカー
CD4	MHC クラス II による抗原提示を認識するヘルパー・インデューサー T 細胞に存在	T 細胞性リンパ腫の組織型分類や正常組織内のヘルパー・インデューサー T 細胞サブセットの鑑別
CD5	95%以上のヒト T 細胞表面に発現、正常 B 細胞の一部にも発現	T 細胞性リンパ腫の診断、B 細胞性リンパ腫の分類（小リンパ球性リンパ腫、マンツル細胞リンパ腫）
CD8	細胞傷害性サブプレッサー T 細胞、一部の NK 細胞に反応	T 細胞性リンパ腫の診断の補助
CD10	common 急性リンパ性白血病抗原と特異的に反応、胚中心 B 細胞・成人骨髄中の未熟な B 細胞・乳腺筋上皮細胞・消化管上皮細胞などにも発現	濾胞性リンパ腫、バーキットリンパ腫、リンパ芽球性リンパ腫、腎細胞癌、内膜症、胆管癌
CD20 (L26)	B 細胞に反応、形質細胞まで分化すると陰性	B 細胞性リンパ腫、ただしリツキサン使用後は発現が減弱
CD21	補体 C3d 受容体として機能、EBV の受容体として作用、成熟 B 細胞・濾胞樹状細胞に存在	B 細胞性の白血病やリンパ腫の鑑別
CD30 (Ki-1)	活性化 B 細胞および活性化 T 細胞に発現	古典的ホジキンリンパ腫のホジキン細胞・Reed-Sternberg 細胞および未分化大細胞型リンパ腫などに発現
CD31 (Endothelial Cell )	血管内皮細胞に存在する糖タンパクと血小板に存在するタンパクを認識	血管内皮マーカー、血管内皮細胞由来の良性および悪性腫瘍の検索
CD34 (Endothelial Cell )	ヒトリンパ系および骨髄系前駆細胞に選択的に発現、血管内皮・ある種の間葉系細胞にも発現	血管内皮細胞の同定、間葉系腫瘍、急性白血病の骨髄での芽球の評価
CD42b	血小板、巨核球に発現	巨核球の同定
CD45 (LCA)	白血球共通抗原	白血球起源の腫瘍と、癌・肉腫のような非造血系腫瘍との鑑別
CD56 (N-CAM)	NK 細胞および活性化 T リンパ球のサブセット、神経細胞、Schwann 細胞に発現	NK 細胞性リンパ腫、小細胞癌、神経内分泌性腫瘍の同定
CD68 (KP-1)	マクロファージ、単球、骨髄系前駆細胞、顆粒球、クッパー細胞	マクロファージの同定
CD79 $\alpha$	B 細胞の成熟過程の初期である前 B 細胞から細胞質内成分としてみられる形質細胞に至るまで広く発現	汎 B 細胞マーカー
CD117 (c-kit)	カハールの介在細胞に発現	消化管間質性腫瘍 (GIST) のマーカー
その他		
Amyloid A	AA 型アミロイド沈着物と反応	AA 型アミロイドーシスの同定
HMB45 (Melanosome)	ヒトの悪性黒色腫の細胞質内抗原と特異的に反応、メラニン形成細胞へと分化傾向を示す腫瘍とも反応	転移性および無色素性悪性黒色腫の検索
Melan A	ヒトのメラノーマの 90% 以上で細胞質に均一に陽性反応を示し、成人メラノサイトにも反応	悪性黒色腫の補助的な診断
Muc-1 Glycoprotein	ムチンは上皮組織表面を覆う粘液の主成分を構成し上皮間で発現が異なり、MUC1 は乳腺・膵臓に存在する膜結合型ムチン	「乳腺型」の粘液形質マーカー
Muc-2 Glycoprotein	小腸・大腸（とくに杯細胞）に存在する分泌型ムチン	「腸型」の粘液形質マーカー
Muc-5AC Glycoprotein (Muc-5AC)	胃腺窩上皮細胞に存在する分泌型ムチン	「胃型」の粘液形質マーカー
Muc-6 Glycoprotein (Muc-6)	胃幽門腺・噴門腺 Brunner 腺に存在する分泌型ムチン	「胃型」の粘液形質マーカー
p57 <sup>Kip2</sup>	正常細胞は核が陽性	全胎状奇胎の診断に有用、cytotrophoblasts と実質が陰性、絨毛外の trophoblasts は陽性

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	点数	所要日数	検査方法	備考		
細胞診検査	10601	婦人科材料等細胞診	膣部擦過	室温	T	*1 150	3～11	パパニコロウ染色 メイギムザ染色	○細胞診専用の依頼書を添えて提出  ◎注意事項の詳細は下記及び次頁を参照		
			頸部擦過								
			内膜吸引								
	10600	細胞診(婦人科LBC)	頸部擦過	室温	R2	150 + *2 45					
	10352	その他の細胞診	呼吸器	喀 痰	冷蔵	J6				*1 *3 190	
				喀痰集細胞法		室温					R1
				気管支擦過		T					
			泌尿器	自 然 尿	冷蔵	D					
				カテーテル尿							
			体腔液	胸 水	冷蔵	D					
				腹 水							
				関 節 液							
				髄 液							
			消化器	胃 液	冷蔵	D					
				胆 汁							
				生検捺印							室温
その他	乳 腺			T							
	甲 状 腺										
		リンパ節									
	細胞診標本作製	各種材料				1～3					
	細胞診標本診断	細胞診標本	室温	T		3～11					

\*1 同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。

\*2 固定保存液に回収した検体から標本作製して、診断を行った場合には、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、45点を所定点数に加算する。婦人科材料等液状化検体細胞診加算は、採取と同時にを行った場合に算定できる。なお、過去に穿刺又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本作製し診断を行った場合には算定できない。

\*3 穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるものについて、過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本作製して、診断を行った場合には、液状化検体細胞診加算として、85点を所定点数に加算する。

## 細胞診検査の提出方法

### 1 専用依頼書の記入方法

- 患者名、生年月日、性別をご記入ください。
- 提出医名をご記入ください。
- 採取日をご記入ください。
- 検査材料をチェックまたはご記入ください。
- 臨床診断名、臨床経過・治療、臨床検査諸事項をご記入ください。  
(婦人科材料の場合は月経周期や現在の妊娠・授乳の有無・ホルモン剤投与の有無、その他特異所見があればご記入ください。)
- 胸部X線像の特異所見があればご記入ください。
- 前回の標本番号および診断名が分かればご記入ください。

### 2 スライドガラス・標本ケース及び容器への記入方法

- ①スライドガラスのすりガラス部に患者名を記入し、乾燥固定した塗抹標本スライドの場合のみ“乾燥(ドライ)”と追記してください。又、同一患者で複数のご依頼がある場合は、材料名も記入してください。
- ②標本ケースには病・医院名、患者名、性別、年齢、標本枚数を必ず記入してください。
- ③採取容器に、病・医院名、患者名、性別、年齢、材料名を必ず記入してください。

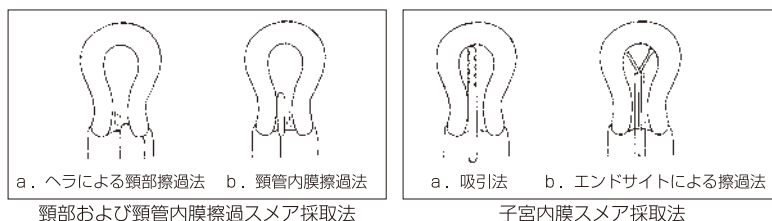


## 検査材料の提出方法

### ①婦人科材料〔湿固定標本〕

- 直接塗抹法：乾燥しやすいので、塗抹後直ちに湿固定してください。
- BD Sure Path法(BDシュアパス法)：採取後すぐにバイアルに入れ、開口部端に先端を引っかけて柄を引き抜いてください。(小さい開口部側に入れないでください) バイアルのフタをしっかりとめてご提出ください。
- Thin Prep法：採取後すぐにバイアルに入れ、容器の底で毛先が広がるように10回以上押す(ブラシの場合)か、バイアル中で10回以上強くかき回し(ヘラの場合)、細胞を十分にバイアルへ入れてください。採取器具はバイアルに入れたままにしないでください。バイアルのフタをしっかりとめてご提出ください。

#### 婦人科検体の採取方法



頸部および頸管内膜擦過スミア採取法

子宮内膜スミア採取法

### ②喀痰〔湿固定標本〕

喀痰を採取する際は、起床後にうがいをして口腔内をきれいにしてから採取してください。

- 喀痰集細胞法検体は、蓄痰容器の内シールをはがし、1日1回・3日間(できれば連続3日間)採取し、その都度フタをして15~20回強く振り、痰を溶解させ、容器のままご提出ください。(痰は青線を超えないように注意してください)
- 生検体のまま提出される場合は、所定の容器に喀痰を入れ、しっかりとフタをしてご提出ください。
- 標本スライドを作製する場合は、小豆大の喀痰を2枚のスライドガラスで挟み、軽い圧迫を加えて前後左右に3~4回程度すり合わせ、直ちに湿固定してください。癌細胞は血痰部、白濁部、粘液部に多く含まれるので、特にその部分を塗抹してください。なお、検体がごく少量で乾燥のおそれがある場合や粘着性がない場合は蓄痰容器での提出が望まれます。

### ③液体検体(尿、胸水、腹水、洗浄液)〔湿固定標本〕場合によって+〔乾燥固定標本〕

- 生検体のまま提出される場合は、所定の容器に入れてご提出ください。また尿は10mL以上提出してください。胸水・腹水は2~3回体位を交換させてから穿刺採取してください。冷蔵保存してください。
- 標本スライドを作製する場合は、1,500rpm・5分間遠心後、沈渣を毛細管ピペットで1~2滴とり、引きガラス法またはすり合わせ法によって塗抹し、直ちに湿固定してください。血性検体の場合は有核成分が多い白色層(パフィーコート層)を塗抹し、直ちに湿固定してください。

### ④擦過検体(気管支、消化管など)〔湿固定標本〕

- 所定容器の液中に採取器具を入れ、振り洗いをするようにし、フタをしてご提出ください。採取器具を入れたまま提出されてもかまいません。この場合は冷蔵保存してください。
- 標本スライドを作製する場合は、スライドガラスに塗抹後、直ちに湿固定してください。

### ⑤穿刺吸引検体(乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、軟部腫瘍など)〔湿固定標本〕場合によって+〔乾燥固定標本〕

- 所定容器の液中に針内の検体を入れ、針内に何回か液を出し入れし、針を液に浸したままご提出ください。
- 標本スライドを作製する場合は、針内の検体をスライドガラスに吹き出し、別のスライドガラスを重ねて挟み、1度だけ軽くすり合わせ、直ちに湿固定してください。

### ⑥捺印標本(リンパ節、固形腫瘍など)〔湿固定標本〕場合によって+〔乾燥固定標本〕

- 組織の断面をスライドガラスに軽く押し当て、直ちに湿固定してください。

※なお、③~⑤で標本スライドを作製した場合、残検体がありましたら所定容器(D)に入れてご提出ください。(お問い合わせください。)

## 〔固定方法〕

標本スライドを作製する場合、塗抹後瞬時にいずれかの方法で固定してください。

〔湿固定標本〕(おもにバビコウ染色用)

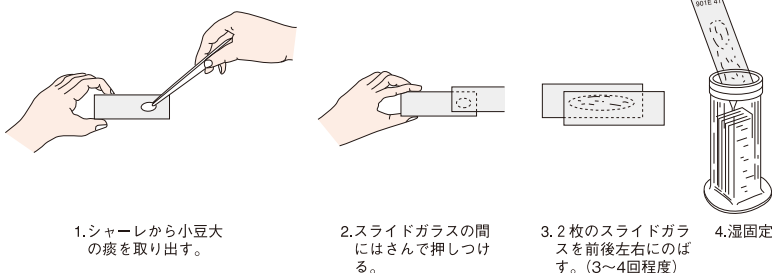
- 塗抹したスライドガラスを瞬時に95%エタノールに入れ、30分以上固定後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。(スプレー固定剤はしったり落ちるくらいの量を噴霧してください。)
- 塗抹したスライドガラスを瞬時に95%エタノールに入れ、そのままご提出ください。(この場合、搬送に耐えられるフタ付固定容器が必要となります。)
- 塗抹したスライドガラスを瞬時に固定剤をしったり落ちるくらいの量を噴霧し、ご提出ください。

〔乾燥固定標本〕(ギムザ染色用)

塗抹後、直ちに冷風(ドライヤーなど)で急速乾燥させてください。

### 粘稠性検体

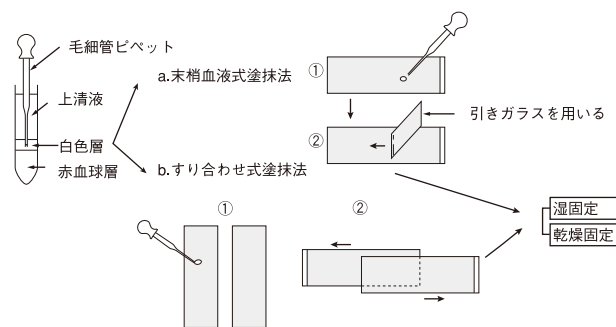
#### ■すり合わせ法



### 液状検体

#### ■引きガラス法

#### ■すり合わせ法



分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
淋 菌 ・ ク ラ ミ ジ ア	03151	淋菌核酸同定検査	初尿4.5	室温	Q12	*1 *2 198 微生物	2～3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	陰性	(注) 採取方法は 83 ページ参照	淋菌感染症 尿道炎
	00286		ぬぐい液	室温	Q11						
	04761		うがい液 4.5	室温	Q12						
	02919	クラミジアトラコマチス 核酸同定検査	初尿4.5	室温	Q12	*3 *4 188 微生物	2～3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)		(注) 採取方法は 83 ページ参照	クラミジアトラコマチス感染症 子宮頸管炎 尿道炎
	00281		ぬぐい液	室温	Q11						
	04760		うがい液 4.5	室温	Q12						
	04388	淋菌及びクラミジア ・トラコマチス同時 核酸検出	初尿4.5	室温	Q12	*2 *5 262 微生物	2～3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	淋菌：陰性  クラミジア・ トラコマチス ：陰性	(注) 採取方法は 83 ページ参照	淋菌感染症 クラミジアトラコマチス感染症 混合感染
	04385		ぬぐい液	室温	Q11						
	04762		うがい液 4.5	室温	Q12						
その他	04845	STD マイコプラズマ 核酸同定	初尿2 または ぬぐい液	冷蔵	Q14		3～4	リアルタイム PCR法	M. genitalium 検出せず M. hominis 検出せず U. parvum 検出せず U. urealyticum 検出せず	M	

- \*1 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
- \*2 泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又は、TRC法においては咽頭からの検体も算定できる。
- \*3 クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
- \*4 泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。
- \*5 クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。クラミジア・トラコマチス抗原定性、淋菌抗原定性、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、クラミジア・トラコマチス核酸検出又は淋菌核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (注) 初尿は排尿時の最初の部分の尿です。検体採取1時間前より排尿しないで下さい。



# 遺 伝 子 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
ウ イ ル ス	03882	ノロウイルスRNA (SRSV-RNA)	糞便 拇指頭大	凍結	K		2~3	リアルタイム RT-PCR法	GⅠ (一) GⅡ (一)		ノロウイルス胃腸炎 ノロウイルス下痢症
	02603	パルボウイルスB19 核酸同定 (HPV/B19-DNA)	血清0.4	凍結	A5		3~9	リアルタイム PCR法	検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。 M	伝染性紅斑 (リンゴ病)
	04238	HPV-DNA 同定 (低リスク型)	ぬぐい液	冷蔵	Q4	*1 347 微生物	3~9	ハイブリッド キャプチャー法	陰性 (一) index 1.00未満	6,11,42,43および44型の 低リスク型HPVを検出 (型判別不可) M	HPV感染症 子宮頸癌
	04241	HPV-DNA 同定 (中~高リスク型)					3~4			16,18,31,33,35,39,45,51, 52,56,58,59および68型の 中~高リスク型HPVを検出 (型判別不可) M	
	05428	HPV簡易ジェノタイプ (9種判別)	ThinPrep または SurePath	冷蔵	R2	347 微生物	4~6	リアルタイム PCR法	検出せず	次頁参照 6種の型別判定 3種のグループ単位での 検出有無 M	
	04782	HPV-DNA 簡易ジェノタイプ	ThinPrep または SurePath	冷蔵	R2	347 微生物	4~5	リアルタイム PCR法/ロシュ	検出せず	16,18型の 型別判定 M	
	04610	HPV型判定	ThinPrep または SurePath	冷蔵	R2	*2 2000 微生物	4~7	PCR-rSSO法		16,18,31,33,35,39,45,51, 52,56,58,59および68型の 中~高リスク型HPVを検出 L	
	03997	HTLV-1 核酸同定	全血7.0	冷蔵	F1	*3 450 微生物	6~17	リアルタイム PCR法	検出せず	採血日に出検 受付曜日：月~金 休日前日は受付不可 他項目との重複不可 M	成人T細胞白血病 (ATL) ヒトT細胞白血病関連 脊髄症 (HAM)
	04447	HIV-1 RNA 定量	血漿2.1	冷蔵	A9	*4 520 微生物	4~5	リアルタイム RT-PCR法 (TaqMan PCR法)	2.0×10 <sup>1</sup> 未満 コピー/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。 M	後天性免疫不全症候群 (AIDS)
	04471	HBV-DNA定量	血清2.0	凍結	A8	*5 256 微生物	2~6	リアルタイムPCR法 (TaqMan PCR法)	1.0未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。	B型肝炎
	04448	HCV-RNA 定量	血清2.1	凍結	A5	*6 412 微生物	2~5	リアルタイム RT-PCR法 (TaqMan PCR法)	1.2未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複 依頼は避ける。	C型肝炎
	02922	HCVサブタイプ系統解析	血清0.5	凍結	A5		6~11	RT-PCR法/ ダイレクトシーケンス法	型別判定 1a,1b,1c,1d,2a,2b, 2c,3a,3b,4,5a,6a, (12型)	他項目との重複 依頼は避ける。 M	

- \*1 厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類がASC-USと判定された患者又は過去に子宮頸部（腔部）切除術、子宮頸部摘出術（腔部切除術を含む。）若しくは子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。また、HPV核酸検出とHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- \*2 あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。なお、HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。また、同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。
- \*3 HTLV-1核酸検出は、HTLV-I抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）によって判定保留となった妊婦、移植者（生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。）又は臓器等提供者（生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。）を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-I抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- \*4 HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1.2抗体定性、同半定量、HIV-1.2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1.2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1.2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。なお、本検査とHIV-1抗体（ウエスタンブロット法）を併せて実施した場合はそれぞれを算定することができる。
- \*5 B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
- \*6 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。なお、治療経過の観察の場合において、HCV核酸検出及びHCV核酸定量を併せて実施した場合は、主たるものののみ算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基 準 値	備 考	検査目的および異常 値を示す主な疾患名
ウイルス 結核菌 非定型抗酸菌	06568	SARS-CoV2 核酸検出	鼻咽喉 または 唾液(2mL)	冷蔵	Q-13 X など	※1 700 微生物	1~3	リアルタイム RT-PCR法	陰性		新型コロナウイルス 感染症
	23543	結核菌群核酸同定検査 (MTB)	下記参照	冷蔵	下記 参照	※2 410 微生物	2~4	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	結核菌群 (-)	(注)	結核
	23542	非定型抗酸菌核酸同定 (MAC)		冷蔵		※3 421 微生物	2~4	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	M.アビウム (-) M.イントラセラー (-)	(注)	非定型抗酸菌感染症
その他	03886	百日咳菌核酸検出	後鼻腔 ぬぐい液	凍結	J5	※4 360 微生物	3~5	LAMP法	(-)	採取後速やかに 凍結保存 他項目との重複不可 L	百日咳
	04549	マイコプラズマ・ ニューモニエ核酸同定	喀痰1.0 または ぬぐい液	凍結	D2	291 微生物	4~5	Q Probe法	検出せず		マイコプラズマ感染症 マイコプラズマ肺炎 M

※1 ア COVID-19が疑われる患者に対して、COVID-19の診断を目的として実施した場合に1回に限り算定する。ただし、本検査の結果が陽性であったものの、COVID-19以外の診断がつかない場合は、さらに1回に限り算定できる。この場合において、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。なお、採取した検体を、検体採取を行った保険医療機関以外の施設へ搬送し検査を委託により実施する場合は、国立感染症研究所が作成した「感染症物質の輸送規則に関するガイダンス 2013-2014版」に記載されたカテゴリーBの感染症物質の規定に従うこと。

イ 本検査を実施した場合、SARS-CoV-2・インフルエンザウイルス核酸同時検出、SARS-CoV-2・RSウイルス核酸同時検出、SARS-CoV-2・インフルエンザ・RSウイルス核酸同時検出及びウイルス・細菌核酸多項目同時検出（SARS-CoV-2核酸検出を含む。）については、別に算定できない。

※2 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ順回に行われる場合においても算定できる。

※3 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合にのみ算定できる。なお、抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。

※4 関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断の定義を満たす患者に対して、測定した場合に算定できる。

(注) 遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。

## 臨床材料と必要検体量及び採取容器

検査材料	喀痰	気管支 洗浄液	胸水	髄液	胃液	尿	膿水	関節液	血液	膿	糞便
必要量	1~3mL	1~3mL	5~10mL	1~2mL	1~3mL	5~10mL	5~10mL	5~10mL	5~10mL	2~3mL	小指頭大
容器	J6・D	D	D	D	D	D	D	D	F1	J9・D	K

## 抗酸菌遺伝子検査の留意点

①血液混入検体、組織など材料によっては阻害物質により結果が偽陰性になる場合があります。

②組織は生材料にてご提出ください。（ホルマリン固定組織、パラフィン固定組織不可）

③胸水、膿水、髄液、関節液、血液、骨髄液の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、EDTAを用いて採取してください。

④検体は、冷蔵保存してください。

⑤検査結果において「陽性」は結核菌あるいはMACの存在を示唆しますが、「陰性」の場合、必ずしも結核菌あるいはMACの存在を否定するものではありません。

塗抹、培養など他の検査との併用により総合的に診断いただきますようお願い致します。

## HPV簡易ジェノタイプ（9種判別）報告可能な遺伝子型

個々に判別可能な型	16型	18型	31型	45型	51型	52型
グループ判定*	33型/58型		35型/39型/68型		56型/59型/66型	

\* グループ判定：いずれか、または全ての型に感染している場合に陽性となります。グループ内のどの型に感染しているかは判別できません。

## 検体の安定性（血清・血漿）

検査項目	保存期間
<b>■生化学的検査</b>	
総ビリルビン（T-Bil）	室温2日 冷蔵1週間 凍結1ヶ月（遮光）
直接ビリルビン（D-Bil）	室温2日 冷蔵1週間 凍結1ヶ月（遮光）
総蛋白（TP）	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
アルブミン（Alb）	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
蛋白分画	室温2日 冷蔵1週間 凍結>1ヶ月
AST（GOT）	室温3日 冷蔵1週間 凍結>1ヶ月
ALT（GPT）	室温1日 冷蔵3日 凍結>1ヶ月
ALP	室温<1日 冷蔵1週間 凍結6ヶ月
LD（LDH）	室温5日 冷蔵5日 凍結不安定
LAP	室温3日 冷蔵1週間 凍結3ヶ月
γ-GT（γ-GTP）	室温1週間 冷蔵1週間 凍結3ヶ月
コリンエステラーゼ（ChE）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
アミラーゼ（AMY）	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
リパーゼ	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結6ヶ月
トリプシン	凍結6ヶ月
エラスターゼ1	凍結3ヶ月
CK（CPK）	室温2日 冷蔵1週間 凍結1ヶ月
アルドラーゼ	室温1日 冷蔵1ヶ月 凍結>3ヶ月
リゾチーム	室温1～4日 冷蔵1週間
グアナゼ	室温3日 冷蔵2週間 凍結10ヶ月
総コレステロール	室温1週間 冷蔵1週間 凍結1年
トリグリセリド（TG）	室温1日 冷蔵4日 凍結>1ヶ月
リン脂質（PL）	室温不安定 冷蔵1週間 凍結>1ヶ月
HDLコレステロール	室温1週間 冷蔵2週間 凍結3ヶ月
リポ蛋白分画	冷蔵1週間
総胆汁酸	室温1週間 冷蔵6ヶ月 凍結1年
ナトリウム（Na）	室温1～2週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
クロール（Cl）	室温1～2週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
カリウム（K）	室温1～2週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
カルシウム（Ca）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結1年
無機リン（IP）	室温3日 冷蔵1週間 凍結>1ヶ月
マグネシウム（Mg）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結1年
尿素窒素（UN）	室温3日 冷蔵1週間 凍結6ヶ月
クレアチニン（CRE）	室温3日 冷蔵1週間 凍結6ヶ月
尿酸（UA）	冷蔵1週間 凍結6ヶ月
クレアチン	室温2時間 冷蔵5時間 凍結1週間
アンモニア	室温8時間 冷蔵1週間 凍結>1年
血糖（グルコース）	凍結1ヶ月
乳酸	凍結1ヶ月
ビルビン酸	凍結1週間
ビタミンA	凍結10日
ビタミンB <sub>1</sub>	凍結1週間
ビタミンB <sub>2</sub>	凍結1週間
ビタミンB <sub>6</sub>	凍結1週間
ビタミンB <sub>12</sub>	室温4日 凍結3ヶ月
ビタミンE	冷蔵2週間
葉酸	凍結4週間
鉄（Fe）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
TIBC	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
UIBC	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
銅（Cu）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
亜鉛（Zn）	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
<b>■内分泌学的検査</b>	
成長ホルモン（GH）	室温1日 冷蔵1日 凍結>6ヶ月
黄体形成ホルモン（LH）	室温1日 冷蔵1日 凍結>6ヶ月
卵胞刺激ホルモン（FSH）	室温1日 冷蔵1日 凍結>6ヶ月
TSH	室温1日 冷蔵1日 凍結>6ヶ月
ACTH	凍結6ヶ月
プロラクチン	凍結3ヶ月
T <sub>3</sub> （トリヨードサイロニン）	室温数日 冷蔵2週間 凍結>6ヶ月
T <sub>4</sub> （サイロキシニン）	室温数日 冷蔵2週間 凍結>6ヶ月
TBG	凍結3ヶ月
サイログロブリン	凍結3週間
カルシトニン	室温不安定 冷蔵不安定 凍結3ヶ月
PTH	凍結1ヶ月
11-OHCS	室温1日 冷蔵10日 凍結>6ヶ月
コルチゾール	凍結6ヶ月
VMA	凍結3ヶ月
HVA	室温2時間 冷蔵1～2日 凍結1ヶ月
カテコールアミン	室温不安定 冷蔵不安定 凍結半月
セロトニン	凍結3ヶ月
5-HIAA	室温1日 冷蔵数日 凍結>6ヶ月
インスリン	凍結3ヶ月
C-ペプチド	凍結1ヶ月
プロゲステロン	凍結2～4ヶ月
テストステロン	室温3時間 冷蔵3日 凍結2ヶ月
レニン活性	凍結1年
サイクリックAMP	

検査項目	保存期間
<b>■免疫血清学的検査</b>	
血清補体価（CH <sub>50</sub> ）	凍結1週間（-20℃） 6ヶ月（-70℃）
C <sub>3</sub>	凍結1ヶ月
C <sub>4</sub>	凍結1ヶ月
IgG	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
IgA	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
IgM	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
IgE（非特異的IgE）	凍結6ヶ月
特異的IgE	凍結6ヶ月
α <sub>1</sub> -アンチトリプシン	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
ハプトグロビン	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
セルロプラスミン	室温不安定 冷蔵1ヶ月 凍結1年
トランスフェリン（Tf）	室温1週間 冷蔵2週間 凍結6ヶ月
フェリチン	冷蔵2日 凍結4ヶ月
α <sub>1</sub> -マイクログロブリン	冷蔵2週間 凍結6ヶ月
β <sub>2</sub> -マイクログロブリン	冷蔵3週間 凍結>3週間
免疫電気泳動	凍結1年（-80℃）
CRP	室温2日 冷蔵1週間 凍結>4ヶ月
ASO	室温2日 冷蔵1週間 凍結>4ヶ月
トキソプラズマ抗体	凍結6ヶ月
梅毒 RPR法	凍結6ヶ月
梅毒 TPHA法	凍結6ヶ月
梅毒 FTA-ABS法	凍結6ヶ月
ウイルス抗体価（HI）	冷蔵1週間
ウイルス抗体価（CF）	冷蔵1週間
HTLV-1抗体（ATLA）	凍結6ヶ月
HA抗体	凍結6ヶ月
HBs抗原	凍結6ヶ月
HBs抗体	凍結6ヶ月
HBc抗体	凍結6ヶ月
HBe抗原	凍結6ヶ月
HBe抗体	凍結6ヶ月
<b>■腫瘍関連検査</b>	
CEA	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
α-フェトプロテイン（AFP）	冷蔵1ヶ月 凍結1年
神経特異エノラーゼ（NSE）	凍結2年
CA125	冷蔵2週間
CA19-9	冷蔵1週間 凍結6ヶ月
<b>■血液学的検査</b>	
プロトロンビン値	凍結3日
APTT	凍結3日
フィブリノゲン	室温1週間 冷蔵1ヶ月 凍結1年
凝固因子	凍結3ヶ月
プラスミノゲン蛋白量	凍結3ヶ月
プラスミノゲン活性	凍結3ヶ月
アンチトロンビン活性（AT）	凍結1ヶ月
β-トロンボグロブリン	凍結1年

参考文献：日本医師会 臨床検査指針 改訂第5版  
検査値を変えるもの 一影響因子の一覧と対策一 薬事日報社



## 検査方法の略号

CF	Complement Fixation	補体結合反応
CLEIA	Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	化学発光酵素免疫測定法
CLIA	Chemiluminescent Immunoassay	化学発光免疫測定法
ECLIA	Electrochemiluminescence Immunoassay	電気化学発光免疫測定法
EIA	Enzyme Immunoassay	酵素免疫測定法
ELISA	Enzyme-Linked Immunosorbent Assay	酵素免疫測定法
EMIT	Enzyme-multiplied Immunoassay Technique	
FA	Fluorescent Antibody Method	蛍光抗体法
FEIA	Fluoro Enzyme Immunoassay	蛍光酵素免疫測定法
ELISPOT	Enzyme-linked ImmunoSpot	
FPIA	Fluorescence Polarization Immunoassay	蛍光偏光免疫測定法
GC	Gas Chromatography	ガスクロマトグラフィー
GC/MS	Gas chromatography-Mass spectrometry	ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー
HA	Hemagglutination	赤血球凝集反応
HEIA	Homogeneous EIA	均質酵素免疫測定法
HI	Hemagglutination Inhibition Test	赤血球凝集抑制試験
HPLC	High Performance Liquid Chromatography	高速液体クロマトグラフィー
ICP-MS	Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometer	誘導結合プラズマ質量分析計
IFA	Indirect Fluorescent Antibody Method	間接蛍光抗体法
IRMA	Immunoradiometric Assay	免疫放射定量法
KIMS	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	
LA	Latex agglutination	ラテックス凝集法
LAMP	Loop-Mediated Isothermal Amplification	
LBA	Liquid-phase binding assay	液相結合法
LC-MS/MS	Liquid Chromatography/Mass/Mass	タンデムMS法
LPIA	Latex Photometric Immunoassay	ラテックス近赤外免疫比濁法
MPHA	Mixed Passive Hemagglutination	混合受身凝集法
NT	Neutralization Test	中和反応
PA	Passive (Particle) Agglutination	受身（粒子）凝集反応
PCR	Polymerase Chain Reaction	PCR法
PHA	Passive Hemagglutination	受身赤血球凝集反応
RIA	Radio Immunoassay	放射性免疫測定法
RPLA	Reversed Passive Latex Agglutination	逆受身ラテックス凝集反応
RRA	Radio Receptor Assay	ラジオリセプターアッセイ
RT-PCR	Reverse Transcriptase-PCR	RT-PCR法
TIA	Turbidimetric Immunoassay	免疫比濁法
UV	Ultraviolet	紫外外部吸光光度分析

## 検体採取方法

### 必要な器具一式

- ・消毒用アルコール綿
- ・駆血帯
- ・目的の採血管
- ・真空採血管用ホルダーまたは、注射器
- ・絆創膏類
- ・医療廃棄物用の容器

採血に必要な道具一式です。採血を始める前に、まずこれらを自分にとってもっとも使いやすい位置に配置させましょう。特に、使用済みの針を入れる容器は、右利きの人であれば、自分にとって右側に、左利きの人であれば左側に配置させましょう。

### 採血の手順

- ・採血前の確認をします。
  - 1) 患者さんの名前を確認します。（患者さん自身に名前を言ってもらいましょう）
  - 2) 患者名と採血管ラベルを照合します。
  - 3) 採血に関して説明して同意を得ます。
  - 4) アルコール過敏症を尋ね、過敏症があれば、他の消毒薬を考慮します。
  - 5) 以前に採血等で気分が悪くなった事がないかなど迷走神経反射の既往を尋ねます。
  - 6) 適切な採血管を選択します。
- ・患者さんの腕に駆血帯を巻きます。
  - 1) はじめから静脈の見えやすい人もいますが、駆血帯を巻くことで静脈が浮き出てきます。
  - 2) 採血時に採血管からの逆流を防ぐために患者さんの腕を下げるアームダウンにします。
- ・目的の血管を見極めた後、その周囲を消毒用アルコール綿で消毒します。
  - 1) 血管は肘正中皮静脈が一般的ですが、橈側皮静脈、尺側皮静脈の方が採取しやすい人もいます。
  - 2) 針とホルダー又は注射器を確実に接続し、針の切り口を上に向けて、皮膚との角度を15～20°程度に保ち、反対側の親指で、穿刺部の皮膚を引っ張るように押さえながら刺入します。
  - 3) 刺入ポイントは、実際に穿刺する血管壁のポイントより少し（3～5mm程度）末梢側の皮膚を穿刺します。
  - 4) 穿刺する時はいきなり刺すより「ちょっと痛いですよ。」などの声かけをした方が親切です。
  - 5) 静脈壁を貫通する瞬間、多くの場合、弱い抵抗を感じます。
 

静脈に入ったら、そのまま静脈に沿って針を5mm程進めます（こうしておくと、採血中、針先が静脈内から抜けにくくなります）。
  - 6) 刺入針が動かないように、左手で患者さんの腕の上で、ホルダー又は注射器を固定します。真空採血では、ここで初めて真空採血管を差し込みます。注射器での採血では、内筒を引き必要量を吸引します。
 

※抗凝固剤入りの採血管は採血後軽く転倒混和し凝固を防止します。また、凝固促進剤を添加している血清分離用採血管も軽く転倒混和が必要になります。
  - 7) 採血が終わったら駆血帯を緩め、穿刺部を消毒用アルコール綿で押さえながら針を抜きます。患者さんには揉まないで数分間圧迫するように指導します。
- 【注意】使用済み針はリキャップしません。
 

リキャップなしで直接所定の専用容器に廃棄します。

### 採血手順に関する諸注意

- ・溶血の防止
 

採血時の溶血を避けるためには、次のような注意が必要です。

  - ・皮膚の消毒後は十分乾燥するまで待って穿刺を行う。
  - ・23Gより細い針は使用しない。
  - ・血腫部位からの採血は行わない。
  - ・注射器採血の場合、気泡が混入しないよう針が注射器にしっかりと接続されていることを確認する。
  - ・注射器採血の場合、内筒を強く引きすぎない。
  - ・採血管には規定量の血液を採取・分注する。
  - ・採血管の転倒混和の際、血液を泡立てないようにする。
- ・クレンジングによるカリウムへの影響
 

採血時、クレンジングを行うことにより、カリウム値が高くなるという報告があります。クレンジングとは、血管の確認を行うために駆血帯をしたあとに、手のひらの開閉を繰り返し、静脈の怒張を促すことを言います。（いわゆる、ぐーぱーぐーぱー）

### 採血管の順序

- ・真空採血時
 

真空採血を行う場合、複数の採血管に採血する場合は各採血管の間での内容物のコンタミネーションによる検査データへの影響を防ぐため、次の順序が推奨されます。

① 凝固検査用採血管	① 血清用採血管
② 血清用採血管	② 凝固検査用採血管
③ ヘパリン入り採血管	③ ヘパリン入り採血管
④ EDTA入り採血管	④ EDTA入り採血管
⑤ 解糖阻害剤入り採血管	⑤ 解糖阻害剤入り採血管
⑥ その他	⑥ その他

または
- ・シリンジ採血時
 

シリンジ採血を行う場合、シリンジから採血管への分注は次の順序を推奨します。

  - ① 凝固検査用採血管
  - ② ヘパリン入り採血管
  - ③ EDTA入り採血管
  - ④ 解糖阻害剤入り採血管
  - ⑤ 血清用採血管
  - ⑥ その他

シリンジ採血時の注意

- 真空採血管への血液分注時の注意
  - 1) ゴム部以外に針を刺通しないでください。  
アルミフィルムに穴が開いて血液が漏れる可能性があります。
  - 2) ゴム部へ刺通後、針に横方向の力を加えないでください。  
針に曲がりや破損が生じる可能性があります。
- 採血量への影響
  - 1) ガasketの摺動抵抗により、規定の採血量が確保できない場合があります。  
少量採血品種など、採血管の陰圧が弱い場合は、摺動抵抗の方が大きくなり、シリンジから血液を分注する途中で血液の流入が止まってしまうことがあります。  
このような場合は、押し子をゆっくり押すと血液が分注できます。  
特に、シリンジの容量が大きくなると摺動抵抗も大きくなります。
  - 2) フィルムシールのゴム部に針を刺通させて血液を分注させる際は、速やかに刺通させて下さい。
- 検査値への影響
  - 1) 分注する際は、押し子を強く押すと溶血の要因となります。
  - 2) 分注する際、採血管とシリンジを寝かした状態で押し子を押すと、採血管の中の液体が逆流する可能性があります。  
中の試薬が、次に分注するものに混入すると検査データなどに影響を及ぼすことがあります。

採血器具に関する諸注意

- 器具の廃棄  
真空管採血法では、穿刺に用いた針はホルダーからはずさず、鋭利機材専用廃棄容器に一体のまま捨てることを原則とします。ただしこの場合、針が廃棄容器の外に飛び出すことのないように、十分大きな廃棄容器を使用するなどの注意が必要です。  
注射器法の場合は、血液の分注法により異なるため、下記表を参照の上、十分注意して廃棄してください。  
何らかの理由でホルダーや注射器から針を外す際には、針のリキャップは行いません。

	(1)注射器から針を外し、採血管の栓も外して血液を注入する。	(2)注射器から針を外さず、採血管の栓を外して血液を注入する。	(3)注射器から針を外さず、採血管の栓に針を刺して血液を注入する。	(4)注射器から針を外し、分注用器具を接続して採血管の栓に刺し血液を注入する。
器具の廃棄	針は鋭利機材用廃棄容器に、注射器は感染性医療廃棄物容器に捨てる。	針と注射器を一体で鋭利機材用廃棄容器に捨てる。	針と注射器を一体で鋭利機材用廃棄容器に捨てる。	針および分注用器具は鋭利機材用廃棄容器に、注射器は感染性医療廃棄物容器に捨てる。

参考文献：標準採血法ガイドライン（GP4-A2）

特定健康診査に関する注意事項

- 採血管の種類
  - 血中脂質検査及び肝機能検査：分離剤入り生化学用採血管（容器：A）
  - 血糖検査：フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）
  - HbA1c：フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）
  - 貧血検査：EDTA-2K入り採血管（容器：B）
  - 尿検査：滅菌スピッツ（容器：D）
- 採取時の注意事項
  - 特定健康診査の受診者に対し、特定健康診査を実施する前に、次の（１）及び（２）について通知しておくこと。
  - (1) 特定健康診査の意義  
特定健康診査は、自分自身の健康状態を認識できる機会であることや、日頃の生活習慣が特定健康診査の結果に表れてくるものであるということ。
  - (2) 検査前の食事の摂取、運動について
    - ア アルコールの摂取や激しい運動は、特定健康診査の前日は控えること。
    - イ 午前中に特定健康診査を実施する場合は、空腹時血糖、空腹時中性脂肪等の検査結果に影響を及ぼすため、特定健康診査前10時間以上は、水以外の飲食物を摂取しないこと。
    - ウ 午後に特定健康診査を実施する場合は、ヘモグロビンA1c検査を実施する場合であっても、軽めの朝食とするとともに、他の検査結果への影響を軽減するため、特定健康診査まで水以外の飲食物を摂取しないことが望ましいこと。
    - エ やむを得ず空腹時以外に採血を行う場合には、食後3.5時間以降に採血を行うこと。
- 採取検体の注意事項
  - 分離剤入り生化学用採血管（容器：A）：  
採血後、原則として早急に遠心分離し、24時間以内に測定するのが望ましい。なお、これが困難な場合は、採血後に採血管は冷蔵又は室温で保存し、12時間以内に遠心分離すること。  
血清は、測定まで冷蔵で保存し、採血から72時間以内に測定すること。  
空腹時中性脂肪であることを明らかにすること。やむを得ず空腹時以外に採血を行う場合は、随時中性脂肪により血中脂質検査を行うことができる。なお、空腹時は、絶食10時間以上とする。
  - フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）：  
採血混和後、採血管は冷蔵で保管し、採血から6時間以内に遠心分離して測定することが望ましいが、困難な場合には、採血から12時間以内に遠心分離し測定すること。  
空腹時血糖であることを明らかにすること。なお、10時間以上食事をしていない場合を空腹時血糖とすること。やむを得ず空腹時以外において採血を行い、ヘモグロビンA1cを測定しない場合は、食直後を除き随時血糖により血糖検査を行うことができる。なお、食直後は、食事開始時から3.5時間未満とする。  
ヘモグロビンA1cは、採血後、48時間以内に測定すること。
  - EDTA-2K入り採血管（容器：B）：  
採血後は室温で保存し12時間以内に測定すること。
  - 尿滅菌スピッツ（容器：D）：  
原則として、中間尿を採取すること。  
採取後、4時間以内に試験紙法で測定することが望ましいが、困難な場合には、尿検体を専用の容器に移して密栓し、室温で保存する場合は24時間以内、冷蔵で保存する場合は48時間以内に測定すること。

### 生化学的検査

亜鉛 (Zn)  
アセトン定量  
アポリポ蛋白  
アミノ酸分析

アミラーゼ (AMY)  
アミラーゼアイソザイム  
アミラーゼクリアランス  
アミラーゼクレアチニンクリアランス  
アルドラーゼ  
アルブミン (Alb)  
アルミニウム (AL)  
アンモニア (NH<sub>3</sub>)  
ウロポルフィリン  
ウロポルフィリン 尿

エタノール (エチルアルコール)  
エラスターゼ 1  
カドミウム (Cd)  
カリウム (K)  
カルシウム (Ca)  
カルニチン

グアナーゼ  
クエン酸  
グリコアルブミン (GA)  
クレアチニン (CRE)  
クレアチニンクリアランス  
クロール (Cl)  
クロム (Cr)  
結石分析  
血糖 (グルコース)  
ケトン体分画  
コプロポルフィリン (定量)  
コプロポルフィリン (定量) 尿

コリンエステラーゼ (Ch-E)  
コレステロール分画  
肺サーファクタントプロテイン A (SP-A)  
肺サーファクタントプロテイン D (SP-D)  
脂肪酸 4 分画

浸透圧  
水銀 (Hg)  
膵アミラーゼ  
膵ホスホリパーゼ A2 (膵 PLA2)  
総コレステロール (TCH)  
総三塩化物  
総胆汁酸  
総蛋白 (TP)

井上 哲, 他: 医療と検査機器・試薬 41, (3), 283, 2018  
深堀 すみ江, 他: 労働科学 59(12):555-562, 1983  
野間 昭夫, 他: 動脈硬化 16:832, 1988  
植木 眞琴, 他: 臨床病理 28 (補), 138, 1980  
大沢 恵津子, 他: 臨床化学シンポジウム 20, 142, 1980  
Stein, W. H. and Moore, S. : J. Biol. Chem. 176, 337, 1948  
日本臨床化学会: 臨床化学 34:350-361, 2005  
星野 忠: JJCLA 37, 293-297, 2012  
早川 哲夫, 他: 正常値と異常値の間: 421-427, 1972  
金井 泉: 臨床検査法提要 29:778, 1983  
宮原 洋一: Medical Technology 12:157, 1984  
み谷 直人: 日本臨床 67, (増刊 広範囲血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版)) 224, 2009  
Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N. : Clin. Chim. Acta 147, 247, 1985  
奥田 拓道, 藤井 節郎: 最新医学, 21:622-627, 1966  
Salmi, M. et al.: Clin.Chem. 26, 1832, 1980  
Nuttall, K. L. et al.: Ann. Clin. Lab. Sci. 26, 313, 1996  
近藤 雅雄: 日本臨床 53, 1377, 1995  
鈴木 加奈子: 薬毒物分析実践ハンドブック 118, じほう, 東京, 2002  
大出 勝也, 沢井 時男: 臨床病理 50, 376, 2002  
Lagesson, V. and Andrasko, L. : Clin.Chem. 25:1948, 1979  
金井 泉: 臨床検査法提要 31:694-701, 1998  
延野 真弓, 他: 機器・試薬 26, 235, 2003  
市本 景子, 他: 新薬と臨床 66(9):1176-1182, 2017  
松井 朝義, 他: 生物試料分析 35(4):271-274, 2012  
伊東 進: 肝胆膵 11, 448-456, 1985  
Warty, V.S. et al: Clinical Chemistry 30(7):1231-1233, 1984  
永峰 康孝: 医学と薬学 51, 737, 2004  
吉村 学, 他: 日本臨床 57:542-545, 1999  
金井 泉: 臨床検査法提要 30:1450-1453, 1993  
金井 泉: 臨床検査法提要 31:694-701, 1998  
田中 俊行, 他: 医学と生物学 101(5):277-281, 1980  
林 康之 編: 臨床検査技術全書 2, 192, 1973 (医学書院)  
金井 正光: 臨床検査法提要 (第34版), 486-491, 2015  
Harano, Y. et al.: Clin. Chim. Acta 134, 327, 1983  
Salmi M. et al: Clinical Chemistry 26(13):1832-1835, 1980  
Nuttall, K. L. et al: Ann. Clin. Lab. Sci. 26, 313, 1996  
近藤 雅雄: 日本臨床 53, 1377, 1995  
金井 正光 編集: 臨床検査法提要 32:602-604, 2005  
大井 絹枝, 他: 検査と技術 29, 973-979, 2001  
大木 卓, 他: 医学と薬学 71 (1), 161-166, 2014  
村田 誠, 他: 医学と薬学 71:2303-2308, 2014  
小沢 昭夫, 他: 分析化学 31(2):87-91, 1982  
Sattler, W. et al.: Anal. Biochem. 198, 184, 1991  
長浜 大輔: 検査と技術 14:961, 1986  
宮永 昭一, 他: 食品衛生学雑誌 25(1):30, 1984  
池田 勝義, 他: 日臨検自動化会誌 27:183, 2002  
上田 章, 他: 臨床病理 37:561, 1989  
金井 泉: 臨床検査法提要 31:553-557, 1998  
城山 康, 他: 松仁会医学誌 25:225-231, 1987  
藤原 啓子: 臨床病理 37:1114-1121, 1989  
金井 正光: 臨床検査法提要 (第33版), 403, 2010



## 検査項目

## 参考文献

総ビリルビン (T-Bil)  
 総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比 (BTR)  
 蛋白分画  
 中性脂肪 (TG)  
 直接ビリルビン (D-Bil)  
 鉄 (Fe) 血清  
 銅 (Cu) 血清  
 銅 (Cu) 尿  
 トリクロル酢酸 (三塩化酢酸)  
 トリブシン  
 ナトリウム (Na)  
 鉛 (Pb) 全血  
 ニッケル (Ni)  
 乳酸  
 尿アルブミン定量  
 尿酸 (UA)  
 尿酸クリアランス  
 尿素窒素 (BUN)  
 馬尿酸  
 ヒアルロン酸  
 ビタミン A  
 ビタミン B<sub>1</sub>  
 ビタミン B<sub>2</sub>  
 ビタミン B<sub>6</sub>  
 ビタミン B<sub>12</sub>  
 ビタミン C (アスコルビン酸)  
 ビタミン E  
 ビタミン K 分画  
 ビルビン酸  
 プロトボルフィリン  
 ヘモグロビン A1C (HbA1C)  
 マグネシウム (Mg)  
 マンガン (Mn)  
 マンデル酸  
 無機リン (IP)  
 メタノール (メチルアルコール)  
 メチル馬尿酸  
 遊離コレステロール  
 遊離テストステロン  
 遊離型プロトボルフィリン  
 葉酸  
 リゾチーム 血清  
 リパーゼ  
 リポ蛋白 (a) (LP (a))  
 リポ蛋白分画／アガロース  
 リポ蛋白分画／HPLC 法  
 リン脂質 (PL)  
 レムナント様リポ蛋白コレステロール (RPL コレステロール)

### アルファベット

A／G 比  
 ADA (アデノシンデアミナーゼ)  
 ALP (アルカリホスファターゼ)  
 ALP アイソザイム

徳田 邦明, 他: 臨床化学 22(2), 116-122, 1993  
 飯塚 誠一, 他: 現代医療 26(増Ⅱ), 99, 1994  
 古澤 幸弘, 他: 生物物理化学 51(2): 109-112, 2007  
 田村 慶一, 他: 医学と薬学 49, 791-795, 2003  
 徳田 邦明, 他: 臨床化学 22(2): 116-122, 1993  
 金井 泉: 臨床検査法提要 31: 599-603, 1998  
 長谷川 浩子, 他: 機器・試薬 19: 814, 1996  
 奥田 稔, 林 康之: 臨床病理 (特集第 17 号), 84-98, 1970  
 城山 康, 他: 松仁会医学誌 25: 225-231, 1987  
 植田 進之介, 他: 医学と薬学 77(12), 1659-1668, 2020  
 金井 泉: 臨床検査法提要 31: 694-701, 1998  
 原田 章, 他: 鉛 健康診断のすすめ方 全衛連: 56, 1990  
 Mikac-Devic, D. et al.: Clin. Chem. 23, (6), 948, 1977  
 浅沼 和子, 他: 生物試料分析 8, 16, 1985  
 杉本 英弘, 他: 臨床病理 35(1): 73-79, 1987  
 日本痛風・核酸代謝学会: 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン, (第 2 版), 2010  
 飯笹 泰蔵: 臨床検査ガイド: 310-313, 1990  
 金井 正光: 臨床検査法提要 (第 33 版), 423, 2010  
 坂井 公, 他: 産業医学 31: 9-16, 1989  
 島村 朗, 他: 医学と薬学 44, 1141, 2000  
 Henry, R. et al.: Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed., 1375, Harper & Row Publishers, 1974  
 木村 美恵子, 他: ビタミン 55: 185-189, 1981  
 大石 誠子: ビタミン 57, 147-152, 1983  
 吉田 継親, 他: 薬学雑誌 98(10): 1319-1326, 1978  
 河口 行雄, 他: 医学と薬学 41(1): 145-151, 1999  
 Lykkesfeldt J. et al.: Analytical Biochemistry 229: 329-335, 1995  
 阿部 皓一, 他: 栄養と食糧 28, 277, 1975  
 Langenberg JP et al.: J. Chromatogr. 305: 61-72, 1984  
 浅沼 和子, 他: 生物試料分析 8, 16, 1985  
 労働省労働基準局労働衛生課 (監修): 鉛健康診断のすすめ方, 81, (社) 全国労働衛生団体連合会事務局, 東京, 1990  
 島 健二, 他: 糖尿病 37(11): 855-864, 1994  
 渡辺 寛人, 他: 分析化学, 26: 635-639, 1977  
 Tsalev D. L. et al.: Bull. Environ. Contam. Toxicol. 17, 660, 1977  
 Ogata, M. et al.: Int. Arch. Occup. Environ. Health 59, 263, 1987  
 金井 正光: 臨床検査法提要 (第 34 版), 544-546, 2015  
 深堀 すみ江, 中明 賢二: 労働科学 59, 555, 1983  
 坂井 公, 他: 産業医学 31, 9-16, 1989  
 金井 正光: 臨床検査法提要 (第 33 版), 464, 2010  
 Van Uytendange, K. et al.: Clin. Biochem. 38, 253, 2005  
 新沼 幸子, 他: 産業医学 23: 254-259, 1981  
 安田 和人, 他: 機器・試薬 25, 441, 2002  
 北村 元仕, 他編: 実践臨床化学 (第 2 版): 432-436, 1987 (医歯薬出版)  
 Tietz et al.: Lipase in Serum, CLIN. CHEM 39(5): 746-756, 1993  
 吉岡 成人, 他: ホルモンと臨床 41(11), 1119, 1993  
 芝 紀代子, 他: 臨床検査 29, 1335-1340, 1985  
 廣渡 祐史, 他: 臨床化学 41, 327-335, 2012  
 岡部 和彦, 他: 日本臨床 43 (秋季臨増), 352-355, 1985  
 滝野 豊, 他: 医学と薬学 56, 269, 2006

金井 正光 (編著): 臨床検査法提要 (改訂第 29 版), 410, 金原出版, 東京, 1983  
 山田 満廣, 大西 将則: 日臨検自動化会誌 17: 135, 1992  
 藤本 丈志, 他: 医学検査 69, 577-583, 2020  
 井出 純子, 他: 日臨検自動化会誌 28: 364, 2003

## 検査項目

## 参考文献

ALT (GPT)  
AST (GOT)  
CK (CPK, クレアチンキナーゼ)  
CK-MB (CK-MB) CLIA  
CKアインザイム  
HDLコレステロール  
ICG (インドサイアニンググリーン試験)  
LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)  
LD (LDH, 乳酸脱水素酵素)  
LDアインザイム  
LDLコレステロール  
m-AST (ミトコンドリア-AST)  
N-メチルホルムアミド  
NAG (尿)  
TIBC (総鉄結合能)  
UIBC (不飽和鉄結合能)  
γ-GT (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)  
δアミノレブリン酸 (δ-ALA)

### 数 字

1,25-(OH)<sub>2</sub> ビタミン D  
1,5- アンヒドロ-D- グルシトール (1,5-AG)  
2,5- ヘキサジオン

日本臨床化学会：臨床化学 18, 250-262, 1989  
日本臨床化学会：臨床化学 18, 226-249, 1989  
庄司 進一, 他：日本臨床 57(増刊)：313-315, 1999  
初山 弘幸, 他：医学と薬学 29, 675-680, 1993  
井出 純子, 他：日臨検自動化会誌 28：364, 2003  
植田 康樹, 他：臨床検査機器・試薬 22, 216-222, 1999  
金井 正光：臨床検査法提要 (第33版), 1335, 2010  
金井 泉：臨床検査法提要 31：657-660, 1998  
藤本 丈志, 他：医学検査 69, 570-576, 2020  
井出 純子, 他：日臨検自動化会誌 28：364, 2003  
菅野 剛史, 他：医学と薬学 37(3)：635-644, 1997  
杉内 博幸, 他：日本臨床化学会年会記録 27, 101, 1987  
Mraz J. et al. : J. Chromatogr. 414, 399, 1987  
渡辺 信子, 他：JJCLA20, 134-141, 1995  
山田 満廣, 他：日本臨床化学自動化学雑誌 13(5), 659-665, 1988  
金井 泉：臨床検査法提要 29：487-491, 1983  
日本臨床化学会：臨床化学 25：135-148, 1996  
園藤 陽子, 他：産業医学 35：126-127, 1993

高田 朋玲, 他：医学と薬学 37, 1205-1210, 1997  
山内 俊一：日本臨床 53, 553-556, 1995  
Nomeir, A. A. et al. : Anal Biochem. 151：381, 1985

## 薬物分析検査

アセトアミノフェン  
アプリンジン  
アミオダロン  
アミカシン  
塩酸ピルジカイニド  
カルバマゼピン  
金 (Au)  
クロナゼパム  
ゲンタマイシン  
コハク酸シベンソリン  
サリチル酸  
ジアゼパム  
シクロスポリン  
シゴキシン  
ジソピラミド  
ゾニサミド  
タクロリムス  
炭酸リチウム  
テイコプラニン  
テオフィリン  
トピラマート  
トブラマイシン

ニトラゼパム  
バルプロ酸ナトリウム  
ハロペリドール  
バンコマイシン  
フェニトイン

Rumack BH : Arch Intern Med. 141, 380, 1981  
福井 啓祐, 他：JJSHR, 24, 1213-1215, 1988  
Kuhn.J.et al : J.Pharm.Biomed.Anal.51.210-216, 2010  
木村 英樹, 他：JJCLA 33, 860-864, 2008  
Mikiko Shimizu. et al. : Journal of Chromatography B 985, 172-179, 2015  
堀辺 玲子, 他：臨床検査機器・試薬 6(2)：491-496, 1983  
Barret. M. J. et al. : J. Pharm. Sci. 67, 1332, 1978  
越智 雅晴, 他：小児科臨床 40 巻増刊号 2870-2881, 1987  
Jolley M. E. et al : Clin. Chem. 27 : 1575, 1981  
大塚 実, 他：Pharma Med. 14 : 155-166, 1996  
野口 佳男, 他：基礎と臨床 21 : 511, 1987  
ALLANS. TROUPIN : Anmals of Internal Medicine Vol. 100 No.6 854-858, 1984  
向井田 麻由, 他：医学と薬学 62 : 767-774, 2009  
山田 満廣, 他：臨床検査機器・試薬 23, 273-279, 2000  
西川 隆, 他：医学と薬学 9 : 1213-1216, 1983  
熊谷 昇, 他：臨床医薬 5, 843, 1989  
古屋 実, 他：医学と薬学 70(5・6), 961, 2013  
前畑 英介, 他：衛生検査 23(9) : 779-782, 1974  
諸岡 美里, 他：日本臨床検査自動化学会誌 38(1), 79, 2013  
日下 公代, 他：医学と薬学 14(3) : 698-694, 1985  
小嶺 幸弘：沖縄医報 45(9) : 51-56, 2009  
Anhalt J.P. : Interpretation of antimicrobial concentrations in serum. American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program, April, 1981  
越智 雅晴, 他：小児科臨床 40 巻増刊号 2870-2881, 1987  
宮本 元昭, 他：最新検査 2(1) : 75-81, 1985  
上野 哲, 他：日臨検自動化会誌 29, 360, 2004  
篠崎 公一, 他：TDM 研究 17 : 291-296, 2000  
末森 一恵：Med. Technol. 37, 1005-1008, 2009

検査項目

参考文献

フェノバルビタール  
プリミドン  
フレカイニド  
プロカインアミド  
プロパフェノン  
プロムペリドール  
メキシレチン  
メトトレキサート  
ラモトリギン  
リドカイン  
レベチラセタム

アルファベット

L-ドーパ

堀辺 玲子, 他: 臨床検査機器・試薬 6(2): 491-496, 1983  
Oellerich M.: J.Clin.Chem. Clin.Biochem. 18: 197, 1980  
Chang, S.F., et al.: Ther. Drug Monit. 6, 105, 1984  
Jolley, M. E. et al.: Clin. Chem. 27, 1575, 1981  
Steurer, G. et al.: European Heart Journal 12: 526, 1991  
上野 哲, 他: 日臨検自動化会誌 29, 360, 2004  
小杉 隆祥, 他: TDM 研究 7: 179-184, 1990  
中原 佑香里, 他: 医学と薬学 72(4): 761, 2015  
小嶺 幸弘: 沖縄医報 45(9): 51, 2009  
Cobb, M. E. et al.: Clin. Chem. 23: 1161, 1977  
赤松 直樹, 他: Epilepsy 4(2): 129, 2010

Martins, H.F. et al.: Quimica Nova 36, (1), 171, 2013

内分泌学的検査

アルドステロン  
エリスロポエチン (EPO)  
黄体形成ホルモン (LH)  
オステオカルシン (BGP)  
カテコールアミン 3 分画 血漿  
カテコールアミン 3 分画 尿

カルシトニン  
抗 GAD 抗体  
骨型アルカリホスファターゼ (BAP)  
コルチゾール (血清)  
コルチゾール (尿)  
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

成長ホルモン (GH)  
低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)  
デオキシビリジノリン (DPD)  
テストステロン  
プレグナンジオール  
プレグナントリオール  
プロゲステロン  
プロラクチン (PRL)  
ペプシノゲン I・II  
メタネフリン 2 分画  
卵胞刺激ホルモン (FSH)  
レニン活性 (PRA)  
レニン濃度 (PRC)

アルファベット

ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)  
AMH (抗ミュラー管ホルモン)  
BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)  
DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)  
E<sub>2</sub> (エストラジオール) 非妊婦  
Free T<sub>3</sub> (遊離トリヨードサイロニン)  
Free T<sub>4</sub> (遊離サイロキシン)

西川 哲男, 他: 糖尿病・内分泌代謝科 52, (5), 496, 2021  
増田 詩織, 他: 医学と薬学 67, 297-306, 2012  
岩佐 武, 他: 産婦人科治療 87, 243-251, 2003  
戸来 孝, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 40(1), 52, 2015  
辻 潮, 他: 臨床検査機器・試薬 11(4): 635-641, 1988  
守 和子: 第 47, 48 回島津デューボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィーセミナー旨集, 6, 1977  
Anderson, G. M. et al.: Clin. Chem. 27, 2060, 1981  
北川 亘, 他: 医学と薬学 72: 97-108, 2015  
川崎 英二, 他: 医学と薬学 66, 345-352, 2011  
倉澤 健太郎, 他: 医学と薬学 55: 279-285, 2006  
片川 一之, 他: 医学と薬学 40: 169-174, 1998  
関口 昌江, 他: 医学と薬学 69, (6), 985, 2013  
北村 光, 他: 機器・試薬 21, 357, 1998  
高田 竜二, 他: 医学と薬学 33, 979, 1995  
小山 紗世, 他: 医学と薬学 68, 899-910, 2012  
西村 順, 他: 医学と薬学 57, 523-535, 2007  
山本 逸雄, 他: ホルモンと臨床 44, 747-757, 1996  
岩佐 武, 他: 産科と婦人科 73: 133-140, 2006  
Suzuki, T. et al.: Endocrine J. 50, 571, 2003  
Suzuki, T. et al.: Endocrine J. 50, 571, 2003  
岩佐 武, 他: 産科と婦人科 73: 133-140, 2006  
岩佐 武, 他: 産婦人科治療 87, 243-251, 2003  
三木 一正, 他: 医学と薬学 49, 519, 2003  
水村 千恵, 他: 医学検査 68, 276-280, 2019  
岩佐 武, 他: 産婦人科治療 87, 243-251, 2003  
宇津 貴央, 他: 医学と薬学 73, 311-321, 2016  
濱野 久美子, 他: 臨床化学 50, (3), 261, 2021

阿部 正樹, 他: 医学と薬学 57: 239-244, 2007  
柳田 小百合, 他: 医学と薬学 72, 1095-1101, 2015  
鳥本 尚慶, 他: 医学と薬学 65(5): 657-661, 2011  
市原 清志: 日本臨床検査自動化学会誌 37(Suppl1), 36, 2012  
増戸 梨恵, 他: 医学と薬学 56, (3) 443, 2006  
三室 卓久, 他: 産科と婦人科 71, (増刊), 115, 2004  
岩佐 武, 他: 産科と婦人科 73, (1) 133, 2006  
玉井 一, 他: 医学と薬学 42, (4), 609, 1999  
玉井 一, 他: 医学と薬学 42, (4), 609, 1999

## 検査項目

## 参考文献

h - ANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)  
HCG 定性 尿  
HCG -  $\beta$  サブユニット定量  
HCG 定量 (ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量)  
HVA 定量 (ホモバニリン酸) 尿  
ICA (抗ランゲルハンス氏島抗体)  
NT - proBNP  
NTx (I 型コラーゲン架橋 N- テロペプチド) 尿  
PTH - Intact  
PTHrP (副甲状腺ホルモン関連蛋白)  
T<sub>3</sub> (トリヨードサイロニン)  
T<sub>4</sub> (サイロキシン)  
TBG (サイロキシン結合グロブリン)  
TRACP - 5 b  
TSH (甲状腺刺激ホルモン)  
TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb, 甲状腺刺激抗体)  
TSH レセプター抗体定量 (RRA)  
TSH レセプター抗体定量 (ECLIA)  
total PINP (I 型プロコラーゲン -N- プロペプチド)  
VMA 定量 (バニリルマンデル酸) 尿

### 数 字

5- HIAA (5- ハイドロキシインドール酢酸) 尿  
11- OHCS  
17- KS 7 分画

下迫 賢一, 他: 医学と薬学 71, 477-483, 2014  
金井 正光 編集: 臨床検査法提要 32: 220-221, 2005  
日本産科婦人科学会/日本病理学会 編: 絨毛性疾患取扱い規約 第3版, 59-65, 2011  
花川 準司, 他: 臨床検査機器・試薬 20, 609-613, 1997  
Rosano, T.G. et al.: Clin. Chem. 27, 228, 1981  
Dotta F, Mario UD. Antigenic determinants in type 1 diabetes mellitus. APMLS 1996: 104: 769-74  
堀井 隆, 他: 医学と薬学 61(5): 761-767, 2009  
三浦 雅一: 腎と骨代謝 15, 271-280, 2002  
山岡 美穂, 他: 医学と薬学 46(5): 753-758, 2001  
福本 誠二, 他: ホルモンと臨床 40: 1309, 1992  
玉井 一, 他: 医学と薬学 42, (4), 609, 1999  
玉井 一, 他: 医学と薬学 42, (4), 609, 1999  
家入 蒼生夫: 日本臨床 63, (増刊号 8), 272, 2005  
西沢 良記, 他: 医学と薬学 54: 709-717, 2005  
佐藤 幸男, 他: 医学と薬学 45(1): 147-154, 2001  
田上 哲也, 他: 糖尿病・内分泌代謝科 53, 479-486, 2021  
小森 明日香, 他: 医学と薬学 46: 563-570, 2001  
吉村 弘, 他: 医学と薬学 59: 1111-1120, 2008  
日高 好博: 医学と薬学 70 (2): 357-365, 2013  
Flood, J.G. et al.: Clin. Chem. 25: 1234, 1979

Rosano, T.G. et al.: Clin. Chem. 28, 207, 1982  
宇田川 美佐子, 他: 臨床化学 5: 321-325, 1977  
Suzuki, T. et al.: Endocrine J. 50, 571, 2003

## 免疫血清学的検査

アスペルギルス抗原  
アスペルギルス抗体  
アデノウイルス NT 法  
アデノウイルス CF 法  
アデノウイルス抗原 ICA 法  
アトピー鑑別試験  
インスリン (IRI)  
インスリン抗体  
インフルエンザウイルス CF 法  
インフルエンザウイルス HI 法  
ウイルス分離・同定  
エコーウイルス NT 法  
エコーウイルス HI 法  
エンテロウイルス  
エンドトキシン定量  
オウム病抗体 (クラミドフィラ・シッタシ抗体)

オリゴクローナルバンド  
肝細胞増殖因子 (HGF)  
間接クームス  
寒冷凝集反応  
クラミジアトラコマチス核酸同定  
クラミジアトラコマチス抗体  
クラミドフィラニューモニエ抗体 IgG, IgA  
クラミドフィラニューモニエ抗体 IgM

堀口 祐司: 感染症学雑誌 78, 566-573, 2004  
Walter, J. S. et al.: Dis. Chest 53, 729, 1968  
国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学 (改訂2版) 総論: 260-274, 1973  
国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂2版) 133-135, 1982  
小島 禎, 他: JARMAM 11, 93-98, 2000  
我妻 義則, 他: 医学と薬学 23: 83-88, 1990  
前畑 英介, 他: 医学と薬学 44: 1069-1079, 2000  
内潟 安子, 他: 医学と薬学 65, 525-530, 2011  
厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 31-42, 1987  
国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂2版) 133-135, 1982  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 (2版) 総論, 131, 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学 (改訂2版) 総論: 260-274, 1973  
国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学 (改訂2版) 総論: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学 (改訂2版) 総論: 260-274, 1973  
石原 美弥子, 他: 検査と技術 30: 739, 2003  
厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査 (第2版): 73, (財) 日本公衆衛生協会, 東京, 1978  
Uyeda, C. T. et al.: J. Clin. Microbiol. 20, 948, 1984  
Friis, B. et al.: Microbiol. Immunol. Scand. Sect. B 92, 139, 1984  
中島 一郎: Animus 8: 38, 2003  
二井谷 好行, 他: 臨床検査 35(13): 1360-1364, 1991  
石田 萌子, 他: 機器・試薬 20, 863, 1997  
金井 正光: 臨床検査法提要 (第3版), 920-921, 2015  
熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66, 1007-1014, 2011  
梶原 祥子, 他: 医学と薬学 37: 711-716, 1997  
宮下 修行: 化学療法の領域 31 (S-1), 1013-1021, 2015  
宮下 修行, 他: 小児科診療 71, 95-99, 2008

## 検 査 項 目

## 参 考 文 献

クリオグロブリン定性  
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原  
クロストリジウムディフィシル毒素  
頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン

血液型 ABO 式・Rh (D) 式

血液型 Rh-Hr 式

血液型不適合妊娠

血小板関連 IgG (PAIgG)

血清アミロイド A 蛋白 (SAA)

血清補体価 (CH50)

抗  $\beta_2$  グリコプロテイン I 抗体 IgG

抗  $\beta_2$  グリコプロテイン I 抗体 IgM

抗 ARS 抗体

抗 BP180 抗体

抗 CCP 抗体

抗 DNA 抗体 RIA 法

抗 ds-DNA 抗体 IgG

抗 Jo-1 抗体 CLEIA 法

抗 RNP 抗体 CLEIA 法

抗 Scl-70 抗体 CLEIA 法

抗 Sm 抗体 CLEIA 法

抗 ss-A/Ro 抗体 CLEIA 法

抗 ss-B/La 抗体 CLEIA 法

抗 ss-DNA 抗体 IgG

抗アクアポリン 4 抗体

抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体)

抗胃壁細胞抗体

抗核抗体 (ANA)

抗ガラクトース欠損 IgG 抗体

抗カルシオリピン・ $\beta_2$  グリコプロテイン I 複合体抗体

抗カルシオリピン IgG 抗体

抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体)

抗血小板抗体

抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗 TPO 抗体)

抗好中球細胞質抗体

抗サイログロブリン抗体 (抗 Tg 抗体)

抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体)

抗精子不動化抗体

抗セントロメア抗体

抗デスモグレイン 1 抗体

抗デスモグレイン 3 抗体

抗平滑筋抗体 (SMA)

抗ミトコンドリア抗体 (AMA)

コクサッキーウイルス CF 法

コクサッキーウイルス NT 法

サイトメガロウイルス (CMV) CF 法

サイトメガロウイルス (CMV) IgG・IgM CLIA 法

Okazaki,T.et al.: Clin.Chem. 44, (7), 1558, 1998

篠田 孝子, 他: 真菌と真菌症 30: 211-221, 1989

CEP08054-Evaluation report:NHS Purchasing and Supply Agency:2009

奥田 直貴, 他: 医学と薬学 72, (9), 1591, 2015

Lockwood, C. J. et al.: N. Engl. J. Med. 325, 669, 1991

日臨技輸血検査標準法改訂委員会: 輸血検査の実際 改訂第3版: 15-23, 2003

山崎 順啓: Med.Technol. 11, 631, 1983

浮田 昌彦: 周産期医学 18 (臨増), 119-125, 1988

倉田 義之, 他: 臨床検査 32, 641, 1988

旭 由香里, 他: 医学と薬学 78, (2), 175, 2021

稲井 真彌, 安田 令子: 日本臨牀 42 (春季臨増), 1232, 1984

小川 昌起, 他: 医学と薬学 78: 447-459, 2021

小川 昌起, 他: 医学と薬学 78: 447-459, 2021

吉藤 元: 医学のあゆみ 239(1), 71, 2011

吉田 かおり, 他: 医学と薬学 70: 989-1000, 2013

林 伸英, 他: 医学と薬学 64: 767-777, 2010

宮脇 晶二, 他: 日臨免疫会誌 17, 164, 1994

西山 進, 他: 医学と薬学 69, (4), 689, 2013

磯田 健太郎, 他: 医学と薬学 70, (1), 119, 2013

松下 雅和, 他: 医学と薬学 70(1): 109, 2013

西山 進, 他: 医学と薬学 68(2): 345, 2012

小島 和夫, 他: 医学と薬学 69(4): 677-687, 2013

西山 進, 他: 医学と薬学 68(2): 345, 2012

西山 進, 他: 医学と薬学 68(2): 345, 2012

西山 進, 他: 医学と薬学 68(2): 345, 2012

西山 進, 他: 医学と薬学 69, (4), 689, 2013

磯田 健太郎, 他: 医学と薬学 70, (1), 119, 2013

高橋 利幸, 他: 医学と薬学 73(10), 1297, 2016

「多発性硬化症治療ガイドライン」作成委員会: 多発性硬化症治療ガイドライン 2010, 2010

太田 光熙, 他: ホルモンと臨床 48(1): 89-93, 2000

Jeffries, G.H. et al.: J.Clin.Invest. 44: 2021, 1965

林 伸英, 他: 臨床病理 64, (2), 142, 2016

平山 吉朗, 他: 医学と薬学 42, 817-828, 1999

小池 隆夫, 他: 医学と薬学 26, 535-543, 1991

小川 昌起, 他: 医学と薬学 78, 447-459, 2021

本村 政勝, 他: 医学と薬学 70, (2), 421, 2013

Hoch, W. et al.: Nature Medicine 7, (3), 365, 2001

坂本 久浩: Medical Technology 11: 724, 1983

森田 新二, 他: 医学と薬学 55: 775-782, 2006

平田 寛之, 他: 医学と薬学 66(6), 1099, 2011

宮原 涼馬, 他: 医学と薬学 73(1), 91, 2016

森田 新二, 他: 医学と薬学 55: 775-782, 2006

平田 寛之, 他: 医学と薬学 66, 1099-1108, 2011

香山 浩二, 他: 日本産婦人科学会雑誌 42(11): N209-N212, 1990

小島 和夫, 他: 医学と薬学 69(4), 677, 2013

吉田 かおり, 他: 医学と薬学 70, 989-1000, 2013

吉田 かおり, 他: 医学と薬学 70, 989-1000, 2013

西岡 幹夫, 他: 肝胆膵 11, 591-597, 1985

岡野 哲郎, 他: 臨床病理 37, 1367-1372, 1989

厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 31, 1987

国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学 (改訂2版) 総論: 260-274, 1973

国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂2版) 133-135, 1982

熊田 洋高, 他: 医学と薬学 72(6), 1087, 2015



## 検査項目

## 参考文献

サイログロブリン (Tg)  
 シスタチン C  
 心筋トロポニン T (TnT)  
 心室筋ミオシン軽鎖 I  
 水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV) CF 法  
 水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV) IgG EIA 法  
 水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV) IgM EIA 法  
 水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原  
 セルロプラスミン  
 染色体 先天異常染色体 G-Banding  
 染色体 先天異常染色体 C-Banding  
 染色体 先天異常染色体 Q-Banding  
 染色体 先天異常染色体高精度分染法  
 染色体 血液疾患染色体 G-Banding  
 単純ヘルペスウイルス (HSV) CF 法  
 単純ヘルペスウイルス (HSV) NT 法  
 単純ヘルペスウイルス (HSV) IgG EIA 法  
 単純ヘルペスウイルス (HSV) IgM EIA 法  
 単純ヘルペスウイルス特異抗原  
 直接クームス  
 ツツガ虫病抗体  
 トキソプラズマ抗体  
 特異的 IgE CAP シングルアレルゲン  
 特異的 IgE CAP マルチアレルゲン  
 特異的 IgE MAST36  
 特異的 IgE View アレルギー 39  
 トランスフェリン (Tf)  
 日本脳炎ウイルス CF 法  
 日本脳炎ウイルス HI 法  
 尿素呼吸試験  
 尿中Ⅳ型コラーゲン  
 尿中免疫電気泳動 (尿中 BJP 同定)  
 ノロウイルス抗原  
 梅毒 FTA-ABS 法  
 梅毒 RPR 法  
 梅毒 TPHA 法  
 破傷風抗体  
 ハプトグロビン (型なし)  
 ハプトグロビン (型あり)  
 パラインフルエンザウイルス  
 ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)  
 ヒトパルボウイルス B19DNA (HPV/B19-DNA)  
 ヒトパルボウイルス B19 抗体  
 百日咳菌抗体 EIA 法  
 風疹ウイルス HI 法  
 風疹ウイルス IgG EIA 法  
 風疹ウイルス IgM EIA 法  
 フェリチン (CLIA 法)  
 不規則抗体  
 プレアルブミン

北川 亘, 他: 医学と薬学 71, 1655-1666, 2014  
 伊藤 喜久, 他: 臨床化学 41(1), 62, 2012  
 戸田 圭三, 他: 医学と薬学 62: 331-340, 2009  
 宮崎 修一, 他: 医学と薬学 52: 443, 2004  
 国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 (2 版) 総論, 226, 1973  
 厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 (第 3 版) 第 1 分冊, 31, 1987  
 厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 (第 3 版) 第 1 分冊, 48, 1987  
 平野 勝, 他: 医学と薬学 42, 641-645, 1999  
 佐多 徹太郎, 他: 日本臨床 47, 356-360, 1989  
 飯村 康夫, 他: 日本臨床 42 (春季臨時): 1209, 1984  
 福島 義光, 井上 信男: 臨床検査 28, 759, 1984  
 寺島 寛: 病理形態検査 (臨床検査技術全書 8) ,p.456, 医学書院, 東京, 1978  
 国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂 2 版) 133-135, 1982  
 国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂 2 版) 52, 72-73, 132-139, 1982  
 厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第 3 版 第 1 分冊: 48-61, 1987  
 厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第 3 版 第 1 分冊: 48-61, 1987  
 Espy,M.J.,et al: J.Clin.Microbiol. 26: 22, 1988  
 石田 萌子, 他: 機器・試薬 20, 863, 1997  
 山本 正悟: 臨床とウイルス 12: 270, 1984  
 Sickinger E. et al.: Diagn. Microbiol. Infect Dis. 62, 235-244, 2008  
 松村 典子, 他: 医学検査 40: 1585-1590, 1991  
 松村 典子, 他: 医学検査 40: 1585-1590, 1991  
 澤崎 健: アレルギーの臨床 34, 573-580, 2014  
 鈴木 義徳, 他: 臨床病理 60 (7): 621, 2012  
 斎藤 憲祐, 臨床病理 臨時増刊特集 101 号: 38-47, 1996  
 厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第 3 版 第 1 分冊: 31, 1987  
 国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学各論 (改訂 2 版): 133-135, 1982 (丸善, 東京)  
 Ohara,S.et al: Hericobacter 3: 49, 1998  
 東野 勲, 他: Lab.Clin.Pract. 19: 8, 2001  
 長縄 謹子: 検査と技術 12, 401, 1984  
 田中 智之, 他: 医学と薬学 68(6): 1033-1039, 2012  
 厚生省監修: 微生物検査必携 細菌真菌検査 (第 3 版), H-83, 1987  
 金城 徹, 他: JJCLA 30, 257-262, 2005  
 中野 学, 他: 医学と薬学 32(5): 1037-1043, 1994  
 GerenPJ et al.: The NewEngland Journal of Medicine 332, 761-766, 1995  
 斎藤 憲祐: 臨床病理 臨時増刊特集 101 号: 38-47, 1996  
 斎藤 憲祐: 臨床病理 臨時増刊特集 101 号: 38-47, 1996  
 大城 孟: 臨床検査 26, 764-776, 1982  
 国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 (2 版) 総論: 214, 1973  
 奥田 優子, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 35(3): 283-289, 2010  
 布上 薫: 臨床検査 37, 164, 1993  
 要藤 裕孝, 他: 感染症学雑誌 69, 1135-1140, 1995  
 岡田 賢司: 医学と薬学 65(4): 531-536, 2011  
 岡田 賢司: 臨床検査 56, (4), 412, 2012  
 国立予防衛生研究所学友会編: ウイルス実験学各論 (改訂 2 版), 133-135, 1982 (丸善, 東京)  
 杉下 知子, 他: 医学と薬学 28: 325-334, 1992  
 佐藤 俊則, 他: 臨床とウイルス 23: 44-47, 1995  
 高橋 和男, 他: 臨床検査機器・試薬 23, (2), 131, 2000  
 押野 正次, 他: 臨床検査機器・試薬 17: 423-432, 1994  
 河合 忠, 他: 臨床病理 44(5), 429, 1996

## 検査項目

## 参考文献

プロカルシトニン (PCT)  
 ヘリコバクター・ピロリ抗体  
 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原  
 マイコプラズマ抗体 (マイコプラズマ・ニューモニエ抗体) CF 法  
 マイコプラズマ抗体 (マイコプラズマ・ニューモニエ抗体) PA 法  
 麻疹ウイルス EIA 法  
 マトリックスメタロプロティナーゼ 3 (MMP-3)  
 ミオグロビン (Mb) 血清  
 ミオグロビン (Mb) 尿  
 ムンプスウイルス CF 法  
 ムンプスウイルス HI 法  
 ムンプスウイルス IgG EIA 法  
 ムンプスウイルス IgM EIA 法  
 免疫電気泳動  
 薬剤によるリンパ球刺激試験 (D-LST)  
 リンパ球幼若化試験  
 レチノール結合蛋白 (RBP)

### アルファベット

ACE (アンギオテンシン I 転換酵素)  
 ASO  
 B細胞サブクラス (表面免疫グロブリン)  
 C-ペプタイド (CPR)  
 C<sub>3</sub>  
 C<sub>4</sub>  
 CRP定量  
 EBウイルス (EBV) 抗EA-DP  
 EBウイルス (EBV) 抗EBNA  
 EBウイルス (EBV) 抗VCA  
 HA-IgG抗体  
 HA-IgM抗体  
 HBc抗体  
 HBe抗原  
 HBe抗体  
 HBs抗原 精密  
 HBs抗原定性 ICA法  
 HBs抗体 精密  
 HBs抗体定性 ICA法  
 HBs抗体 PHA  
 HBs抗体 精密  
 HBV遺伝子型 (EIA)  
 HBV-DNA定量 (TaqMan-PCR法)  
 HCV-RNA定量 (TaqMan-PCR法)  
 HCV群別 (HCVグルーピング)  
 HCVコア抗原  
 HCV抗体  
 HCVサブタイプ系統解析  
 H1T抗体  
 HIV抗原・抗体  
 HIV1-RNA定量 (TaqMan-PCR法)

齋藤 大輔, 他: 医学と薬学 62(2), 323-329, 2009  
 伊藤 公訓, 他: 日本ヘリコバクター学会誌 22, (1), 51, 2020  
 青山 伸郎, 他: 日本ヘリコバクター学会誌 21, (2), 112, 2020  
 福田 能啓, 他: 医学と薬学 52:261-266, 2004  
 富山 哲雄: Med. Technol. 8, 569-574, 1980  
 巴山 顕次: 検査と技術 16, 738-740, 1988  
 庵原 俊昭, 他: 医学と薬学 69, 969-975, 2013  
 氏家 真二, 他: 医学と薬学 67, 741-747, 2012  
 El-Abdellati E. et al.: Ann. Intensive Care 3, 8, 2013  
 Luan Y. et al.: J. Transl. Int. Med. 11, 178, 2023  
 吉川 文雄, 他: 医学と薬学 37:1255-1259, 1997  
 厚生省監修: 微生物検査必携ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 (第3版) 第1分冊:31, 1987  
 国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 (2版) 総論:214, 1973  
 尾崎 隆男, 他: 臨床とウイルス 47:420-426, 2019  
 内田 立志, 他: 川崎医学会誌 35:139-145, 2009  
 櫻林 郁之介: 電気泳動法のすべて, 126, 医歯薬出版, 東京, 1981  
 北見 啓之, 他: 臨床免疫 15:727-736, 1983  
 北見 啓之, 他: 臨床免疫 15, 727, 1983  
 三浦 信樹, 他: 臨床病理 57(3), 195, 2009

Kasahara Y. et al.: Clin.Chem. 27:1922-1925, 1981  
 堀 好恵, 他: 臨床検査機器・試薬 20, 98-102, 1997  
 田沢 裕光, 他: 臨床病理 33, 426, 1985  
 武田 裕子, 他: 医学と薬学 53:249-256, 2005  
 池田 紀之: 検査と技術 12:510-514, 1984  
 池田 紀之: 検査と技術 12:510-514, 1984  
 山田 満廣, 他: 臨床検査機器・試薬 24, 61-66, 2001  
 日沼 頼夫, 他: 臨床病理 (特35), 179-189, 1978  
 日沼 頼夫, 他: 臨床病理 (特35), 179-189, 1978  
 日沼 頼夫, 他: 臨床病理 (特35), 179-189, 1978  
 矢野 公士, 他: 医学と薬学 58:151-161, 2007  
 矢野 公士, 他: 医学と薬学 58:151-161, 2007  
 飯田 健一, 他: Prog.Med. 22(4):1037-1046, 2002  
 中尾 溜美子, 他: Prog.Med. 24, 2839, 2004  
 中尾 溜美子, 他: Prog.Med. 24, 2839, 2004  
 出口 松夫, 他: Prog.Med. 19, 1973, 1999  
 飯野 四郎: Medical Practice 5(4):530-543, 1988  
 藤原 拓樹, 他: 医学と薬学 42(4):623-627, 1999  
 飯野 四郎: Medical Practice 5(4):530-543, 1988  
 吉村英理子, 他: 基礎と臨床 29:4545-4550, 1995  
 藤原 拓樹, 他: 医学と薬学 42, 623, 1999  
 Jilg, W. et al.: J. Med. Virol. 24, 377, 1988  
 田中 靖人, 他: 臨床病理 57:42-47, 2009  
 菅原 昌章, 他: 医学と薬学 73, 1329-1339, 2016  
 菅原 昌章, 他: 医学と薬学 73, 1329-1339, 2016  
 長谷川 瞳, 他: 医学と薬学 70, 633-641, 2013  
 熊田 博光, 他: 消化器科 45(4), 454, 2007  
 長瀬 真幸, 他: 医学と薬学 78(10), 1207, 2021  
 P. Simmonds, et al.: Journal of General Virology 77:3013, 1996  
 阪田 敏幸: 医学と薬学 68(3), 547, 2012  
 宮田 茂樹: 日本検査血液学会雑誌 12(1), 60, 2011  
 武田 悟, 他: Prog.Med. 27(2), 425-435, 2007  
 目崎 和久, 他: 医学と薬学 73(6), 705, 2016



## 検査項目

## 参考文献

H L Aタイピング  
H T L V - I 抗体 (ATLA) (CLIA 法)

H T L V - I 抗体 ラインプロット法

I g A  
I g E (非特異的 IgE)  
I g G  
I g M  
H B c - I g M 抗体  
N K 細胞活性  
P - III - P (プロコラーゲンⅢペプチド)  
R F 定量  
R S ウイルス CF 法  
R S ウイルス NT 法  
T A R C  
T . B 細胞百分率

T w o - c o l o r 解析によるリンパ球表面マーカー検査

$\alpha_1$ - アンチトリプシン ( $\alpha_1$ -AT)  
 $\alpha_1$ - マイクログロブリン ( $\alpha_1$ -m)

$\alpha_2$ - マイクログロブリン ( $\alpha_2$ -M)  
 $\beta_2$ - マイクログロブリン (BMG)

### 数 字

(1 → 3) -  $\beta$  -D グルカン

Ⅳ型コラーゲン・7S

吉川 枝里, 他: MHC 10, 21, 2003  
出口 松夫, 他: 医学と薬学 66(6), 1053, 2011  
有馬 直道, 他: 医学と薬学 65(5), 651, 2011  
Zrein M, et al.: Clin Diagn Lab Immunol. 5(1), 45, 1998  
Umeki K, et al.: Clin Lab. 63(2), 227, 2017  
櫻林 郁之介, 他: 日本臨牀 42, (春季臨増), 1214, 1984  
島津 伸一郎, 他: アレルギーの領域 2(7): 920-925, 1995  
櫻林 郁之介, 他: 日本臨牀 42, (春季臨増), 1214, 1984  
櫻林 郁之介, 他: 日本臨牀 42, (春季臨増), 1214, 1984  
中尾 瑠美子, 他: 医学と薬学 52, 847-858, 2004  
原田 弘智, 他: 臨床検査 28: 72, 1984  
上野 隆登, 他: 医学と薬学 24, 675, 1990  
立石 亘, 他: 医学検査 63, 447-452, 2014  
国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂 2 版) 133-135, 1982  
国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂 2 版) 132-139, 1982  
玉置 邦彦, 他: 日本皮膚科学会雑誌 116, 27-39, 2006  
松元 康治, 他: 臨床免疫 16, 862, 1984  
網野 信行, 他: 細胞性免疫機能検査のすべて, p.102, 医歯薬出版, 東京, 1985  
坂東 史郎, 他: 臨床病理 35, 631, 1987  
高橋 英則, 吉田 象二: 検査と技術 16, 17, 1988  
斎藤 憲祐: 臨床病理 (特 101), 38-47, 1996  
徳山 昌司郎: 医学と薬学 39(4), 835, 1998  
伊藤 喜久: 検査と技術 16(7), 658, 1988  
伊藤 喜久: 臨床検査 32(8), 863, 1988  
飯村 康夫, 他: 日本臨牀 42 (春季臨増), 1209, 1984  
伊藤 浩治, 他: 医療と検査機器・試薬 26, (2), 127, 2003

吉田 耕一郎, 他: 医学と薬学 67, 895, 2012  
大林 民典: 臨床病理 44, 528, 1996  
大高木 結媛: 医学と薬学 77, (5), 785, 2020

## 腫瘍関連検査

可溶性 IL-2 受容体 (可溶性インターロイキン 2 レセプター) 伏見 美津恵, 他: 医学と薬学 73(7), 875, 2016  
古川 亜紀, 他: 医療と検査機器・試薬 39(3), 263, 2016  
橋本 礼輔, 他: 医学と薬学 75, 955-964, 2018  
Witherspoon, L. R. and Lapeyrolerie, T.: J. Urol. 157, 1322, 1997  
平川 寛一郎: 臨床検査機器・試薬, 21: 289, 1998  
井村 裕夫, 他: 癌と化学療法 14: 1315-1321, 1987  
井村 裕夫, 他: 癌と化学療法 16: 3213, 1989  
堀田 多恵子, 他: 生物試料分析 34, (5), 345, 2011  
新井 京子, 他: 医学と薬学 37(4), 1029-1037, 1997  
中町 衛他: 医学と薬学 65(2): 261-267, 2011  
Ordonez, N. G.: Mod. Pathol. 16, (3), 192, 2003

### アルファベット

A F P レクチン分画  
S h i m i z u, K., et al.: Clin Chem. Acta 214: 3, 1993  
Oka, H. et al.: J. Gastroenterol. Hepatol. 16, 1378, 2001  
石 和久, 他: 基礎と臨床 23, 6087-6095, 1989  
石井 勝, 他: 癌と化療 15, 2107, 1988  
寺野 雅美, 他: 医学と薬学 54, 555-559, 2005  
熊田 益子, 他: 医学と薬学 54, 551-554, 2005  
浅野 明子, 他: 医学と薬学 57, 513-521, 2007  
青山 昭, 他: 医学と薬学 49: 127-135, 2003  
B C A 225  
B F P (塩基性フェトプロテイン)  
C A 125  
C A 15-3  
C A 19-9  
C A 72-4

検査項目

参考文献

CEA（癌胎児性抗原）  
 DUPAN-2  
 HE4（ヒト精巢上体蛋白4）  
 NCC-ST-439  
 PIVKA II [腫瘍]  
 ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）  
 SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原）  
 SPan-1  
 $\alpha$ -フェトプロテイン（AFP）定量  
 $\gamma$ -セミノプロテイン（ $\gamma$ -Sm）

数 字

I型コラーゲンCテロペプチド（ICTP）

田端 介富，他：臨床検査機器・試薬 22，419-427，1999  
 櫻林 郁之介，他：臨床病理 34，705-710，1986  
 木村 英三：産婦人科の実際 64(8)，1055，2015  
 竹内 聡，他：Biotherapy 23，(2)，136，2009  
 吉岡 久，他：臨床病理 35，1233-1238，1987  
 菅原 昌章，他：医学と薬学 73，(3)，239，2016  
 宮越 静代，他：医学と薬学 63：809，2010  
 Yoshimura T. et al.：Tumor Biol. 29：224，2008  
 高木 康，他：医学と薬学 52：413，2004  
 梅山 馨，他：脾臓 3：528，1988  
 Morota, K. et al.：Int. J. Biol. Markers 27，(1)，39，2012  
 佐藤 達郎，他：医学と薬学 43(1)：97-106，2000

清原 剛，他：ホルモンと臨床 42：1189-1193，1994

血液学的検査

アンチトロンビン活性（AT活性）  
 アンチプラスミン活性（プラスミンインヒター）  
 可溶性フィブリンモノマー複合体定性  
 凝固因子活性（第Ⅱ，Ⅴ，Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ，Ⅺ，Ⅻ因子）  
 凝固因子定量（第Ⅻ因子）  
 凝固抑制因子（第Ⅶ因子インヒター）  
 凝固抑制因子（第Ⅸ因子インヒター）  
 血液一般検査  
 血液像（白血球分類）  
 血小板数（Plt）  
 血小板第4因子（PF4）  
 好酸球数  
 トロンボモジュリン  
 鼻汁好酸球  
 フィラリア原虫  
 フォン・ウィルブラント因子活性（リストセチンコファクター）  
 フォン・ウィルブラント因子定量（第Ⅷ因子様抗原）  
 プラスミノゲン活性  
 プロテインC活性  
 プロテインC抗原量  
 プロテインS抗原（遊離型）  
 プロトロンビン値（PT）  
 マラリア原虫  
 網状赤血球数  
 ループスアンチコアグラント

アルファベット

ALP染色  
 APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）  
 Dダイマー  
 FDP定量  
 PIC（ $\alpha_2$ プラスミンインヒター・プラスミン複合体）  
 TAT（トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体）  
 $\beta$ -トロンボグロブリン（ $\beta$ -TG）

小谷 毅，他：JJCLA 21：285-290，1996  
 小谷 毅，他：JJCLA 21：285-290，1996  
 細田 雅子，他：日本検査血液学会雑誌 10，202-210，2009  
 安達 眞二：Medical Technology 24：629-633，1996  
 Alhoms, K. et al.：XXIst Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis, 2007  
 高松 純樹：日本臨牀 57，（増刊 広範囲血液・尿化学検査、免疫学的検査2），604，1999  
 日笠 聡：日本臨牀 57，（増刊 広範囲血液・尿化学検査、免疫学的検査2），611，1999  
 金井 泉：臨床検査法提要 31：264-286，1998  
 金井 泉：臨床検査法提要 31：286-329，1998  
 金井 泉：臨床検査法提要 31：264-286，1998  
 高橋 芳右，他：血液と脈管 18(4)：326-335，1987  
 金井 正光：臨床検査法提要（第33版），199，2010  
 天野 景裕，他：臨床病理 39，967，1991  
 丹羽 欣正：Med. Technol.（別冊染色法のすべて），202，1988  
 金井 正光：臨床検査法提要（第33版），1062，2010  
 杉原 卓朗：機器・試薬 6：321，1983  
 Peltier, J. Y. et al.：Proceeding of XVI th Congress of the ISTH, 513，1997  
 小谷 毅，他：JJCLA 21，285-290，1996  
 高橋 芳右，他：血液と脈管 18：548-556，1987  
 有村 国明，他：臨床検査機器・試薬 15，159-165，1992  
 阪田 敏幸，他：医学と薬学 51，167-172，2004  
 中村 昌之，他：Sysmex Journal 14，65-78，1991  
 金井 正光（編著）：臨床検査法提要（改訂第29版），313，金原出版，東京，1983  
 金井 泉：臨床検査法提要 31：277-280，1998  
 Triplett, D. A. et al.：Thromb. Haemost. 70，787，1993

小池 正，他：Med. Technol. 別冊 染色法のすべて，207，1988  
 中村 昌之，他：Sysmex Journal 14，65-78，1991  
 国分 まさ子，他：医学検査 44：11-17，1995  
 藤巻 道男，他：血液凝固検査ハンドブック（第2版），329，1992  
 徐 吉夫，他：臨床検査機器・試薬 16，1107，1993  
 木村 真波，他：機器・試薬 33，525，2010  
 高橋 芳右，他：血液と脈管 18(4)：326-335，1987

## 検査項目

## 参考文献

### 一般検査

関節液一般検査	金井 泉：臨床検査法提要 30：218-221, 1993
髄液一般検査	金井 泉：臨床検査法提要 30：221-248, 1993
髄液クロール	金井 泉：臨床検査法提要 31：243, 1998
髄液蛋白定量	中川 宣広，他：生物試料分析 8(4)：47-55, 1986
髄液糖定量	金井 泉：臨床検査法提要 30：242・528-537, 1993
精液検査	岩動 孝一郎：検査と技術 18(6)：667-674, 1990 増刊号
穿刺液一般検査	金井 泉：臨床検査法提要 30：209-218, 1993
穿刺液蛋白定量	中川 宣広，他：生物試料分析 8(4)：47-55, 1986
穿刺液糖定量	金井 泉：臨床検査法提要 30：213・528-537, 1993
尿一般定性	金井 泉：臨床検査法提要 30：102-105, 1993
尿一般定性〔比重〕	金井 泉：臨床検査法提要 30：99-101, 1993
尿蛋白定量	金子 良孝，他：臨床検査機器・試薬 9：235-238, 1986
尿沈渣	日本臨床衛生検査技師会編：尿沈渣検査法：2010
尿糖定量	金井 泉：臨床検査法提要 30：117-121・528-537, 1993
便虫卵	金井 泉：臨床検査法提要 30：192-208, 1993
便中ヘモグロビン LA 法	岸 諒博，他：医療と検査機器・試薬 25, 97-101, 2002

### 微生物学的検査

一般細菌 簡易培養	Holt J.G., et al : Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : 1, 1984
一般細菌 嫌気性培養	Holt J.G., et al : Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : 1, 1984
一般細菌 培養・同定	Holt J.G., et al : Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : 1, 1984
一般細菌 薬剤感受性検査	CLSI : Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing
結核菌核酸同定検査 (MTB)	田口 直子，他：医学と薬学 62, 121-127, 2009
抗酸菌塗抹鏡検	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016, 33-38
抗酸菌分離培養	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016, 39-45
抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016
真菌塗抹鏡検	Holt J.G., et al : Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : 1, 1984
真菌培養同定	Holt J.G., et al : Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : 1, 1984
非定型抗酸菌核酸同定 (MAC)	田口 直子，他：医学と薬学 62, 121-127, 2009
ペロトキシン検出	甲斐 明美，他：感染症学雑誌 71, 248-254, 1997
アルファベット	
T-S P O T . T B (インターフェロンγ遊離試験)	原田 登之，他：モダンメディア 54(5)：148-153, 2008

### 病理・細胞診検査

病理組織検査	日本臨床衛生検査技師会：病理検査技術教本，2017，丸善出版
	渡辺 陽之輔，他：病理組織標本の作り方 第6版，1986，医学書院
	水口 國雄，他：染色法のすべて，2021，医歯薬出版
	日本病理学会：乳癌・胃癌 HER2 病理診断ガイドライン第2版，2021，金原出版
	「病理と臨床」編集委員会：免疫組織化学（病理と臨床 臨時増刊号），文光堂
	名倉 宏，他：改訂四版 渡辺・中根 酵素抗体法，2002，学際企画
細胞診検査	日本臨床細胞学会：細胞診ガイドライン，2015年版，金原出版

## 検査項目

## 参考文献

## 遺伝子検査

ニューモシスチスカリニ DNA  
ノロウイルス (SRSV) -RNA

百日咳菌核酸検出 /LAMP  
マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定  
淋菌核酸同定

## アルファベット

HPV型判定  
HPV-DNA同定  
HTLV-1 核酸同定

Kitada,K.et al: J.Clin.Microbiol. 29, 1985, 1991  
Kageyama T. et al.: J Clin Microbiol 41, 1548-1557, 2003  
厚生労働省 大量調理施設衛生管理マニュアル (最終改正:平成 29 年 6 月 6 日付け生食発 0616 第 1 号) 2017  
Kamachi,K.et al.: J.Clin.Microbiol. 44, 1899-1902, 2006  
Morinaga, Y. et al.: J. Med. Microbiol. 69, (12), 1346, 2020  
熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66, 1007-1014, 2011

尾崎 聡, 他: 臨床病理 60(7), 621, 2012  
石 和久, 他: 医学と薬学 39, 849, 1998  
Miyazato,P.et al.: Journal of Virology. 80(21), 10683, 2006  
築山 尚史, 他: 日本産科婦人科学會雑誌 65(2), 898, 2013

## 採取容器の種類と採取上の注意点

<div data-bbox="126 331 240 376">A</div> 	<div>内容</div> <div>分離剤</div> <div>採取量</div> <div>9 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>1 年</div>	<div data-bbox="630 331 743 376">A-8</div> 	<div>内容</div> <div>血液凝固促進剤 分離剤</div> <div>採取量</div> <div>5 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>1 年</div>	<div data-bbox="1117 331 1230 376">D</div> 	<div>内容</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div>
<div data-bbox="126 790 240 835">A-2</div> 	<div>内容</div> <div>採取量</div> <div>7 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>2 年</div>	<div data-bbox="630 790 743 835">A-9</div> 	<div>内容</div> <div>EDTA-2K</div> <div>採取量</div> <div>8 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>1 年</div>	<div data-bbox="1117 790 1230 835">D-2</div> 	<div>内容</div> <div>採取量</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div>
<div data-bbox="126 1249 240 1294">A-3</div> 	<div>内容</div> <div>凝固促進剤 (トロンビン等)</div> <div>採取量</div> <div>3 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>1 年</div>	<div data-bbox="630 1249 743 1294">B</div> 	<div>内容</div> <div>EDTA-2K</div> <div>採取量</div> <div>2 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>2 年</div>	<div data-bbox="1117 1249 1230 1294">D-3</div> 	<div>内容</div> <div>採取量</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div>
<div data-bbox="126 1709 240 1753">A-5</div> 	<div>内容</div> <div>分離剤</div> <div>採取量</div> <div>5 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>1 年</div>	<div data-bbox="630 1709 743 1753">C</div> 	<div>内容</div> <div>フッ化Na ヘパリンNa EDTA-2Na</div> <div>採取量</div> <div>2 mL</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div> <div>有効期間</div> <div>2 年</div>	<div data-bbox="1117 1709 1230 1753">D-4</div> 	<div>内容</div> <div>容器の貯蔵方法</div> <div>室温</div>

適用検査項目と採取上の注意点

生化学的検査一般  
免疫血清学的検査一般  
内分泌学的検査一般  
ウイルス検査一般  
その他

適用検査項目と採取上の注意点

HBV-DNA定量 (TaqMan-PCR)

- 血液5mLを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま凍結保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

適用検査項目と採取上の注意点

血液型関連検査  
不規則性抗体  
クームス試験

- 室温保存し、当日中に速やかに出検してください。

適用検査項目と採取上の注意点

HIV-RNA定量 (TaqMan-PCR)

- 血液8mLを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま冷蔵保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

適用検査項目と採取上の注意点

亜鉛 (Zn)  
マンガン (Mn)  
ニッケル (Ni)  
アルミニウム (AL)

- 血液3mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存してください。

適用検査項目と採取上の注意点

末梢血一般  
網状赤血球数  
血液像 (白血球分類)  
血液型ABO式、Rh(D)式

- 血液2mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存して当日中に検出してください。

適用検査項目

銅 (Cu) 尿  
水銀 (Hg) 尿  
カドミウム (Cd) 尿  
マンガン (Mn) 尿  
亜鉛 (Zn) 尿

適用検査項目と採取上の注意点

HCV-RNA定量 (TaqMan-PCR)  
HCVサブタイプ系統解析

- 血液5mLを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま凍結保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

適用検査項目と採取上の注意点

血糖 (グルコース)  
ヘモグロビンA1c (HbA1c)

- 血液2mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、そのまま冷蔵保存して当日中に検出してください。

適用検査項目

微生物検査  
細胞診検査

# 採取容器の種類と採取上の注意点

 <p><b>D-5</b></p>	<p>内容</p> <hr/> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目 SARS-CoV-2抗原定量検査</p>	 <p><b>F-1</b></p>	<p>内容 EDTA-2Na</p> <p>採取量 5.5mL、7mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ACTH アルドステロン レニン活性(PRA) レニン定量(ARC)</p> <p>○血液(必要量の約3倍)を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-5</b></p>	<p>内容 EDTA-2Na</p> <p>採取量 5 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>タクロリムス エベロリムス</p> <p>○血液を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに冷蔵保存してください。</p>
 <p><b>E</b></p>	<p>内容 3.2%クエン酸Na0.2mL</p> <p>採取量 1.8 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年 (開封後1ヶ月)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>プロトロンビン値(PT) APTT フィブリノゲン FDP定量 AT-Ⅲ</p> <p>○血液1.8mLを採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-2</b></p>	<p>内容 EDTA-2Na アプロチニン</p> <p>採取量 2mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年 (開封後1週間)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>h-ANP PTHrP</p> <p>○血液を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-6</b></p>	<p>内容 アデノシン、クエン酸Na ジピリダモール、クエン酸 デオフィリン</p> <p>採取量 4.5 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 遮光・冷蔵</p> <p>有効期間 1年5ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>β-トロンボグロブリン(β-TG) 血小板第4因子(PF4)</p> <p>○検体の採取方法は100ページをご参照ください。</p>
 <p><b>E-3</b></p>	<p>内容 アプロチニン、精製ゼラチン デヒドロ酢酸ナトリウム</p> <p>採取量 1 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年6ヶ月 (開封後1ヶ月)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>FDP定量(尿)</p>	 <p><b>F-3</b></p>	<p>内容 EDTA-2Na</p> <p>採取量 2mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>BNP</p> <p>○血液2mLを採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-7</b></p>	<p>内容 EDTA-2K</p> <p>採取量 2 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>シクロスポリン</p> <p>○血液を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち、速やかに凍結保存してください。</p>
 <p><b>E-4</b></p>	<p>内容 3.2%クエン酸Na0.5mL</p> <p>採取量 4.5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年 (開封後1週間)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ビタミンK分画</p> <p>○血液 4.5mLを採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-4</b></p>	<p>内容 EDTA-2Na アプロチニン</p> <p>採取量 2 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年 (開封後1週間)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>膵グルカゴン</p> <p>○血液を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	 <p><b>F-8</b></p>	<p>内容 保存液</p> <p>採取量 8.0mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>血小板関連IgG (PAIgG)</p> <p>○血液を採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのち、速やかに冷蔵保存して当日中に検出してください。</p> <p>注) 末梢血液の血小板数が3万/μL以下の場合、2本採取し、2倍量の血液を提出してください。</p>



## 採取容器の種類と採取上の注意点

<p><b>F-9</b></p> 	<p>内容 EDTA-2Na</p> <p>採取量 4 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年6ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ビタミンB<sub>1</sub> ビタミンB<sub>2</sub></p> <p>○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに凍結保存してください。</p>	<p><b>H-3</b></p> 	<p>内容 ヘパリンNa</p> <p>採取量 10 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>D-LST</p> <p>○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、そのまま室温保存して当日中に出検してください。</p>	<p><b>J-3</b></p> 	<p>内容 インジケーター付寒天CO<sub>2</sub>ガス</p> <p>容器の貯蔵方法 遮光室温 有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>嫌気性菌培養</p> <p>○液状検体の場合（注射器による採取） 容器のゴムキャップを外さないで、消毒用アルコール綿などを用いてゴムの部分を消毒し、注射針を突き刺し、穿刺した検体を注入します。この時、できるだけ気泡を入れないように注意し、冷蔵保存してください。</p> <p>○固形状検体の場合（綿棒などによる採取） 容器は立てたまま、注意深くゴムキャップを外し、速やかに検体を入れてください。検体を入れたあと直ちにゴムキャップにて栓をして冷蔵保存してください（操作時間が短いほど信頼性も高くなります）。</p>
<p><b>G</b></p> 	<p>内容 リンタングステン酸Na リン酸 溶液4mL</p> <p>採取量 1 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 10ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>アンモニア</p> <p>○血液1mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、上清を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	<p><b>H-4</b></p> 	<p>内容 ヘパリンNa</p> <p>採取量 5 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>プロトポルフィリン コプロポルフィリン</p> <p>○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち冷蔵保存してください。</p>	<p><b>J-5</b></p> 	<p>内容</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 3年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>百日咳菌核酸検出LAMP法</p> <p>○後鼻腔ぬぐい液は、フロックスワブにて採取したのち、速やかに付属のチューブに入れて、凍結保存してください。採取前のスワブ取出時やチューブ内挿入時には、スワブ先端部が汚染しないようにご注意ください。</p>
<p><b>H-1</b></p> 	<p>内容 ヘパリンNa</p> <p>採取量 10 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年5ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>リンパ球混合培養 T-SPOT.TB</p> <p>○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに冷蔵保存してください。</p> <p>○全血の項目については、そのまま室温保存して当日中に出検してください。</p>	<p><b>I-1</b></p> 	<p>内容 0.8N過塩素酸 1 mL</p> <p>採取量 1 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵 有効期間 6ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>乳酸 ビルビン酸</p> <p>○血液1mLを採取し、5～6回ほど転倒混和したのち3000rpm5分間遠心分離し、上清を(W)容器に移し替えて凍結保存してください。</p>	<p><b>J-6</b></p> 	<p>内容</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>一般細菌検査 塗抹鏡検 培養・同定・感受性 真菌培養 抗酸菌検査 塗抹鏡検・培養・同定 細胞診</p> <p>○起床後最初に排痰されたものが最も検査に適した喀痰です。</p> <p>○排痰前に口中をきれいにすすいでください。</p> <p>○深く息を吸い込み大きな咳をしないと痰が出易いです。</p> <p>○採取後は冷蔵保存してご提出ください。</p>
<p><b>H-2</b></p> 	<p>内容 ヘパリンNa</p> <p>採取量 5 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>アミノ酸分析</p> <p>○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち室温保存してください。</p>	<p><b>J-2</b></p> 	<p>内容 キャリーブレア培地</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>一般細菌検査（糞便） 培養・同定・感受性</p> <p>○採取後直ちにキャリーブレア培地に深く穿刺してください。</p> <p>○採取後は冷蔵保存してください。</p>	<p><b>J-7</b></p> 	<p>内容 チオグリコレート培地</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵 有効期間 3ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ヘリコバクター培養</p> <p>○胃または十二指腸粘膜組織を採取し、すみやかに——線の深さまで挿入してください。</p> <p>○採取後は冷蔵保存してご提出ください。</p>

# 採取容器の種類と採取上の注意点

<p><b>J-8</b></p>  <p>(好気用) (嫌気用)</p>	<p>内容 培養ブロス</p> <p>採取量 0.1~5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 容器表示</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>一般細菌検査 (血液、穿刺液) 培養・同定・感受性</p> <p>○材料を0.1~5mLを無菌的に採取し、そのまま室温保存してください。</p>	<p><b>K-3</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>便中ヘモグロビン及び トランスフェリン定量</p>	<p><b>L-8</b></p> 	<p>内容 0.5mL トリス塩酸緩衝液 (pH7.5)</p> <p>採取量 4~6 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 3年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>尿中Ⅳ型コラーゲン</p> <p>○早朝第一尿を採取し、スポイドで容器に移してよく混和させ、冷蔵保存してください。</p> <p>○凍結保存、および他の項目との重複依頼は、避けてください。(検体採取方法の詳細は、容器添付の説明書をご参照ください。)</p>
<p><b>J-9</b></p> 	<p>内容 液体アミーズ輸送培地</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>一般細菌検査 塗抹鏡検 培養・同定・感受性 真菌培養</p> <p>○滅菌綿棒で病変部をできるだけ多く採取し、培地内に挿入してください。</p> <p>○採取後は冷蔵保存してください。 (目的菌が淋菌、髄膜炎菌の場合は室温保存)</p>	<p><b>K-4</b></p> 	<p>内容 保存剤</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 18ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>便中ヘリコバクターピロリ抗原</p> <p>○容器の先端部を便に2~3ヶ所刺して採取してください。</p> <p>○採便後は冷蔵保存してください。</p>	<p><b>M-1</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>採取量 0.5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>一般染色体(骨髓液)</p> <p>○キャップを取らずに骨髓液1.0mLを採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷室温(4~20℃)で保存して当日中に検出してください。</p>
<p><b>K</b></p> 	<p>内容</p> <p>採取量 小指頭大</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>便虫卵(集卵、塗抹) 便脂溶性 ウイルス抗原(便)</p> <p>○小指頭大の便を容器に入れ冷蔵保存してください。</p> <p>○ウイルス抗原(便)は凍結保存してください。</p>	<p><b>L-5</b></p> 	<p>内容 保存剤</p> <p>採取量 4~8 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 常温暗所</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>尿ミオグロビン</p> <p>○尿を容器ラベルに印刷してある線まで入れ、5~6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存してください。</p>	<p><b>M-3</b></p> 	<p>内容 CPD</p> <p>採取量 7.5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年 (開封後1ヶ月)</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>NK細胞活性</p> <p>○血液6mLを採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま室温保存してください。</p> <p>○リンパ球の少ない患者は多めに採血してください。</p> <p>○キャップを取らないで無菌的に採血してください。</p> <p>○採血後当日中に検出してください。</p>
<p><b>K-2</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>便中ヘモグロビン(ラテックス法)</p> <p>○キャップを取る際は容器中の液がこぼれないように注意してください。(アルミシールはやぶらないでください)</p> <p>○採便スティックで便の表面をまんべんなく擦り取ります。便の量は採便スティック先端のみぞに埋まるぐらいが適量です。</p> <p>○採便スティックを容器へ戻し、パチンと音がするまでしっかりとキャップを締めて数回強く振ってください。</p> <p>○採取後は冷蔵保存してください。</p>	<p><b>L-7</b></p> 	<p>内容 0.8N過塩素酸0.5mL</p> <p>採取量 血清0.5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵</p> <p>有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ビタミンC</p> <p>○採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をポリスピット(W)に移し替えて凍結保存してください。</p> <p>○遮光してください。</p>	<p><b>P-1</b></p> 	<p>内容 ヘパリンNa</p> <p>採取量 3 mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 2年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>エンドトキシン定量 (1~3)-β-D-グルカン</p> <p>○キャップを取らずに血液3mLを無菌的に採取し、5~6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存してください。</p> <p>○他項目との重複依頼は避けてください。</p>

## 採取容器の種類と採取上の注意点

<p><b>P-2</b></p> 	<p>内容 0.5%BSA含有ブイヨン ゲンタマイシン</p> <p>容器の貯蔵方法 凍結 有効期間 容器表示</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>ウイルス分離・同定</p> <p>○検体の採取方法は、87ページをご参照ください。</p>	<p><b>Q-4</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>HPV-DNA同定 (ハイブリッドキャプチャー法)</p> <p>滅菌ガーゼ又は滅菌綿棒で子宮頸部(頸部管を中心に)の過剰な粘液を除去したのち、別の滅菌棒を子宮頸部に挿入して5~10回回転させ上皮細胞を採取してください。次に綿棒を慎重に引き抜き、専用容器に綿棒を差し込み、綿棒の柄を栓キャップがしっかり閉じられる長さに折り(またはハサミで)切り取ってください。綿棒を差し込んだまま、栓キャップをしっかりと閉めてください。</p> <p>(注) コルポスコピーによる診断を行う場合は、酢酸処理する前に検体を採取してください。</p>	<p><b>Q-12</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>採取量 4.5mL</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>クラミジアトラコマチス 核酸同定検査(尿、うがい液) 淋菌核酸同定検査(尿、うがい液)</p> <p>○検体の採取方法は83ページをご参照ください。</p>
<p><b>P-3</b></p> 	<p>内容 安定化剤</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>透析液中エンドトキシン</p> <p>○透析液4mLを入れ、冷蔵保存してください。</p>	<p><b>Q-5</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>頸管腔分泌液中癌胎児性 フィブロネクチン</p> <p>○滅菌綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌液を吸収させて容器に入れ、綿棒の軸を折り、蓋を閉めて凍結保存してください。</p> <p>注) 容器の中に入っている液は捨てないでください。</p> <p>○検体採取は腔洗浄前に行ってください。</p> <p>○精液が混入した検体は検査に適しません。</p>	<p><b>Q-13</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 6ヶ月</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>SARS-CoV-2 核酸検出 (鼻咽頭用)</p>
<p><b>Q-1</b></p> 	<p>内容</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>単純ヘルペスウイルス 特異抗原(FA法)</p> <p>○検体の採取方法は79ページをご参照ください。</p>	<p><b>Q-6</b></p> 	<p>内容 抽出液</p> <p>容器の貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>子宮頸管粘液中 顆粒球エラストラーゼ</p> <p>○検体の採取方法は53ページをご参照ください。</p>	<p><b>Q-14</b></p> 	<p>内容 ラウリル硫酸リチウム</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>STD マイコプラズマ核酸同定</p> <p>○尿検体は、前回の排尿後、1時間以上経過してから採取して下さい。</p> <p>○女性の場合、採取前に陰唇部を拭かないようにして下さい。</p> <p>○尿を多量に採取し過ぎないようにして下さい。</p>
<p><b>Q-3</b></p> 	<p>内容</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>水痘・帯状ヘルペス ウイルス抗原(FA法)</p> <p>○検体の採取方法は79ページをご参照ください。</p>	<p><b>Q-11</b></p> 	<p>内容 保存液</p> <p>容器の貯蔵方法 室温</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>クラミジアトラコマチス 核酸同定検査分泌物 淋菌核酸同定検査分泌物</p> <p>○検体の採取方法は87ページをご参照ください。</p>	<p><b>R-1</b></p> 	<p>内容 保存液(粘液融解剤、アルコール)</p> <p>容器の貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p> <p>適用検査項目と採取上の注意点</p> <p>細胞診検査(蓄痰)</p> <p>○起床後最初に排便されたものが最も検査に適した喀痰です。</p> <p>○排便前に口中をきれいにすいでください。</p> <p>○深く息を吸いこみ大きな咳をすると痰が出やすいです。</p> <p>○容器に痰を入れ、フタをしっかりと閉め、15~20回強く振ってください。</p> <p>○痰は青線をごえないように注意してください。</p> <p>○以上のことを3~5日間くり返してください。</p> <p>○室温保存してご提出ください。</p>

# 採取容器の種類と採取上の注意点

<div>R-2</div> <div></div> <div>(北陸・関東)</div> <div>(新潟)</div>	<table><tr><td>内容</td><td>固定液</td></tr><tr><td>容器の貯蔵方法</td><td>室温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">細胞診（婦人科LBC） HPVジェノタイプ判定</td></tr><tr><td colspan="2">○細胞採取に使用されるブラシの説明に従ってください。</td></tr></table>	内容	固定液	容器の貯蔵方法	室温	有効期間	容器表示	適用検査項目と採取上の注意点		細胞診（婦人科LBC） HPVジェノタイプ判定		○細胞採取に使用されるブラシの説明に従ってください。		<div>W</div> <div></div>	<table><tr><td>内容</td><td></td></tr><tr><td>採取量</td><td>4mL</td></tr><tr><td>容器の保管方法</td><td>室温</td></tr><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">血清、血漿提出用</td></tr><tr><td colspan="2">○凍結保存が必要な項目については、この容器に移し替えて凍結保存してください。</td></tr></table>	内容		採取量	4mL	容器の保管方法	室温	適用検査項目と採取上の注意点		血清、血漿提出用		○凍結保存が必要な項目については、この容器に移し替えて凍結保存してください。			
内容	固定液																												
容器の貯蔵方法	室温																												
有効期間	容器表示																												
適用検査項目と採取上の注意点																													
細胞診（婦人科LBC） HPVジェノタイプ判定																													
○細胞採取に使用されるブラシの説明に従ってください。																													
内容																													
採取量	4mL																												
容器の保管方法	室温																												
適用検査項目と採取上の注意点																													
血清、血漿提出用																													
○凍結保存が必要な項目については、この容器に移し替えて凍結保存してください。																													
<div>S</div> <div></div>	<table><tr><td>内容</td><td></td></tr><tr><td>容器の貯蔵方法</td><td>室温</td></tr><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">病理組織検査</td></tr><tr><td colspan="2">○採取した組織片は乾燥させたりピンセット等で圧挫しないようにして、速やかに固定液に入れてください。</td></tr><tr><td colspan="2">○10%中性緩衝ホルマリンを充填してお使いください。</td></tr></table>	内容		容器の貯蔵方法	室温	適用検査項目と採取上の注意点		病理組織検査		○採取した組織片は乾燥させたりピンセット等で圧挫しないようにして、速やかに固定液に入れてください。		○10%中性緩衝ホルマリンを充填してお使いください。		<div>X</div> <div></div>	<table><tr><td>内容</td><td></td></tr><tr><td>容器の貯蔵方法</td><td>室温</td></tr><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">SARS-CoV-2核酸検出（唾液用）</td></tr><tr><td colspan="2">○ファネルをスピッツにつけて唾液を2mL採取してください。</td></tr><tr><td colspan="2">○当日中に出検してください。</td></tr></table>	内容		容器の貯蔵方法	室温	適用検査項目と採取上の注意点		SARS-CoV-2核酸検出（唾液用）		○ファネルをスピッツにつけて唾液を2mL採取してください。		○当日中に出検してください。			
内容																													
容器の貯蔵方法	室温																												
適用検査項目と採取上の注意点																													
病理組織検査																													
○採取した組織片は乾燥させたりピンセット等で圧挫しないようにして、速やかに固定液に入れてください。																													
○10%中性緩衝ホルマリンを充填してお使いください。																													
内容																													
容器の貯蔵方法	室温																												
適用検査項目と採取上の注意点																													
SARS-CoV-2核酸検出（唾液用）																													
○ファネルをスピッツにつけて唾液を2mL採取してください。																													
○当日中に出検してください。																													
<div>T</div> <div></div>	<table><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">一般細菌鏡検</td></tr><tr><td colspan="2">細胞診検査 塗抹後直ちに固定液等で固定してください。</td></tr><tr><td colspan="2">血液像 1～2枚ご提出ください。</td></tr><tr><td colspan="2">特殊染色 2～4枚ご提出ください。</td></tr><tr><td colspan="2">血中原虫 1～2枚ご提出ください。</td></tr><tr><td colspan="2">○塗抹標本作製後は室温で保存してください。</td></tr></table>	適用検査項目と採取上の注意点		一般細菌鏡検		細胞診検査 塗抹後直ちに固定液等で固定してください。		血液像 1～2枚ご提出ください。		特殊染色 2～4枚ご提出ください。		血中原虫 1～2枚ご提出ください。		○塗抹標本作製後は室温で保存してください。															
適用検査項目と採取上の注意点																													
一般細菌鏡検																													
細胞診検査 塗抹後直ちに固定液等で固定してください。																													
血液像 1～2枚ご提出ください。																													
特殊染色 2～4枚ご提出ください。																													
血中原虫 1～2枚ご提出ください。																													
○塗抹標本作製後は室温で保存してください。																													
<div>U</div> <div></div>	<table><tr><td>内容</td><td></td></tr><tr><td>容器の貯蔵方法</td><td>室温</td></tr><tr><td colspan="2">適用検査項目と採取上の注意点</td></tr><tr><td colspan="2">尿素呼吸試験</td></tr><tr><td colspan="2">○検体の採取方法は71ページをご参照ください。</td></tr></table>	内容		容器の貯蔵方法	室温	適用検査項目と採取上の注意点		尿素呼吸試験		○検体の採取方法は71ページをご参照ください。																			
内容																													
容器の貯蔵方法	室温																												
適用検査項目と採取上の注意点																													
尿素呼吸試験																													
○検体の採取方法は71ページをご参照ください。																													

## 新規検査項目記入欄

[illegible]



(01)0216068190001



石川・福井・富山・新潟・群馬・埼玉・大連(中国)

## 株式会社 アルプ

事業内容 臨床検査／食品・環境衛生／調剤薬局

本 社 石川県金沢市近岡町309番地 〒920-8217  
TEL.076-237-4230／FAX.076-237-8027  
URL. <http://www.alp-grp.jp>

### ●ラボラトリー

金 沢 石川県金沢市近岡町309番地 〒920-8217  
TEL.076-237-4230／FAX.076-237-8027  
長 岡 新潟県長岡市石動南町13-12 〒940-2117  
TEL.0258-46-0069／FAX.0258-46-1190  
新 潟 新潟県新潟市江南区亀田四ツ興野2-5-11 〒950-0151  
TEL.025-383-3838／FAX.025-383-3839  
前 橋 群馬県前橋市天川大島町1483番地1 〒379-2154  
TEL.027-287-1177／FAX.027-287-1179

### ●研究所

アルプ病理研究所  
アルプ食の安全研究所

### ●支 社

富 山 富山県富山市黒崎328-1 〒939-8214  
TEL.076-422-4911／FAX.076-422-4916

### ●営業所

寺 町 石川県金沢市寺町2丁目8番2-1号 〒921-8033  
野々市 石川県野々市市西部中央土地区画 整理地20街区4-1 〒921-8843  
七 尾 石川県七尾市万行2丁目65番地 〒926-0017  
小 松 石川県小松市白嶺町1丁目34番地 〒923-0866  
Ashiビル103号室  
福 井 福井県福井市和田東1-914 〒918-8237  
TEL.0776-27-7755／FAX.0776-27-7756  
高 岡 富山県高岡市戸出町3-15-38 〒939-1104  
魚 津 富山県魚津市上村木1丁目14番14号 〒937-0046  
ルネ宮田ビル1F  
上 越 新潟県上越市木田2丁目7-4 〒943-0805  
三 条 新潟県三条市旭町2丁目5番16号 〒955-0065  
新発田 新潟県新発田市新栄町3丁目4番33号 〒957-0063  
石井ビル403  
埼 玉 埼玉県本庄市寿1丁目23-6 〒367-0023  
TEL.0495-21-3151／FAX.0495-21-3152  
高 崎 群馬県高崎市菅谷町1069-1 〒370-3522

## 検査に関するお問い合わせ

最寄りの地域ラボラトリーまたは営業所へご連絡ください。